23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語学入門 210						
教員名	平山　真奈美						
科目No.	125131100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、言語学の概念を用いて英語の構造を学ぶ。実際にデータを分析することを通して、実践的に学ぶ。必要に応じて日本語を始めとして他言語との比較も行いながら、英語を含めた自然言語とはどのようなものなのかについて学ぶ。

〔到達目標〕

DP1-1、1-3（専門分野の知識・技能）、DP2-1（教養の修得）を実現するため、この授業では以下の３点を目標とする。
・言語学の概念を学び、言語を学問的にとらえる。
・英語の音声、音韻、形態、形態音韻、統語の構造、歴史および、社会における言語や語用論の概念を学ぶ。
・英語の構造を言語学の概念を使って分析できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Introduction: What is linguistics and English linguistics? Who speaks English?	Review of class Homework	30
第２回	Phonetics I: Speech organs, transcription and symbols, consonants of English and Japanese	Review of class Homework	60
第３回	Phonetics II: Vowels of English and Japanese	Review of class Homework	60
第４回	Phonology I: Sounds in mind, phonemicization Quiz #1	Review of class Quiz preparation	120
第５回	Phonology II: Derivation, the syllable	Review of class Homework	60
第６回	Morphology I: Decomposing words	Review of class Homework	60
第７回	Morphophonemics Quiz #2	Review of class Quiz preparation	120
第８回	Morphology II: Internal structure of words, lexical stratum	Review of class Homework	60
第９回	Syntax I: Simple sentences	Review of class Homework	60
第１０回	Syntax II: Complex sentences Quiz #3	Review of class Quiz preparation	120
第１１回	History of English	Review of class Quiz preparation	120
第１２回	Sociolinguistics: Language and society	Review of class Homework	60
第１３回	Pragmatics Quiz #4	Review of class Quiz preparation	120
第１４回	Review of course	Review of class	30

〔授業の方法〕

講義をした後、内容について練習問題を行いながら授業を進める。宿題で復習し、翌週の授業の冒頭で解説をする。項目が終わる毎に小テスト（quizzes）を行い、理解を深める。

〔成績評価の方法〕

Homework assignments: 30%
Quizzes: 70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕

西光義弘（編）（1999）『英語学概論（増補版）』東京：くろしお出版（ISBN: 9784874241691）

〔参考書〕

窪薗晴夫（編）（2019）『よくわかる言語学』京都：ミネルヴァ書房
三原健一、高見健一（編）（2013）『日英対照　英語学の基礎』東京：くろしお出版
O’Grady, William and John Archibald. 2016. Contemporary Linguistic Analysis: An Introduction. (8th ed.) Pearson.
龍城正明（編）（2015）『英語学パースペクティヴ』東京：南雲堂

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語史Ａ312						
教員名	田辺　春美						
科目№	125131220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

英語という言語がどのようにして発達してきたかを外観する．　どの言語も時の流れの中で変化するが、英語が被った変化は目覚ましく、他のヨーロッパの言語には見られない方法で、疑問文や否定文、進行形を作る。語彙の多さも類を見ない。本演習では、印欧祖語から古英語、チョーサーの中英語、シェイクスピアの初期近代英語を経て現代英語へと時代が変遷するにつれて生じた、発音，スペリング，形態，文法，語彙に生じた変化とそのメカニズムについて学ぶ．
　英語の歴史について学ぶことは現代英語をよりよく理解することにつながるので、選択科目ではあるが英語英米文学科の学生の多くに履修してほしい。

〔到達目標〕

DP1-1、1-3（専門分野の知識・技能）、DP2-2（教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。
（１）英語の始まりから現代英語までどのような変化があったか概略を理解する。
（２）標準英語がどのように成立したのか理解する。
（３）発音、語彙、形態、文法の変化はそれぞれ英語という言語の内的なメカニズムと文化的な事情により、個別に発達していることを理解する。
（４）標準英語の発達を理解した上で、現代英語の特質について考察を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の紹介 １、２章　英語史の概観ー古英語時代	【予習・復習】『ファンダメンタル英語史』第１章、第２章、配付資料を読み、内容を理解する。	60 分
第２回	２章　英語史の概観ー中英語、近代英語、標準英語の成立	【予習】『ファンダメンタル英語史』第２章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第３回	３章　印欧祖語、グリムの法則	【予習】『ファンダメンタル英語史』第３章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題に取り組む。	６０分
第４回	４章　古英語の文献・特殊文字 古英語の写本紹介	【予習】『ファンダメンタル英語史』第４章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第５回	５章　古英語の豊富な語尾変化（１−１） 格変化、名詞の活用	【予習】『ファンダメンタル英語史』第 4 章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第６回	５章　古英語の豊富な語尾変化（１−２） 定冠詞、演習問題	【予習】『ファンダメンタル英語史』第５章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】課題、練習問題に取り組む。	６０分
第７回	５章　古英語の豊富な語尾変化（１−３） 人称代名詞、疑問詞、形容詞の語尾変化	【予習】『ファンダメンタル英語史』第５章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】課題、練習問題に取り組む。	６０分
第８回	６章　ヴァイキングが英語に与えた影響	【予習】『ファンダメンタル英語史』６章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第９回	７章、８章　古英語の豊富な語尾変化（２） 古英語の動詞の変化と法（仮定法と命令法）	【予習】『ファンダメンタル英語史』７、８章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１０回	９章　ノルマン人が英語に与えた影響ー語彙を中心にー	【予習】『ファンダメンタル英語史』９章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１１回	１０章　多義の回避--語順の変化	【予習】『ファンダメンタル英語史』１０章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１２回	１２章　分極の仮説--規則と例外 疑問文・否定文の do の発達	【予習】『ファンダメンタル英語史』１２章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１３回	１３章　綴りと発音の不一致 大母音推移	【予習】『ファンダメンタル英語史』１３章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１４回	到達度確認試験実施	【復習】教科書や配布資料を見直し、復習する。	１２０分

〔授業の方法〕

教科書、配布プリントをもとにした講義と練習問題。
補助教材として、DVD 教材であるメルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』、BBC の『ストーリー　オブ　イングリッシュ』を視聴しながら、楽しく進めたい。

〔成績評価の方法〕

平常点と到達度確認試験による。授業への積極的参加状況、クイズ、コメントシート、宿題の提出状況が６０％、到達度確認試験が４０％。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。次の点に着目し，その達成度により評価する。
（1）英語の始まりから現代英語までの歴史の概略を説明できる。
（2）標準英語がどのように成立したのか説明できる。
（3）英語の発音、語彙、形態、文法の変化のメカニズムを理解している。
（4）標準英語の発達を理解した上で、現代英語の特質について概要を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目：英語学入門
関連科目：英文法、英語音声学、社会言語学

〔テキスト〕

児馬修　『ファンダメンタル英語史　改訂版』　ひつじ書房、1728 円、ISBN 4894768771

〔参考書〕

「購入の必要なし」
西光 義弘他『日英語対照による英語学概論　増補版』くろしお出版、1999 年、2750 円、　ISBN 978-4-87424-169-1 C3081
寺澤盾『英語の歴史』（中公新書）、中央公論社、780 円、ISBN 978-4-12-101971-4
堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解 --- 納得して英語を学ぶために』中央大学出版部、950 円、ISBN 978-4805727041
堀田隆一『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社、2376 円、　ISBN 97

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	English Around the World 314						
教員名	ジャマール　モーリス						
科目No.	125131240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

This course introduces students to the story of English and its role in today's world. We explore some of the core issues concerning English such as its history, its varieties and its status among native speakers. We will also consider political and social issues surrounding English such as its positive and negative impacts on other languages and cultures. By the end of the course, students will have a deeper, richer understanding of English around the world.

〔到達目標〕

In addition to content goals (see below), students will develop the following skills:
· Independent learning
· Discussion and argument-building skills
· Group and teamwork management
· Time management techniques
· Critical thinking development
T

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Course overview	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第２回	. The Story of English (1) The history of the origins and spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第３回	. The Story of English (2) The history of the origins and spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第４回	English varieties: Comparison of grammatical and lexical differences between English varieties.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第５回	The Sounds of English: Comparison of phonological differences between the dominant English varieties.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第６回	Standard English (1)? An overview of the debate surrounding 'standard' English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第７回	Standard English (2)? Language and power; features that convey high and low status in English varieties	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第８回	Krachu's Model: English users around the world.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第９回	Linguistic Imperialism: The negative side/consequences of the spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１０回	Language Ownership: Who owns English? Who gets to say what's 'correct' and what's 'bad' English?	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１１回	Cultural Politics and English as an International Language	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１２回	English and its contribution to Language Death.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１３回	Language and Identity: At the national, local and individual level.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１４回	The Future of English as the World's Language: Will /Should English continue to be the world's dominant language?	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes

〔授業の方法〕

The class will comprise of a balance between teacher-led instruction and pair and group work discussions and debates.

〔成績評価の方法〕

· Classwork: 50%
· Homework: 25%
· Reflection Sheet: 25%

〔成績評価の基準〕

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

Materials will be provided by the teacher

〔参考書〕

A reading list will be provided by the teacher.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

Questions are accepted immediately before and after class.
Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.

〔特記事項〕

Most of the time, teacher and students will use English.

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会言語学 316						
教員名	森住　史						
科目№	125131260	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

私たちが毎日使う言語は、私たちの住む社会や文化、価値観の影響を受けています。そして、その逆もまたしかり。社会言語学は、実際に使われている言語（書き言葉、話し言葉）を分析し、様々な角度から社会と言語の関係をとらえる学問です。授業では英語圏における「社会と言語」のトピックを幅広く扱い、社会言語学とは何か学ぶ機会を設けるとともに、実際に、自分たちが使っている言語、目にする・耳にする言語についても批判的に捉えられるようになることを目標とします。
さまざまなトピックを扱うため、その後のいろいろな授業での学びや後の卒論にも応用できるような知識や関心を養うことも期待できます。

〔到達目標〕

DP1, DP2, DP5, DP6　に沿って以下を到達目標とする。
1.　英語で書かれた社会言語学のテクストを読み、理解し、解説できるようになる。
2.　社会言語学の基本的な概念・アプローチ、用語を身につける。
3.　自分の身の回りの言語事象・言語活動に対し、客観的で批判的な捉え方ができるようになる。
4.　自分で社会言語学の基礎的リサーチを行えるようになる。
5.　自らのリサーチを口頭で、また、文章で、説得力を持って発表できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Ch. 1: What is sociolinguistics? 各自興味のあるトピックを探る どのような社会言語学的探究法が可能かを考える	指示に従って予習・復習・課題をすること。	60 min
第２回	Ch. 2: Language and Society	指示に従って予習・復習・課題をすること。	60 min
第３回	Ch. 4: Social Status	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第４回	Ch. 6: Ethnicity	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第５回	Ch. 7; Gender 1	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第６回	Ch. 7: Gender 2	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第７回	Mid-term review	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第８回	Ch. 8: Style	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第９回	Ch. 11: Attitudes and Ideologies	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第１０回	Ch. 12: Education	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第１１回	受講生の選択その１ もっと学びたいトピック	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第１２回	受講生の選択その２ もっと学びたいトピック	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第１３回	社会言語学的アプローチ：トピックを結びつける	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第１４回	試験（教科書持ち込み可） Review	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min

〔授業の方法〕

＊教科書は初回から使用。必ず購入して臨むこと。
毎回の授業は、「気付き」のシェア、あるいはリフレクションや課題の発表からスタート。
また、毎週何らかの課題（ネット上のリサーチが主）が出されるので、欠席した場合には CoursePower で授業資料を確認し、他の受講生と同様に提出をすること。授業中のディスカッションも、この課題の中のトピックが中心になります。
また、毎回の授業内容は、受講生の興味・関心により変わる可能性がありますので、これも毎回の授業資料を確認してください。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的な参加・貢献　30%
毎週の課題　40%
試験　30%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

Van Herk, G. (2018). What Is Sociolinguistics? (2nd ed.). Wiley Blackwelll.
ISBN: 978-1-118-96074-5
(後期にセミナー400<6>を履修する学生はこの教科書の一部を使います。)

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング
ICT 活用

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語学研究基礎A317						
教員名	八木橋　宏勇						
科目№	125131270	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本講義は、「認知言語学」(cognitive linguistics)「社会言語学」(sociolinguistics)「語用論」(pragmatics) の観点から、現代英語学の基礎的事項を精確に理解し、様々な言語現象を分析的に捉えることができるようになることを目的としている。従来、音声学・音韻論・統語論・意味論など、言語の諸側面を個別に切り出し、長らく分業制を敷いて行われてきた言語学において、認知言語学・社会言語学・語用論は比較的新しい研究の枠組みであり、扱う事象は統合的かつ広範にわたる。授業はテキストに沿って進められるが、各章の理解や各自の関心を深められるよう、テキスト以外の資料も適宜参照しながら、講義とディスカッションを交えて行われる予定である。

なお、授業の進捗・履修者の理解や関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野の知識・技能)、DP1-2（教養の修得)、DP-3（課題の発見と解決)、DP1-4（表現力、発信力)、DP1-6（自発性、積極性）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。

① 開放系言語学的な英語学の主要なトピックを学び、身の回りの言語現象を学問的に捉えられるようにする。
② 自らの将来を切り拓くような意義のある研究に専心できるよう「言語現象を分析的に見る眼」を養成する。
③ 授業内のディスカッションを通して、相互に具体例を見つけ出し、分析し合い、的確に表現する経験を蓄積

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容・進め方・予復習の仕方等を説明する。 ・「世界の英語状況」を把握する。	【予習】「はじめに」を熟読。	90
第２回	英語学の歴史と対照研究 ・2 つの英語学と開放系言語学の特徴を理解する。	【予習】第 1 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第３回	カテゴリー化 ・カテゴリー化と言語の関係性を理解する。	【予習】第 2 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第４回	事態把握 ・状況の捉え方と言語表現の関係性を理解する。	【予習】第 3 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第５回	メタファ・メトニミ・シネクドキ ・メタファー現象を理解する。	【予習】第 4 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第６回	文法化 ・現代英語の姿を史的に理解する。	【予習】第 5 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第７回	構文 ・意味を伝える言語形式を理解する。	【予習】第 6 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第８回	メンタルコーパス ・母語話者の頭の中にはどんな言語知識があるかを理解する。	【予習】第 7 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第９回	イメージスキーマと意味拡張 ・意味拡張の原理を理解する。	【予習】第 8 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１０回	バリエーション ・世界の諸英語について理解を深める。	【予習】第 9 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１１回	状況に応じた言語変種の選択 ・なぜ言葉を切り替えるのか、コードスイッチングについて理解する。	【予習】第 10 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１２回	ポライトネス ・face という概念を知り、positive / negative face の観点から分析できる言語現象について理解を深める。	【予習】第 11 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１３回	言語とコミュニケーション ・文化や思考を中心に、各言語には好まれる表現方法があることを理解する。	【予習】第 12 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１４回	ふりかえりー開放系言語学と英語学ー ・開放系言語学の全体像を再度確認し、その論点を自らの研究に活かす工夫を学修する。	【予習】「おわりに」を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90

〔授業の方法〕

・主に講義形式で行われるが、毎回ディスカッション（グループワーク）や質疑応答を行う双方向のやり取りも実施する。したがって、予復習に加え、積極的な参加が求められる。
・各回のテーマや基本概念の知識・分析方法に関する理解を深めるため、予復習については、授業内で詳細に指示する。
・平常点として成績に組み込まれるレポートに関しては、認知言語学・社会言語学・語用論の主要なトピックと各自の興味関心の接点に関する理解を測るテーマにする予定である。
・授業の進捗・履修者の理解や関心に応じて、内容を一部変更する場合が

〔成績評価の方法〕

・学期末試験は実施しない。
・平常点（授業・ディスカッションへの参加状況等 50%、宿題レポート等の提出 50%）による総合評価を基本としつつ、講義中の発言や質問など授業への積極的な貢献をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
① 開放系言語学に基づく英語学の主要なトピックおよび基本概念を正しく理解し、身の回りの言語現象を分析的に捉えられているか。
② 言語と社会・認知の関係性を客観的に分析し、論理的に説明できるか。
③ ディスカッションに積極的に参加すると

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は特に求めないが、学問を敬う心と、ことばに対する知的好奇心を持って取り組むことが重要である。

〔テキスト〕

『実例で学ぶ英語学入門』、多々良直弘・松井真人・八木橋宏勇、朝倉書店、2,900 円（ISBN：978-4254510720）

〔参考書〕

『開放系言語学への招待―文化・認知・コミュニケーション―』、唐須教光編、慶應義塾大学出版会、2,640 円、ISBN：978-4-7664-1549-0「（必ずしも）購入の必要なし」

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

・アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語史Ｂ412						
教員名	田辺　春美						
科目№	125131320	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

<中英語ロマンス Sir Orfeo：愛、忠誠、異界と妖精>
　Sir Orfeo は、１３世紀末にロンドンで書かれたロマンスで、妖精に連れ去られた妻を探しに異界へと旅する騎士 Orfeo の話である。Orfeo の妻を思う気持ちに誰しも心を揺さぶられるだろう。日本にもイザナギがイザナミを黄泉の国から連れ戻そうとするこれと似た話がある。
　この話は、中世ヨーロッパでは、ヴィルギウスの『哲学の慰め』などを通して広く知られていたが、イギリスではケルトの影響を受けて楽しく明るい結末となっている。この授業では、原文の中英語で作品を読み、踊りを踊る妖精、異界の王との取引、約束を守ること、別離と再会、王としての資質などの中世のモチーフを学ぶ。これらがシェイクスピアの作品にも引き継がれていることはとても興味深い。授業ではあまり知られていない、他の中世ロマンスも紹介する。
　中英語の原文でしかも１３世紀と聞くと難しそうな印象があるかもしれないが、語彙も構文ものちの時代のチョーサーよりわかりやすい。前提知識がなくても学部生に簡単に読みこなせるレベルなので安心してとってほしい。

〔到達目標〕

DP1-1、1-3（専門分野の知識・技能）、DP2-2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。
（１）中英語の文法、語彙、発音などの概略を理解する。
（２）中英語と現代英語の違いを知り、分析できるようになる。
（３）Sir Orfeo の文化的な背景について考察を深め、ヨーロッパ中世の文化を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Sir Orfeo の紹介 文化的背景と写本	シラバスを読む Sir Orfeo に関してどのような作品があるか調べて見る	60 分
第２回	Sir Orfeo の紹介 フランスのブレトン・レイとイギリスの妖精譚の違い Sir Orfeo の注意すべき文法	配布資料を読む	60 分
第３回	Sir Orfeo 講読　ll. 1-38	配布資料を読む	60 分
第４回	Sir Orfeo 講読　ll. 39-82	配布資料を読む	60 分
第５回	Sir Orfeo 講読　ll. 83-119	配布資料を読む	60 分
第６回	Sir Orfeo 講読　ll. 120-174	配布資料を読む	60 分
第７回	Sir Orfeo 講読　ll. 175-225	配布資料を読む	60 分
第８回	Sir Orfeo 講読　ll. 226-280	配布資料を読む	60 分
第９回	Sir Orfeo 講読　ll. 281-348	配布資料を読む	60 分
第１０回	Sir Orfeo 講読　ll. 349-404	配布資料を読む	60 分
第１１回	Sir Orfeo 講読　ll. 405-465	配布資料を読む	60 分
第１２回	Sir Orfeo 講読　ll. 466-520	配布資料を読む	60 分
第１３回	Sir Orfeo 講読　ll. 521-604	配布資料を読む	60 分
第１４回	まとめ 達成度確認試験	授業で扱ったところを復習する	120 分

〔授業の方法〕

授業は講義形式だが、受講者の人数によっては演習方式により行う。

〔成績評価の方法〕

平常点（毎回の授業への参加、貢献と課題）５０％と授業最終回の到達度確認テスト５０％により、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

英語学入門
イギリス文学史
「英語史 A312」でも中英語は学習するが、回数も少なくテキストを読むわけでないので、後期からの受講でも差し支えないように、ゆっくりと解説をする。

〔テキスト〕

特になし。必要な資料は配布する。

〔参考書〕

授業中に紹介する

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英文法 414						
教員名	石井　透						
科目No.	125131340	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

生成文法に基づいて、英語の多種多様な構文を分析し、従来の学校 テーマ・概要 文法だけからではわからなかった、人間の言語がもつ複雑で興味深い特性、そしてその背後で作用しているさまざまな普遍的原理・人間の言語処理のしくみについて学びます。

〔到達目標〕

(1) 英語の各構文を分析してその性質を正確に理解し、自分でも使えるようにする。
(2) それらの構文の背後で作用している普遍的原理・脳の言語処理のしくみについて、深く理解し説明できるようにする。
以下のディプロマポリシーを到達目標とします。
DP1-1　　英語英米文学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。
DP1-2　　文化的他者とのコミュニケーションにおいて基礎的な技能となる英語力を修得している。また、そのために必要な言語・社会・文化・歴史・芸術・思想に関する専門的な知識の中から個人の

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 生成文法理論の基本的な考え方、特に生得仮説(innateness hypothesis)について学ぶ。	生成文法理論の基本的な考え方について、テキストの Chapter 1: What is Linguistics? (p. 5 – p. 7, l. 16; p. 8, l. 18 – p. 11)を復習する。	60 分
第２回	生成文法理論の背景について学ぶ。	生成文法理論の背景について、テキストの Chapter 5, Section 5.1: Some Background Concept (pp. 143-148))を復習する。	60 分
第３回	英語の Yes/No 疑問文、及び助動詞と本動詞について学ぶ。	英語の Yes/No 疑問文、及び助動詞と本動詞について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 148-156)を復習する。	60 分
第４回	主語の概念について学ぶ。	主語の概念について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 156-163)を復習する。	60 分
第５回	統語的構成素について学ぶ。	統語的構成素について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 163-168)を復習する。	60 分
第６回	統語的構成素テストについて学ぶ。	統語的構成素テストについて、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 168-173)を復習する。	60 分
第７回	構造的多義性と不連続な依存関係について考察し分析する。	構造的多義性と不連続な依存関係について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 174-179)を復習する。	60 分
第８回	句構造規則、回帰性、変換規則について理解する。	句構造規則、回帰性、変換規則について、テキストの Chapter 5, Section 5.3: A More Formal Account of Early Transformational Theory (pp. 187- 194))を復習する。	60 分
第９回	依存関係、特に Wh 疑問文について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特に Wh 疑問文について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198)を復習する。	60 分
第１０回	依存関係、特に受動文と繰り上げ文について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特に受動文と繰り上げ文について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198)を復習する。	60 分
第１１回	依存関係、特にコントロール動詞について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特にコントロール動詞についてテキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198) More on Dependencies (Control Verbs) を復習する。	60 分
第１２回	照応形と束縛原理について学び分析する。	照応形と束縛原理について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 198-200), Chapter 11, Section 11.4 Special Topics (pp. 493-494)を復習する。	60 分
第１３回	句構造規則と変換規則の発展ついて学ぶ。	句構造規則と変換規則の発展について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 200-201), を復習する。	60 分
第１４回	原理とパラメータ理論について学ぶ。 小テスト	原理とパラメータ理論について、テキストの Chapter 11, Section 11.4 Special Topics (p. 492, pp. 424-426)を復習する。	60 分

〔授業の方法〕

テキストに沿って講義形式で行います。前の授業で学んだことを前提に次の授業が進んでいきますので、授業には毎回出席するようにして下さい。ある程度以上出席していないと成績評価の対象になりません。

〔成績評価の方法〕

学期末に「到達度確認小テスト」を行います。「到達度確認小テスト」70%、平常点(授業への参加状況)30%で評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

英語学入門

〔テキスト〕

Akmajian, A. A. Farmer, L. Bickmore, R. Demers, R. Harnish (2017) Linguistics: An Introduction to Language and Communication (Seventh Edition), MIT Press. Chapter 1: What is Linguistics? (pp. 5-11), Chapter 5: Syntax: The Study of Sentence Structure, Chap

〔参考書〕

授業の際に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化入門 220						
教員名	権田　建二						
科目№	125132100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

複数の人間によって形成される共同体において、そのうちの何人かが中心的な存在となり、それ以外の何人が周縁的な存在となるのは、社会一般に関して広く認められる現象だろう。アメリカ合衆国も例外ではない。むしろアメリカは他者を排除しようという中心性が極めて強く働く場であり、中心的存在・周縁的存在という分類が明瞭に現れるところである。しかし、アメリカにおいて特徴的であると思われるのは、そのように周縁に追いやられた人たちがその立場に甘んじない点だ。しばしば彼ら・彼女たちはアメリカ人として自らの存在の正当性を主張する。アメリカの歴史を眺めれば、中心性と周縁性の相克がアメリカを形成しているとさえ言えるだろう。本講義では以上のような観点からいくつかのテーマにそって、アメリカ社会において中心性と周縁性がどのように働いてきたか、働いているのか見ていきたい。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）のとりわけ、DP1-1, 1-2, 1-4、DP2（教養の修得）の DP2-1, 2-3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする
1) アメリカの歴史・文化を理解するための視座を得る。
2) 歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。
3) 様々な種類の英文を読解する力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション―合衆国と自由・平等・民主主義	【復習】 今回分資料を再読。	60
第２回	自由はどこまで可能か–銃規制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第３回	ニューイングランド・ピューリタンと魔女狩り I–合衆国と宗教，ピューリタン，メイフラワー誓約，「丘の上の町」	【復習】 今回分資料を再読。	60
第４回	ニューイングランド・ピューリタンと魔女狩り II–セイラムの魔女裁判	【復習】 今回分資料を再読。	60
第５回	ニューイングランド・ピューリタンと魔女狩り III–魔女狩りのその後	【復習】 今回分資料を再読。	60
第６回	西部開拓とネイティブ・アメリカン I–モンロー宣言，「明白な運命」，フロンティアの消滅	【復習】 今回分資料を再読。	60
第７回	西部開拓とネイティブ・アメリカン II–メアリー・ロウランドソンの『俘虜記』，インディアンの強制移住	【復習】 今回分資料を再読。	60
第８回	西部開拓とネイティブ・アメリカン III–ヘレン・ハント・ジャクソン，インディアン・アクティヴィズム	【復習】 今回分資料を再読。	60
第９回	西部開拓とネイティブ・アメリカン IV–ネイティヴ・アメリカンと同化	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１０回	人種差別と黒人 I–奴隷解放と「分離すれど平等」の原理–プレシー判決	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１１回	人種差別と黒人 II–黒人に対する差別	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１２回	人種差別と黒人 III–ブラウン判決と公民権運動	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１３回	人種差別と黒人 IV–公民権運動の後とアファーマティヴ・アクション	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１４回	まとめ：セルフレヴュー	【予習】 セルフレヴューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。	60

〔授業の方法〕

教科書は使用しません。毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。
プリントは CoursePower を使って配布します。
　また、毎回授業中もしくは授業後にリアクション・ペーパーに書くことが毎回の課題になります。これも CoursePower を使って配布・回収します。
　授業後にリアクション・ペーパーを書いて提出することが課せられた場合は、提出の期限は当該授業日の 23:59 までになります。リアクション・ペーパーは成績評価の重要な基準になります

〔成績評価の方法〕

リアクション・ペーパー（90%）＋ セルフレヴュー（10%）
リアクション・ペーパーは単に授業の感想を書くのではなく、授業で学んだことに関して自分の考えを述べるものです。
毎回特定の課題を出しますので、それについて授業で学んだことに基づいて説明をし、さらに自分の考えを述べることになります。
毎回の授業でこれを行うことで、授業の理解度を確認します。
授業に出席しないことには、リアクション・ペーパーは評価の対象になりません。
また、リアクション・ペーパーを提出しないことには出席が認められま

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕

この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使わない。必要な文献等は毎回プリントにして配布。

〔参考書〕

ハワード・ジン『民衆のアメリカ史』　上下　明石書店，2005.
エリック・フォーナー『アメリカ自由の物語：植民地時代から現代まで』岩波書店，2008 年.
有賀夏紀・油井大三郎　編　『アメリカの歴史　テーマで読む多文化社会の夢と現実』　有斐閣 2003 年.
亀井俊介　編　『アメリカ文化入門』　昭和堂 2006 年.
大下尚一　有賀貞　志邨晃佑　平野孝　『史料で語るアメリカ　メイフラワーから包括通商法まで』　有斐閣　1989 年.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 321（精神分析）						
教員名	下河辺　美知子						
科目№	125132210	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

われわれは、自分が考えていることは自分でわかっている、自分の過去に起こったことは自分で覚えていると思い込んで生きている。しかし、本人が知ることのできない心の領域があって、自分の知らない自分の欲望や、自分で覚えていない記憶があることが明らかにされた。ジークムント・フロイトが「精神分析」という理論を打ち立てて、「無意識」という心の領域を発見し、「トラウマ（心的外傷）」という記憶のメカニズムを突き止めたのである。

この講義では「精神分析」という学問領域の基礎を学ぶとともに、人間の言葉や文化のレトリックが「無意識」や「トラウマ」によってどのように紡がれているかを検証する。フロイト、ユング、ラカン、カルースらのテクストを読んで精神分析理論を理解するとともに、そうした理論が文化の中のレトリック（政治、歴史、小説、映画）にどのように表れているかを分析する。

〔到達目標〕

DP2-3 【教養の習得】精神分析という領域を、英語圏文化研究における基礎的教養の一つとして習得しする。批評理論の基本的知識を身につけることで、複数のコンテクストを踏まえて思考・判断を行えるようにする。
DP3-3【課題の発見と解決】英語圏文化に関わる課題の本質を発見するために、関連文献を収集してよみとく。その後、文学作品を精神分析というコンテクストの中で読み解き、二十一世紀世界の課題の解決に向けて論理的に思考する能力を身に付ける。
DP6-1【自発性、積極性】習得した知識・技能を、様々な活動において

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：授業のテーマと授業の方法および成績評価について説明する	シラバスを読み、授業であつかうテーマと授業の進め方について把握する	60 分
第２回	精神分析の誕生：フロイトが発見した世界	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第３回	人の精神の構造：無意識という領域	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第４回	夢理論について（１）	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第５回	夢理論について（２）	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第６回	共同体の記憶（１）	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第７回	共同体の記憶（２）	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第８回	個人の記憶の中の心的外傷（１）	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第９回	個人の記憶の中の心的外傷（２）	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第１０回	小説とトラウマ（１）	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第１１回	小説とトラウマ（２）	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第１２回	語りの権力/語りの欲望	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第１３回	映画とトラウマ	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	60 分
第１４回	授業内課題レポート	配布されたテクストを読み、前回の講義内容への理解を深め、次の段階を理解する準備をしておくこと。	120 分

〔授業の方法〕

前もって Course Power にて配布してある資料について、Power Point　を使って講義をする。その後、受講者同士での意見交換、受講者と講師とのディスカッションなどによって、当日の課題についての議論を重ねていく。毎回、授業終了後に授業内容についての確認をアンケートという形で提出する。また、小レポートおよび最終課題レポートは Course Power を使って期限内に提出する。

〔成績評価の方法〕

平常点で成績評価を行う。授業への参加状況（３０％）、小レポート（２０％），課題レポート（50％）で総合評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

担当者が毎回 Course Power にてハンドアウトを提供する。
Kurt Vonnegut, "Slaughter House Five," Dial Press Trade Paperback

〔参考書〕

下河辺美知子『歴史とトラウマ：記憶と忘却のメカニズム』（作品社 2000 年）「購入の必要なし」
下河辺美知子『グローバリゼーションと惑星的想像力：恐怖と癒しの修辞学』（みすず書房 2015 年）「購入の必要なし」
キャシー・カルース『トラウマ・歴史・物語』（下河辺美知子訳　みすず書房 2005 年）「購入の必要なし」

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 322（コミュニケーション）						
教員名	大塚　清高						
科目№	125132220	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

基本的には講義形式で行う。授業では、テクストを輪読しながら、内容を理解していきます。
講義の中で学生各自がコミュニケーション論の分野で興味を持った話題について調べ、学期末 Presentation の機会を使って、理解を深めていきます。
他の学生の発表も注意深く聞きながら、あらゆる側面から異文化間コミュニケーションについて考察していきます。
教員の講義、他の学生の発表などを踏まえて、授業の振り返り試験で知識のまとめを行います。

〔到達目標〕

DP1【専門分野の知識・技能】及び DP4【表現力・発信力】を実現するために、以下を目指す。
①世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。
②多様な文化背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解することができる。
③英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の方法と成績評価の方法について説明する。 授業：「偏見・差別」について考える。	Chapter 6（偏見・差別）を読んでくる。	60 分
第２回	言語と文化について考える。 Discussion	Chapter 6（偏見・差別）を読んでくる。	60 分
第３回	言語と文化について考える。 Discussion	Chapter 1（言語と異文化間コミュニケーションを学ぶ理由）を読んでくる。	60 分
第４回	言語と社会化の過程について考える。 Discussion	Chapter 2（言語と社会化の過程）を読んでくる。	60 分
第５回	言語と社会化の過程について考える。 Discussion	Chapter 2（言語と社会化の過程）を読んでくる。	60 分
第６回	文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力について考える。 Discussion	Chapter 3（文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力）を読んでくる。	60 分
第７回	文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力について考える。 Discussion	Chapter 3（文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力）を読んでくる。	60 分
第８回	非言語コミュニケーションについて考える。 Discussion	Chapter 4（言語と非言語コミュニケーション）を読んでくる。	60 分
第９回	非言語コミュニケーションについて考える。 Discussion	Chapter 4（言語と非言語コミュニケーション）を読んでくる。	60 分
第１０回	異文化における言語とアイデンティティについて考える。 Discussion	Chapter 6（偏見・差別）を読んでくる。	60 分
第１１回	学期末 Presentation (1)	学期末 Presentation の準備をする。	90 分
第１２回	学期末 Presentation (2)	学期末 Presentation の準備をする。	90 分
第１３回	授業の振り返りテスト	振り返りテストの準備をする。	120 分
第１４回	授業の総括：授業全般を振り返り、学んだことについてまとめる。	授業のノートをよく読んでくる。	60 分

〔授業の方法〕

基本的には講義形式で行う。授業では、テクストを輪読しながら、内容を理解していく。
講義の中で学生各自がコミュニケーション論の分野で興味を持った話題について調べ、学期末 Presentation の機会を使って、理解を深めていく。
他の学生の発表も注意深く聞きながら、あらゆる側面から異文化間コミュニケーションについて考察していく。
教員の講義、他の学生の発表などを踏まえて、授業の振り返り試験で知識のまとめを行う。

〔成績評価の方法〕

授業参加（学期末 Presentation、ディスカッションへの積極的な参加、宿題など）：50%
学期末振り返りテスト：50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①授業の内容（教員及び他の学生の発言も含む）を注意深く聞いて理解することができる。
②説得力のある Presentation を Power Point 等を使って行うことができる。
③異文化間コミュニケーションについての様々な問題に

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕

Jackson, J. (2020). Introducing language and intercultural communication (2nd ed.). Routledge. ISBN 978-1-138-48161-9

〔参考書〕

・Masahiko, Minami. (2011). Telling stories in two languages. Charlotte Information Age Publishing Inc.
・直塚玲子. (1994). 『欧米人が沈黙するとき』 大修館書店.
・南雅彦. (2013). 『言語と文化』 くろしお出版.
・ヴァーカス・マジョリード. (1987). 『非言語コミュニケーション』 新潮選書.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 323（ジェンダー）						
教員名	小林　英里						
科目No.	125132230	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本授業では、ジェンダー論やフェミニズム批評を補助線にして、19 世紀のイギリス・ロマン派から 20 世紀後半にかけてのイギリス文学の作品を読む。ジェンダー非対称な社会のなかで、このことに敏感に反応した（男女を問わない）作家たちが、どのような文学上の戦略をとりながら、いかにして平等な社会実現へむけた試みをおこなったのかを考察していきたい。

〔到達目標〕

本学のディプロマポリシー【DP1-1】（専門分野の知識・技能）、【DP1-4】（専門分野の知識・技能）、【DP1-5】（専門分野の知識・技能）、【DP2-3】（教養の習得）、【DP2-4】（専門分野の知識・技能）、【DP3】（課題の発見と解決）、【DP4】（表現力、発信力】の実現のため、以下の事柄の修得を目標とする。
①イギリス文学の作品に精通する。
②批評理論（ジェンダー論、フェミニズム批評理論、ガイノクリティシズム）の基本概念を理解する。
③学術論文に必要な議論の仕方を学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：フェミニズム批評、ジェンダー批評、ガイノクリティシズムとは何か？	あらかじめシラバスに目を通しておく。	60 分
第２回	Mary Shelley, Frankenstein (1818) ①	授業内容を確認する。	60 分
第３回	Mary Shelley, Frankenstein (1818) ②	授業内容を確認する。	60 分
第４回	Mary Shelley, Frankenstein (1818)③	授業内容を確認する。	60 分
第５回	Charlotte Bronte, Jane Eyre (1847) ①	授業内容を確認する。	60 分
第６回	Charlotte Bronte, Jane Eyre (1847) ②	授業内容を確認する。	60 分
第７回	Charlotte Bronte, Jane Eyre (1847) ③	授業内容を確認する。	60 分
第８回	Jean Rhys, Wide Sargasso Sea (1966) ①	授業内容を確認する。	60 分
第９回	Jean Rhys, Wide Sargasso Sea (1966) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１０回	Jean Rhys, Wide Sargasso Sea (1966) ③	授業内容を確認する。	60 分
第１１回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ①	授業内容を確認する。	60 分
第１２回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１３回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ③	授業内容を確認する。	60 分
第１４回	総括	授業内容を確認する。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式。毎回、コースパワーを通じてレスポンス・シートを提出する。学期末はコースパワーを通じてレポートを提出する。

〔成績評価の方法〕

コースパワーを通じたレスポンス・シートの提出（80%）、平常点（20%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
近代以降のイギリスの歴史についての基本的知識があることが望ましい。

〔テキスト〕

特になし。(資料はコースパワーを通じて提示する。)

〔参考書〕

以下は、購入の必要はないが、参考にしてほしい。
メアリー・シェリー、『フランケンシュタイン』（光文社古典新訳文庫）
シャーロット・ブロンテ、『ジェイン・エア』（光文社古典新訳文庫）
エミリー・ブロンテ、『嵐が丘』（光文社古典新訳文庫）
ジーン・リース『サルガッソーの広い海』（河出書房新書）
マーガレット・アトウッド、『侍女の物語』（早川書房）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

ICT 活用

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 324（人種）						
教員名	権田　建二						
科目№	125132240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

奴隷制とそのインパクトーアフリカ系アメリカ人の歴史
19 世紀半ばまでアメリカ合衆国南部に存在していた奴隷制の歴史をアメリカ建国から廃止までたどると同時に、その影響として現代におけるレイシズムについて考えます。奴隷が書いた手記（slave narratives）や１９世紀半ばの文人たちの奴隷制に対する反応等の文学テクストを読むだけではなく，奴隷制を支持する南部知識人の擁護論や裁判の判決や新聞記事等の社会的・文化的言説を通して、また現代における人種問題について語ったテクストを通して、多角的に奴隷制とその影響を見ることになります。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）のとりわけ、DP1-1, 1-2, 1-4、DP2（教養の修得）の DP2-1, 2-3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする
1）アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史について理解を深める。
2）歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。
3）様々な種類の英文を読解する力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクションー黒人の歴史・アメリカの歴史	【復習】 今回分資料を再読。	60
第２回	黒人の歴史・アメリカの歴史	【復習】 今回分資料を再読。	60
第３回	黒人に対する補償ー奴隷制という過去 新世界における奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第４回	黒人に対する補償ー現代の貧困 合衆国における奴隷制の発展	【復習】 今回分資料を再読。	60
第５回	黒人と経済的格差ーGated Community	【復習】 今回分資料を再読。	60
第６回	新世界における奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第７回	合衆国における奴隷制の発展	【復習】 今回分資料を再読。	60
第８回	合衆国憲法と奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第９回	独立革命と奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１０回	トマス・ジェファソンと奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１１回	奴隷制廃止運動	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１２回	奴隷州と自由州の対立	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１３回	南北戦争とリンカーン	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１４回	まとめとセルフ・レヴュー	【予習】 セルフレヴューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。	60

〔授業の方法〕

講義形式による授業です。
毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。
プリントは CoursePower を使って配布する予定です。
また、毎回授業中もしくは授業後にリアクション・ペーパーを書くことが課されます。
これも CoursePower を使って配布・回収します。
授業後にリアクション・ペーパーを書いて提出することが課せられた場合は、提出の期限は当該授業日の 23:59 までになります。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクション・ペーパー（80%）と学期末のセルフ・レビュー（20%）によって判断する。
リアクション・ペーパーは単に授業の感想を書くのではなく、授業で学んだことに関して自分の考えを述べるものです。
毎回特定の課題を出しますので、それについて授業で学んだことに基づいて説明をし、さらに自分の考えを述べることになります。
毎回の授業でこれを行うことで、授業の理解度を確認します。
授業に出席しないことには、リアクション・ペーパーは評価の対象になりません。
また、リアクション・ペーパーを提出しな

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使いません。必要な文献等は毎回プリントにして配布します。

〔参考書〕

本田創造『アメリカ黒人の歴史』新版（岩波書店，新版 1994 年）
荒このみ『アメリカの黒人演説集』（岩波文庫，2008 年）
ベンジャミン・クォールズ『アメリカ黒人の歴史』（明石書店，1994 年）
アイラ・バーリン『アメリカの奴隷制と黒人：五世代にわたる捕囚の歴史』（明石書店，2007 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化研究基礎A325						
教員名	小野　俊太郎						
科目№	125132250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

西洋古典と英米文学や文化との関係についてをテーマとする。ギリシャ・ローマの神話だけでなく、ギリシャ悲劇などは文学や文化の規範となってきた。あるいは作家たちのアイデアの宝庫ともなっている。『変身物語』の影響、英雄叙事詩と冒険の譚の関係、悲劇は可能か、メデューサをめぐる関係などを扱って、どのように後世に影響を及ぼしたのかを探る。

〔到達目標〕

DP1-（専門分野知識と理解）、DP3-（課題の発見と解決）、DP4-（表現力・発信力）を実現するために次の３点を目標とする。
①歴史的文化的な背景を踏まえて西洋古典の影響を把握できるようになる。
②西洋古典と関連する作品への応用や課題を発見できるようになる。
③文学への西洋古典の影響を理解した上で的確な分析レポートが書けるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ギリシャ神話とギリシャ悲劇	内容の復習と資料のチェック	60 分
第２回	星座と神話：天上と地上の応答として	内容の復習と資料のチェック	60 分
第３回	『変身物語』: フィロメラ、ピュグマリオンなど	内容の復習と資料のチェック	60 分
第４回	ヴァージニア・ウルフの『オーランドー』	内容の復習と資料のチェック	６０分
第５回	ホーソーンによる神話の語り直し	内容の復習と資料のチェック	60 分
第６回	『夏の夜の夢』とギリシャ神話	内容の復習と資料のチェック	60 分
第７回	ユリシーズの冒険とジョイスの『ユリシーズ』課題レポート①	レポートのための復習とチェック	120 分
第８回	『オイディプス王』と『ハムレット』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第９回	シェリー夫妻の『プロメテウス解縛』と『フランケンシュタイン』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１０回	オニールの『喪服の似合うエレクトラ』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１１回	『サテュリコン』と『偉大なるギャツビー』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１２回	ファム・ファタールとメデューサ：　キーツとワイルド	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１３回	メデューサの反撃：　シルヴィア・プラスなど女性詩人たち課題レポート②	課題レポートのための復習	120 分
第１４回	全体のまとめと振り返り	内容の復習と資料のチェック	60 分

〔授業の方法〕

配布資料に基づく講義を中心とする。講義などで示された内容を復習し、どのように分析をするかという技法を習得すること。課題レポートは内容を咀嚼した上で的確に分析ができているのかを評価する。

〔成績評価の方法〕

２回のレポート提出（70%）、小テストの提出（30%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。ギリシア・ローマ神話という歴史的文化的な背景を理解して、各作品を的確に分析できているかどうかが評価の対象となる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。連絡方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化研究基礎Ｂ326						
教員名	下村　美佳						
科目№	125132260	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本講義は、シェイクスピアの代表的作品に触れながら、その背景にある思想を学ぶことを目的とする。家父長制、亡霊観、自然観、妖精観などを学び、それらが作品、主に女性登場人物の表象にどのようにあらわれているのかを示していく。映像化されているものはできるだけそれを活用しながら、解釈のポイントを紹介する。

〔到達目標〕

DP2、DP3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①シェイクスピアに関する基礎的な知識を修得する。
②イギリス文学史全体の流れの中にシェイクスピアを位置づけ、その背景にある思想を理解した上でその特質や意義を説明できる。
③シェイクスピア作品の特質を理解し、自分の考えを述べることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 シェイクスピアについて、その概略を説明する。	（予習）　シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 （復習）　授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。	60
第２回	16 世紀のイギリス	（復習）　エリザベス朝について調べておき重要な用語は説明できるようにすること。	60
第３回	『ロミオとジュリエット』におけるジュリエット①	（予習）　シェイクスピアの初期作品について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第４回	『ロミオとジュリエット』におけるジュリエット②	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第５回	『リチャード三世』における女性登場人物たち	（予習）　シェイクスピアの歴史劇について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第６回	『リチャード三世』における亡霊	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第７回	『夏の夜の夢』における妖精①	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第８回	『夏の夜の夢』における妖精②	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第９回	『ハムレット』における亡霊	（予習）　シェイクスピアの四大悲劇について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第１０回	『ハムレット』におけるオフィーリア①	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第１１回	『ハムレット』におけるオフィーリア②	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第１２回	『ハムレット』におけるガートルード	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第１３回	前期授業のまとめ	（予習）　これまでの学習内容を確認する。	60
第１４回	到達度確認テスト これまでの学習内容について、理解度を確認するためのテスト	（予習）　到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。	120

〔授業の方法〕

講義形式で行う。各作品の学習後、小レポートを授業内で提出してもらう。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（６０%）、小レポート（４０%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①シェイクスピアに関する基礎的な知識を身につけている。
②イギリス文学史の流れのなかにシェイクスピアを位置づけ、その背景にある思想を理解した上でその特質や意義を説明できる。
③シェイクスピア作品の特質や意義を理解し、さらに自分の意見を述べることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
必要に応じてプリントを配布する。

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 421（戦争）						
教員名	髙瀬　祐子						
科目№	125132310	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

テーマとしての「戦争」を狭い意味で定義をするのではなく、「戦争的な構造」や「社会の分断」、いま社会で問題となっている「いじめ」「差別」などについて含む広い意味で「戦争」を扱いたい。まず、戦争とメディアの関係性に焦点を当て、メディアが戦争においてどのように利用され、どのような役割を果たしてきたか、その関係性が如何に変化してきたかについて確認する。第二次世界大戦におけるプロパガンダ映画から SNS なども参照しつつ、映画とメディアの歴史の変遷について考察する。次に文学、映画、アニメ、漫画などの様々な文化的メディアにおいて、戦争がどのように表象されてきた（いる）かについて、実際に作品を読んだり、見たりしながら分析する予定である。そうすることによって、卒業論文における文化研究の基礎的知識も身につけることができると予想する。この学期の締めくくりとして、具体的な作品の分析を実践する。いわゆる戦争映画や戦争文学だけでなく、上記の目的にかなった作品、たとえば、北米における人種問題を扱った映画なども扱う予定である。

〔到達目標〕

英語圏の文化研究の根幹をなす精神分析や人種表象あるいは他者表象をめぐる文化理論を習得することにより、この分野における領域横断的な知識を獲得し（DP2-3）、現在世界中で問題となっている戦争、人種差別、いじめなどという現象を理論的に解明するのと同時に、これらの理論的知識を援用して個別的に様々な文化テクスト（映像テクスト）を分析をする実践力を身につける（DP1-4）。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	講義の目標についての具体的な説明	シラバスを読み講義の目的について最低限度の理解をし、できればネットなどで問題の所在を確認する。	６０分
第２回	戦争とメディア（歴史）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第３回	戦争とメディア（プロパガンダ）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第４回	現代における戦争とメディア	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第５回	集団／群衆と個	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第６回	文化的表象（文学１）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第７回	文化的表象（文学２）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第８回	文化的表象（漫画）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第９回	文化的表象（アニメ）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１０回	文化的表象（映画１）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１１回	文化的表象（映画２）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１２回	文化的表象（映画３）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１３回	現代における戦争とメディア	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１４回	これまでの議論と分析の総括	前回までの講義内容を理解し最終的な総括ができるようにする。	１２０分

〔授業の方法〕

講義内容を理解するために、毎回 Powerpoint を使用し、その要点について 40 分程度の講義をする。それと同時に、双方向の授業を実現するために、残りの時間では受講生が講義を受けた内容についての質問やコメントをする。講義担当者はそのそれぞれに丁寧に応答し、interactive な教育効果を目指す。また、受講者は具体的な作品分析を自ら試みることを要求される。

〔成績評価の方法〕

平常点（６０％）、学期末の term paper（４０％）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

授業担当者が用意する。

〔参考書〕

適宜複数を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティヴ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 422（複言語・複文化主義）						
教員名	大塚　清高						
科目№	125132320	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

言語と社会の関係についての基礎知識を身に着け、その知識をもとに、日本の英語学習者が英語以外の複数の言語を学ぶ意義について考えることを目指します。Presentation を通して、学生の身の回りで起きている異文化のぶつかり合いが大きな問題に発展するのを避けるためにすべきこと、また社会全体で起きている異文化間の問題を解決する方法を模索していきます。
そしてこの授業では、複数の言語を学ぶことの意義の理解に基づき、言葉と文化の多様性について考え、他者への寛容を養う異文化間教育について考えをまとめていきます。

〔到達目標〕

DP1【専門分野の知識・技能】及び DP2【教養の修得】を実現するために、以下を目指す。
①多言語主義と複言語主義の違いについて理解する。
②世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。
③多様な文化背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解する。
④英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。
⑤複言語・複文化主義的発想に基づくとどのように言語習得についての考え方が変わるか考える。
⑥複言語

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の方法と成績評価について説明する。 授業：イントロダクション	多言語主義について事前に読んで基礎知識をつけてくる。	60 分
第２回	多言語主義とは何か（1） 台湾における日本語の役割と北京語の役割について	台湾と日本の歴史について基礎的な内容を調べてくる。	90 分
第３回	多言語主義とは何か（2） アメリカの English Only Movement について	アメリカにおける英語使用の歴史に関する資料を読んでくる。	90 分
第４回	多言語主義とは何か（3） アメリカの English Plus Movement について	アメリカにおける英語使用の歴史に関する資料を読んでくる。	90 分
第５回	多言語主義とは何か（4） アメリカの言語事情について	アメリカの言語事情について資料を読んでくる。	90 分
第６回	中間振り返り小テスト	中間振り返り小テストの準備をする。	90 分
第７回	中間振り返り小テストの解説 ヨーロッパにおける言語政策（1） EU の試みについて	EU について資料を読んでくる。	90 分
第８回	ヨーロッパにおける言語政策（2） 欧州評議会という組織について	欧州評議会について資料を読んでくる。	90 分
第９回	複言語主義・複文化主義とは何か（1） Language learning and teaching について Presentation（1）	配布テクスト Chapter 1 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１０回	複言語主義・複文化主義とは何か（2） CEFR と CEFR-J について Presentation（2）	配布テクスト Chapter 2 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１１回	複言語主義・複文化主義とは何か（3） ヨーロッパの多言語主義から複言語主義への移行について Presentation（3）	配布テクスト Chapter 2 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１２回	複言語主義・複文化主義とは何か（4） 複言語主義についての原書講読	配布テクスト Chapter 3 を読む。	90 分
第１３回	学期末振り返りテスト	学期末振り返りテストの準備をする。	90 分
第１４回	学期末振り返りテスト返却と解説 授業の総括	学期末振り返りテストの復習をする。	60 分

〔授業の方法〕

講義と演習の形式を取る。教員は授業で扱う複言語主義・複文化主義の概念について講義を行う。学生は、授業で配布されるテクストの資料や他の参考文献を輪読し、自分の興味のある話題を選び、Presentation を行う。
学生の Presentation に対し、意見交換を行いながら、授業の話題となっている複言語・複文化主義的発想に基づくと日本における言語教育はどのようになっていくか、日本の英語学習者は何を目指すことになるかについて学期を通して各自考えをまとめることが期待される。
授業では、中間振り返り小テストと、

〔成績評価の方法〕

授業参加（Presentation、中間振り返り小テスト、ディスカッションへの積極的な参加、宿題など）：50%
学期末振り返りテスト：50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①複言語主義・複文化主義と多言語主義の概念の違いを理解することができる。
②多様な文化が存在する中で異文化間コミュニケーションにどのような課題があるかについて考えることができる。
③日本社会で、英語以外の複数の言語を学ぶ意義に

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

英語圏文化 322（コミュニケーション）を履修しておくことが望ましい。

〔テキスト〕

購入の必要なし

〔参考書〕

・Council of Europe. (2001). Common European Framework of Reference for Language: Learning, Teaching, Assessment. Strasbourg; Cambridge University Press.
・欧州評議会　言語政策局（山本冴里訳）. (2016). 『言語の多様性から複言語教育へ　ヨーロッパ言語教育政策策定ガイド』　くろしお出版.
・西山教行・細川英雄・大木充（編）. (2016). 『異

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 423（ポストコロニアリズム）						
教員名	小林　英里						
科目No.	125132330	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本授業では、イギリス文学の正典作品と、それを（旧）植民地の立場から書き直した作品を併置して読んでいく。ポストコロニアル時代の作家たちが用いるヘゲモニー転覆のための文学的戦略とはいったいどのようなものなのか、このことを考察することで、「宗主国」対「植民地」、「男」対「女」、「中央」対「周縁」、そして「主体」対「他者」といった二項対立を崩そうとする言説の試みのなかに、平等な社会実現の志向とその可能性を探る。

〔到達目標〕

【DP1-1】（専門分野の知識・技能）、【DP1-4】（専門分野の専門分野の知識・技能）、【DP1-5】（専門分野の知識・技能）、【DP2-3】（教養の習得）、【DP3】（課題の発見と解決）、【DP-4】（表現力、発信力）に基づいて、以下の事柄の修得を目標とする。
①イギリス文学の正典作品とポストコロニアル文学作品に精通する。
②批評理論（ポストコロニアル理論）の基本概念を理解する。
③学術論文に必要な議論の仕方を学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	あらかじめシラバスに目を通しておく。	60 分
第２回	Daniel Defoe, Robinson Crusoe (1719) ①	授業内容を確認する。	60 分
第３回	Daniel Defoe, Robinson Crusoe (1719) ②	授業内容を確認する。	60 分
第４回	J. M. Coetzee, Foe (1986) ①	授業内容を確認する。	60 分
第５回	J. M. Coetzee, Foe (1986) ②	授業内容を確認する。	60 分
第６回	Shakespeare, Romeo and Juliet ①	授業内容を確認する。	60 分
第７回	Shakespeare, Romeo and Juliet ②	授業内容を確認する。	60 分
第８回	Blackman, Noughts and Crosses (2001) ①	授業内容を確認する。	60 分
第９回	Blackman, Noughts and Crosses (2001) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１０回	Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) ①	授業内容を確認する。	60 分
第１１回	Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１２回	Caryl Phillips, The Lost Child (2015) ①	授業内容を確認する。	60 分
第１３回	Caryl Phillips, The Lost Child (2015) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１４回	総括	授業内容を確認する。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式。毎回、コースパワーを通じてレスポンス・シートを提出する。学期末はコースパワーを通じてレポートを提出する。

〔成績評価の方法〕

コースパワーを通じた課題の提出（80%）、平常点（20%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
近代以降のイギリスの歴史についての基本的知識があることが望ましい。

〔テキスト〕

特になし。(資料はコースパワーを通じて提示する。)

〔参考書〕

以下は、購入の必要はないが、参考にしてほしい。
ダニエル・デフォー、『ロビンソン・クルーソー』（岩波文庫、上下巻）
J. M. クッツェー、『敵あるいはフォー』（白水社）
シャーロット・ブロンテ、『ジェイン・エア』（岩波文庫、上下巻）
ジーン・リース、『サルガッソーの広い海』（河出書房新社）
エミリー・ブロンテ、『嵐が丘』（岩波文庫、上下巻）
小林英里、「「中央」と「周縁」のあいだで」、『二十世紀英文学再評価』（金星堂、2003 年）
小林英里、「帝国の失われた子どもたち」、『二十一世紀の

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

ICT 活用

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 425（児童文学）						
教員名	川端　有子						
科目№	125132350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本科目では英語圏の児童文学を題材に、その歴史的背景、社会的意義、文化的位置づけを考察したうえで、今日的意義を問う。
本講義では、19 世紀の『不思議の国のアリス』から始め、20 世紀の『ナルニア国年代記』、21 世紀の『ハリー・ポッター』シリーズなどを取り上げ、児童文学の変遷と子ども観の変容、ジャンル的広がりと浸透を追う。英米文化の草の根となっている児童文学をその原点から知り、年代順に読み解くことで英語圏文学の一つの流れを考察する。

〔到達目標〕

この授業では児童文学を題材に
DP１－４　英語圏文学・文化の成り立ちを理解し、代表的作品に触れ、それらについて専門的見地から分析し理解することができる
DP２－３　階級・人種・ジェンダー・精神分析といった領域横断的な批評理論の基本的知識を身につけることで、複数のコンテクストを踏まえて思考・判断を行うことができる
ことを目指す。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンスと英米児童文学の前史	予習　シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習　配布プリントを読み直し、児童文学とは何かを理解する。	30 30
第２回	『不思議の国のアリス』を読み解く イギリスの古典ファンタジー	予習　『アリス』のあらすじを押さえておく 復習　『アリス』を授業内容に即して読み返す	30 30
第３回	『若草物語』を読み解く アメリカの古典リアリズム(少女編)	予習　『若草物語』のあらすじを押さえておく 復習　『若草物語』を授業内容に即して読み返す	30 30
第４回	『トム・ソーヤの冒険』を読み解く アメリカの古典リアリズム(少年編)	予習　『トム・ソーヤ』のあらすじを押さえておく 復習　『トム・ソーヤ』を授業内容に即して読み返す	30 30
第５回	『ピーター・パン』を読み解く エドワード朝、大人と子ども・女と男	予習　『ピーター・パン』のあらすじを押さえておく 復習　『ピーターパン』を授業内容に即して読み返す	30 30
第６回	『クマのプーさん』を読み解く ぬいぐるみと父と息子	予習　『プーさん』のあらすじを押さえておく 復習　『プーさん』を授業内容に即して読み返す	30 30
第７回	『風に乗ってきたメアリー・ポピンズ』を読み解く 乳母と魔法使い	予習　『メアリーポピンズ』のあらすじを押さえておく 復習　『メアリーポピンズ』を授業内容に即して読み返す	30 30
第８回	『ライオンと魔女』を読み解く ナルニア国年代記を読む	予習　『ライオンと魔女』のあらすじを押さえておく 復習　『ライオンと魔女』を授業内容に即して読み返す	30 30
第９回	『ホビットの冒険』を読み解く 指輪物語への序章	予習『ホビット』のあらすじを押さえておく 復習　『ホビット』を授業内容に即して読み返す	30 30
第１０回	『トムは真夜中の庭で』を読み解く タイムファンタジーを知る	予習　『トムは真夜中の庭で』のあらすじを押さえておく 復習　『トムは真夜中の庭で』を授業内容に即して読み返す	30 30
第１１回	『床下の小人足たち』を読み解く 魔力を持たない小人たちの行方	予習　『床下の小人たち』のあらすじを押さえておく 復習　『床下の小人たち』を授業内容に即して読み返す	30 30
第１２回	『影との戦い』を読み解く アメリカのファンタジー「ゲド戦記」の世界	予習　『ゲド戦記』のあらすじを押さえておく 復習　『ゲド戦記』を授業内容に即して読み返す	30 30
第１３回	『ハリーポッター』シリーズを概観する	予習　『賢者の石』のあらすじを押さえておく 復習　『賢者の石』を授業内容に即して読み返す	30 30
第１４回	到達度確認テストの実施 到達度確認テストの答え合わせ	予習　１－１３回の授業を復習しポイントを把握しておく 復習　まちがったところを改め、理解を深める	60 30

〔授業の方法〕

授業はオンデマンドで行う。
各時間ごとに感想・コメント・質問等のリアクションをポータルサイトに書き込んでもらう。また課題レポートを課す。復習、予習に課した時間は目安であり、各自の速度に合わせて行うこと。
１　リアクションペーパー　毎回
２　課題レポート　指示した本を読みその内容について簡単にまとめ自分の見解を付す内容。
３　最終回に到達度確認テストを行い、終了後に答え合わせをする

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパーから見る授業参加度（３０%）　課題（３０%）　到達度確認テスト（４０%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度から評価する。
1　英語圏児童文学の成り立ちを理解し、代表的作品を専門的見地から分析し理解することができているか
2　階級・人種・ジェンダー・精神分析といった理論から思考・判断を行えているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

扱う題材は邦訳があるので少なくともそれには授業前に目を通しておく。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『英語圏の児童文学　Ⅰ　物語ジャンルと歴史　改訂版』ミネルバ書房　　購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後にメールで受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 426（英語教育）						
教員名	王　ウェイトン						
科目№	125132360	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

テーマ：第二言語習得論、学習ストラテジー、CEFR
概要：第二言語習得論に基づいた英語の学習法及び指導法に関する知識を学びます。学習ストラテジーについて基本的な考え方を理解します。外国語運用能力の指標として参照される CEFR の理念と内容を理解し、日本の英語教育での運用の在り方について考えます。

〔到達目標〕

第一・第二外国語習得論や語用論等、英語教育に必要な実践的知識や技能を修得している。(DP1-5)(DP2-1)
英語教育に関わる課題の本質を発見するために、社会調査等のデータを収集・分析することで、論理的な思考を行い適切な結論を導き出す能力を身に付けている。(DP3-4)
自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ明瞭に発信できる豊かな表現力を身に付けている。(DP4-1)
授業で他の受講生たちと協働して課題解決に取り組むことで協調性を身につけるとともに、他者との関わりのなかで自らの役割が認識できるよう

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエテーション（講義の内容、課題、評価方法、参考図書の紹介）	テキストを入手する。	90
第２回	第二言語習得理論の概要	第１回の Review sheet 第２回の予習課題	90
第３回	外国語教授法の変遷	第２回の Review sheet 第３回の予習課題	90
第４回	リスニングのプロセス、学習法、指導法	第３回の Review sheet 第４回の予習課題	90
第５回	スピーキングのプロセス、学習法、指導法	第４回の Review sheet 第５回の予習課題	90
第６回	リーディングのプロセス、学習法、指導法	第５回の Review sheet 第６回の予習課題	90
第７回	ライティングのプロセス、学習法、指導法	第６回の Review sheet 第７回の予習課題	90
第８回	文法・語彙知識習得のプロセス、学習法、指導法	第７回の Review sheet 第８回の予習課題	90
第９回	英語力の評価	第８回の Review sheet 第９回の予習課題	90
第１０回	学習ストラテジー(1)：自律した学習者とは	第９回の Review sheet 第１０回の予習課題	90
第１１回	学習ストラテジー(2)：ストラテジー指導と教材	第１０回の Review sheet 第１１回の予習課題	90
第１２回	CEFR の理念と運用	第１１回の Review sheet 第１２回の予習課題	90
第１３回	学期末総合振り返りテスト	学期末総合振り返りテストの準備をする。	90
第１４回	学期末総合振り返りテストの返却と解説。	学期末総合振り返りテストの答えを確認する。	90

〔授業の方法〕

授業内容は、講義及び演習形式を組み合わせる。
毎回の事前課題に取組み、授業中ではグループ発表を行い、全体でディスカッションを行う。

〔成績評価の方法〕

総合評価（Review sheet 提出状況：40%、授業における取組状況：30%、学期末総合振り返りテスト：30%）

〔成績評価の基準〕

Review sheet・学期末総合振り返りテストでは、授業内容の理解度に基づいて評価する。
授業における取組状況では、授業での貢献度を評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕

Marianne Celce-Murcia, Donna M. Brinton, and Marguerite Ann Snow. (2014). "Teaching English As a Second or Foreign Language (4th Ed.)" Oxford University Press.

〔参考書〕

Brown, H.D. (2014). ″Principles of Language Learning and Teaching.″ Pearson Education.
Lightbown, Patsy and Nina Spade. (2022). ″How Languages are Learned.″ Oxford University Press.
英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック（大学英語教育学会学習ストラテジー研究会）
中学校学習指導要領解説　外国語編（平成 29 年 7 月

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術・文学入門 230
教員名	庄司　宏子

科目№	125133100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

英語圏芸術・文学フォーカスへの入門
英語圏芸術・文学、特にアメリカ社会、歴史、文化、小説、アートなど多様なトピックを取り上げ、それをどのように分析するか、その方法を学びます。現代を映し出すキーワードや現象を取り上げ、アメリカ社会や文化を分析し考察する方法を身につけてもらうことを目標とします。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP1（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）を実現するため、次の３点を到達目標とする。
・アメリカ社会で起こった出来事や文化的現象の重要なトピックについて知識を獲得し、自分の言葉で語ることができるようになる。
・歴史的事件や文化的現象はそれをどのように記憶し、記録するかという問題と密接に関わる。両者の関係を理解し、説明できるようになる。
・自分が関心をもつ事件や現象についてリサーチして分析できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の内容と方法について説明します。	シラバスを読み、授業の内容を把握してください。現代アメリカに関するニュースや情報を集め、自身の関心を育んでください。	30 分
第２回	現代アメリカ社会（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第３回	現代アメリカ社会（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第４回	現代アメリカ社会（3）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第５回	アメリカの歴史とその記憶（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第６回	アメリカの歴史とその記憶（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第７回	アメリカの歴史とその記憶（3）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第８回	アメリカの文学（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第９回	アメリカの文学（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第１０回	アメリカの文学（3）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第１１回	アメリカのアート（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第１２回	アメリカのアート（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第１３回	アメリカのアート（3）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第１４回	授業内テスト	後期の授業で学んだことを振り返り、授業内テストに備えてください。	100 分

〔授業の方法〕

講義形式。授業では時折 CoursePower から Forms によるクイズを行いますので受講者は PC を持参してください。

〔成績評価の方法〕

平常点で成績評価を行います。平常点として、授業での時折のクイズ（20%）、授業内テスト（30%）、学期末の課題レポート（3,000 字程度で CoursePower から提出、50%）から総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
アメリカ文学史

〔テキスト〕

テクストなど用いる教材は印刷して配布するか、もしくは PDF ファイルを CoursePower を通じて配布します。

〔参考書〕

参考文献は適宜授業で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

教員メールアドレスは CoursePower で連絡します。

〔特記事項〕

特にありません。

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカ文学史 331						
教員名	庄司　宏子						
科目No.	125133210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

アメリカ合衆国はどのような文学を生み出してきたのか。15 世紀の大航海時代ヨーロッパで想像された新世界〈アメリカ〉のイメージ、17 世紀初頭から 1776 年までのイギリス植民地時代、18 世紀末の独立戦争とアメリカ合衆国の建国期、19 世紀初頭から半ばの領土拡張時代（アンテベラム期）、1860 年代の南北戦争期まで、再建期から 20 世紀半ば、20 世紀後半から現代に至るまでのアメリカ文学史の流れを歴史と文化と関連させながら辿ります。ある国がどのような文学を生み出すかは、風土・地形・気候という自然環境的な要素、歴史・政治・経済などの社会的な要素が関わっています。授業では文学の中に刻印されたアメリカ的な理念や概念、アメリカ文学史に通底するテーマ、文学と国民国家の関わり等について講義します。また、移動、ダイアスポラ、記憶、歴史の語り直しというテーマやグローバリズムという国境を越えた人間や情報の繋がりを視野に、世界文学という視点からアメリカ文学を捉えてみたいと思います。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 6 点を到達目標とする。
・文学史とは、国民国家の歴史や文化と深く結びつきながら形成されることを理解する。
・文学に現れた時代の出来事を反映する要素、そこから生み出されるアメリカ的なテーマについて理解し知識を修得する。
・文学は、国民国家が提示する歴史や文化とは別の視点を提示しうる優れて批評的なメディアであることを理解する。
・アメリカ文学に触れながら、文学を歴史・社会・政治・文化と関連させながら読み解き、時代や社会をみる批評意

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：大航海時代、新大陸はどのようにイメージされたか――Jan van der Straet の絵にみる「ヨーロッパ」と「アメリカ」の出会いについて	シラバスを読み、アメリカ文学史 I の授業で何を学ぶのか、自分は何に関心があり何を学びたいのか、考えてください。グローバリズムは 15 世紀に始まる大航海時代の到来から始まったといってよい。人、物、情報が国境を越えて移動するとはどういうことか、そこから何が生まれるか考えてみましょう。	30 分
第２回	植民地時代のアメリカ(1)：William Bradford, Of Plymouth Plantation を中心に	大西洋の荒波を超えて新大陸アメリカにやって来たピューリタンたちの目の前に現れた風景はどのようなものだったのか、彼らはそれをどのように表現したのか想像してみましょう。その風景が現代のアメリカ人の原風景を形作っています。	60 分
第３回	植民地時代のアメリカ(2)：Captivity Narrative と Native Americans の表象, Mary Rowlandson, A Narrative of the Captivity and Restoration of Mrs. Mary Rowlandson を中心に	植民地時代のアメリカにおいて入植者と先住民インディアン部族との間でしばしば抗争が起こります。その一つが 1675 年に起こる King Philip's War です。戦いのなかで捕虜となった女性が記した体験記からインディアンはどのように描かれているか当時のピューリタン社会はどのようなものだったか、考えてみましょう。	60 分
第４回	植民地時代のアメリカ(3)：ピューリタニズムとセイレム魔女事件	1692 年にマサチューセッツのセイレムで起こった魔女事件はアメリカ史上最も悲惨な事件であり、さまざまな文学のインスピレーションを与えています。こうした事件が起こる背景について考えてみましょう。この事件の終息のあと、時代は近代の幕開けを迎えます。	60 分
第５回	建国期のアメリカ(1)アメリカとは何か―Crevecoeur, Letters from an American Farmer と Thomas Jefferson の"The Declaration of Independence"と Notes on the State of Virginia を中心に	17 世紀初頭に始まって約 200 年の植民地時代を経てアメリカはイギリスとの独立戦争の後、1783 年に独立を遂げます。Thomas Jefferson が中心になって起草された独立宣言文書や Notes on the State of Virginia からアメリカの精神・理念を辿ってみましょう。また建国初期に書かれたアメリカ人論も読みます。	60 分
第６回	建国期のアメリカ (2) Charles Brockden Brown と Washington Irving の文学	Charles Brockden Brown や Washington Irving がどのような小説を書いたのか、調べてみましょう。	60 分
第７回	西漸運動と Manifest Destiny：James Fenimore Cooper, The Last of the Mohicans と Alexis de Tocqueville, Democracy in America	アメリカの荒野を描くロマティシズムの文学 James Fenimore Cooper の The Last of the Mohicans について調べてみましょう。また 18 世紀末に独立し、19 世紀半ばにかけて大西洋と太平洋にまたがる大陸国家となっていくアメリカの領土拡大について調べてみましょう。	50 分
第８回	アメリカ・ルネサンスの文学(1)：トランセンデンタリズム―Ralph Waldo Emerson, Henry David Thoreau, Margaret Fuller	独立してから約半世紀を経てアメリカは初めて国民文学といえる作品を生み出すようになります。その中核となるのが Transcendentalism（超越主義）です。どのような思潮の運動か考えてみましょう。	60 分
第９回	アメリカ・ルネサンスの文学(2)：Edgar Allan Poe	Edgar Allan Poe の作品は恐怖に満ちたグロテスクなもの、軽妙なもの、理性的なもの、海洋冒険譚とさまざまあります。翻訳でよいので、何かひとつ Poe の短篇を読んでみましょう。	60 分
第１０回	アメリカ・ルネサンスの文学(3)：Nathaniel Hawthorne と Herman Melville	アメリカ文学史上最高傑作といってよい Nathaniel Hawthorne の The Scarlet Letter（『緋文字』）と Herman Melville の Moby-Dick（『白鯨』）を抜粋で読みます。どのような内容の作品か、調べてください。考えます。この作品の内容について調べてください。	60 分
第１１回	奴隷解放運動と奴隷体験記：Harriet Beecher Stowe, Uncle Tom's Cabin と Frederick Douglass, Narrative of the Life of Frederick Douglass	19 世紀半ばのアメリカは、後にアメリカ・ルネサンスと呼ばれる独自の文学潮流を生み出す一方で、奴隷制度をめぐり北部の自由州と南部の奴隷州の対立が激化する時代でした。そのなかで奴隷制廃止を訴える文学が生まれます。Stowe, Uncle Tom's Cabin（『アンクル・トムの小屋』）と Douglass の Narrative of the Life of Frederick Douglass（『数奇なる奴隷の半生』）から当時の社会を考えます。この作品の内	60 分

		容について調べてください。	
第１２回	再建時代から 20 世紀半ばのアメリカ文学：Nella Larsen, Langston Hughes, Richard Wright, F. Scott Fitzgerald, William Faulkner などの文学	Nella Larsen の Passing は 1920 年代に数多く描かれる「人種の境界を越える（passing)」というテーマを描いた文学の代表作です。passing というテーマと時代との関わり、21 世紀における passing の概念について考えます。併せて Hughes, Wright, Faulkner の文学も概説します。	60 分
第１３回	20 世紀後半から現代のアメリカ文学：Toni Morrison, Colson Whitehead を中心に	現代アメリカ文学を代表する Morrison および Morrison の次の世代のアフリカ系アメリカ人文学の代表者 Whitehead の文学について概説します。	60 分
第１４回	授業内テスト	この授業で配布した handout から、作家や作品、作品に現れる重要なテーマと時代との関係などを振り返り、授業内テストに備えてください。	100 分

〔授業の方法〕

講義形式。授業内容の理解の確認するため時折クイズを実施します。クイズは CoursePower から Forms で行いますので、毎回の授業に PC を持参してください。期末レポートは授業内容に添いながら受講生の個々の関心に対応し、思考する力を育むことができるようなテーマにします。

〔成績評価の方法〕

平常点で成績評価を行います。平常点とは、クイズ（CoursePower から数回実施)、14 回目に実施する授業内テスト、学期末に CoursePower から提出してもらうレポートです。レポートの課題は授業で提示します。
(1) クイズ･･･20%
(2) 授業内テスト･･･30%
(3) 学期末レポート･･･50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特にありません。

〔テキスト〕

教科書は使用しません。授業の handout は CoursePower から配布します。

〔参考書〕

Peter B. High, An Outline of American Literature (Pearson Japan, 1986): ISBN: 978-0582745025
Emory Elliott, ed., The Columbia Literary History of the United States (Columbia UP): ISBN: 0231058128
Emory Elliott, ed., The Columbia History of the American

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

教員メールアドレスは CoursePower から周知します。

〔特記事項〕

特にありません。

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	イギリス文学史 332						
教員名	塚田　雄一						
科目№	125133220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本科目では、イギリス文学史の基本的な知識を確認した上で、時代ごとに代表的な文学テクストをいくつか取り上げ、イギリス文学史という俯瞰的な地図の中に位置づけながら読み解く。その際に、各時代の文学テクストをさまざまな切り口（セクシュアリティ、ジェンダー、恋愛・結婚、家父長制、階級制度、病、戦争、ナショナリズム、ポストコロニアリズムなど）から分析することで、古英語時代から現代にいたるまで、文学テクストが社会、政治、人々の価値観をいかに反映し、また同時に文学テクストがいかにそれらを形作ってきたのかを考える。イギリス文学史の基本的な知識を習得するだけでなく、その基本的な知識を土台として、文学テクストを文化的および社会的な観点から読み解く方法を学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の３点を到達目標とする。
・ イギリス文学史および各時代において鍵となる作家・作品について基礎的な知識を身につけること。
・ 各時代において文学テクストが社会、政治、ジェンダー観をはじめとした人々の認識といかに関わり合っていたかを自身の力で考えることができるようになること。
・ イギリス文学史の知識を土台として、文学テクストを自身の力で分析して論じることができるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・イギリス文学史を学ぶ意義 ・「文学史」とは何か？　など	授業内容の復習	60 分
第２回	古英語時代（5 世紀～12 世紀）	教科書（第１章）の予習、授業内容の復習	60 分
第３回	中英語時代（12 世紀～15 世紀）	教科書（第２章）の予習、授業内容の復習	60 分
第４回	近代英語時代（16 世紀～17 世紀）	教科書（第３章）の予習、授業内容の復習	60 分
第５回	近代英語時代（16 世紀～17 世紀）	教科書（第４章・第５章）の予習、授業内容の復習	60 分
第６回	オーガスタン時代（18 世紀）	教科書（第６章）の予習、授業内容の復習	60 分
第７回	近代小説の誕生・発展（18 世紀）	教科書（第７章）の予習、授業内容の復習	60 分
第８回	ロマン主義の時代（18 世紀～19 世紀）	教科書（第８章・第９章）の予習、授業内容の復習	60 分
第９回	ヴィクトリア朝時代・小説（19 世紀～20 世紀）	教科書（第１０章）の予習、授業内容の復習	60 分
第１０回	ヴィクトリア朝時代・小説（19 世紀～20 世紀）	教科書（第１１章）の予習、授業内容の復習	60 分
第１１回	ヴィクトリア朝時代・詩と散文（19 世紀～20 世紀）	教科書（第１２章）の予習、授業内容の復習	60 分
第１２回	現代小説の発展（20 世紀）	教科書（第１３章）の予習、授業内容の復習	60 分
第１３回	現代小説の発展（20 世紀）	教科書（第１４章）の予習、授業内容の復習	60 分
第１４回	第２次世界大戦以降の文学	教科書（第１５章）の予習、これまでの授業内容の復習、期末レポートの執筆に向けての準備	60 分

〔授業の方法〕

本授業は講義科目である。
受講生は、各授業の前に、教科書の該当する章を読んだ上で参加する必要がある（予習必須）。
授業は、受講生がその回に扱う教科書の章を読んでいることを前提に進められる。授業では、教科書にまとめられた基礎的な知識を出発点として、教科書に掲載されていないテクストや映像資料なども用いながら、各時代の文学・文化への理解および関心を深めてもらう。
毎回、教科書および授業の内容をしっかり理解しているかを確認するための小課題（コミュニケーションペーパー）を課す。
基本的に、各

〔成績評価の方法〕

・平常点（毎回の小課題等）　６５％
・期末試験課題　３５％

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』春風社、2013 年（ISBN 9784861103728）
その他、授業で参照する箇所については必要に応じて資料を配布するが、関心のある受講生は各作品の原書・翻訳書などを手にとることをおすすめする。

〔参考書〕

参考となる文献や映像資料等は随時授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	音楽芸術研究基礎 333						
教員名	大友　彩子						
科目No.	125133230	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

This is an introduction to musicology, particularly focussing on Western music. It looks at instrumentation, genres, history, analytical tools and the complicated relationship between music, culture and society. Students taking this course do not need to have formal training in music, but simply an interest in the area and a willingness to learn.

〔到達目標〕

Students who undertake this course will learn about the history of Western music, as well as how music connects with culture in social contexts. They will learn basic music theory and how to understand and write about harmony, melody and rhythm. They will

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	What is musicology? An introduction to ways to study and consider music and culture.	Listening/analysis work	60 min
第２回	Medieval music and the church	Listening/analysis work	60 min
第３回	The Renaissance music and arts	Listening/analysis work	60 min
第４回	17th century music 1 music in protestant regions	Listening/analysis work	60 min
第５回	17th century music 2 music in catholic regions	Listening/analysis work	60 min
第６回	18th century music 1 music and politics	Listening/analysis work	60 min
第７回	18th century music 2 music and commerce	Listening/analysis work	60 min
第８回	19th century music instrumental music	Listening/analysis work	60 min
第９回	19th century music vocal music and theatre	Listening/analysis work Start planning essay	60 min
第１０回	20th century music music and modernism	Listening/analysis work Working on essay	60 min
第１１回	20th century music Jazz	Listening/analysis work Working on essay	60 min
第１２回	20th century opera and musical	Listening/analysis work Finish final essay	60 min
第１３回	20th and 21st century rock and pop music	Review for exam	60+ min
第１４回	Final Exam (listening test, essay writing)	Self-review of materials and course	Own choice

〔授業の方法〕

The class will involve listening activities, group discussion and mini lectures.

〔成績評価の方法〕

Mini-tests and in class work 30 %
Essay 40%
Final exam 30%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
There are no prerequisites for this course.

〔テキスト〕

Materials will be provided by the lecturer.

〔参考書〕

A list will be provided to students in class and via Course Power.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

Questions are accepted immediately before and after class.
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	視覚芸術研究基礎A334（映画）						
教員名	生井　英考						
科目№	125133240	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

「アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析」
　文化を研究する際の有力な手段のひとつが「ソーシャル・テクスト分析」です。森羅万象なんにでも適用できるわけではありませんが、ソーシャル・テクストとして措定できる対象であれば（正確にはソーシャル・テクストとして対象化できるものであれば）映画や文学、音楽などの表現物から出来事や事件、人物、さらには流行までふくめて、社会とコミュニケーションの相互作用を解読する分析対象とすることができます。
　この授業ではソーシャル・テクスト分析の入門編をおこないます。具体的にはアメリカ映画（劇映画・ドキュメンタリーとも）を主な素材に、履修生のみなさんで分担して作品を担当し、くわしい調査と分析を経て発表と討論をおこないます。

〔到達目標〕

ソーシャル・テクスト分析を実際にみずから実践できる視点とスキルを身に着けることを目標とします。合わせてこのクラスでは映画についての分析と議論の方法を身につけることが期待されます。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに――クラスの紹介と授業運営について。	事前にはなし	60
第２回	ソーシャル・テクスト分析概論	第１回目で配布または指示した文献や資料の該当部分をふまえて初歩的な知識を予習する。	60
第３回	ソーシャル・テクスト分析入門編その１	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第４回	ソーシャル・テクスト分析入門編その２	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第５回	ソーシャル・テクスト分析入門編その３	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第６回	履修生によるソーシャル・テクスト分析その１	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第７回	履修生によるソーシャル・テクスト分析その２	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第８回	履修生によるソーシャル・テクスト分析その３	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第９回	履修生によるソーシャル・テクスト分析その４	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第１０回	ソーシャル・テクスト分析発展編その１	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第１１回	ソーシャル・テクスト分析発展編その２	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第１２回	ソーシャル・テクスト分析発展編その３	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第１３回	ソーシャル・テクスト分析発展編その４	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第１４回	まとめ	レポート作成の準備	120

〔授業の方法〕

　最初の数回は講義および履修生との問答で概論をおこないます。次に履修生各自で個別に対象を担当し、調査と分析と発表をおこないます。その際、履修人数によってはグループ発表となる可能性があります。最後に「発展編」として、より複雑な作品の分析をおこないます。それらを通して、しっかりした鑑賞・分析・発表のスキルを身につけます。
　また授業で映画作品を鑑賞する機会も設けます。できるだけ授業時間内におさまる作品を選びますが、場合によってはお昼休みにはみ出す可能性があります。鑑賞の週は早い段階で告知しますので、遅刻は禁

〔成績評価の方法〕

毎回の授業への参加（出席）、コースパワー上でのリアペ、レポート課題などの成果を総合して評価します。授業中の発言は特に高い評価の対象となります。
　授業への貢献（参加・発表・リアペ）――50%　課題レポート――50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 （学則第 39 条） に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
開講後、適宜指示します。

〔テキスト〕

授業用にハンドアウトを用意します。

〔参考書〕

ロバート・スクラー『アメリカ映画の文化史――映画がつくったアメリカ』上下（講談社学術文庫）　上下ともあいにく版元品切れですが、初版（『映画がつくったアメリカ』として草思社から出ました）をふくめ、大学図書館や地域の図書館には多く所蔵されています。また古本でも購入する価値おおいにあり。
エリック・バーナウ『ドキュメンタリー映画史 』（筑摩書房）5000 円を越える高価な本なので購入の必要はありませんが、図書館などで指定した部分を必ず読むこと。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業の最後または終了後に受け付けます。その場で答えられるものはその場で、長くなる時は次回の冒頭で回答します。またコースパワーでの質問も受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	舞台芸術研究基礎 336						
教員名	日比野　啓						
科目№	125133260	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

《アメリカン・ミュージカル研究》以下の二つの作品の映画版・記録音源と、その舞台版脚本を検討することで、ミュージカルについての基本概念をどのように作品分析で用いるか、学んでいきます。
Show Boat (1927)
<I>Finian’s Rainbow</I> (1947)

〔到達目標〕

#1　代表的なアメリカン・ミュージカル作品二つについて、その成立の歴史、上演史、作品構造などを知る
#2　アメリカン・ミュージカルの特徴を知り、授業で扱った以外の作品を分析できるようになる
これらの目標を達成することによって、DP1/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：映画『ショウ・ボート』Show Boat（(1936 年、113 分）鑑賞	扱う作品について調べておく 翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	60
第２回	映画『ショウ・ボート』鑑賞（続き） ［テキスト精読］Show Boat, Act One, Scenes 1-2 (pp. 5-8)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する レポート（１）を作成する	100
第３回	［テキスト精読］Show Boat, Act One, Scenes 1-2 (pp. 9-25)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	80
第４回	［テキスト精読］Show Boat, Act One, Scenes 3-7 (pp. 25-43)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	80
第５回	［テキスト精読］Show Boat, Act One, Scenes 5-8 (pp. 43-61)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	80
第６回	［テキスト精読］Show Boat, Act Two, Scenes 1-3 (pp. 62-81)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	80
第７回	［テキスト精読］Show Boat Act Two, Scenes 4-9 (pp. 81-97)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する レポート（２）を作成する	120
第８回	［映画鑑賞］『フィニアンの虹』Finian’s Rainbow鑑賞（1968 年、141 分）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	80
第９回	［映画鑑賞］『フィニアンの虹』鑑賞（続き）：［テキスト精読］Finian’s Rainbow, Act One, Scene 1 (pp. 363-376)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する レポート（３）を作成する	100
第１０回	［テキスト精読］Finian’s Rainbow, Act One, Scenes 2-3 (pp. 376-387)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	80
第１１回	［テキスト精読］Finian’s Rainbow, Act One, Scene 4 (pp. 387-398)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	80
第１２回	［テキスト精読］Finian’s Rainbow, Act One, Scene 5 (pp. 398-408)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	80
第１３回	［テキスト精読］Finian’s Rainbow, Act Two, Scenes 1-2 (pp. 409-422)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	80
第１４回	［テキスト精読］Finian’s Rainbow, Act Two, Scenes 3-4 (pp. 422-434)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する レポート（４）を作成する	120

〔授業の方法〕

講義形式。
［テキスト精読］週は、Microsoft Teams の「投稿」機能を使い、該当範囲についての語学上および内容上の質問を投稿したり、他の人の質問に回答をしてください。自分の質問に自分で回答することも可能です。この質問・回答状況が成績の大半を決定します。講義では当日までに回答が得られてなかった質問に答え、また質問には挙がらなかったけれど該当箇所で重要な部分について解説を行います。

〔成績評価の方法〕

質問（2 点×1 回+6 点×11 回）：68 点
レポート（8 点×4 回）：32 点
期末試験は実施しません。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕

Maslon, Laurence, editor. American Musicals: The Complete Books and Lyrics of Eight Broadway Classics 1927 -1949. Library of America, 2014.（絶版なのでコピーを配布します）

〔参考書〕

日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社）ISBN-13 ： 978-4791772612
その他、講義で随時指示。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術と文学研究基礎 337						
教員名	日比野　啓						
科目№	125133270	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

アメリカン・ミュージカル研究入門：統合ミュージカル（integrated musicals）の最高傑作といわれる『ウエスト・サイド物語』West Side Story（1957 年舞台版初演）を題材として取り上げ、必要に応じてその映画版（1961、2021）や他のフィルム・ミュージカルを見ながら、アメリカン・ミュージカルとはどんなもので、研究対象としてどんな分析ができるのか、について講義します。1990 年代以降、音楽学、演劇学、映画学、ゲイ・スタディーズなどが相互乗り入れすることでミュージカル研究は合衆国で本格化しますが、本講義ではその最新の知見をふまえ、アメリカン・ミュージカル研究の多様な切り口を提示します。

〔到達目標〕

統合ミュージカル・アリモノ・トライアウト・白人化といったアメリカン・ミュージカルを演劇学の対象として研究するのに必要な基本概念を「身につける」＝ただ理解するのではなく、自分で使いこなせるようになる。これらの目標を達成することによって、DP2/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション (1) この講義で何を学ぶのか・『ウエスト・サイド物語』を参照項にする理由・「芝居見たまま」の意義	映画『ウエスト・サイド物語』(152 分）を見ておく。シラバスの内容に目を通す	180
第２回	レヴューと統合ミュージカル／授業内課題（１）提出	授業内課題（１）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第３回	真正性と贋物性 (1) 物語／授業内課題（２）提出	授業内課題（２）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第４回	意味と非意味 (1) ナンバー／授業内課題（３）提出	授業内課題（３）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第５回	意味と非意味 (2) ダンスミュージカル／授業内課題（４）提出	授業内課題（４）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第６回	アメリカン・ミュージカル以外の世界各地の音楽劇／授業内課題（５）提出	授業内課題（５）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	180
第７回	到達度確認テスト 1：「『ウェスト・サイド物語』見たまま」	これまで学んできたことをもとに、映画『ウエスト・サイド物語』を再度通覧し、ミュージカルでは何を「見る」か、何を「聞く」かを考える。	60
第８回	作品外のインフラストラクチャー	講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第９回	アメリカン・ミュージカル以外のアメリカ演劇／授業内課題（６）提出	授業内課題（６）提出準備。講義内容をよく復習する。	180
第１０回	セクシュアリティ：作品内、作り手、観客／授業内課題（７）提出	授業内課題（７）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第１１回	エスニシティ：作品内、作り手、観客	講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第１２回	階級：作品内、作り手、観客／授業内課題（８）提出	授業内課題（８）講義準備。授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	180
第１３回	真正性と贋物性 (2) 音楽	講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第１４回	授業外課題（２）提出	これまで学んできたことを復習し、映画『ウエスト・サイド物語』を再度通覧する。	60

〔授業の方法〕

講義形式。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的な参加（36%）：9 回実施する授業内課題の評価にもとづきます。
授業外課題（１）提出（24%）：映画『ウエスト・サイド物語』の任意の 15 分程度のシークエンスを上映し、そのシークエンスであなたが何を見たか、何を聞いたかを書いてもらいます（「見たまま」を書く要領です。「見たまま」については講義で説明します）。
授業外課題（２）提出（40%）：用語説明と記述問題です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
受講希望者は受講前にロバート・ワイズ監督の映画『ウエスト・サイド物語』（1961 年、152 分）を事前に（少なくとも）一度見ておいてください。

〔テキスト〕

テキストは使用しません。

〔参考書〕

日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社）
その他、講義で随時指示。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング
ＩＣＴ活用

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術・文学A431（インターテクスチュアリティ）						
教員名	庄司　宏子						
科目No.	125133310	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

南部からアメリカへ
アメリカ南部は南北戦争終結まで奴隷制度の上に社会が築かれ、奴隷制度廃止以後もジムクロウ体制など人種抑圧が続いた地です。同時にアメリカ南部はさらにその南に広がるカリブ海地域や南米と繋がるアメリカスないしグローバルサウスの文化圏を構成しています。本講義では奴隷制時代から現代にいたるまでの南部の現実と想像された南部について、文学やドキュメンタリー、エッセイから考察し、南部からアメリカを理解する視座を捉えてみたいと思っています。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・英語文献を読み解く力を身につける。
・社会や文化を批評的にみる力を養い、多様な価値観や世界観の存在を認識する。
・自らの視点で社会や文化的現象をさまざまな関係性において考察する力を獲得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の内容と方法について説明します。	シラバスを読み、授業の内容を把握すること。現代アメリカやアメリカ南部に関するニュースや情報を集め、自身の関心を育んでください。	30 分
第２回	South to America (1)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第３回	South to America (2)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第４回	South to America (3)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第５回	Jim Crow 時代の南部 (1)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第６回	Jim Crow 時代の南部 (2)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第７回	Edgar Allan Poe の The Narrative of Arthur Gordon Pym of Nantucket (1)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第８回	Edgar Allan Poe の The Narrative of Arthur Gordon Pym of Nantucket (2)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第９回	Edgar Allan Poe の The Narrative of Arthur Gordon Pym of Nantucket (3)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１０回	Edgar Allan Poe の The Narrative of Arthur Gordon Pym of Nantucket (4)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。	60 分
第１１回	現代のアメリカ南部―plantationocene の視点から (1)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１２回	現代のアメリカ南部―plantationocene の視点から (2)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１３回	現代のアメリカ南部―plantationocene の視点から (3)	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１４回	授業内テスト	後期の授業で学んだことを振り返り、授業内テストに備えてください。	100 分

〔授業の方法〕

講義形式。授業では時折、授業内容に関する確認のクイズを行いますので、受講者は CoursePower にアクセスできる PC を持って来てください。

〔成績評価の方法〕

平常点で成績評価を行います。平常点として、授業内で時折のクイズ(20%)、14 回目に行う授業内テスト(30%)、学期末の課題レポート(3,000 字程度で CoursePower から提出。50%）から総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
アメリカ文学史

〔テキスト〕

授業で用いるテクストは印刷して配布するか、もしくは PDF ファイルを CoursePower から配布します。

〔参考書〕

参考書は適宜授業で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

教員メールアドレスは CoursePower で連絡します。

〔特記事項〕

特にありません。

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術・文学B432（ボディ・アンド・マインド）						
教員名	塚田　雄一						
科目№	125133320	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

シェイクスピアの劇作品を通じて、「身体」について様々な観点から考察する。文化的な観点、政治的な観点、医学的な観点、ジェンダー的な観点など、劇作品に登場する「身体」について多角的に考察することで、各作品の面白さや複雑さへの理解を深める。また、シェイクスピアの劇作品に表れている「身体」に関する当時の社会通念を「身体」に関する現代の社会通念と比較しながら考えることで、「身体」という概念およびそれを構築する特定の時代や地域の社会・文化についての理解をそれぞれ深める。

本授業では、特に以下の四作品を詳しく取り上げる。
『ジュリアス・シーザー』
『リチャード三世』
『マクベス』
『ロミオとジュリエット』

各作品を扱う授業の冒頭に、その作品について「身体」にまつわる根源的な＜問い＞を一つ掲げ、それに応答する形で議論（ときには謎解き）を展開する。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の習得）、DP4（表現力・発信力）を実現するため、次の３点を到達目標とする。
・ 演劇作品の分析に必要な手法と知識を習得して、演劇作品を批評的に考察することができるようになること。
・ シェイクスピア劇の考察を通じて、過去そして現在の社会や文化について深く考えることができるようになること。
・ グローバル社会の教養であるシェイクスピア劇に親しみ、それについての基礎的な知識を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・シェイクスピア入門講座	シェイクスピア作品についての基本的な知識を予習するとともに、『ジュリアス・シーザー』の登場人物や劇の流れを把握しておく。	60 分
第２回	『ジュリアス・シーザー』第１回	授業の内容を復習するとともに、『ジュリアス・シーザー』を読む。	60 分
第３回	『ジュリアス・シーザー』第２回	授業の内容を復習するとともに、『ジュリアス・シーザー』を読む。	60 分
第４回	『ジュリアス・シーザー』第３回	授業内容を復習するとともに、『リチャード三世』の登場人物や劇の流れを把握しておく。	60 分
第５回	『リチャード三世』第１回	授業内容を復習するとともに、『リチャード三世』を読む。	60 分
第６回	『リチャード三世』第２回	授業内容を復習するとともに、『リチャード三世』を読む。	60 分
第７回	『リチャード三世』第３回	授業内容を復習するとともに、『マクベス』の登場人物や劇の流れを把握しておく。	60 分
第８回	『マクベス』第１回	授業内容を復習するとともに、『マクベス』を読む。	60 分
第９回	『マクベス』第２回	授業内容を復習するとともに、『マクベス』を読む。	60 分
第１０回	『マクベス』第３回	授業内容を復習するとともに、『ロミオとジュリエット』の登場人物や劇の流れを把握しておく。	60 分
第１１回	『ロミオとジュリエット』第１回	授業内容を復習するとともに、『ロミオとジュリエット』を読む。	60 分
第１２回	『ロミオとジュリエット』第２回	授業内容を復習するとともに、『ロミオとジュリエット』を読む。	60 分
第１３回	『ロミオとジュリエット』第３回	授業内容を復習するとともに、期末論述課題の執筆に向けて準備をする。	60 分
第１４回	まとめ ・シェイクスピア劇から考える「身体」をめぐる問題について	授業内容を復習するとともに、期末論述課題の執筆に向けて準備をする。	60 分

〔授業の方法〕

本授業は基本的には講義が中心となるが、適宜コミュニケーション・ペーパーに記載された受講生の意見や質問に応答する双方向型の講義となる。各回の授業は次の手順で進める。
１．作品の紹介

２．＜問い＞の提示
３．作品分析の実践
４．まとめ（適宜コミュニケーション・ペーパー課題を提示する）
コミュニケーション・ペーパーには、授業内で担当者が取り上げた問題や指定された事柄について自身の考えを記入する。このペーパーで授業への取り組みを評価する。コニュニケーション・ペーパーが出題された翌週の授業の

〔成績評価の方法〕

・平常点（コミュニケーションペーパー課題）　７０％
・期末論述課題　３０％

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
イギリス文学史の基本的な知識を習得していることが望ましい。

〔テキスト〕

授業で参照する箇所については随時プリントを配布するが、関心のある受講生は各作品の翻訳書を手にとることをおすすめする。

〔参考書〕

参考となる文献や映像資料等は随時授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏思想Ａ433（近代以前）						
教員名	ラルフ　バーナビー　ジェイムズ						
科目№	125133330	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

This course deals with the idea of the liberal arts and looks at different types of the arts in Western culture, especially considering literature, painting, sculpture, music, architecture and rhetoric. It is useful for giving students a deep look at the elements of culture and how they can be understood both on their own terms and in relation to each other.

〔到達目標〕

This course will give students a valuable perspective on different aspects of cultural output. They will learn analytical techniques and gain useful information on leading artists, writers and other historical figures. It will also help students gain an i

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	What is culture? What is cultural capital and how do we measure it?	Reading Bourdieu.	60 min
第２回	Painting 1: style, technique and genre	Working on handouts and pre-reading	60 min
第３回	Painting 2: understanding aesthetic choices, considering popularity, and determining "value"	Working on handouts and pre-reading	60 min
第４回	Sculpture 1: style, technique and genre	Working on handouts and pre-reading	60 min
第５回	Sculpture 2: understanding aesthetic choices, considering popularity, and determining "value"	Working on handouts and pre-reading	60 min
第６回	Rhetoric 1: The origins and structure of an oration, considering stylists from Quintilian and Cicero to Toulmin	Working on handouts and pre-reading	60 min
第７回	Rhetoric 2: Tropes, schemes and the elements of delivery, with examples from politics and the media	Working on handouts and pre-reading. Preparing an oration.	60 min
第８回	Student presentations/orations: Using rhetoric	Working on handouts and pre-reading	60 min
第９回	Music as commodity 1: Perceptions of "high culture"	Working on handouts and pre-reading	60 min
第１０回	Music as commodity 2: Perceptions of "low culture"	Working on handouts and pre-reading	60 min
第１１回	Literature as commodity: The rise of the professional writer and the contestability of literary awards	Working on handouts and pre-reading, starting essay	60 min
第１２回	The language of buildings: architecture as rhetoric	Preparation for final exam, revising essay	60 min
第１３回	Final Exam	Finish final essay	60 min
第１４回	Summary and overview of cultural studies. Final essay due	Reflecting on course content and self-revision	Self-determined

〔授業の方法〕

This class will combine solo work, group discussions and presentations and mini-lectures.

〔成績評価の方法〕

In-class work 15%
Oration 15%
Essay 40%
Exam 30%

〔成績評価の基準〕

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
None

〔テキスト〕

Materials will be provided by the lecturer

〔参考書〕

A list of reference materials will be provided via Course Power and in-class.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

Questions are accepted immediately before and after class.
Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.

〔特記事項〕

This class will be conducted only in English

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	宗教と芸術 435						
教員名	大友　彩子						
科目No.	125133350	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

This course examines different forms of the arts including visual art, architecture, music, performing arts, literature and others within the context of the history of Christianity. It emphasizes the interrelation between these different genres in relation to a religious background which has been the foundation for the construction of a social context throughout Western history.

〔到達目標〕

Students who undertake this course will learn about the history of the arts and Western culture as related to Christianity, as well as how they can be connected with each other. They will learn basic critical approaches for analyzing arts within religious

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Analyzing critically? An introduction to ways to study and consider arts in religious contexts.	revisions/analysis work	60 min
第２回	The Ancient World and the Birth of Christianity	revisions/analysis work	60 min
第３回	Early- to Mid-Medieval Religion and Culture	revisions/analysis work	60 min
第４回	Late Medieval Religion and Culture	revisions/analysis work	60 min
第５回	The Reformation The division between Catholics and Protestants	revisions/analysis work	60 min
第６回	The Renaissance Humanism and Christianity	revisions/analysis work	60 min
第７回	The late 16th and Early 17th centuries Christianity and politics 1	revisions/analysis work	60 min
第８回	The 17th century Christianity and politics 2	revisions/analysis work	60 min
第９回	The 18th century The Enlightenment and Christianity	revisions/analysis work Start planning essay	60 min
第１０回	The 19th century Europe and modernity	revisions/analysis work Working on essay	60 min
第１１回	18th- and 19th-century America	revisions/analysis work Working on essay	60 min
第１２回	19th and 20th centuries Beyond the Western World	revisions/analysis work Finish final essay	60 min
第１３回	20th and 21st century Christianity and the arts in the modern world	Review for exam	60+ min
第１４回	Final Exam (short-answer and essay questions)	Self-review of materials and course	Own choice

〔授業の方法〕

The class will involve analysis of the arts and the historical context, group discussions and mini lectures.

〔成績評価の方法〕

Mini-tests and in class work 30 %
Essay 40%
Final exam 30%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
There are no prerequisites for this course.

〔テキスト〕

Materials will be provided by the lecturer.

〔参考書〕

A list will be provided to students in class and via Course Power.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

Questions are accepted immediately before and after class.
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	批評理論 436						
教員名	日比野　啓						
科目№	125133360	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

批評理論上重要な 4 つの主題について、それぞれ 3 週間にわたり概観します。
第一部：小説の快楽
第二部：何が「リアル」か
第三部：「内容」と「形式」は一致する？
第四部：小説とその外部

〔到達目標〕

批評理論とは、小説や詩・戯曲、そして広く芸術作品を鑑賞・創作する際に知っていると役に立つ、ものの考えかた・作品のとらえかたを抽象的な言葉でまとめたものですが、その内容はきわめて具体的かつ実践的なものです。講義ではアリストレス『詩学』から 20 世紀後半の構造主義（ロラン・バルト）やポスト構造主義（ジャック・デリダ）まで広範にわたる「理論」を概観しますが、それらについての単なる知識を得ることが目的ではありません。卒業論文などで文学作品を論じる際、どのようなことを書けばよいのかということを実践的に学ぶ機会だととら

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：なぜ「文学理論」か？	予習：スティーヴン・ミルハウザー「アウグスト・エッシェンブルク」を読み始めてください。 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第２回	小説とは何か：「語り」（narration）と「描写」（description）	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。2 作者の介入／3 サスペンス／5 書簡体小説／26 描写と語り 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第３回	「語り手」「視点」の諸問題	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。6 視点／7 ミステリー／34 信用できない語り手／46 メタフィクション 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第４回	「内面」の成立	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。9 意識の流れ／10 内的独白／14 人物紹介／25 表層にとどまる 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第５回	事実（facts）と虚構（fiction）、真理（truth）、本当らしさ（reality） 第 1 回小テスト	予習：ハーマン・メルヴィル『ビリー・バッド』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。1 書き出し／8 名前／15 驚き／40 動機づけ 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第６回	理想主義（idealism）およびさまざまな反リアリズム	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。24 マジック・リアリズム／31 寓話／33 偶然／38 シュルレアリスム 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第７回	ミメーシス（mimesis）／表象（representation）とその批判	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。18 天気／22 実験小説／30 象徴性／42 言外の意味 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。 ミッドターム・ペーパーの提出準備を始めてください。	100
第８回	文体と声 第 2 回小テスト	予習：J・D・サリンジャー『キャッチャー・イン・ザ・ライ』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。4 ティーンエイジ・スカース／20 凝った文章／27 複数の声で語る／47 怪奇 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第９回	レトリックとアイロニー	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。11 異化／19 反復／23 コミック・ノベル／39 アイロニー 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１０回	時間と構造	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。36 章分け、その他／43 題名／48 物語構造／50 結末 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１１回	社会・経済 第 3 回小テスト	予習：ヘンリー・ジェイムズ、『ねじの回転』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。12 場の感覚／13 リスト／35 異国性／44 思想 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１２回	テクノロジーとメディア	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。16 時間の移動／29 未来を想像する／37 電話／41 持続感 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100

第１３回	伝統 第 4 回小テスト	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。 17 テクストの中の読者／21 間テクスト性／28 過去の感覚／45 ノンフィクション小説 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１４回	到達度確認テスト	予習：講義内容をよく復習してテストに備えてください。	100

〔授業の方法〕

講義形式。レジュメを毎回配布。

〔成績評価の方法〕

小テスト（8 点×4 回）：一つのテーマが終了した翌週に小テスト（12 分）を行います。
小テストは二つのセクションに分かれます。キーワードについて簡単な説明を求めるものと、講義のなかでもっとも印象に残った内容について記すものです。
ミッドタームペーパー：24 点
「語り」と「描写」の違い、多様な「語り手」「視点」や、様々な「内面」の描写など、それまで学んだことをもとに、「自分が今日大学に来るまでのこと」を小説にして書いてもらいます。「朝起きて家を出るまで」「家を出てから大学の門をくぐるまで」「大学の門

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。批評理論の基本概念を理解し、作品を読むにあたって適用できるかに着目して、その達成度を評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕

ロッジ、デイヴィッド。『小説の技巧』。柴田元幸・斎藤兆史訳、白水社、1997 年。ISBN-13: 978-4560046340
サリンジャー、J・D。『キャッチャー・イン・ザ・ライ』。村上春樹訳、白水社、2006 年。ISBN-13: 978-4560090008
メルヴィル、ハーマン。『ビリー・バッド』。 飯野友幸訳、光文社古典新訳文庫、2012 年。ISBN-13: 978-4334752637
ジェイムズ、ヘンリー。『ねじの回転』。小川高義訳、新潮文庫、2017 年。ISBN-13: 978-410

〔参考書〕

多数。初回授業時に詳細なリストを配布。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本文学研究の基礎						
教員名	浜田　雄介						
科目№	125211700	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

大学において日本文学を研究することの意味と、その方法を学ぶ。

〔到達目標〕

日本文学研究のさまざまな視点や方法を理解し、研究の楽しみを見出す基礎力を身につける。
「ＤＰ１－３を中心として、ＤＰ１【専門分野の知識・技能】、ＤＰ２【教養の修得】、ＤＰ３【課題の発見と解決】、ＤＰ４【表現力、発信力】」に関わる力を養うことが目標である。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを読み、講義に対するイメージを作っておく。	60
第２回	日本文学研究の歴史について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第３回	本文と書誌について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第４回	語り手と視点について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第５回	ストーリーとプロットについて	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第６回	言語と虚構性について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第７回	文体について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第８回	作者と作家について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第９回	メディアと読書行為について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第１０回	時代背景について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第１１回	批評理論について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第１２回	資料の収集について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第１３回	論文の書き方について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第１４回	反省会	半期で学んだことを振り返り、今後の研究のデザインを考える。	60

〔授業の方法〕

各テーマについての講義を中心とするが、必要に応じてディスカッションやディベートを取り入れる。またほぼ毎回、課題やリアクションメールを集め、翌週にフィードバックする。
「授業の計画・内容」に記したテーマは基本の枠組みであり、講義の展開および受講者の関心に応じて順序や時間数を変更することがある。

〔成績評価の方法〕

各回の課題およびリアクションのメールを、平均6～7%の割合で加算して総合的に評価する。
ただし、特に優れた回答などはこのパーセンテージを超えて加点することがある。
また、授業中の発言に関してもメールに準じて加点することがある。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は必要ないが、文学作品やそれをめぐる論考を普段から読んでいれば、理解が深まるであろう。

〔テキスト〕
必要に応じ講義時に配布またはコースパワーに掲示する。

〔参考書〕
講義中に随時指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
何かあればリアクションメールに書き添えてほしい。オフィスアワーはポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語研究の基礎						
教員名	岡部　嘉幸						
科目№	125211800	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

言語の研究には、言語に様々な側面があるのに対応して様々な研究分野が存在します。この授業では、音の側面から言語を扱う「音声学」「音韻論」、文字の側面から言語を扱う「文字論」、意味とそれを表す単位の側面から言語を扱う「意味論・語彙論」という側面から現代日本語の構造を理解し、日本語研究のための基礎知識を身に着けます。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）実現のために、以下の３点を到達目標とします。
①日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関する基礎知識を習得できるようになる（→DP１）
②日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関して習得した基礎知識を用いて現代日本語の構造を理解できるようになる（→DP3）
③日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関して習得した基礎知識を他者にわかりやすく、論理的に文章で説明できるようになる（→DP4）

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 音声・音韻①：音声・単音	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第２回	音声・音韻①：音声・単音（つづき） 音声・音韻②：音韻・音素	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第３回	音声・音韻③：音節・モーラ	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第４回	音声・音韻④：アクセント	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第５回	小テスト① 小テスト①解説	第 1 回～第 4 回の授業内容を復習し、理解した上で、小テストに臨む。	90
第６回	文字①：文字の性格・漢字	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第７回	文字②：文字の種類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第８回	意味・語彙①：意味・意味の体系	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第９回	意味・語彙②：意味の諸相・意味の拡張	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１０回	小テスト② 小テスト②解説	第 6 回～第 9 回の授業内容を復習し、理解した上で、小テストに臨む。	90
第１１回	意味・語彙③：語種 意味・語彙④：ことばの位相	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１２回	意味・語彙④：ことばの位相（つづき）	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１３回	授業の振り返りと補足	これまでの授業全体の内容について振り返り、理解が不足している点を明らかにしておく。	90
第１４回	授業のまとめ 授業内容の理解度の確認	第 1 回～第 12 回までの授業内容を復習し、その内容を理解しておく。	120

〔授業の方法〕

講義形式で行います。各回の授業後（ただし第 5 回、第 10 回、第 14 回は除く）に course power で小課題を出すので、指定された期限までに必ず小課題に解答してください。
また、第 5 回と第 10 回に授業内容の理解度を確認する小テストを行います。テスト範囲は、
・第 5 回小テスト：第 1 回～第 4 回の授業内容
・第 10 回小テスト：第 6 回～第 9 回の授業内容
となります。小テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む）　で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか

〔成績評価の方法〕

・小テスト（第 5 回、第 10 回）の成績 30%
・第 14 回の授業内容の確認のための授業内テストの成績 50%
・平常点（授業への参加状況や小課題の達成状況）　20%

により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
評価にあたっては、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点を重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし。毎回授業プリントを配布します。

〔参考書〕

必要に応じて、授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

・アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語法						
教員名	岡部　嘉幸						
科目№	125211850	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

「文法」とは「文」を「文」として成り立たせる規則のことです。この授業では、現代日本語の文法を、主に、日本語の文を構成する要素（素材）にはどのような性質のものがあるかという観点から概観し、普段私たちが使用している日本語という言語の特性をより深く理解することを目指します。日本語の文を構成する要素には単語と文節とがありますが、第 2 回から 12 回までは単語の種類分けである「品詞」について、第 13 回は文節の種類分けである「文の成分」のうち、特に重要な「主語」についてその基礎的事項を学習します。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）実現のために、以下の 3 点を到達目標とします。
①現代日本語の文法に関する基礎知識を習得できるようになる（→DP 1）
②現代日本語の文法に関して習得した基礎知識を用いて日本語を分析できるようになる（→DP3）
③日本語の文法に関して習得した基礎知識を他者にわかりやすく、論理的に説明できるようになる（→DP4）

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第 1 回	ガイダンス 導入：文法とは・文法上の単位	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 2 回	日本語の品詞分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 3 回	動詞・動詞の分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 4 回	形容詞・形容詞の分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 5 回	形容動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 6 回	小テスト① 小テスト①解説	第 2 回～第 5 回の授業内容を復習し、ノートにまとめておく。	90
第 7 回	名詞・副詞・連体詞・接続詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 8 回	助動詞①：助動詞とは・時間的意味に関わる助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 9 回	助動詞②：非現実的な意味に関わる助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１０回	助動詞③：主語の特別な立場を表わす助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	90
第１１回	助詞①：格助詞・副助詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１２回	助詞②：接続助詞・終助詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１３回	主語	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１４回	授業のまとめ 授業内容の理解度の確認	第 2 回～第 13 回までの授業内容について復習して、ノートにまとめておく。	90

〔授業の方法〕

講義形式で行います。各回の授業後（ただし第 6 回は除く）に course power で小課題を出すので、指定された期限までに必ず小課題に解答してください。
第 6 回に授業内容の理解度を確認する小テストを行います。テスト範囲は第 2 回～第 5 回の授業内容です。小テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。
また、第 14 回に授業内容の理解度を確認

〔成績評価の方法〕

・小テスト（第 6 回）の成績 20%
・授業内容の理解度確認のための授業内テスト（第 14 回）の成績 60%
・平常点（授業への参加状況や小課題の達成状況） 20%
により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
評価にあたっては、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点を重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし。毎回授業プリントを配布します。

〔参考書〕

必要に応じて、授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

・アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古典日本文学史Ｂ						
教員名	吉田　幹生						
科目№	125231110	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

古典日本文学の展開を、具体的な作品に即しながら講義する。今年度は、散文作品を対象とする。

〔到達目標〕

DP１（専門分野の知識・技能）を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①古典日本文学（散文作品）の展開について、その具体的な変遷過程が説明できる。
②個別の作品についても、自分の力でそれを鑑賞し、史的に位置づけることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	『古事記』と『日本書紀』	大学図書館にある概説書などを利用して、『古事記』『日本書紀』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第２回	『竹取物語』―物語文学の誕生―	大学図書館にある概説書などを利用して、『竹取物語』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第３回	『伊勢物語』―歌物語の世界―	大学図書館にある概説書などを利用して、『伊勢物語』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第４回	平安日記文学	大学図書館にある概説書などを利用して、日記文学の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第５回	『枕草子』	大学図書館にある概説書などを利用して、『枕草子』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第６回	『源氏物語』	大学図書館にある概説書などを利用して、『源氏物語』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第７回	物語文学の展開	大学図書館にある概説書などを利用して、平安後期から中世の物語文学の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第８回	説話文学の世界	大学図書館にある概説書などを利用して、説話文学の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第９回	『平家物語』―軍記物語の世界―	大学図書館にある概説書などを利用して、『平家物語』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１０回	『方丈記』と『徒然草』	大学図書館にある概説書などを利用して、『方丈記』と『徒然草』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１１回	御伽草子―中世から近世へ―	大学図書館にある概説書などを利用して、御伽草子の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１２回	井原西鶴と浮世草子	大学図書館にある概説書などを利用して、井原西鶴の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１３回	上田秋成と読本	大学図書館にある概説書などを利用して、上田秋成の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１４回	洒落本・滑稽本・人情本	大学図書館にある概説書などを利用して、洒落本・滑稽本・人情本の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60

〔授業の方法〕

講義形式による。
授業中に課す課題や、レポート課題あるいは学期末試験については、授業内容についてだけではなく、一般的な入門書や概説書に載っている内容についても理解していることが求められる。そのため、基本事項を中心に、自分自身で知識を身に着けるという習慣を身につけてほしい。

〔成績評価の方法〕

授業中に課す課題（４０％）及びレポート課題あるいは学期末試験（６０％）を中心とした総合評価。
ただし、私語は授業妨害と見なして「不合格」とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
評価にあたっては、次の点に着目し、その達成度により評価する。
①古典日本文学（散文作品）について、基本的な知識が身についているか。
②古典日本文学（散文作品）の展開について、その具体的な変遷過程が説明できるか。
③古典日本文学の具体的な作品について、自分の力でそれを解釈することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。
初心者を念頭に置いて講義をするので特別な知識は必要ないが、中学校レベルの日本史の知識や文学作品の名前は既に知っているものとして話をする。

〔テキスト〕

購入の必要なし。

〔参考書〕

初めて日本の古典文学を学ぶ人向けの入門書などはその都度紹介する。
なお、研究書などより高度な「参考書」を知りたい人は、直接質問してほしい。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学史Ｂ						
教員名	浜田　雄介						
科目№	125231130	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

主として関東大震災以降、昭和の日本文学を概説する。およそ時代の流れに沿って、それぞれの時代の人々が何を表現しようとしたのかを考えるとともに、その表現をめぐる問題意識が前後の時代にどのように展開したかをたどることで、今日の視点から文学的遺産を活性化できたらと願う。

〔到達目標〕

文学史科目であり、DP1-1、DP1-3 にあたる近現代日本文学史をめぐる基礎知識を得ることを到達目標とする。
ただし、そもそも文学史とは、それを語る視座からその都度再構築されるものであって、つまり DP3-1、DP3-2、DP3-3 にあたる能力を身につけることこそが文学史を楽しむ上で必須のものである。そして文学と文学ならざるものを分けたり関係を考えたりすることもまた必須の知的作業であり、結果的に DP2-1 にあたるセンスが身につくことも期待したい。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 文学史についての考察と明治文学史の概説	これまでの読書体験（特に近代日本の文学作品）を振り返っておく。	１０分
第２回	文壇と私小説	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第３回	大衆社会における「私」	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第４回	革命思想と文学運動	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第５回	表現の実験	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第６回	文学の制度化	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第７回	外世界との格闘	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第８回	転向と抵抗	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第９回	廃墟と大量の死者たち	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第１０回	女たちの戦後	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第１１回	日常の再発見	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第１２回	猥褻と文学	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第１３回	文学の社会性	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第１４回	授業内試験	半期の授業を振り返り、自らの問題意識を育てておく。	９０分

〔授業の方法〕

半期の講義全体としては、およそ時代順に文学史を学ぶが、設定したテーマにそって前後の時代についても考察する。個別の授業に関しては、授業時間のおよそ半分を、事前に指定した作品または資料をめぐるディスカッションとし、およそ半分を教員の講義に充てる予定である。授業が参加者全員のものである以上、この時間配分や順序、スタイルは必要に応じて変化するが、大きな変更に関してはその都度確認をとる。

〔成績評価の方法〕

授業中の発言などを 50%、最終回の授業内試験を 50%という目安で評価する。授業中に手を挙げる勇気を高く評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文学作品を読んでいればいるほど、授業を自分のものとして楽しめるであろう。
科目の性格上、あらゆる文学関連科目のほかに歴史関係の科目も参考になろう。

〔テキスト〕

資料は随時コースパワーに掲示、または配布する。

〔参考書〕

安藤宏『日本近代小説史　新装版』　中公選書 110　　1700 円＋税　　ISBN978-4-12-110110-5

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業時またはメールで受け付ける。オフィスアワーはポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語の歴史Ａ						
教員名	久保田　篤						
科目№	125232100	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

日本語が大きな変化を遂げてきたことは古典文学作品などを読むと分かりますが、時代・時期により少しずつ異なる様相を呈することも長年の研究の結果、明らかになっています。現代日本語について考える場合でも、過去の時代の日本語に関する知識が必要になることが多いので、日本語の歴史についてなるべく詳しく学んでもらいたいと思います。

授業では、日本語の歴史を古代語と近代語とに大きく二分した場合の、古代語から近代語への変化について、文法上の変化を中心に、どのような変化が生じたのか、変化はなぜ起こったと考えられるか等の点を中心に、詳しく解説します。なお、授業の進捗によって、内容や順序を一部変更する場合があります。

〔到達目標〕

ＤＰ１(専門分野の知識・技能)、３（課題の発見と解決）を実現するため、次の３点を到達目標とします。
①日本語の歴史に関する基礎的な事項を理解し、説明できる。
②古代語と近代語に関する詳細な知識を身につける。
③日本語史資料から近代語化事象に関わる用例を収集し、的確に解釈・分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の説明 古代語・近代語について ・主要近代語化概観	課題を復習する。	60
第２回	終止・連体形の合一化（１） ・連体形終止の増加	課題を復習する。	60
第３回	終止・連体形の合一化（２） ・終止形の消滅 二段活用の一段化	課題を復習する。	60
第４回	活用の種類の減少 格助詞の体系の整備（１） ・主格助詞「が」の成立①	課題を復習する。	60
第５回	格助詞の体系の整備（２） ・主格助詞「が」の成立②	課題を復習する。	60
第６回	助動詞の減少・改新（１） ・過去・完了の助動詞 ・断定の助動詞	課題を復習する。	60
第７回	助動詞の減少・改新（２） ・推量の助動詞 条件表現の変遷	課題を復習する。	60
第８回	係結びの衰退（１） ・ゾ・ナム・ヤ・カの場合	課題を復習する。	60
第９回	係結びの衰退（２） ・コソの場合	課題を復習する。	60
第１０回	形容詞カリ活用の衰退	課題を復習する。	90
第１１回	形容動詞タリ活用の衰退 待遇表現の変化（１） ・丁寧語・丁重語の成立	課題を復習する。	60
第１２回	待遇表現の変化（２） ・聞手待遇の発達 和漢の混淆	課題を復習する。	60
第１３回	話し言葉と書き言葉の乖離 近代語化諸事象の関係	課題を復習する。	120
第１４回	到達度確認課題レポートの執筆・提出	レポートの準備をする。また学修内容を確認しておく。	120

〔授業の方法〕

授業は講義を中心に進めますが、知識の確認のために、毎回課題を提示し、事項の説明をしたり用例採集を行ったりしてもらいます。

〔成績評価の方法〕

到達度確認のための課題レポート（60%）、課題への取り組みなど授業参加状況（40%）による総合評価

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①日本語の歴史に関する基礎的な事項を説明できる。
②古代語と近代語の違い、及び奈良時代の日本語に関する詳細な知識を習得している。
③日本語資料から的確な用例を採集できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語の歴史Ｂ						
教員名	久保田　篤						
科目№	125232110	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

平安時代の日本語については、一部は古典文法としてよく知られていがますが、文法以外の平安時代語の実態や、上代および中世以降の各時代の日本語に関する知識を有する人は少ないと思われます。現代語について考える場合でも、過去の時代の日本語に関する知識が必要になることが多いので、日本語の歴史について詳しく学ぶことは大事なことです。

授業では、各時代の日本語の概要・特徴を解説します。日本語史資料を見てもらったり、課題を提示して授業中に考えてもらったりして、知識を深めることも試みます。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。

〔到達目標〕

ＤＰ１（専門分野の知識・理解）、３（課題の発見と解決）を実現するため、次の３点を到達目標とします。
①日本語の歴史に関する基礎的な事項を理解し、説明できる。
②上代・中古・中世・近世の日本語に関する専門的な知識を身につける。
③日本語史資料から各時代の特徴に関わる用例を収集し、的確に解釈・分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	上代の日本語資料 ・金石文 ・上代文献資料	課題を復習する。	60
第２回	上代の文字 ・漢字用法の分類 ・万葉仮名の分類	課題を復習する。	60
第３回	奈良時代語の音韻 ・上代特殊仮名遣の甲類・乙類 ・語音法則など	課題を復習する。	60
第４回	奈良時代語の文法（１） ・活用の種類 ・ク語法 ・ミ語法	課題を復習する。	60
第５回	奈良時代語の文法（２） ・上代語特有の助動詞 奈良時代の語彙	課題を復習する。	60
第６回	平安時代語の資料 ・和文資料・訓点資料 ・古辞書	課題を復習する。	60
第７回	平安時代語の文字 ・平仮名・片仮名の成立 平安時代語の語彙 ・和文語と漢文訓読語	課題を復習する。	60
第８回	平安時代語の音韻 ・ハ行転呼音 ・音便の発生	課題を復習する。	60
第９回	院政・鎌倉時代の日本語 室町時代語の資料 ・抄物、狂言 ・外国資料	課題を復習する。	60
第１０回	室町時代語の音韻 ・各行の音 ・連声、音便	課題を復習する。	60
第１１回	室町時代語の敬語 ・丁寧語の発達 江戸時代初期の日本語	課題を復習する。	60
第１２回	江戸時代前期の日本語 ・資料 ・音韻、文字 ・語法、敬語	課題を復習する。	60
第１３回	江戸時代後期の日本語 ・資料 ・音韻、文字 ・語法、待遇表現	課題を復習する。	120
第１４回	到達度確認課題レポートの執筆・提出	レポートの準備をする。また、これまでの学修内容を確認する。	120

〔授業の方法〕

授業は講義を中心に進めますが、毎回課題を提示し、事項の説明や用例の採集等を行ってもらいます。

〔成績評価の方法〕

到達度確認課題レポート（60%）、課題への取り組みなど授業参加状況（40%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①日本語の歴史や日本語史資料に関する基礎的な事項について説明できる。
②上代・中古・中世・近世の日本語に関する専門的な知識を習得している。
③資料から用例を収集し、的確な解釈・説明ができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語学講義A						
教員名	屋名池　誠						
科目№	125232120	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

日本語の音声・音韻
　英語などの音声・音韻については外国語学習の過程で多くを学ぶにもかかわらず、われわれの母語である日本語の音声・音韻については基礎から学ぶ機会がなく、その知識はきわめて乏しい。本講義では、言語の音声・音韻を分析する方法と基礎概念を紹介しつつ、日本語の音声・音韻を概観する。身近なことばを客観的に見直すことで、われわれにとって絶対的な存在である母語も、数ある人類の言語のひとつにすぎないと相対化できる柔軟な見方を養いたい。
後期の日本語学講義Dも一連の内容なので、引き続いて履修のこと。

〔到達目標〕

1．言語の音声・音韻の一般的な性質を理論的・体系的に理解する。
2．日常の生活で遭遇する、音声・音韻をめぐる種々の問題を的確に捉え、分析し、対処するために応用できる力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	言語の諸機能	言語は何の役に立っているのかについて考えておく。	60 分
第2回	媒体としての音声	音声を用いないコミュニケーションはどのようなものになるか考えておく。	60 分
第3回	言語記号の基本的特性	教科書全体にざっと目を通しておく。	60 分
第4回	3 種の音声学、調音音声学の前提	教科書全体にざっと目を通しておく。	60 分
第5回	音声器官	教科書の音声器官のくだりを読んでおく。	60 分
第6回	音声記号	音声器官について復習しておく。	60 分
第7回	母音と子音	音声記号について復習しておく。	60 分
第8回	母音の分類、日本語の母音	教科書の母音のくだりに目を通しておく。	60 分
第9回	子音の分類	教科書の子音のくだりに目を通しておく。	60 分
第１０回	日本語の子音	授業で学んだことを、日常生活で即日検証する。	60 分
第１１回	日本語の子音（承前）	授業で学んだことを、日常生活で即日検証する。	60 分
第１２回	日本語の子音（承前）	教科書の母音・子音のくだりを読み直しておく。	60 分
第１３回	音声の同化	教科書の音声同化のくだりに目を通しておく。	60 分
第１４回	音節・モーラ	教科書の音節・モーラのくだりに目を通しておく。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式でおこなう。

〔成績評価の方法〕

定期試験ないしレポート（９０％）、平常点（１０％）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特別な知識は必要としない。
引き続いて日本語学講義Dを履修のこと。

〔テキスト〕

斎藤純男『日本語音声学入門　改訂版』(三省堂)

〔参考書〕

上野善道編『朝倉日本語講座　3　音声・音韻』（朝倉書店）
窪薗晴夫『現代言語学入門　日本語の音声』（岩波書店）
服部四郎『音声学』（岩波書店）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語学講義Ｂ						
教員名	屋名池　誠						
科目№	125232130	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

日本語の音声・音韻
　英語などの音声・音韻については外国語学習の過程で多くを学ぶにもかかわらず、われわれの母語である日本語の音声・音韻については基礎から学ぶ機会がなく、その知識はきわめて乏しい。本講義では、言語の音声・音韻を分析する方法と基礎概念を紹介しつつ、日本語の音声・音韻を概観する。身近なことばを客観的に見直すことで、われわれにとって絶対的な存在である母語も、数ある人類の言語のひとつにすぎないと相対化できる柔軟な見方を養いたい。
前期の日本語学講義Ｃから引き続いて履修のことが望ましい。

〔到達目標〕

１．言語の音声・音韻の一般的な性質を理論的・体系的に理解する。
２．日常の生活で遭遇する、音声・音韻をめぐる種々の問題を的確に捉え、分析し、対処するために応用できる力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	音韻論とは	前期のノートをよく読み返して復習しておく。	60 分
第２回	音韻論の諸原理	前回の授業内容を復習し、理解を深めておく。	60 分
第３回	音韻論の諸原理（承前）	前回までの授業内容を復習し、理解を深めておく。	60 分
第４回	音韻論の諸原理（承前）	前回までの授業内容を復習し、理解を深めておく。	60 分
第５回	弁別特徴	前回までの授業内容を復習し、理解を深めておく。	60 分
第６回	日本語の音韻体系	前期にあつかった日本語の母音・子音について復習しておく。	60 分
第７回	アクセントとは	英語のアクセントについて復習しておく。	60 分
第８回	日本語のアクセント体系	前回の授業内容を復習し、理解を深めておく。	60 分
第９回	日本語のアクセント体系（承前）	授業で学んだことを、日常生活の中で検証する。	60 分
第１０回	音韻史の方法	過去の音声・音韻はどのようにしたら知ることができるのか考えておく。	60 分
第１１回	音韻史の史料	前回の授業で学んだような方法を適用できる史料にはどのようなものがあるか考えておく。	60 分
第１２回	上代語の音韻体系	授業で学んだことを、文献史料について確認しておく。	60 分
第１３回	中世語の音韻体系	授業で学んだことを、文献史料について確認しておく。	60 分
第１４回	音韻変化	過去の音韻を知ることが、文学研究などにどう役立つのか考えておく。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式でおこなう。

〔成績評価の方法〕

定期試験ないしレポート（９０％）、平常点（１０％）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特別な知識は必要としない。
日本語学講義 C から引き続いて履修のこと。

〔テキスト〕

斎藤純男『日本語音声学入門　改訂版』(三省堂)

〔参考書〕

上野善道編『朝倉日本語講座　3　音声・音韻』（朝倉書店）
ヤーコブソン『音と意味についての六章』（みすず書房）
金田一春彦『国語アクセントの史的研究』（塙書房）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語学講義C						
教員名	山本　真吾						
科目№	125232140	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

平安鎌倉時代の日本語
　平安時代から鎌倉時代の日本語の諸問題を扱う。この時代は、古典文学の黄金時代であり、文語規範が形成される時期にあたる。高校までの古文学習を踏まえて、文献資料の性格に応じて、そこに内在する問題を取り上げ、文字・表記、音韻、文法、語彙、文体等の観点から多角的に考察する。

〔到達目標〕

DP１（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の３点を到達目標とする。
①日本語史（平安鎌倉時代の日本語）の基本的な知識を身につけ、説明できる。
②日本語史の研究方法について理解し、分析できる。
③日本語の変化のメカニズムを生活、社会、文化との関わりで理解し、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	成立ー平仮名の誕生ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	60
第２回	表裏ー『竹取物語』の補助動詞「をり」の用法ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第３回	有無ー『古今和歌集』の助動詞「なり」の表現効果ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第４回	断続ー歌物語の文連接法ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第５回	自他ー『かげろふ日記』の人物呼称ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第６回	承接ー古典助動詞の相互承接ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	60
第７回	選択ー片仮名の諸問題ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第８回	深浅ー五十音図の話ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	120
第９回	象徴ー平安時代のオノマトペー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第１０回	物の名ー「かいもちひ」の正体ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	60
第１１回	説話ー『今昔物語集』の表現世界ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第１２回	対句ー『方丈記』の文体ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第１３回	機能ー『平家物語』の音便ー	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第１４回	総括と試験	参考文献に掲げた『日本語史概説』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。	120

〔授業の方法〕

講義形式で行う。プリントを使用し、これに従って授業を進める。授業内試験を行い、次の視点から評価を行う。
①日本語史（平安鎌倉時代）についての基礎的な知識を整理して示すことができるか。
②研究の着眼点や方法について理解したところを正確に表現することができるか。
③自分の考えや感想を的確に表現することができるか。

〔成績評価の方法〕

授業内試験（70%）と平常点（30%）で評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①日本語史（平安鎌倉時代）についての基礎的な知識を整理して示すことができるか。
②研究の着眼点や方法について理解したところを正確に表現することができるか。
③自分の考えや感想を的確に表現することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

購入の必要なし。プリント配布（pdf）

〔参考書〕

『日本語学大辞典』、日本語学会編、東京堂出版、37，500 円、
『日本語史概説』、沖森卓也他、朝倉書店、2860 円
上記は、購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問・相談等は授業終了後に教室で受け付ける。メールアドレスは、講義時に教室で伝える。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文学作品をどう読むか						
教員名	多田　蔵人						
科目№	125233100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

【書物にみる日本近代文学】
日本の近代文学に描かれた「本」を取りあげることで、近代の人々がどのように「本」を読み、そこからどんな知識をくみとり、どんな物語を作り出していったのかをさぐる。
明治にはじまる近代文学は、さまざまな新しい「本」の形があらわれた時代である。この時期には、洋装の単行本、新聞、雑誌、全集などなどが、古い「和本」とともに折り重なるように存在していた。当時の人々が「本」を読むやりかたを学ぶことで、当時の文学環境について知るとともに、「本」はどう読むことができるか、考えてみたい。

〔到達目標〕

・近代における「文学」がどのように読まれたのかを知る。
・近代の書物の形態や流通方法について基礎的な知識を身につける。
・近代文学の読解方法について知る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	谷崎潤一郎『蓼喰ふ虫』――本が登場する文学	谷崎潤一郎について、大まかな伝記的事項や代表作を知る（予習）	60 分
第２回	近代本のガイダンス――森鴎外の本	森鴎外について、大まかな伝記的事項や代表作を知る（予習）	60 分
第３回	アンダー・ラインと圏点――夏目漱石『虞美人草』など	夏目漱石について、大まかな伝記的事項や代表作を知る（予習）	60 分
第４回	金文字入りの書物――夏目漱石『虞美人草』など	近代本のさまざまな形について確認する（復習）	60 分
第５回	重版と文学――高山樗牛『瀧口入道』など	「重版」という現象によって生じる事態を確認する（復習）	60 分
第６回	写真と小説――国木田独歩の文学	国木田独歩について、大まかな伝記的事項や代表作を知る（予習）	60 分
第７回	「和本」と小説――宮崎三昧の文学	江戸文学と近代文学のつながりについて確認する（復習）	60 分
第８回	「趣味」と「批評」――文学の論評方法	「趣味」と「批評」、ふたつの論評方法について知る	60 分
第９回	百版本の時代――ベストセラーの書きかた（賀川豊彦・島田清次郎など）	大正期の「ベストセラー」に描かれた書物について知る（復習）	60 分
第１０回	限定本の時代――特製本の作りかた（堀辰雄・川端康成など）	特製本・限定本の作り方について知る（復習）	60 分
第１１回	梶井基次郎『檸檬』――本を積みかさねる文学	梶井基次郎とその系譜に属する作家たちの、書物描写方法について知る（復習）	60 分
第１２回	永井荷風『来訪者』――本物とニセモノの関係	永井荷風について、大まかな伝記的事項や代表作について確認する（予習）	60 分
第１３回	戦後文学と書物――太宰治など	戦後すぐの疎開体験や検閲などの制度について知る（復習）	60 分
第１４回	島尾敏雄『死の棘』――本を奪われる男	島尾敏雄について、大まかな伝記的事項や代表作を知る（予習）	60 分

〔授業の方法〕

・毎回、特定の文学作品を取りあげて、そこに登場する「本」の形や役割について紹介する。当時の人々がそれをどのように読んだか、取りあげた作品ではどのように描かれて（読まれて）いるかを講義し、本の調べかたについても説明する。
・毎回、リアクションペーパーを配布する。
・課題レポートでは、近代文学の作品にあらわれた「書物」を自分ならどのように読むか、調べた上で書く。授業で紹介した作品でも、それ以外の作品でも可。授業で紹介した本の調べかたや読みかたを踏まえることができているか、そのうえで独自の読みかたを展開でき

〔成績評価の方法〕

期末レポート 50%、平常点（毎時の参加状況や課題の提出状況）50%。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。毎回資料を配付する。

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義A						
教員名	中嶋　真也						
科目№	125233110	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本講義のテーマは、古代文学における「無常」です。
中世以降の日本文学において一つの潮流を築く「無常」という観念は、突然に現れた考えではありません。『万葉集』や『古今和歌集』といった上代、中古の文学作品に見られる「無常」の様相を確認しながら、後代にどのように受け継がれていくのか、検証していきます。

〔到達目標〕

①DP1-1（専門分野の知識・技能）を実現するために、『万葉集』や『古今和歌集』に関する基礎知識を習得する。
②DP3-3（課題の発見と解決）を実現するために、『万葉集』の歌や平安和歌を自分の力で読み解けるようになる。
③DP1-3（専門分野の知識・技能）を実現するために、古代文学史を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	『万葉集』や『古今和歌集』に関して、本などから理解を深めましょう。	60
第２回	古典文学史の確認	1 回目の授業を復習し、人物などの理解が的確か確認しましょう。	60
第３回	『古今和歌集』における「無常」	2 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第４回	伊勢の「無常」	3 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第５回	『万葉集』における「無常」	4 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第６回	大伴家持の「無常」	5 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第７回	『万葉集』巻第 19 の様相	6 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第８回	『万葉集』における川の表現	7 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第９回	柿本人麻呂の表現世界	8 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第１０回	沙弥満誓の「無常」	9 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第１１回	『古今和歌六帖』における「無常」	10 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第１２回	源順の「無常」	11 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第１３回	古代文学の「無常」まとめ	１２回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第１４回	到達度確認テスト	到達しえていなかった箇所を学びなおしましょう。	60

〔授業の方法〕

・主に講義形式で行いますが、適宜ワークシートなど利用して、自ら思考してもらいます。
・毎回の授業のふりかえりを、授業後課題として、e－ラーニングを活用して行います。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト 70%、平常点（課題の提出状況や授業への参加状況）30%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・取り上げた古代文学作品の基礎知識を習得しているか。
・取り上げた古代文学作品の読解は正確か。
・講義内容を理解し、自分自身のことばで、的確に記述できているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
特になし。
プリントを適宜配布します。

〔参考書〕
必要に応じて、授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義B						
教員名	桜井　宏徳						
科目№	125233120	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

＊紀貫之の和歌を読む＊
平安時代を代表する歌人の一人であり、初の勅撰和歌集『古今和歌集』の編纂を主導し、その「仮名序」を執筆したほか、同じく初の日記文学である『土佐日記』を著すなど、仮名文学の事実上の創始者として、日本の文学・文化史上に大きな足跡を残した紀貫之の和歌を読んでゆく授業です。主に『古今和歌集』『貫之集』『土佐日記』の和歌を扱います。
貫之の和歌を分析・鑑賞することを通じて、その後長く古典和歌の規範となった『古今和歌集』時代の和歌のさまざまな表現と発想の特色を明らかにすることをめざします。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下の 2 点を到達目標とします。
① 紀貫之の作品を通じて、『古今和歌集』時代の和歌について理解を深める。
② 古典和歌の基礎知識を身につけ、各自で和歌を鑑賞できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／紀貫之概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第２回	歌人としての始発	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第３回	新たな和歌表現の模索	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第４回	『古今和歌集』前夜	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第５回	『古今和歌集』の春の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第６回	『古今和歌集』の秋・冬の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第７回	『古今和歌集』の恋の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第８回	『古今和歌集』の離別・羇旅・哀傷・雑の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第９回	『貫之集』の屏風歌（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１０回	『貫之集』の屏風歌（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１１回	『貫之集』の恋・雑の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１２回	『土佐日記』の船旅の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１３回	『土佐日記』の哀傷歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１４回	『貫之集』に見る晩年の歌風と辞世の歌／レポート課題提示	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60

〔授業の方法〕

講義形式で行います。毎回プリントを配布し（スクリーンに PDF ファイルも映写します）、それに沿って講義を進めます。また、必要に応じて画像・写真などの視覚資料も適宜提示します。
レポートはすべての授業回を対象とし、紀貫之や古典和歌についての基礎知識が身についているかどうかを確認する内容とします。

〔成績評価の方法〕

レポート（80%）と授業参加度（20%：リアクションペーパー等）によって評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特に予備知識は必要ありませんが、他の平安文学に関する科目とあわせて履修すると、より理解が深まります。

〔テキスト〕

特定の教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

〔参考書〕

高田祐彦 訳注『新版 古今和歌集　現代語訳付き』〈角川ソフィア文庫〉（角川学芸出版、2009 年）
木村正中 校注『土佐日記　貫之集』〈新潮日本古典集成〉（新潮社、1988 年）
いずれも購入の必要はありません。その他、授業時に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。また、メールでも受け付けます（メールアドレスは初回の授業時に公開します）。

〔特記事項〕

科目名	古代日本文学講義C						
教員名	吉野　瑞恵						
科目№	125233130	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

身分違いの恋―『狭衣物語』の場合―

『狭衣物語』は『源氏物語』の影響を強く受けた平安時代の物語である。主人公の狭衣は、光源氏と同様に天皇の血を引く上流貴族の貴公子で、すべてを備えているにもかかわらず、想いを寄せている美しいいとこ（源氏の宮）との恋は実らない。また、偶然に知り合った身分違いの女性（飛鳥井女君）との恋も悲劇に終わってしまう。この飛鳥井女君は『源氏物語』の夕顔や浮舟を連想させる登場人物であり、もとは上流貴族だったものの、両親に先立たれて没落した女性である。

この講義では、この飛鳥井女君との恋物語を中心に、『源氏物語』との関連を視野に入れつつ、「身分違いの恋」がどのように語られているのかを考えてみたい。

〔到達目標〕

① 文学作品の読解を通して、作品を深く理解する力を身に付ける。
② 『狭衣物語』の特質について考察を深める。
③ 平安時代の社会や文化に関する知識を身に付ける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。	あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。	60
第２回	『狭衣物語』概説 ・物語の概要を解説する。	『狭衣物語』についての文学史的な知識を確認し、配布資料を熟読する。	60
第３回	主人公紹介 ・主人公の狭衣が紹介される場面を読む。	『狭衣物語』についての文学史的な知識を確認し、配布資料を熟読する。	60
第４回	天稚御子降臨 ・天稚御子が狭衣の笛の演奏に感応して天から降りてくる場面を読む。	これまでの『狭衣物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第５回	狭衣の恋愛模様 ・狭衣の、源氏の宮や女二の宮に対する恋などを描いた場面を読む。	これまでの『狭衣物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第６回	飛鳥井女君との出会い ・狭衣が飛鳥井女君と初めて出会う場面を読む。	これまでの『狭衣物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第７回	飛鳥井女君の身分 ・飛鳥井女君がどのような境遇にあるのか語る場面を読む。	これまでの『狭衣物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第８回	正体を偽る狭衣 ・狭衣が蔵人少将と偽って飛鳥井女君のもとに通う場面を読む。	これまでの『狭衣物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第９回	飛鳥井女君の乳母 ・飛鳥井女君の乳母がどのような人物か語る場面を読む。	これまでの『狭衣物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第１０回	物忌と土忌 ・物忌と土忌によって狭衣と飛鳥井女君が引き裂かれる場面を読む。	これまでの『狭衣物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第１１回	飛鳥井女君、九州行きの船に乗せられる ・飛鳥井女君がだまされて九州行きの船の乗せられる場面を読む。	これまでの『狭衣物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第１２回	狭衣の従者・道成 ・狭衣の従者の道成がどのような人物か語る場面を読む。	これまでの『狭衣物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第１３回	飛鳥井女君入水を決意 ・飛鳥井女君が入水を決意する場面を読む。	これまでの『狭衣物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの授業の資料を整理し、半年の授業内容を総合的に理解する。	120

〔授業の方法〕

・ 授業は講義を中心に進める。授業中には毎回リアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。
・ 到達度テストは、授業全体の内容について理解度を確認するものである。
・ 授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの内容）40%、到達度確認テスト 60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業中に扱った作品の特徴について説明できる。
・授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

古文を読むことができる基礎的な知識。

〔テキスト〕

必要なものについては、コピーして授業中に配布する。
購入の必要はない。

〔参考書〕

『狭衣物語１～２』小学館、新編日本古典文学全集。
関連論文などは授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義D						
教員名	吉野　瑞恵						
科目№	125233140	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

『『源氏物語』の舞台となる「場」―平安京外の世界―
　『源氏物語』の大部分は平安京という都市を舞台にしている。光源氏のような上流貴族は平安京の外に出る機会は多くなく、ましてや畿内と呼ばれる現在の近畿地方を出て、遠い地に足を延ばすことはまれであった。平安時代の貴族にとって、都を出ること、畿内を出ることはどのような意味を持つのだろうか。
　この講義では、『源氏物語』の舞台になっている平安京外の場について考察する。例えば、光源氏がのちの紫の上と出会った北山、朧月夜との恋愛事件がもとで都を離れて行くことになった須磨や明石などがある。さらに光源氏の死後の物語では宇治が物語の舞台となり、物語の最後に登場する浮舟が出家生活を送るのは、比叡山の麓の小野であった。
　なぜ物語でこのような「場」が選ばれたのか、またそれぞれの「場」は、平安時代にどのようなイメージを持たれていたのか、具体的な場面を取り上げながら考察したい。

〔到達目標〕

以下の２点を到達目標とする。
①平安時代の文化や社会に関する深い知識を身に付ける。
②『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語を原文で読解し、深く理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。	あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。	60
第２回	『源氏物語』概説 ・物語の舞台に着目しながら、『源氏物語』の概略について説明する。	『源氏物語』についての文学史的な知識をあらかじめ確認し、配布資料を熟読する。	60
第３回	平安京という都 ・平安京がどのような都だったのか、その特質について考える。	歴史地図などで、平安京図をあらかじめ確認しておく。	60
第４回	紫の上との出会いー北山（若紫巻） ・紫の上と出会う北山はどのような場所だったのか。	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、若紫巻の該当箇所を熟読する。	60
第５回	夕顔の死と葬送ー東山（夕顔巻） ・夕顔の葬送と地となった東山はどのような場所だったのか。	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、夕顔巻の該当箇所を熟読する。	60
第６回	須磨流離ー須磨（須磨巻） ・光源氏が隠遁した須磨はどのような場所だったのか。	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、須磨巻の該当箇所を熟読する。	60
第７回	明石の君との運命的な出会いー明石（明石巻） ・光源氏が明石の君と出会う明石とはどのような場所だったのか。	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、若菜上巻の該当箇所を熟読する。	60
第８回	玉鬘の流離と苦難ー筑紫・肥前（玉鬘巻） ・平安時代の九州はどのような場所だったのか。	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、若菜下巻の該当箇所を熟読する。	60
第９回	奇跡の再会ー長谷寺（玉鬘巻） ・貴族の信仰を集めた長谷寺とはどのような場所だったのか。	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、柏木巻の該当箇所を熟読する。	60
第１０回	薫の癒しの場所ー宇治（橘姫巻） ・宇治十帖の舞台、宇治はどのような場所だったのか。	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、東屋巻の該当箇所を熟読する。	60
第１１回	浮舟が育った東国－常陸（宿木巻） ・貴族にとって東国はどのような場所だったのか。	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、浮舟巻の該当箇所を熟読する。	60
第１２回	武士たちの胎動ー宇治（浮舟巻） ・武士が住む宇治はどのような場所だったのか。	授業前には『夜の寝覚』の概略を確認する。授業後は、配布した資料を熟読する	60
第１３回	浮舟隠遁の地－小野（手習巻・夢浮橋巻） ・浮舟が出家して住む小野はどのような場所だったのか。	授業前には『狭衣物語』の概略を確認する。授業後は、配布した資料を熟読する	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの授業の資料を整理し、半年の授業内容を総合的に理解する。	120

〔授業の方法〕

・ 授業は講義を中心に進める。授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。
・　授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。
＊授業で扱う場面は、シラバスと異なる可能性があります。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー（４０%)、到達度確認テスト（６０%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業中に扱った作品の文学史的な位置づけについて説明できる。
・授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
『源氏物語』に関する基礎的な知識。

〔テキスト〕

以下のテキストの一部をコピーして配布します。購入の必要はありません。
阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男『源氏物語①～⑥』小学館新編日本古典文学全集。

〔参考書〕

授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義A						
教員名	清水　由美子						
科目№	125233150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

テーマは、「文学作品に見る中世の母親像」である。
　中世という時代は武士が社会の中心におどりでた時代であった。軍記文学などでそうした武士の活躍が描かれる一方、平安時代などに比べると、中世を生きた女性にスポットがあたることは少ない。しかし、貴族の時代から武士の時代への社会の変動は女性の生き方にも大きな影響を与え、さまざまな変化をもたらし、多くの文学作品にその痕跡が残されている。そこには、母性に対する称賛だけではなく、マイナスの側面も描かれ、複雑な中世の人々の心性もうかがうことができる。本講義では、中世文学の中で語られるさまざまな母親の姿を丁寧に読み解き、現代にも通底するものとして母性をとらえ直すことをめざす。

〔到達目標〕

DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の習得)、DP３（課題の発見と解決)、DP4(表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働)、DP6（自発性、積極性）を達成するため、以下の６点を到達目標とする。
1、中世文学史の中でも、母親を中心に女性が登場する作品、または女性の手による作品を読むことで、中世文学及び女流文学についての知識を広める。
2、中世女性史についての知識を深め、文学研究とジェンダー論の双方に目を配りつつ、中世における母親や女性の生き方について理解する。
3、様々な先行研究に触

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業ガイダンス　中世という時代　中世文化の時代背景	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第２回	中世女性史研究の現在　　様々な階層の女性の生き方	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第３回	女人往生をめぐる思索と母性尊重思想・母性罪業観	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第４回	『保元物語』から　子を奪われた為義北の方の悲しみ	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第５回	『平治物語』から　常盤に与えられた評価をどう考えるか。	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第６回	『平家物語』から　小宰相には母性はないか？	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第７回	『平家物語』から　大罪も赦された二位尼時子の母性	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第８回	『平家物語』から　祇王の母に愛情はあるか？	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第９回	『曽我物語』から　母と息子の絆	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第１０回	母としてのたたかい―阿仏尼の『十六夜日記』と『夜の鶴』	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第１１回	『沙石集』から　　子への愛のために畜生道に堕ちた母親	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第１２回	『発心集』から　子を仏道へと導く母と子に嫉妬する母	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第１３回	神功皇后に喩えられた北条政子の母性をどう考えるか？	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第１４回	補足・前期の総括・習熟度確認	【予習】　配布された資料を整理し、目を通して復習し、疑問点などを調べておく。	60

〔授業の方法〕

・授業は原則として講義形式で進める。受講者は事前にコースパワーにアップされた授業資料をダウンロードし、目を通したうえで、疑問点などを整理して出席すること。
・授業後は、コースパワーのレポート機能を通して、質問・意見・感想を書き込む。教員が必ず返答を書き込むので、それを確認して理解を深めること。なお、受講者のコメントの一部は、次回のレジュメに掲載して他の受講者に公開し、共有することで理解を深め、知識を広げることを目指す。
・受講者の希望や問題意識、また、進捗状況によっては内容を変更することもあり得る。

〔成績評価の方法〕

予習復習の内容や各回のレポートの内容などの平常点（50%）、習熟度確認テストの内容（50%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
特に、次の点に着目し、その達成度により評価する。
・中世文学に関して基本的な理解ができているか。
・講義の趣旨を理解し、それに対する自分の意見を持つことができているか。
・以上の点を踏まえて、自分なりの問題点を設定し、それに対する考えを論理的に提示できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義B						
教員名	清水　由美子						
科目№	125233160	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

テーマは、「日本文学における源義経〈軍記物語から歌舞伎まで〉」である。
日本の歴史上で最も有名だといっても過言でないヒーローが源義経である。治承寿永の内乱での彼の活躍を描いた『平家物語』での描かれ方が出発点ともなった彼のドラマは、膨らみ、脚色されつつ、現代の小説やテレビドラマにいたるまで、人々の間で語り継がれる存在となった。本講義では、史実として判明している彼の実像を出発点に、『平家物語』『義経記』、御伽草子といった彼が描かれる文学作品や能、歌舞伎といった演劇を追っていくことで、時代の状況を反映しつつ、次第に稀有なヒーローになっていく過程を追い、それぞれの時代が求めたヒーロー像とその背景にある時代の様相、それぞれの時代の文学の特徴などを考察することを目的とする。また、義経が描かれたそれぞれの時代の文学作品の講読を通じて古典文学作品の読解力を高めることもめざす。

〔到達目標〕

DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の習得)、DP３（課題の発見と解決)、DP4(表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働)、DP6（自発性、積極性）を達成するため、以下の６点を到達目標とする。
1、中世から現代までのそれぞれの時代での義経の語られ方を学ぶことで、各時代の文学や芸能の特徴を知る。また、源義経の描かれ方の変遷を追うことで、背後にある歴史の変遷を理解し、さらには日本の文化の特徴やその歴史に触れる。
2、古典文学に親しみ、その世界を味わう。
3、講義の中から自分なりの問題点

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	義経の生きた時代―武士の興亡と院政期の状況	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第２回	義経の祖父と父それぞれの戦い―保元の乱・平治の乱から治承寿永の内乱へ	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第３回	史実としての義経の一生	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第４回	『平家物語』での義経の活躍①　変化していく義経像	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第５回	『平家物語』での義経の活躍②　すでに始まっていたヒーロー化・鵯越の坂落の真実	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第６回	『平家物語』での義経の活躍③　義経ヒーロー化の理由をさぐる。	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第７回	義経をめぐる女性たち　常盤御前と静御前の物語	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第８回	『義経記』での義経①　貴公子義経の誕生	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第９回	『義経記』での義経②　弁慶像の成立	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第１０回	御伽草子の世界の義経①　「御曹子島渡り」を読む。	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第１１回	御伽草子の世界の義経②　「御曹子島渡り」成立の背景にあるもの。	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第１２回	謡曲・浄瑠璃・歌舞伎での義経	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60
第１３回	近代の軍国主義のもとで語られた義経	【予習】　予めコースパワーにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業の内容についての質問・意見・感想をコースパワーのレポート機能を通じてアップする。	60

第１４回	補足・総括・習熟度確認	【予習】　授業資料を整理し、あらためて詠み込んでおく。 疑問点などを洗い出し、調べておく。	60

〔授業の方法〕

授業の方法
・授業は原則として講義形式で進める。受講者は事前にコースパワーにアップされた授業資料をダウンロードし、目を通したうえで、疑問点などを整理して出席すること。
・授業後は、コースパワーのレポート機能を通して、質問・意見・感想を書き込む。教員が必ず返答を書き込むので、それを確認して理解を深めること。なお、受講者のコメントの一部は、次回のレジュメに掲載して他の受講者に公開し、共有することで理解を深め、知識を広げることを目指す。
・受講者の希望や問題意識、また、進捗状況によっては内容を変更すること

〔成績評価の方法〕

予習復習の内容や各回のレポートの内容などの平常点（30%）、適宜課すショートレポートの内容（30%）、習熟度確認試験の内容（40%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
特に以下の点を重視して評価する。
・中世文学や義経に関して基本的な理解ができているか。
・講義の趣旨を理解し、それに対する自分の意見を持つことができているか。
・以上の点を踏まえて、自分なりの問題点を設定し、それに対する考えを論理的に提示できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義C						
教員名	齋藤　真麻理						
科目№	125233170	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

室町時代から江戸時代にかけて流行し、美しい挿絵を伴って享受された室町物語（御伽草子）を対象とする。その特質をよく伝える作品を選び、国内外に伝存する絵巻や絵本、屏風等の作例を見渡しながら、多角的な視点に立って本文と挿絵を読み解く。これらの読解を通して、作品が内包する教養とその文学圏域、日本文学史上に占める室町物語の位置を検討し、室町文化の特質を考える。

〔到達目標〕

①室町物語の研究手法や現在の研究水準を把握し、室町文化の基礎知識を身につける。
②古典作品のデジタル画像の活用法を身につける。
③室町物語の作品世界とその文化的背景について、多様な観点から課題を見出し、レポートを書くことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション―室町物語の誕生―	文学史に関する書籍から、中世文学史を確認しておく。室町物語の基礎知識について配付資料を復習。	60 分
第２回	物語絵のかたち―絵巻・絵本・屏風―	絵巻や屏風など、物語が描き伝えられた「形態」に関する基礎知識、国内外で公開されているデジタル画像の検索や活用方法を学ぶ（予習・復習）	60 分
第３回	「庶民物」の祝儀と芸能―『文正草子』①―	作品の概要を確認し、興味を持ったキーワードを抜き出しておく。概要は事前に配布する。 庶民が主人公の人気作の読解。その祝言性や芸能的要素などについて、配付資料を復習。	60 分
第４回	「庶民物」の祝儀と芸能―『文正草子』②―	作品の概要を確認し、興味をもったキーワードを抜き出しておく。 室町物語における『源氏物語』受容について、配付資料を復習。	60 分
第５回	「武家物」と異境表象―『御曹子島渡り』①―	作品の概要を確認し、興味を持ったキーワードを抜き出しておく。概要は事前に配布する。 源義経の兵法獲得・悲恋譚の読解。配布資料を復習。	60 分
第６回	「武家物」と異境表象―『御曹子島渡り』②―	作品の概要を確認し、興味を持ったキーワードを抜き出しておく。 方角をめぐる諸問題や異境表現などについて、配布資料を復習。	60 分
第７回	「武家物」と異境表象―『御曹子島渡り』③―	作品の概要を確認し、興味を持ったキーワードを抜き出しておく。 中国の出版文化との関連など、作品成立の背景について配布資料を復習。	60 分
第８回	「外国物」と民間伝承―『蛤の草紙』①―	作品の概要を確認し、興味を持ったキーワードを抜き出しておく。概要は事前に配布する。 蛤姫の物語の読解。配布資料を復習。	60 分
第９回	「外国物」と民間伝承―『蛤の草紙』②―	作品の概要を確認し、興味を持ったキーワードを抜き出しておく。 蛤をめぐる説話や観音信仰などについて、配布資料を復習。	60 分
第１０回	「異類物」の機智―『十二類絵巻』①―	作品の概要を確認し、興味を持ったキーワードを抜き出しておく。概要は事前に配布する。 狸と十二支の動物たちを主人公とする歌合・合戦譚の読解。配付資料を復習。	60 分
第１１回	「異類物」の機智―『十二類絵巻』②―	作品の概要を確認し、興味を持ったキーワードを抜き出しておく。 室町時代の言語遊戯等について、配付資料を復習。	60 分
第１２回	「異類物」の機智―『十二類絵巻』③―	作品の概要を確認し、興味を持ったキーワードを抜き出しておく。 中世類題集や俳諧連歌、古辞書等と室町物語の関連性について、配付資料を復習。	60 分
第１３回	「異類物」の機智―『十二類絵巻』④―	作品の概要を確認し、興味を持ったキーワードを抜き出しておく。 先行の説話絵巻や絵画資料と室町物語との交渉、室町の表象文化について、配布資料を復習。	60 分
第１４回	まとめ	室町物語および室町文化の特質について考える。	60 分

〔授業の方法〕

・講義形式で進める。毎回、授業内容に関する質問や感想、考察などのコメントの提出を求め、次回の授業の冒頭で注目されるコメントを紹介し、説明や補足を行う。
・各作品のテクストや概要は前の回に配布する。
・国内外に所蔵される室町物語の絵巻など、デジタル公開されているカラー画像を活用する。

〔成績評価の方法〕

平常点（講義への参加状況、コメントの提出状況など）50%、課題レポート 50%により、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

プリントを配布する。

〔参考書〕

『お伽草子事典』（東京堂出版、2002 年）・『御伽草子集』（小学館、1974 年）・『室町物語草子集』（小学館、2002 年）。購入の必要なし。
そのほか、適宜、授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

ＩＣＴ活用／アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義D						
教員名	石澤　一志						
科目№	125233180	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

鴨長明の作品『無名抄』を講読する。
鴨長明といえば『方丈記』があまりに有名であるが、
本講義では、長明のもう一つの重要な作品である
『無名抄』を中心に、繙いてゆく。
鴨長明という人物とその交流圏、
長明が生きた時代相についての知識を確認しながら、
その内容を吟味する。
時代の大きな転換点と、その大きな流れの中を生きた人物の証言を基に、
当時の人々の息吹が感じられるところまで、深めたい。

〔到達目標〕

１,「鴨長明」について理解を深める
２,「鴨長明の生きた時代」についての理解を深める
３,「鴨長明が活躍した時代」と「その前後の和歌の歴史」についての理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	鴨長明とその人生とその作品	高校までの教科書・便覧などを見返してくる（予習）／講義内容の振り返り	60
第２回	『無名抄』講読（1）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第３回	『無名抄』講読（2）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第４回	『無名抄』講読（3）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第５回	『無名抄』講読（4）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第６回	『無名抄』講読（5）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第７回	『無名抄』講読（6）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第８回	『無名抄』講読（7）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第９回	『無名抄』講読（8）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第１０回	『無名抄』講読（9）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第１１回	『無名抄』講読（10）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第１２回	『無名抄』講読（11）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第１３回	『無名抄』講読（12）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第１４回	『無名抄』講読（13）　まとめ	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60

〔授業の方法〕

テキストに従って内容を吟味、講読してゆく。
内容の解釈やその作者について、
享受の様相と後代的な影響に関する知識などを織り交ぜ、考えてゆく。
適宜、その確認のための小テストを行う。
講義内容に関する、感想・レポートの提出を求めることがある。
試験・レポートについては、CoursePower　を通じて周知する。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパー（受講態度確認）50%
学期末試験・レポート 50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

高校までの、文学史関係の教科書を読み返してくること。
また、日本史に関する知識が必要となるので、中学・高校の教科書などを見返してくることが望ましい。
浅見和彦先生の講義を受けたことがある方には、内容的な連続性がある。

〔テキスト〕

『無名抄』久保田淳　訳注、角川ソフィア文庫・KADOKAWA　を使用する。必ず、購入のこと。

〔参考書〕

講義内で、適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイト（CoursePower）で周知する。
質問などは、授業終了後に教室で受け付けます。
または、メール（s20036@cc.seikei.ac.jp）で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義A						
教員名	伊與田　麻里江						
科目№	125233190	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

近世（江戸時代）の娯楽小説を読む。読本（よみほん）は、近世後期に生まれた文芸ジャンルの一つで、現代でいえば長編エンターテイメント小説にあたる。
本授業では振鷺亭（しんろてい）主人作『千代嚢姫七変化物語（ちよのうひめしちへんげものがたり）』を読み、その創作方法や創作意図を分析する。
『千代嚢姫七変化物語』は文化四年（1807）に刊行された作品でその特色は時に猟奇的な怪異性にある。物語のはじまりは美しい女性の遺体が川を流れてくる場面から。主人公の千代嚢姫はこの女性の生まれ変わった姿と設定され、前世の因果因縁によって数奇な運命をたどる。こうした因果の設定は読本ジャンルの特性の一つである。
本授業は、近世の文学作品に親しみながら、その創作方法・意図について考察し、近世文学について理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）およびDP3（課題の発見と解決）を習得するため、以下の到達目標を設定する。
①「読本」という文芸ジャンルについての知識を習得する。
②江戸時代の散文を読解する能力を身につける。
③作品創作の手法や作者の創作意識を考察する方法を知る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス （授業の概要、進め方、成績評価についての説明）	【予習】シラバスを読み、授業内容を把握する。 【復習】配付資料を見直す。	60
第２回	作品・作家についての概説 （作品読解のための基礎知識の共有）	【予習】「読本」について辞書等を使って調査する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第３回	『千代嚢姫七変化物語』巻之一①	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第４回	『千代嚢姫七変化物語』巻之一②	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第５回	『千代嚢姫七変化物語』巻之二①	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第６回	『千代嚢姫七変化物語』巻之二②	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第７回	『千代嚢姫七変化物語』巻之三①	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第８回	『千代嚢姫七変化物語』巻之三②	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第９回	『千代嚢姫七変化物語』巻之四①	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第１０回	『千代嚢姫七変化物語』巻之四②	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第１１回	『千代嚢姫七変化物語』巻之四③	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第１２回	『千代嚢姫七変化物語』巻之五①	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第１３回	『千代嚢姫七変化物語』巻之五②	【予習】配付したテキストを読み、物語内容を把握する。 【復習】配付資料を見直し、授業内容を振り返る。	60
第１４回	到達度確認テスト	【予習】テストに備え、授業全体を振り返り要点を整理する。	60～

〔授業の方法〕

講義形式で行なう。受講生は、あらかじめ配付したテキストを読んだ上で授業に参加する必要がある。
また、複数回（五回程度の予定）小テストを実施し、授業の理解度を確認する。
なお、授業の進捗状況によって、授業内容を変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

①到達度確認テスト　50%
②平常点（出席、授業姿勢、小テスト）　50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①読本という文芸ジャンルについて理解している。
②江戸時代の散文を読解する能力を身につけている。
③作品の創作手法や創作意識について説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。ただし、古典作品を読むことを中心とした授業のため、古典読解の基礎知識（文法など）があるとよい。

〔テキスト〕
授業時に配付する。

〔参考書〕
授業時に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義B						
教員名	牧　藍子						
科目№	125233200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

十七世紀後半から十八世紀初頭の元禄時代には、上方における経済のめざましい発展を背景に、現世を浮世として肯定する享楽的な町人文化が花開いた。大坂の井原西鶴が浮世草子作家として活躍したのもちょうどこの頃で、西鶴の浮世草子は、現実の世界に生きる人々の人生の諸相を巧みに描き出した小説として人気を博した。本授業では、西鶴の鋭い観察眼を通して描かれた元禄時代の社会や当時の人々の人生の諸相を、幅広い作品を取り上げながら読み解いていく。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・西鶴の浮世草子作品の背景となっている、近世の文化や社会に関する知見を広げる。
・各作品における西鶴の創作手法を分析して、その特徴を把握する。
・浮世草子の文芸性と庶民文芸としての性格について理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを読んでおく。 配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第２回	浮世草子とは	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第３回	『好色一代男』巻四ノ二「形見の水櫛」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第４回	『好色一代女』巻三ノ二「妖孽寛濶女」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第５回	『日本永代蔵』巻四ノ四「茶の十徳も一度に皆」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第６回	『世間胸算用』巻二ノ一「銀一匁の講中」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第７回	『西鶴置土産』巻三ノ三「算用して見れば一年二百貫目づかひ」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第８回	『武家義理物語』巻一ノ五「死なば同じ波枕とや」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第９回	『西鶴織留』巻四ノ一「家主殿の鼻柱」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第１０回	『本朝二十不孝』巻三ノ一「娘盛りの散り桜」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第１１回	『新可笑記』巻二ノ一「炭焼きも火宅の合点」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第１２回	『本朝桜陰比事』巻二ノ一「十夜の半弓」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第１３回	『西鶴諸国ばなし』巻五ノ四「闇がりの手形」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第１４回	『万の文反古』巻一ノ三「百三十里の所を十匁の無心」	配布資料を読み直し、理解を深める。	60

〔授業の方法〕

講義形式で行い、リアクションペーパーを提出してもらう。
また適宜小テストを行い、予習・復習ができているか確認する。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況・小テスト・リアクションペーパー等）40%、課題レポート 60%による総合評価

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・西鶴の浮世草子作品の背景となっている、近世の文化や社会に関する知見を広げられたか。
・各作品における西鶴の創作手法を分析して、その特徴を把握できたか。
・浮世草子の文芸性と庶民文芸としての性格について理解を深められたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。ただし授業内で古文を扱うので、基本的な古典文法の知識があるとよい。

〔テキスト〕
資料を配布する。

〔参考書〕
授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義C						
教員名	永田　英理						
科目№	125233210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

芭蕉にとっての「俳諧」とは（芭蕉の俳諧・俳論・俳文を読む）
この授業では、芭蕉にとっての「俳諧」について考えてゆく。
・芭蕉の発句（俳句）や連句といった詩としての「俳諧」
・芭蕉の記した「俳文（俳諧の文章）」
・弟子たちが芭蕉の教えを書きとどめた「俳論（俳諧に関する評論）」
という三つのジャンルの俳諧作品を通して、芭蕉にとっての俳諧表現とはどのようなものだったのかについて明らかにしてみたい。
なかでも芭蕉の俳論については、多くの時間を費やす予定である。
言葉によって何かを表現することの難しさ、詩として成立させるために必要な心構え、「五・七・五」という極端に限られた字数で成り立っている短詩型文学の味わい方などについて学び、ひいては、自らの言語表現に対する意識についても改めて考えてもらえるような講義にしたいと考えている。

〔到達目標〕

DP1-1・1-3、DP3-1～3 を実現するため、以下の点を到達目標とする。
・近世文学を読むうえで必要な基礎知識および、近世文化についての専門的な知識を修得する。
・短詩型文学である「俳諧」（発句・連句）を分析するうえで必要なさまざまな知識（季語のイメージや切字の機能、和歌との違い、古典を踏まえた趣向やパロディの方法など）について学び、俳諧という詩の独自性について理解する。
・一連の学習を通して、俳諧作品を読み解く力を身につける。
・自分自身の言語表現について、改めて見直すための視点を

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	芭蕉にとっての「俳諧」とは	予習：芭蕉についての知識の確認 復習：授業時の学習資料の振り返り	60
第２回	芭蕉の生き方について	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：芭蕉の人生について把握する	60
第３回	芭蕉の詠んだ春の発句	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	60
第４回	芭蕉の俳論①『去来抄』	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：俳論について把握する	60
第５回	芭蕉の俳論②『去来抄』	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：俳論の内容について把握する	60
第６回	芭蕉の俳論③『去来抄』	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	60
第７回	芭蕉の俳論④『去来抄』	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	60
第８回	芭蕉の俳文①短い作品を読む	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：俳文について把握する	60
第９回	芭蕉の俳文②芭蕉にとっての紀行文とは	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：芭蕉の考える紀行文の特徴について把握する	60
第１０回	芭蕉の俳論⑤『三冊子』	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	60
第１１回	芭蕉の俳論⑥『三冊子』	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：俳論の内容について把握する	60
第１２回	芭蕉の詠んだ夏の発句	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	60
第１３回	芭蕉の連句	レポート提出に備える	60
第１４回	まとめ 芭蕉にとっての「俳諧」とは	レポート提出に備える	120

〔授業の方法〕

毎回講義形式で行う。授業計画は受講者と相談のうえ、若干変更する可能性もある。
授業資料は毎回授業時にプリントで配布するが、授業時間前に Course Power に保存しておく。小課題の提出、期末レポート提出などは、すべて Course Power を通して行う。
受講者には、宿題としてたびたび小課題を出すので、意欲的に取り組んでもらいたい。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（40%）、何度か出す小課題（45%）、平常点（授業への参加度など　15%）
以上の総合評価による。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
小課題については、出題するテーマによって評価基準は異なるものの、主には、
論理的な分析がなされているか、面白い発想が見られるか、考察内容がよく練られたものであるか、自らの考えについて具体的に書かれているか、などの観点から評価を行う。
期末レポートについても同様だが、新たに自分

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

俳諧や芭蕉について初めて学ぶ学生のことも考慮し、基本的な解説を行ったうえで講義を進めるので、必要な予備知識などについてはとくに不要。課題に意欲的に取り組む学生の受講を歓迎する。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

新編日本古典文学全集『連歌論集・能楽論集・俳論集』（小学館）、堀切実『芭蕉たちの俳句談義』（三省堂）などがあるが、購入の必要なし。そのほかにも適宜、授業時に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

基本的にはメール（授業時およびポータルサイトで知らせる）か、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義D						
教員名	永田　英理						
科目№	125233220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

江戸文学における女性たち
この授業では、江戸時代における女性俳人による発句（俳句）作品と、小説（浮世草子・読本など）や歌舞伎作品における女性の描かれ方について学んでゆく。江戸文学における女性たちの諸相についてみてゆきたい。
文学の担い手としての女性については、代表的な女性俳人たちを取り上げて、その発句作品について分析する。江戸時代当時の女性俳人というのは、本当に一握り、というよりもさらにごくごく稀な存在であったことをふまえ、彼女たちがどのような人生を送り、どのような句を詠み出したのか眺めてみたい。
文学作品に描かれた女性たちについては、西鶴の浮世草子、秋成の読本（『雨月物語』）などを取り上げて読むことにする（紹介する程度になるため、精読は各自でしてほしい）。そのほかにも歌舞伎作品におけるヒロイン（歌舞伎は DVD で鑑賞する）や、人情本などの恋愛話にもできたら触れたいと考えている。

〔到達目標〕

DP1-1・1-3、DP3-1～3 を実現するため、以下の点を到達目標とする。
・近世文学を読むうえで必要な基礎知識および、近世文化についての専門的な知識を修得する。
・近世特有の多様な文学ジャンルがあることを理解し、それぞれのジャンルについての基本的な知識を身につける。
・短詩型文学である「俳諧」（発句・連句）を分析するうえで必要なさまざまな要素（季語のイメージ、切字の効果、和歌との違い、古典を踏まえた趣向やパロディの方法など）について学び、俳諧という詩の独自性について理解する。
・一連

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	江戸時代における女性俳人とは	予習：俳諧についての知識の確認 復習：授業時の学習資料の振り返り	60
第２回	近世文学史について、俳諧とは	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：近世文学史について把握する	60
第３回	女性俳人①捨女	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	60
第４回	女性俳人②園女・秋色	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：女性俳人について把握する	60
第５回	女性俳人③千代女	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	60
第６回	歌舞伎における赤姫	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：関連する他の作品も鑑賞してみる	120
第７回	西鶴の浮世草子における女性	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：西鶴の浮世草子について把握する	60
第８回	西鶴の浮世草子における遊女	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	60
第９回	女性俳人⑤諸九尼	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：女性俳人の句について把握する	60
第１０回	女性俳人⑥星布・菊舎尼	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	60
第１１回	秋成の『雨月物語』における女性①	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：『雨月物語』について把握する	60
第１２回	秋成の『雨月物語』における女性②	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	60
第１３回	歌舞伎の有名なヒロイン	レポート提出に備える	60
第１４回	人情本における女性 まとめ	レポート提出に備える	120

〔授業の方法〕

毎回講義形式で行う。授業計画は受講者と相談のうえ、若干変更する可能性もある。
授業資料は毎回授業時にプリントで配布するが、授業時間前に Course Power に保存しておく。小課題の提出、期末レポート提出などは、すべて Course Power を通して行う。
受講者には、宿題としてたびたび小課題を出すので、意欲的に取り組んでもらいたい。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（40%）、何度か出す小課題（45%）、平常点（授業への参加度など　15%）
以上の総合評価による。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
小課題については、出題するテーマによって評価基準は異なるものの、主には、
論理的な分析がなされているか、面白い発想が見られるか、考察内容がよく練られたものであるか、自らの考えについて具体的に書かれているか、などの観点から評価を行う。
期末レポートについても同様だが、新たに自分

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

近世文学史や俳諧などについて初めて学ぶ学生のことも考慮し、基本的な解説を行ったうえで講義を進めるので、必要な予備知識などについてはとくに不要。
課題に意欲的に取り組む学生の受講を歓迎する。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

『鑑賞　女性俳句の世界①　女性俳句の出発』（角川学芸出版）などがあるが、購入の必要なし。そのほかにも適宜、授業時に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

基本的にはメール（授業時およびポータルサイトで知らせる）か、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義A						
教員名	多田　蔵人						
科目№	125233230	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

【日本近代文学にみる「引用」】
日本近代小説のすぐれた作品を取りあつかい、「引用」がどのように機能してきたのかを歴史的に探る。近代の日本文学は、江戸以前の文章様式と、西洋からやってきた文章様式との葛藤のただなかで展開した。作家たちが執筆にあたって参考にした文書（「典拠」）を調べ、手紙や歌、歴史書、演劇などなどが「引用」されてゆく過程を探求することで、日本語文学の成立過程を具体的に知る。

〔到達目標〕

・近代文学の代表的な作家と作品について、基礎的な知識を得る。
・近代文学の執筆方法について、「引用」を軸として知識を得る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	夏目漱石『吾輩ハ猫デアル』――引用の見本帳	夏目漱石について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第２回	森鴎外『舞姫』――手紙の引用	森鴎外について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第３回	矢野龍渓『経国美談』――演説の引用	矢野龍渓について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第４回	樋口一葉『にごりえ』――歌の引用	樋口一葉について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第５回	国木田独歩の文学――文例集の引用	国木田独歩について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第６回	泉鏡花の文学――「絵」の引用	泉鏡花について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第７回	芥川龍之介『開化の殺人』――歴史資料の引用	芥川龍之介について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第８回	永井荷風『雨瀟瀟』――映画の引用	永井荷風について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第９回	谷崎潤一郎『盲目物語』――歴史物語の引用	谷崎潤一郎について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第１０回	小林秀雄『実朝』――和歌の引用	小林秀雄について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第１１回	島尾敏雄『出孤島記』――戦争文学の引用	島尾敏雄について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第１２回	大江健三郎『万延元年のフットボール』――郷土史の引用	大江健三郎について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第１３回	村上春樹『羊をめぐる冒険』――アメリカ表象の引用	村上春樹について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第１４回	現代小説における「引用」	現代小説の代表作について、引用方法を確認する（復習）	60 分

〔授業の方法〕

・毎回、特定の文学作品を取りあげて、そこに引用されたジャンルについて紹介し、作品がそれをどう引用し新しいメッセージに作りかえたのかを講義する。草稿や本の形式などにも言及し、作品の調べかたについても説明する。
・毎回、リアクションペーパーを配布する。
・課題レポートでは、近代文学作品を取りあげ、「引用」をどのように読むか、調べた上で書く。授業で紹介した作品でも、それ以外の作品でも可。授業で紹介した本の調べかたや読みかたを踏まえることができているか、そのうえで独自の読みかたを展開できているかどうかを評価す

〔成績評価の方法〕

期末レポート 50%、平常点（毎時の参加状況や課題の提出状況）50%。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。毎回資料を配付する。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義Ｂ						
教員名	小橋　孝子						
科目№	125233240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

正岡子規と夏目漱石の文学を講読する。

〔到達目標〕

DP1-1、1-3、1-4(専門分野の知識・技能)、2-1、2-2(広い視野での思考力・判断力)を実現するため、次の３点を到達目標とする。
・正岡子規と夏目漱石の文学活動について基本的な知識を身につけ、説明することが出来る。
・詩歌・評論・書簡文・随筆・小説について基本的な読解・鑑賞・分析が出来る。
・時代背景と言語表現の変遷について分析的に考察できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	授業の概要を把握する。	60
第２回	正岡子規の文学 『筆任せ』を読む	配布資料を読み、理解を深める。	60
第３回	正岡子規の詩歌	配布資料を読み、理解を深める。 正岡子規の詩歌について鑑賞文を作成する。	120
第４回	正岡子規の俳句革新	配布資料を読み、理解を深める。	60
第５回	正岡子規の短歌革新	配布資料を読み、理解を深める。	60
第６回	正岡子規の文章革新	配布資料を読み、理解を深める。	60
第７回	写生文を読む	配布資料を読み、理解を深める。 中間レポートを作成する。	120
第８回	子規漱石の往復書簡①	配布資料を読み、理解を深める。 候文の読み方を確認する。	60
第９回	子規漱石の往復書簡②	配布資料を読み、理解を深める。	60
第１０回	夏目漱石『吾輩は猫である』	配布資料を読み、理解を深める。	60
第１１回	夏目漱石『草枕』	配布資料を読み、理解を深める。	60
第１２回	夏目漱石『彼岸過迄』①	配布資料を読み、理解を深める。	60
第１３回	夏目漱石『彼岸過迄』②	配布資料を読み、理解を深める。 期末レポートの準備を行う。	120
第１４回	まとめ 期末レポート提出	半期の学修を振り返る。 期末レポートを作成する。	120

〔授業の方法〕

講義形式を基本とし、随時、小課題を課す。
その他、「写生」についての中間レポート、子規漱石文学についての期末レポートを課す。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパー・小課題を含む受講姿勢(50%)
中間レポート・期末レポート(５０%)

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
提出課題については調査考察の深度、日本語表現力を基準として評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
プリント及び電子ファイルを配布する。

〔参考書〕
授業の中で随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。
電子メールでも受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義C						
教員名	山路　敦史						
科目№	125233250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

①村上春樹『若い読者のための短編小説案内』をサブテキスト、そこで取り上げられた第三の新人の諸作品をテキストとして、講義形式で授業を進める。
②第三の新人の教科書的な理解を踏まえつつ、具体的に作品を読み解くことを通じて、作品それぞれから見出せる批評性に目を凝らす。
③小市民的で日常的な狭い範囲を描いたと批判的に捉えられることがあった第三の新人の作品を読み解くことで、私たちの〈日常〉を問い直すことを目指す。

〔到達目標〕

①第三の新人の作品を読むことを通じて、文学を分析的に読解する方法を獲得する。
②村上春樹の論を参照することを通じて、自説と他説の違いを意識し、独自性のある論述の方法を習得する。
③第三の新人について独自の評価を示すことで、自分なりの文学史を構想できるようになる。
④批評的な眼差しを獲得し、授業外での文学やそれ以外にも独自の思考が展開できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	第三の新人について	予習：シラバスを読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第２回	吉行淳之介「水の畔り」①	予習：教科書と「水の畔り」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第３回	吉行淳之介「水の畔り」②	予習：教科書と「水の畔り」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第４回	小島信夫「馬」①	予習：教科書と「馬」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第５回	小島信夫「馬」②	予習：教科書と「馬」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第６回	安岡章太郎「ガラスの靴」①	予習：教科書と「ガラスの靴」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第７回	安岡章太郎「ガラスの靴」②	予習：教科書と「ガラスの靴」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第８回	庄野潤三「静物」①	予習：教科書と「静物」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第９回	庄野潤三「静物」②	予習：教科書と「静物」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１０回	丸谷才一「樹影譚」①	予習：教科書と「樹影譚」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１１回	丸谷才一「樹影譚」②	予習：教科書と「樹影譚」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１２回	長谷川四郎「阿久正の話」①	予習：教科書と「阿久正の話」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１３回	長谷川四郎「阿久正の話」②	予習：教科書と「阿久正の話」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１４回	まとめ	予習：これまでの授業内容を自分なりにまとめておく 復習：第三の新人評価を考える	60 分

〔授業の方法〕

①第三の新人の作品一つひとつを、2 週かけて読んでいく講義形式。作品本文を精読するほか、村上春樹の論を参照し、批判的に検証する。
②毎回、リアクションペーパーを配布する。
③レポート（4,000 字以上）では、第三の新人作品を 1 つ取り上げて分析した成果を論述する。授業内容の単なる整理や暗記ではなく、受講者それぞれが村上春樹ほかの先行論と対決し、独自で説得力のある論述ができているかどうかを評価基準とする。

〔成績評価の方法〕

レポート（4,000 字以上）60%、平常点（毎時の参加状況や課題の提出状況）40%。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕

教科書：村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫、682 円、978-4167502072）
※第三の新人の諸作品については、配布する。

〔参考書〕

授業内で、適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義D						
教員名	山路　敦史						
科目№	125233260	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

坂口安吾は、いわゆる純文学という領域に留まらず、探偵小説や歴史小説、評論風のエッセイや紀行文などジャンル横断的な文学活動を行った。この授業では、こうした多彩な安吾の実践のなかからいくつかの小説と評論を取り上げ、純文学／娯楽という線引きの自明性を疑いながら、個々の作品を分析的に読み、そこに宿る批評性に目を凝らしたい。適宜、ほかの作家・作品も取り上げることで、授業内容を単純に安吾の作家性といったものに還元せずに、受講者それぞれの批評的なまなざしを汎用性あるものに育むことを目指す。

〔到達目標〕

①坂口安吾の作品を読むことを通じて、文学を分析的に読解する方法を獲得する。
②複数の作家・作品を併せて読むことを通じて、作者のオリジナリティにのみ還元できないテクスト（引用の織物）の問題を意識できるようになる。
③受講者それぞれが批評的なまなざしを獲得し、身の回りの物事の見方を増やす。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	作品とテクスト	予習：シラバスを読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第２回	〈作者〉と〈読者〉	予習：前回の配布資料を読み直しておく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第３回	「木枯の酒倉から」と国木田独歩「武蔵野」①	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第４回	「木枯の酒倉から」と国木田独歩「武蔵野」②	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第５回	「風博士」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第６回	村上春樹「象の消滅」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第７回	「ラムネ氏のこと」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第８回	「日本文化私観」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第９回	「不連続殺人事件」①	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１０回	「不連続殺人事件」②	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１１回	「アンゴウ」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１２回	「影のない犯人」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１３回	佐藤友哉「333 のテッペン」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１４回	まとめ	予習：これまでの授業内容をふりかえっておく 復習：授業で得られた成果を授業外で活用する	60 分

〔授業の方法〕

①毎回授業資料を配布して、講義形式で各回に指定した作品について講義を行う。
②毎回、リアクションペーパーを配布する。
③レポート（4,000 字以上）では、授業で取り上げた安吾作品を選び、論述する。（授業で教員が示した解釈とは異なる）独自の分析を論述すること。

〔成績評価の方法〕

レポート（4,000 字以上）60%、平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕

教科書：坂口安吾『不連続殺人事件』（新潮文庫、572 円、978-4101024035）
※教科書以外の作品については授業内で指示する。

〔参考書〕

授業内で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文学Ａ						
教員名	有光　隆司						
科目№	125234100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

前期はテキスト（『比較文学への誘い』）に従って、第一章「比較文学の原点」、第二章「文学研究の歩みと比較文学（その一）」、第三章「文学研究の歩みと比較文学（その二）」、第四章「文体分析と作品解釈」、第五章「伝記的事実と作品解釈」、第六章「短篇小説の特徴」を扱う。具体的には芥川龍之介、上田敏、尾崎紅葉等を引き合いに、比較文学の諸相について学習する。

〔到達目標〕

自国の文学、文化と異国のそれを比較検討するという方法論を学習することを通して、論理性、論証性、独創性を養い、さらには異国文学、文化の尊重、他者性に対する理解をも深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	１．比較文学の原点 1	テキスト第 1 章を読んでくること。 「比較文学」という呼称について調べてくること。 第 1 回の復習をすること。	90 分
第２回	１．比較文学の原点 2	芥川龍之介『蜘蛛の糸』を読んでくること。 第 2 回の復習をすること。	90 分
第３回	１．比較文学の原点 3	ポール・ケーラス『カルマ』、トルストイ『カルマ』、ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』について調べること。 第 3 回の復習をすること。	90 分
第４回	２．文学研究の歩みと比較文学 1	「文学」について調べること。 第 4 回の復習をすること。	90 分
第５回	２．文学研究の歩みと比較文学 290	「古典主義文学」について調べること。 第 5 回の復習をすること。	90 分
第６回	２．文学研究の歩みと比較文学 3	「ロマン主義文学」について調べること。 第 6 回の復習をすること。	90 分
第７回	３．文体研究と作品解釈 1	上田敏『海潮音』について調べること。 第 7 回の復習をすること。	90 分
第８回	３．文体研究と作品解釈 2	カール・ブッセについて調べること。 第 8 回の復習をすること。	90 分
第９回	３．文体研究と作品解釈 3	「リズム」と「韻律」について調べること。 第 9 回の復習をすること。	90 分
第１０回	４．伝記的事実と作品解釈 1	松尾芭蕉『野ざらし紀行』について調べること。 第 10 回の復習をすること。	90 分
第１１回	４．伝記的事実と作品解釈 2	幸田露伴『白芥子句考』について調べること。 第 11 回の復習をすること。	90 分
第１２回	４．伝記的事実と作品解釈 3	「伝記」について調べること。 第 12 回の復習をすること。	90 分
第１３回	５．短編小説をめぐって 1	「短篇小説」の起源について調べること。 第 13 回の復習をすること。	90 分
第１４回	５．短編小説をめぐって 2	ボッカチオ『デカメロン』について調べること。 第 14 回の復習をすること。	90 分

〔授業の方法〕

各章、原則として２回完結型形式で講義する。受講生は毎回その日の授業内容について感想、意見、質問等をリアクションペーパーに書き提出する。

〔成績評価の方法〕

毎回提出のリアクションペーパー（30%）及び学期末に 1 回課せられるレポート(70%)等により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
比較文学 B (関連科目)

〔テキスト〕
『比較文学への誘い――東西文学十六章――』（新田義之著、大学教育出版）

〔参考書〕
『講座比較文学』全８巻（芳賀徹他編、東京大学出版）（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文学Ｂ						
教員名	有光　隆司						
科目№	125234110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

後期はテキスト(『比較文学への誘い』)に従って、第七章「メールヒェンとお伽話」、第八章「お伽話から童話へ」、第九章「枠物語の系譜」、第十章「文学研究法のいろいろ〈その一〉」、第十一章「文学研究法のいろいろ〈その二〉」、第十二章「日本の説話」、第十三章「叙事詩とバラード」、第十四章「抒情的なものについて」、第十五章「悲劇的なものについて」、第十六章「比較文学から比較文化へ」を扱う。その内とくに第七章では巌谷小波とグリム、第八章では浜田広介とアンデルセン、第九章ではアラビアンナイト、第十二章ではラフカディオ・ハーンと夏目漱石、第十五章ではソフォクレスと国木田独歩について比較検討する。

〔到達目標〕

自国の文学、文化と異国のそれとを比較検討するという方法論を学習することを通して、論理性、論証性、独創性を養い、さらには異国文学、文化の尊重、他者性に対する理解をも深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	1. メールヒェンとお伽噺 1	「メールヒェン」という用語について調べてくること。 第 1 回の復習をすること。	90 分
第２回	1. メールヒェンとお伽噺 2	巌谷小波について文学事典、人名事典等で調べてくること。 第 2 回の復習をすること。	90 分
第３回	2. お伽噺から童話へ 1	浜田広介につい文学事典、人名事典等で調べてくること。 第 3 回の復習をすること。	90 分
第４回	2. お伽噺から童話へ 2	アンデルセンについて文学事典、人名事典等で調べてくること。 第 4 回の復習をすること。	90 分
第５回	3. 枠物語の系譜 1	「枠物語」という用語について調べてくること。 第 5 回の復習をすること。	90 分
第６回	3. 枠物語の系譜 2	『千夜一夜物語』の一編を読んでくること。 第 6 回の復習をすること。	90 分
第７回	4. 文学研究方法をめぐって 1	「作品論」と「作家論」のちがいについて自分なりに考えてくること。 第 7 回の復習をすること。	90 分
第８回	4. 文学研究方法をめぐって 2	「民俗学」「社会学」という用語について調べてくること。 第 8 回の復習をすること。	90 分
第９回	5. 日本の説話 1	「昔話」と「伝説」のちがいについて、自分なりに考えてくること。 第 9 回の復習をすること。	90 分
第１０回	5. 日本の説話 2	ハーン　『怪談』の一編を読んでくること。 第 10 回の復習をすること。	90 分
第１１回	6. 叙事詩とバラード	「叙事詩」という用語について調べてくること。 第 11 回の復習をすること。	90 分
第１２回	7. 抒情的なものについて	「抒情詩」という用語について調べてくること。 第 12 回の復習をすること。	90 分
第１３回	8. 悲劇的なものについて	ソポクレスについて文学事典、人名事典等で調べてくること。 第 13 回の復習をすること。	90 分
第１４回	9. 比較文学から比較文化へ	「文学」と「文化」のちがいについて、自分なりに考えてくること。 第 14 回の復習をすること。	90 分

〔授業の方法〕

原則として 2 回完結形式で講義する。受講生は毎回その日の授業内容について感想、意見、質問等をリアクションペーパーに書き提出する。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクション(30%)及び学期末に 1 回課せられるレポート(70%)等により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
比較文学 A(関連科目)

〔テキスト〕
『比較文学への誘い――東西文学十六章――』（新田義之著、大学教育出版）

〔参考書〕
『講座比較文学』全８巻（芳賀徹他編、東京大学出版）（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	漢文基礎						
教員名	山口　旬						
科目№	125234120	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

基本的な漢文をテキストに漢文訓読の基礎を語学的側面・文学的側面の両面から学ぶ。漢文訓読法の基礎を初歩から学びながら、江戸の代表的文人の著作と、それに影響を与えた中国の漢詩文を文芸作品として読解していく。江戸時代の漢詩作品を中心として取り上げる。

〔到達目標〕

漢文の基本的な訓読法を修得する。また、具体的な漢詩文の文芸としての特色と読解法を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	漢文とは何か／江戸漢詩概説	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第２回	訓読とは何か／漢詩形式入門	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第３回	漢字の読み方（1）字体／漢詩読解入門	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第４回	漢字の読み方（2）音と訓、再読文字と置き字／漢詩　近代との接点１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第５回	漢文の文型（1）主語述語目的語。／漢詩　近代との接点２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第６回	漢文の文型（2）修飾被修飾、並列。／江戸漢詩　格調派	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第７回	返り点の原則。送り仮名（１）／江戸漢詩　清新派	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第８回	送り仮名（２）／江戸漢詩の諸相　江馬細香１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第９回	漢詩特有の訓読／江戸漢詩の諸相　江馬細香２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１０回	漢詩の訓読練習（１）／江戸漢詩の諸相　菊池五山１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１１回	漢詩の訓読練習（２）／江戸漢詩の諸相　菊池五山２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１２回	漢詩の読解練習（１）／江戸漢詩の諸相　大窪詩佛１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１３回	漢詩の読解練習（２）／江戸漢詩の諸相　大窪詩佛２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１４回	漢詩形式のまとめ／江戸漢詩まとめ	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60

〔授業の方法〕

授業は講義形式で進め、毎時間前半は訓読基礎、後半は詩文入門を扱う。途中に練習・考察の時間を設ける。

〔成績評価の方法〕

毎回の小レポート４２％、レポート中間提出８％、学期末のレポート５０％の割合で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

授業資料を配布する。

〔参考書〕

『漢文訓読入門』（古田島洋介・湯城吉信、明治書院）、『江戸漢詩選 上・下』（揖斐高編訳、岩波文庫）、高等学校で使用した『国語便覧』等。購入の必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業の前後、また随時Ｅメールで受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中国文学史A						
教員名	伊藤　文生						
科目№	125234200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

《『蒙求』から中国文学史を窺う・A》
中国文学史について学修することを通じて、大学生の一般教養として、よりよく生きるために役立つような知見を広め、深める。
基本テキストとして『蒙求』を用い、一字一字について字義を確認しつつ、関連する資料に目を配り、なるべく多くの文献に触れることによって、中国文学史の一端を知る。

〔到達目標〕

友人に教えたくなるような、また、子孫に伝えたくなるような面白くかつ有意義な中国文学史上の名作や名句を一つ以上見つけて、それを簡潔的確にわかりやすく説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の進め方について説明する。 中国文学史の基礎知識について確認する。	シラバスおよび参考資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第２回	【033・034】《悲しみ泣いた思想家》 墨子悲絲、楊朱泣岐（ぼくしひし／ようしゅきゅうき）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第３回	【041・042】《賢人賓客を招く》 燕昭築台、鄭荘置駅（えんしょうちくだい／ていそうちえき）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第４回	【049・050】《弁舌に関する話》 鳴鶴日下、士龍雲間（めいかくじっか／しりゅううんかん）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第５回	【061・062】《漢初の政治》 蕭何定律、叔孫制礼（しょうかていりつ／しゅくそんせいれい）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第６回	【071・072】《詭弁》 孫楚漱石、郝隆曬書（そんそそうせき／かくりゅうさいしょ）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第７回	【167・168】《徳望》 陳平多轍、李広成蹊（ちんぺいたてつ／りこうせいけい）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第８回	【193・194】《苦学》 孫康映雪、車胤聚蛍（そんこうえいせつ／しゃいんしゅうけい）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第９回	【221・222】《事物の起原》 杜康造酒、蒼頡制字（とこうぞうしゅ／そうけつせいじ）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１０回	【249・250】《漢字の書体を作った人》 程邈隷書、史籀大篆（ていはくれいしょ／しちゅうだいてん）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１１回	【255・256】《勇気・智慧にすぐれた女士》 馮媛当熊、班女辞輦（ふうえんとうゆう／はんじょじれん）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１２回	【257・258】《勤学》 王充閲市、董生下帷（おうじゅうえつし／とうせいかい）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取

			り組むこと。
第１３回	【269・270】《忠節を守った使者》 蘇武持節、鄭衆不拝（そぶじせつ／ていしゅうふはい）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１４回	まとめとして、資料を再点検し、質問に答える。	配付資料を再確認する。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

〔授業の方法〕

『蒙求』の精読を中心として、注釈ほか関連する資料を読む。毎回、講義内容に関する質問を受け付け、次回、可能な限り講義に取り入れて回答する。

〔成績評価の方法〕

授業に対するコメント 50%、課題レポート 30%、小テスト 20%とし、授業態度を総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

高等学校卒業程度の日本語理解力と漢和辞典が使えること。
中国語に関する知識は特に求めない。

〔テキスト〕

資料プリントを配付する。

〔参考書〕

『新明解現代漢和辞典』、影山輝國ほか、三省堂、3,080 円、ISBN978-4-385-13755-1
その他は授業時に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室でも受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中国文学史B						
教員名	伊藤　文生						
科目№	125234210	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

《『蒙求』から中国文学史を窺う・B》
中国文学史について学修することを通じて、大学生の一般教養として、よりよく生きるために役立つような知見を広め、深める。
基本テキストとして『蒙求』を用い、一字一字について字義を確認しつつ、関連する資料に目を配り、なるべく多くの文献に触れることによって、中国文学史の一端を知る。

〔到達目標〕

友人に教えたくなるような、また、子孫に伝えたくなるような面白くかつ有意義な中国文学史上の名作や名句を一つ以上見つけて、それを簡潔的確にわかりやすく説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方について説明する。 『蒙求』の概要と関連する資料を確認する。	シラバスおよび参考資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第２回	【279・280】《愛する男のために健気な女》 緑珠墜楼、文君当壚（りょくじゅついろう／ぶんくんとうろ）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第３回	【293・294】《君主が礼を尽くして人材を迎える》 諸葛顧廬、韓信升壇（しょかつころ／かんしんしょうだん）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第４回	【297・298】《筆と紙の始原》 蒙恬製筆、蔡倫造紙（もうてんせいひつ／さいりんぞうし）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第５回	【301・302】《賢者を迎える方法》 周公握髪、蔡邕倒屣（しゅうこうあくはつ／さいようとうし）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第６回	【309・310】《屈原と漁父》 屈原沢畔、漁父江浜（くつげんたくはん／ぎょふこうひん）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第７回	【319・320】《左伝癖と草聖》 元凱伝癖、伯英草聖（げんがいでんぺき／はくえいそうせい）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第８回	【445・446】《速筆と遅筆》 淮南食時、左思十稔（わいなんしょくじ／さしじゅうねん）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第９回	【449・450】《補天と縮地》 女媧補天、長房縮地（じょかほてん／ちょうぼうしゅくち）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１０回	【469・470】《芸能に秀でた人》 蔡琰弁琴、王粲覆棊（さいえんべんきん／おうさんふっき）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１１回	【525・526】《風流を愛した人》 淵明把菊、真長望月（えんめいはぎく／しんちょうぼうげつ）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１２回	【569・570】《白眉と青眼》 馬良白眉、阮籍青眼（ばりょうはくび／げんせきせいがん）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取

			り組むこと。
第１３回	【577・578】《短期間での学習や詩作》 曼倩三冬、陳思七歩（まんせんさんとう／ちんししちほ）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１４回	まとめとして、資料を再点検し、質問に答える。	配付資料を再確認する。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

〔授業の方法〕

『蒙求』の精読を中心として、関連する資料を読む。毎回、講義内容に関する質問を受け付け、次回、可能な限り講義に取り入れて回答する。

〔成績評価の方法〕

授業に対するコメント 50%、課題レポート 30%、小テスト 20%とし、授業態度を総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

高等学校卒業程度の日本語理解力と漢和辞典が使えること。
中国語に関する知識は特に求めない。

〔テキスト〕

資料プリントを配付する。

〔参考書〕

『新明解現代漢和辞典』、影山輝國ほか、三省堂、3,080 円、ISBN978-4-385-13755-1
その他は授業時に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室でも受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本美術史A						
教員名	齊藤　全人						
科目№	125235120	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

日本美術の歴史を学ぶことは、日本人の芸術観のルーツを知ることにつながります。古代、中世、近世、近代、それぞれの時代に生まれた名画・名宝・名品を個別に「点」としてみるのではなく、その作品が生まれた過程、そして後の時代に与えた影響など、大きな視点で作品と作品のつながりをたどることで、点と点がつながって「線」となり日本美術をひとつの流れで理解することができるようになります。
授業では各回テーマを設けて、そのテーマに絞った日本美術の流れを講義します。つまり毎回、角度を変えながら日本美術史をたどることとなり、多角的な視点で日本美術をとらえることができるようになります。
担当者が美術館学芸員として勤務する経験を活かし、作品の図版を豊富に紹介しながら、日本美術の歴史とともに作品を見る喜びを学習してもらいます。日本美術史 A では、主に絵画を取り扱います。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野の知識・技能）、2-1（教養の修得）を実現するため、日本美術史の流れを理解し、授業で取り上げた作品について説明できるようになることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方を説明する。 ・日本美術史について、対象とする時代など、概略を説明する。	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。	30
第２回	マンガからたどる日本美術 ・日本が世界に誇るマンガ。そのマンガ表現のルーツが、日本美術の絵巻や屏風、浮世絵にあることを学ぶ。 ・日本美術が現代までつながっていることを理解する。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第３回	画面形式でたどる日本美術 ・絵巻、掛幅、屏風、障壁画という画面形式が絵画表現や技法と密接に結びついていることを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第４回	絵巻でたどる日本美術１ ・平安時代の絵巻を中心に、物語と絵画が組み合わさった絵巻の名品について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第５回	絵巻でたどる日本美術２ ・近世から近代にかけて、絵巻の表現がどのように展開したのかを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第６回	流派でたどる日本美術 ・狩野派、土佐派、円山派、琳派といった各流派の特徴と代表的絵師について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第７回	やまと絵でたどる日本美術 ・中国絵画（唐絵）に対して日本独自の絵画として誕生したやまと絵の特徴と歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第８回	水墨画でたどる日本美術１ ・中国絵画から強い影響を受けた水墨画の発展の歴史を鎌倉、室町時代を中心に学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第９回	水墨画でたどる日本美術２ ・日本の水墨画が江戸時代以降どのように発展したのかについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１０回	仏画でたどる日本美術 ・寺院で用いる宗教画として描かれた仏画の歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１１回	文人画でたどる日本美術 ・文人画（南画）の特徴と代表的絵師、近代以降の流れについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１２回	浮世絵でたどる日本美術 ・江戸時代に爆発的に流行した浮世絵の特徴と代表的絵師、近代以降の流れについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１３回	近代でたどる日本美術 ・明治維新後、西洋の文化が流れ込む中で日本美術がどのように変化したのかについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１４回	到達度確認テスト ・ここまでの講義内容についての理解を確認するためのテスト	【予習】到達度確認テストへ向けて、これまでの講義内容を確認する。	60

〔授業の方法〕

パワーポイントで作品の画像を見ながらの講義形式。適宜、資料を配布します。授業では複数回アンケートや小テストを行い、最終授業で到達度確認テストを行います。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（40%）、平常点（授業への参加状況や小テスト・アンケートの提出状況）（60%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・日本美術史の基礎知識を習得したか。
・作品について自分の言葉で説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

中学卒業程度の日本史の基礎知識が必要となります。
その他に、なるべく美術館・博物館で実際に美術作品を見てください。

〔テキスト〕

・『増補新装 カラー版 日本美術史』辻惟雄監修、美術出版社、1900 円＋税、ISBN978-4568400656
・『教養の日本美術史』古田亮監修、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN978-4623085156
予習、復習用として挙げるが、図書館等で閲覧できれば購入の必要なし。

〔参考書〕

図書館に所蔵されている各出版社の日本美術全集
その他、授業時に適宜指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本美術史B						
教員名	齊藤　全人						
科目№	125235130	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

日本美術の歴史を学ぶことは、日本人の芸術観のルーツを知ることにつながります。古代、中世、近世、近代、それぞれの時代に生まれた名画・名宝・名品を個別に「点」としてみるのではなく、その作品が生まれた過程、そして後の時代に与えた影響など、大きな視点で作品と作品のつながりをたどることで、点と点がつながって「線」となり日本美術をひとつの流れで理解することができるようになります。
授業では各回テーマを設けて、そのテーマに絞った日本美術の流れを講義します。つまり毎回、角度を変えながら日本美術史をたどることとなり、多角的な視点で日本美術をとらえることができるようになります。
担当者が美術館学芸員として勤務する経験を活かし、作品の図版を豊富に紹介しながら、日本美術の歴史とともに作品を見る喜びを学習してもらいます。日本美術史 B では、絵画のほかに仏像、工芸、建築などの様々なジャンルを取り扱います。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野の知識・技能）、2-1（教養の修得）を実現するため、日本美術史の流れを理解し、授業で取り上げた作品について説明できるようになることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方を説明する。 ・日本美術史について、対象とする時代など、概略を説明する。	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。	30
第２回	仏像彫刻でたどる日本美術 ・仏教伝来とともに始まった日本の仏像彫刻が、飛鳥、奈良、平安、鎌倉時代とどのように変化したのかを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第３回	やきものでたどる日本美術 ・大陸から伝わった作陶技術をもとに日本独自の形に発展した陶磁器の歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第４回	漆でたどる日本美術 ・蒔絵、漆工を用いた工芸、建築、また漆絵と呼ばれる絵画から、日本美術の特徴でもある漆について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第５回	奇想でたどる日本美術 ・江戸時代に数多く登場した個性派絵師。また絵画に限らず工芸や建築にも見られる前衛的でエネルギッシュな表現。奇想というキーワードで日本美術を通覧する。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第６回	黄金でたどる日本美術 ・金色を効果的に表現の中に取り入れた絵画、黄金で荘厳した寺院、金の障壁画で威光を演出した城、金蒔絵の工芸、「黄金」「かざり」というキーワードで日本美術の特徴を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第７回	女性でたどる日本美術 ・日本の文学や絵巻の文化が宮廷の女性たちの中で形成されたことなどを踏まえ、女性というキーワードで日本美術を読み解く。絵師として活躍した女性についても学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第８回	異文化でたどる日本美術 ・日本は国外の異文化を取り入れることで大きな変化を遂げてきた。異文化が流入した変革のタイミングに着目して、それが日本美術史の中でどのような意味があったのかを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第９回	受容者でたどる日本美術 ・日本美術は作家が自己表現として生み出したものではなく、常に受容者がいる中でその求めるところに応じて制作されてきた。天皇、公家、武家、寺社、財界人などによって支えられてきた歴史について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１０回	風景画でたどる日本美術 ・中国山水画の影響で日本で描かれた山水図。理想郷としての山水図。和歌の歌枕とかかわりの深い名所絵。現実には成しえない視点で描く鳥観図。実際の景色を写し出そうとする真景図など、風景を描くという行為の変遷を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１１回	肖像画でたどる日本美術 ・天皇や公家を描く似絵、高僧を絵画化し、または彫像とした頂像など実在の人物を絵画や彫刻で表してきた歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１２回	書跡でたどる日本美術 ・中国の書家を手本とした三蹟、国風文化の中で登場した三筆などの能書家を中心に、書跡の歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１３回	建築でたどる日本美術 ・仏教伝来とともに始まった日本の寺院建築、貴族の寝殿造、武家の書院造、また近世以降の城郭建築など、日本の美意識の形成とも深く関わる建築の流れを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60

第１４回	到達度確認テスト ・ここまでの講義内容についての理解を確認するためのテスト	【予習】到達度確認テストへ向けて、これまでの講義内容を確認する。	60

〔授業の方法〕

パワーポイントで作品の画像を見ながらの講義形式。適宜、資料を配布します。授業では複数回アンケートや小テストを行い、最終授業で到達度確認テストを行います。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（40%）、平常点（授業への参加状況や小テスト・アンケートの提出状況）（60%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・日本美術史の基礎知識を習得したか。
・作品について自分の言葉で説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

中学卒業程度の日本史の基礎知識が必要となります。
その他に、なるべく美術館・博物館で実際に美術作品を見てください。

〔テキスト〕

・『増補新装 カラー版 日本美術史』辻惟雄監修、美術出版社、1900 円＋税、ISBN978-4568400656
・『教養の日本美術史』古田亮監修、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN978-4623085156
予習、復習用として挙げるが、図書館等で閲覧できれば購入の必要なし。

〔参考書〕

図書館に所蔵されている各出版社の日本美術全集
その他、授業時に適宜指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本民俗学A						
教員名	山崎　祐子						
科目№	125235140	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

民俗学の分野のうち、衣食住、通過儀礼、民間信仰、口承文芸などを取り上げる。それらを異界という概念で読み解き、私たちの祖先が、生命をどのように考えていたのかをさぐる。すでに行われなくなった民俗ばかりではなく、現代の身近な事象も取り上げる。資料は、民俗調査報告書、日本の昔話や伝説などを幅広く用いる。

〔到達目標〕

基本的な民俗学の考え方を学び、学術語彙を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方、参考文献や『日本民俗大辞典』の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。民俗、昔話についての概説を行う。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第２回	衣食住（民家） 民家における晴と褻の空間認識を考察する。民家を例に共同体のあり方を学び、身体尺の考え方、間取り図の読み方の基礎を学ぶ。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第３回	衣食住（自給自足の暮らし方） 映像を視聴し、水田のなかった山村の暮らし方を学ぶ。いわゆるスローフードや食の伝統につい考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第４回	衣食住（食生活） 各地の事例を紹介し、「日本の主食は米」という常識について考察しする。スシを例に発酵食品と主食の関係を学ぶ。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第５回	通過儀礼（出産と産育） 大正末年から昭和初年にかけての出産の記録を読み、通過儀礼の意味を考察する	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第６回	通過儀礼（結婚） 結婚の形態を学び、嫁入婚の儀礼と葬送儀礼の類似点を考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第７回	通過儀礼（葬送と供養） 各地の死後供養の事例を視聴する。海と山の信仰（他界観）を学び、「祖霊」について考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第８回	異界をのぞく（祈願） 呪い、占い、祈願の各地の事例を学び、現代の不安と民俗について考察する。。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第９回	異界をのぞく（幽霊と妖怪） 柳田國男の「妖怪談義」を読み、柳田の民間信仰や妖怪についての考え方を学ぶ。また、「夜」について日本の昔話ではどのように表現しているかを考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１０回	異異界をのぞく（伝説） 「番町皿屋敷」「累ヶ淵」を江戸という都市開発の視点で読む。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１１回	異界をのぞく（都市伝説） 学校の怪談や都市伝説を資料として、現代の不安について考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１２回	異界をのぞく（遠野物語） 柳田国男の「遠野物語」を山という異界、当時の女性の立場という視点で読む。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１３回	異界をのぞく（狐の伝承） 「狐の窓」の伝承や多摩ニュータウンの狐話を例に、狐に関わる伝承を考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１４回	まとめ 到達度確認テストと解説。重要語彙の復習。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式で行う。民俗を実感として理解できるよう、民具や雑穀、信仰用具などの実物にも教室で触れてもらう。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（配布プリントと自筆ノートの持ち込み可）70 パーセント、平常点 30 パーセントとし、総合的に評価をする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に専門知識を必要とはしていない。

〔テキスト〕
使用しない。毎回、資料のプリントを配布する。

〔参考書〕
配布資料に記載するほか、適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の前後で対応する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本民俗学B						
教員名	山崎　祐子						
科目№	125235150	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

民俗学の分野のうち、年中行事、祭礼、民俗芸能を取り上げ、一年の暮らしのリズムがどのように組み立てられていたのかを考察する。

〔到達目標〕

太陰太陽暦の仕組みを理解し、年中行事や祭礼に関する民俗学の理論を理解する。民俗芸能の基本的な学術語彙を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方、参考文献や『日本民俗大辞典』の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。太陰太陽暦と季節感の考え方の基礎を解説する。	重要語句の復習をする。	60 分
第２回	太陰太陽暦の構造 自然暦の考え方、太陰太陽暦の仕組み、近世の大小暦の基礎知識を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第３回	年中行事１ 年の区切りの考え方を学ぶ。来訪神が登場する各地の伝説や昔話を資料とし、正月について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第４回	年中行事２ 正月・小正月の具体的な行事、豪雪地帯の冬の生活について映像資料を視聴し、年神を迎える意味や予祝儀礼について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第５回	年中行事３ 織姫・彦星ではない日本各地の七夕の民俗の事例を学び、七夕と盆行事について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第６回	年中行事４ 年中行事の構造を学ぶ。端午の節供を例に、地方の年中行事にまつわる口承文芸や贈答の習俗について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第７回	民俗芸能１ 民俗芸能の基本事項を概説し、続けて備中神楽をの映像を視聴する。仮設の舞台の構造や装置、依代について考察する。	重要語句の復習をする。中間課題をまとめる。	60 分
第８回	民俗芸能２ 奥三河の花祭の映像を視聴し、民俗芸能を支える伝承母体について考察する。	重要語句の復習をする。中間課題をまとめる。	60 分
第９回	民俗芸能３ 西浦田楽の映像を視聴し、民俗芸能の重要な学術語彙を復習する。	重要語句の復習をする。ワークシートの記入をする。	60 分
第１０回	年中行事４ 「付きと大綱引き」を視聴し、来訪神の信仰について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第１１回	年中行事５ 秩父地方の子どもが中心になって行う年中行事の映像を視聴し、年中行事の教育としての意味を考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第１２回	年中行事６ 『東都歳事記』などを資料として、各地の事例と比較しつつ江戸の正月について学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第１３回	民俗行事の変化 東日本大震災の復興を無形民俗文化財の面から考察する。災害や開発によって、景観や自然が変わることが無形民俗文化財にどのような影響をあたえたかについて学ぶ。また、年中行事や祭礼の変化、商品化についての考え方を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第１４回	まとめ 到達度確認テストと解説を行う。	重要語句の復習をする。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式で行う。第４回、７～１１回の授業では、40 分程度の映像を視聴し、重要事項を解説する形式で行う。学期の途中、中間課題を課す。これは、第 7 回から 9 回の映像を視聴してまとめるものを予定している。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト 60 パーセント、平常点（学期の途中に提出する課題１回を含む）40 パーセントとし、総合的に評価をする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

テキストは使用しないが、毎回、授業で用いる資料のプリントを配布する。

〔参考書〕

プリントに記載する。必要に応じて授業時に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業の前後に教室で対応する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本の文学と思想						
教員名	桜井　宏徳						
科目№	125235160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

＊慈円『拾玉集』『愚管抄』を読む＊
　平安時代末期の藤原摂関家に生まれ、鎌倉時代初期の仏教界・文学界に君臨した慈円（1155～1225）の家集『拾玉集』と史論『愚管抄』を読み解くことを通じて、中世初頭の“知の巨人”と称してよい慈円の文学と思想の全体像に迫ります。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下の 2 点を到達目標とします。
① 慈円の『拾玉集』と『愚管抄』の読解を通じて、その文学と思想について理解を深める。
② 中世の和歌文学と歴史思想について、基礎的な知識を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／慈円概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第２回	『拾玉集』概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第３回	『拾玉集』を読む（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第４回	『拾玉集』を読む（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第５回	『拾玉集』を読む（三）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第６回	『拾玉集』を読む（四）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第７回	『拾玉集』を読む（五）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第８回	『愚管抄』概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第９回	『愚管抄』を読む（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１０回	『愚管抄』を読む（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１１回	『愚管抄』を読む（三）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１２回	『愚管抄』を読む（四）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１３回	『愚管抄』を読む（五）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１４回	『愚管抄』を読む（六）／レポート課題提示	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60

〔授業の方法〕

　講義形式で行います。毎回プリントを配布し（スクリーンに PDF ファイルも映写します）、それに沿って講義を進めます。また、必要に応じて画像・写真などの視覚資料も適宜提示します。
　レポートはすべての授業回を対象とし、慈円や中世の和歌文学および歴史思想についての基礎知識が身についているかどうかを確認する内容とします。

〔成績評価の方法〕

　レポート（80%）と授業参加度（20%：リアクションペーパー等）によって評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特に予備知識は必要ありませんが、他の中世文学・和歌文学に関する科目とあわせて履修すると、より理解が深まります。

〔テキスト〕

特定の教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

〔参考書〕

石川一・山本一 著『拾玉集』（上）（下）〈和歌文学大系 58・59〉（明治書院、2008・2011 年）
岡見正雄・赤松俊秀 校注『愚管抄』〈日本古典文学大系 86〉（岩波書店、1967 年）
いずれも購入の必要はありません。その他、授業時に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。また、メールでも受け付けます（メールアドレスは初回の授業時に公開します）。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本演劇史						
教員名	牧　藍子						
科目№	125235170	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

古典芸能として現代まで伝承・上演され、現代の演劇や文化にも大きな影響を与えている能・狂言・人形浄瑠璃（文楽）・歌舞伎について、その歴史的展開と芸能としての特色を考察するとともに、現代における舞台鑑賞の視点を身につける。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・諸芸能の成立と展開について概要を説明できる。
・諸芸能の特色と享受の様相について、時代的背景と合わせて理解する。
・舞台鑑賞に必要な基本的知識を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを読んでおく。 配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	30
第２回	能①　能の歴史１	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第３回	能②　能の歴史２	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第４回	能③　能の舞台と表現	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第５回	狂言①　狂言の歴史	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第６回	狂言②　狂言の舞台と表現	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第７回	能・狂言　鑑賞	指定の課題を行う。	60
第８回	人形浄瑠璃①　人形浄瑠璃の歴史	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第９回	人形浄瑠璃②　人形浄瑠璃の舞台と表現	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第１０回	人形浄瑠璃③　鑑賞	指定の課題を行う。	60
第１１回	歌舞伎①　歌舞伎の歴史１	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第１２回	歌舞伎②　歌舞伎の歴史２	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第１３回	歌舞伎③　歌舞伎の舞台と表現	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第１４回	歌舞伎③　鑑賞	指定の課題を行う。	60

〔授業の方法〕

講義形式で行い、リアクションペーパーを提出してもらう。
作品鑑賞の回には課題レポートを課す（全３回）。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況・リアクションペーパー等）30%、課題レポート 70%による総合評価

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・諸芸能の成立と展開について概要を説明できるか。
・諸芸能の特色と享受の様相について、時代的背景と合わせて理解しているか。
・舞台鑑賞に必要な基本的知識を身につけられたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
資料を配布する。

〔参考書〕
授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	物語と絵画						
教員名	木谷　眞理子						
科目№	125235180	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

テーマ：　物語はどのように変容し、再生していくか。
　映画化されたりアニメ化されたりすることで、物語が新たな生命を得ることは少なくありません。絵画化もまた、物語を再生させます。物語は状況に対応して、さまざまに姿を変え、再生していくのです。
　この授業では、源氏物語と伊勢物語を取り上げ、主として絵画化による、〈物語の変容と再生〉を見ていきます。

〔到達目標〕

ＤＰ１【専門分野の知識・技能】、ＤＰ２【教養の修得】、ＤＰ３【課題の発見と解決】、ＤＰ４【表現力、発信力】を実現するため、次の３点を到達目標とします。
①物語の変容と再生について、例を挙げて具体的に論じることができる。
②源氏物語と源氏絵について基礎知識を身につけた。
③伊勢物語と伊勢物語絵について基礎知識を身につけた。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	授業の進め方を確認する。 指定された課題を行う。	60
第２回	絵画化による物語の再生	指定された課題を行う。	60
第３回	レポートについて 源氏絵①　歴史概観	指定された課題を行う。	60
第４回	源氏絵②　平安・鎌倉時代	指定された課題を行う。	60
第５回	源氏絵③　土佐派	指定された課題を行う。	60
第６回	源氏絵④　車争図	指定された課題を行う。	60
第７回	源氏絵⑤　絵師の個性	指定された課題を行う。	60
第８回	源氏絵⑥　絵入版本	指定された課題を行う。	60
第９回	源氏絵⑦　漫画	指定された課題を行う。	60
第１０回	源氏物語と狭衣物語	指定された課題を行う。	60
第１１回	伊勢物語絵①　初段と二段	指定された課題を行う。	60
第１２回	伊勢物語絵②　六段	指定された課題を行う。	60
第１３回	伊勢物語絵③　六段・九段	指定された課題を行う。	60
第１４回	伊勢物語絵④　九段	指定された課題を行う。	60

〔授業の方法〕

講義形式で進めていきますが、毎回、課題を出します。

〔成績評価の方法〕

授業時の課題を 40%、学期末に提出するレポート（CoursePower から提出）を 60%、の割合で評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①物語の変容と再生について、例を挙げて具体的に論じることができるか。
②源氏物語と源氏絵について基礎知識を身につけたか。
③伊勢物語と伊勢物語絵について基礎知識を身につけたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
プリントを配布しますので、購入の必要はありません。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	貴族社会の暮らしと文学						
教員名	吉田　幹生						
科目№	125235190	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

平安時代の貴族の暮らしについて、毎回一つのテーマを決めたうえで、具体的な文学作品を例に講義する。

〔到達目標〕

DP１（専門分野の知識・技能）を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①平安時代の貴族の暮らしについて、その具体的な特徴が説明できる。
②平安時代の文学作品に描かれた貴族の暮らしについて、具体的に説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	平安京	大学図書館にある概説書などを利用して、平安京の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第２回	大内裏	大学図書館にある概説書などを利用して、大内裏の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第３回	貴族の住まい	大学図書館にある概説書などを利用して、寝殿造の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第４回	調度品	大学図書館にある概説書などを利用して、貴族の持ち物の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第５回	貴族の服装	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の装束の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第６回	政治のしくみ	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の政治制度の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第７回	貴族の人生（誕生・結婚）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の通過儀礼の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第８回	貴族の人生（算賀・葬送）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の通過儀礼の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第９回	年中行事（春・夏）	大学図書館にある概説書などを利用して、年中行事の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１０回	年中行事（秋・冬）	大学図書館にある概説書などを利用して、年中行事の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１１回	貴族の信仰（仏教）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の仏教の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１２回	貴族の信仰（新道・陰陽道）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の神道や陰陽道の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１３回	貴族の生活（音楽・芸能）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の音楽や芸能の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１４回	まとめ	これまでの授業をふりかえり、それぞれのテーマのポイントについて整理する。	60

〔授業の方法〕

講義形式による。
授業中に課す課題や、レポート課題あるいは学期末試験については、授業内容についてだけではなく、一般的な入門書や概説書に載っている内容についても理解していることが求められる。そのため、基本事項を中心に、自分自身で知識を得るという習慣を身につけてほしい。

〔成績評価の方法〕

授業中に課す課題（４０％）及びレポート課題あるいは学期末試験（６０％）を中心とした総合評価。
ただし、私語は授業妨害と見なして「不合格」とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
評価にあたっては、次の点に着目し、その達成度により評価する。
①平安時代の貴族の暮らしについて、基本的な知識が身についているか。
②平安時代の文学作品に描かれた貴族の暮らしについて、具体的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。
初心者を念頭に置いて講義をするので特別な知識は必要ない。

〔テキスト〕
購入の必要なし。

〔参考書〕
入門書などはその都度紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語表現の特質（漢字表現）						
教員名	山本　真吾						
科目№	125236120	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

日本語は、世界の言語のなかでも、文字・表記が特殊であるとしばしば指摘される。一般的な文章において、漢字、平仮名、片仮名、ローマ字、アラビア数字と、５種類もの文字が使用されるという、文字の種類が多い点も、特殊性の一つである、そのため、正書法を定めることが困難であるが、文章表記に選択の余地があって、用字や表記でも個性を発揮できるという面もある。特に、漢字に関する選択が多く、漢字関連の専門的な事項を知ることによって、個性的な文章表記を、意識的に行える。この授業では、漢字の高度な知識を身に付け、文字を活用した文章表現すなわち文章の見た目の工夫にも注意を払うようになってもらいたいと思う。
授業では、漢字の字体、発音、意味の諸問題を取り上げ、さらに漢語漢文の表現や理解について学修する。

〔到達目標〕

DP１（専門分野の知識・技能）、４（表現力・発信力）を実現するため、次の３点を到達目標とする。
①漢字に関する高度な知識を学び、日本語の文字・表記の専門的な分析を行うことができる。
②現代日本語の表記の決まりについて深く理解し、説明することができる。
③難易度の高い漢字の読み書き能力を身につけ、それを活用した表現ができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業のガイダンス 日本語における漢字表現の概要 シラバス解説	参考文献に掲げた『図解日本の文字』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	60
第２回	中国の漢字ー起源と発達・漢字文化圏ー	参考文献に掲げた『図解日本の文字』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第３回	日本における漢字の伝来	参考文献に掲げた『図解日本の文字』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第４回	漢字の字体（1）ー古字体・六書・国字ー	参考文献に掲げた『図解日本の文字』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第５回	漢字の字体（2）ー「和同開珎」・新字体・旧字体ー	参考文献に掲げた『図解日本の文字』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第６回	漢字の音読みー呉音・漢音・唐音ー	参考文献に掲げた『図解日本の文字』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第７回	漢字の訓と上代の漢字表現ー万葉仮名の用法ー	参考文献に掲げた『図解日本の文字』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第８回	漢字政策ー常用漢字までー	参考文献に掲げた『図解日本の文字』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第９回	漢文訓読ーヲコト点の創始と展開ー	参考文献に掲げた『図解日本の文字』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第１０回	近世近代の訓読と高校漢文	参考文献に掲げた『漢文資料を読む』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第１１回	和製漢語・和化漢語	参考文献に掲げた『図解日本の文字』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第１２回	古代日本漢文の表現	参考文献に掲げた『漢文資料を読む』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第１３回	近代日本漢文の表現	参考文献に掲げた『漢文資料を読む』の関連箇所をあらかじめ読んでおき、理解の及ばない用語等について調べておく。	90
第１４回	総括と授業内試験	授業前に総括を行い、授業内試験を実施し、事後に解説を施す。	100

〔授業の方法〕

授業の前半では講義を行い、後半では漢字及び漢語漢文に関する練習問題を解いて学修状況を把握する。

〔成績評価の方法〕

授業内試験（60%）、練習問題への取り組み等の授業への積極的な参加（40%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①漢字に関する専門的な知識を身につけ、その内容を的確に説明できる。
②現代日本語の表記の決まりを十分に理解し、分かりやすく説明できる。
③難易度の高い漢字の読み書き能力を会得し、活用することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし。プリント配布。

〔参考書〕
『図解　日本の文字』（沖森卓也他、三省堂）
『漢文資料を読む』（沖森卓也他、朝倉書店）
以上、2 点購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問・相談は授業終了時に随時受け付ける。メールアドレスは、講義時に伝える。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際関係論入門						
教員名	川村　陶子						
科目№	125331100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

この授業では、国際関係研究（国際関係論、International Relations）とよばれる学問分野についての概説を行う。国境を越えるさまざまな現象を把握し理解するための基礎概念や思考枠組みを、実際のニュースや国際問題を取り上げながら解説する。
国際関係研究は、その名が示すように、「国家から成る世界」を前提として 20 世紀に確立した新しい学問である。その一方で、研究対象たる現実の世界が大きく変化していく中、学問的意義や有効性がつねに問い直される状況にある。講義では、学問研究と現実世界の相互関係を重視し、社会・世界を研究することのおもしろさを受講者に伝えられればと考えている。
＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整、変更する可能性がある。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、次のことを到達目標とする。
①国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深めること。
②現代の国際関係、国際社会の歴史的変化を、自分なりに分析し考察できるようになること。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、現実の国際情勢や研究の動向、受講者の構成や反応などにより、修正することがある。） イントロダクション 講師の問題関心と授業の概要について説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係の現象や研究に関連して自分がもっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	国際社会をとらえる基礎概念（１） 国際社会という「場」の特徴を整理し、それを構成する主体の多様性についても理解を深める。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	国際社会をとらえる基礎概念（２） 国際社会のベースとなる主権・国民国家体制について、その形成過程を解説し、矛盾を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	国際関係をとらえる基礎概念（３） パワーの概念について解説し、その諸側面を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	国際社会のとらえかた（１） リアリズムの考え方について解説し、勢力均衡、安全保障のディレンマといった鍵概念への理解を深める。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	国際社会のとらえかた（２） リベラリズムと相互依存論の考え方を解説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	国際社会のとらえかた（３） 国際関係に対する「南」からの視点について解説するとともに、グローバル化の概念にも議論を広げる。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	国際関係のマネジメント（１） 主権国家間関係の運営である外交の基本原則について概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	国際関係のマネジメント（２） 一国の立場からみた対外政策について、その形成過程や主要な研究上のテーマを概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	国際関係のマネジメント（３） 外交の発展と変容について、国際関係の歴史的展開とからめながら考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	国際関係の制度化（１） 国家間の利害を調整し、国際協力を推進する仕組みとしての国際制度・国際組織について概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	国際関係の制度化（２） 前回に引き続き、国際関係をより確実なものとする仕組みについて概説する。国家間協力よりも一歩進んだ取り組みとしての地域統合にも目を向ける。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１３回	国際関係研究の拡大 今日の国際社会の現状、新たな動向を整理するとともに、そうした展開をふまえた国際関係研究の広がりを確認する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60

第１４回	まとめ 一学期間の授業を総括する。	一学期間の学修を総括し、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕

講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連して行った自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説する。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義を行う。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、

〔成績評価の方法〕

平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）70%、レポート（CoursePower で提出）30%をめやすに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その達成度により評価する。
①国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深める。
②現代の国際関係、国際社会の歴史的変化を、自分なりに分析し考察できるようになる。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

世界史や政治経済、倫理等の基礎知識があると、授業の理解に役立つ。高校での選択の有無にかかわらず、自主的な学修を推奨する。
関連科目：平和学、国際文化論、国際政治経済学等

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2010 年。
村田晃司ほか編『国際政治学をつかむ』（新版）、有斐閣、2015 年。
ほか、開講時および授業中に随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	平和学入門						
教員名	教員　未定						
科目№	125331110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

【平和と安全はどのように維持できるか　−安全保障の多面的考察】
「平和」とはどのような状態を指すのだろう？誰が、どのような方法で維持しているのだろう？混沌とした国際情勢にあって、「国際の平和と安全」を維持する目的で作られた国連は今でも有効だろうか？国連に期待できないとしたら、誰がどのように平和を担うことになるのか？
ロシアによるウクライナ侵略、さらには中国による一方的な現状変更の試みは、平和の脆さを明らかにしている。いずれも国連安保理の常任理事国である。私たちの世界はそもそも無政府状態（アナーキー）にあるが、無秩序の様相を示してやまない。どの国家にも自助努力が求められる厳しい時代である。
以上のような問題意識の下、この授業では、平和と安全保障にかかわる学説や政策論議を多面的に考察する。より具体的には、平和と安全の担い手に着目するとともに、平和と安全保障の個別の課題を検証する。安全保障の前提にある脅威認識について触れながら、集団防衛を含めた安全保障の方法論を考えてみたい。
（おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。）

〔到達目標〕

DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現し、特に DP1-5「国際関係研究の基本的な諸概念や理論枠組みを把握し、それらを用いて世界情勢の主要問題を分析することができる」ようにするため、下記を到達目標とする。
❑ 国際関係を巨視的な観点で考えることができる。
❑ 現代世界が直面する諸問題を理解できる。
❑ 国際平和と安全保障における課題を自ら発見することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ―この授業で学ぶこと	授業に関連する事項を予習する。	90
第２回	変動する国際環境 ―VUCA の時代	授業に関連する事項を予習する。	90
第３回	世界をどう捉えるか ―アクターとアプローチ	授業に関連する事項を予習する。	90
第４回	脅威の認識	授業に関連する事項を予習する。	90
第５回	さまざまな戦争の形	授業に関連する事項を予習する。	90
第６回	安全保障の方法論	授業に関連する事項を予習する。	90
第７回	国連を通じた平和の実現とその限界	授業に関連する事項を予習する。	90
第８回	集団防衛を通じた平和と安全―NATO と日米安保	授業に関連する事項を予習する。	90
第９回	集団防衛を通じた平和と安全（続）―NATO と日米安保	授業に関連する事項を予習する。	90
第１０回	平和構築と移行期正義	授業に関連する事項を予習する。	90
第１１回	武力紛争と人々の保護	授業に関連する事項を予習する。	90
第１２回	インド太平洋の平和と繁栄 ―世界と日本	授業に関連する事項を予習する。	90
第１３回	到達度確認テスト	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	※到達度試験の準備学修は、個人の判断に委ねる。
第１４回	まとめ	到達度確認テストの講評を行うとともに、これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

〔授業の方法〕

講義形式。関連した映像資料を見ることもある。なお、おおむね上記の授業計画で進めるつもりだが、変更する可能性もある。

〔成績評価の方法〕

平常点（20%）、到達度確認テスト（80%）を組み合わせた総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目はありません。予備知識がなくとも、国際情勢への関心があれば授業についていくことは可能です。

〔テキスト〕

特に指定しません。

〔参考書〕

授業中に配布するレジュメの中で提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

質問や相談は教室（およびメール）で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化論						
教員名	川村　陶子						
科目№	125331120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、「国際関係における文化」をめぐるさまざまなトピックを扱う。その際に、文化という概念の歴史的変遷や、その多義的な意味内容にとくに注意を払う。各トピックに関する主要な研究動向と、現実世界の歴史的展開や今日の状況、国際関係と私たち自身とのつながりを、バランスよく学修することを目指したい。

授業の前半では、国際関係を分析する「枠組み」としての文化、後半では、国際関係を媒介する「要素」としての文化に焦点を当てる。全体を通して、「国家（政府）間だけではない国際関係」や、「いわゆる政治や経済とは異なった領域の国際関係」に注目することになるであろう。授業全体を通して、そうした「文化の国際関係」が、「国家（政府）間の国際関係」や「政治や経済とよばれる領域の国際関係」と密接に関連しており、ときにはそれらを規定し動かす力をもっていることを意識できるようになればと考えている。

＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整・変更する可能性がある。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP６（自発性、積極性）を実現するため、次のことを到達目標とする。
①「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりを概観し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむこと。
②国際関係を、国家間の関係や狭い意味での政治・安全保障に限定せず、より幅広く身近なものとして考えられるようになること。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。受講者の構成や関心などによって、講義の構成や進度を調整する可能性もある。） イントロダクション 講師の問題意識と授業の概要を説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係や文化に関連して自分がもっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	文化の概念 研究の基本概念である「文化」について、その意味の広がりや概念の歴史的形成・発展を理解する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	国際関係の研究史と文化の視点 国際関係研究の発展史を概説し、「文化の視点」が必要とされる背景を明らかにする。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	文化からみる国際関係（１）　国民国家と文化 国際関係の基本的単位主体ある国民国家が「文化的まとまり」であることを解説し、国民文化という「あたりまえ」の裏にある問題性について考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	文化からみる国際関係（２）　文化と「西洋近代」 国際関係研究のもとになっている欧米や西洋の考え方と、それとは違う考え方との関係、西洋と非西洋の関係について考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	文化からみる国際関係（３）文化的境界に沿った対立・衝突 20 世紀後半以降、文化相対主義的な考え方が国際関係の現実や研究に及ぼしたインパクトを、批判的に考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	文化からみる国際関係（４）グローバル化の中の偏見と憎悪 ポスト冷戦、とりわけ「9・11」後の世界において、「対立と憎悪の負のスパイラル」が生じている状況を概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	文化からみる国際関係（５）　負のスパイラルを乗り越えるために 文化的境界線に沿った対立・衝突を乗り越え、多様な人びとが共生するための方策を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（１）国際関係の文化的運営 「国際関係が異文化間関係であるならば、文化的手段を用いて国際関係を形づくることができる」という考え方を紹介し、文化を資源・媒介とした国際関係の運営のさまざまなパターンを解説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（２）国際関係の文化的運営の歴史的展開・１ 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「帝国主義の時代」までの時期を扱う。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（３）　国際関係の文化的運営の歴史・２ 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「世界大戦の時代」から「冷戦の時代」にかけてを扱う。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（４）　グローバル化時代の国際文化関係運営・１ ポスト冷戦期、21 世紀における国際文化関係運営の新しい発想やトレンドを紹介する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１３回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（４）　グローバル化時代の国際文化関係運営・２ 前回に引き続きポスト冷戦期、21 世紀の国際文化関係運営の新	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60

	しい発想やトレンドを紹介する。また、そうした新しい動きがもたらす可能性と問題性を考察する。	レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	
第１４回	まとめ 今日の世界において、文化でみる国際関係、文化でつくる／文化がつくる国際関係がどのように展開しつつあるか、その現状と展望を整理する。 一学期間の授業を総括する。	一学期間の学修をふり返り、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕

講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連して行った自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説する。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義を行う。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、

〔成績評価の方法〕

平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）70%、レポート（学期末に CoursePower で提出）30%をめどに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その到達度により評価する。
①「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりを概観し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむ。
②国際関係を、幅広く身近なものとして考えられるようになる。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

受講者は、報道や身の回りの事象に目配りするなどして、現代世界の動向につねに注意を払うことが求められる。
講義は現代史の知識を前提とした内容になる。高校での関連科目選択の有無にかかわらず、自主的な学修を行うことが望ましい。
本講義は、米国を中心に発展してきた国際関係論（International Relations、国際政治学）を批判的に乗り越える立場から組み立てられている。国際政治学の基礎的知識がなくても理解できるように講義しているが、意欲のある受講者は「参考書」欄に挙げた図書等の概説書を用いて

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

講義内容に直接関連する文献やネットの情報は、授業中に適宜紹介する。
以下は一般的な国際関係論（国際政治学）のテキストとハンドブックである。本講義とは内容を異にするが、講義内容の理解を深めるための参考として勉強を奨めたい。
村田晃司ほか『国際政治学をつかむ』（新版）有斐閣、2015 年。
ジョゼフ・S.ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A.ウェルチ（田中明彦・村田晃司訳）『国際紛争--理論と歴史 原書第 9 版』有斐閣、2013 年。
田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』［新版］有斐閣ブックス、

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際政治経済学						
教員名	須田　祐子						
科目№	125331130	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義は、国際政治学のアプローチからグローバリゼーション、とくにその経済的側面に対する理解を深めることを目的とする。コースの前半では、国境を越えるモノ、サービス、情報、カネ（資本）、人の移動によって進展するグローバリゼーションのさまざまな様相を概観する。後半では、グローバリゼーションへの政策的対応を「規制」という切り口から検討し、どのような規制がグローバルおよびナショナルなレベルで作成、実施されているのかを具体例を挙げて論じる。グローバリゼーションと呼ばれる事象が現代の政治、経済、社会にどのような影響をもたらしているのかを探ることが講義全体の大きなテーマである。

〔到達目標〕

政治と経済の相互作用について国際的文脈から学び、グローバリゼーション時代に世界が直面するさまざまな問題について考察できるようになるとともに、国際政治経済を律する取り決めが国内に（しかも意外に身近なところに）どのような影響を及ぼしているのか説明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	グローバリゼーションとは？ 「グローバリゼーション」という言葉が何を意味するのかを説明する。また「国際化」など関連する概念も合わせて説明する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第２回	モノの移動 国際貿易を律するグローバルな枠組みであるＧＡＴＴと世界貿易機関（ＷＴＯ）の歴史的展開と現在の課題について解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第３回	ＴＲＩＰＳと医薬品アクセス問題 貿易関連知的財産権（ＴＲＩＰＳ）協定について学ぶ。医薬品アクセス問題を取り上げる。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第４回	サービスの移動 サービス貿易一般協定（ＧＡＴＳ）について通信分野と放送分野に焦点をあてて解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第５回	情報の移動 デジタルデバイド（情報格差）やインターネット資源の管理など情報通信をめぐる政治と経済の問題を概観する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第６回	人の移動 ＧＡＴＳと「人の移動」、ＦＴＡ・ＥＰＡによる労働力移動の自由化について解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第７回	インターネットで変わった？ インターネット時代の著作権保護、プライバシー保護、児童ポルノ規制について、国際的取り決めがどのように発展してきたのかを考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	90
第８回	グローバルな不法経済 麻薬と資金洗浄への対策を事例として、国際的取り決めがどのように国内規制に影響を及ぼすのかを見る。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第９回	オゾン層破壊と気候変動 オゾン層と地球温暖化に関する国際的枠組みを比較しながら地球環境問題に対する国際的取組みについて考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１０回	有害物質の管理 有害物質のグローバルな規制について有害廃棄物の越境移動に関するバーゼル条約と水銀に関する水俣条約などを例として考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１１回	遺伝子組み換え作物 生物多様性条約カルタヘナ議定書とコーデックスガイドラインを対比させて、貿易と環境の交錯するところでの国際規制の難しさを考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１２回	認証と資源管理 森林管理協議会（ＦＳＣ）と海洋管理協議会（ＭＳＣ）の認証制度について学ぶ。またキンバリープロセスについて学ぶ。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１３回	宇宙開発 宇宙開発の歴史を振り返り、最近の動向と現在、大きな問題となっている宇宙ごみ（スペースデブリ）について考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	90
第１４回	たばことアルコール たばこ規制枠組み条約の事例から国際的規制の国内への影響について考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

授業は対面で実施する。毎回、シラバスと資料を配布する。授業の最後に授業内課題に取り組む。授業内課題では、講義の内容をどの程度理解しているのかを評価する。その他に理解度確認テストによっても評価する。

〔成績評価の方法〕

授業内課題（70%）
理解度確認テスト（30%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。期末試験では、授業で取り上げたさまざまな問題について基本的理解ができているかどうか、またそれらの問題の背景と経緯を的確に説明できるかどうかを評価の基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際協力論						
教員名	堀江　正伸						
科目№	125331140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

今日、グローバル化が益々進展するなか、さまざまな問題も国境を越え他国、そして国際社会全体に影響をおよぼす。例えば、2020 年より流行した感染症の広がり、ウィルスとの戦いを見れば明らかであろう。そうした問題の解決には国際協力が欠かせない。しかし、一口に「国際協力」と言っても、さまざまな方法があり、そこに携わるアクターも多い。また、国際協力が行われている分野も、経済、社会、平和構築等と多岐にわたる。本講義においては、国際協力が何故必要なのか、また国際協力はどのように行われているか、どのようなアクターにより行われているのかなど国際協力の基本的なメカニズムについて知識を提供することを目的としている。

〔到達目標〕

①国際協力はどのような問題に対して行われ、またその原因は何かについて一端を理解している。
②各種国際協力の概略を理解している。
③国際協力に関わるアクターについて知識を持っている。
④国際協力の障害となりうることを考えられる思考力を養う。
⑤上記のような知識を活かして、様々な国際問題について自分なりの意見を形成できる。
⑥将来、国際協力の分野で活躍したいと考える学生は、希望具体化のさらなる検討に欠かせない国際協力の基本的枠組みを理解している。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス　授業の概要と進め方 何故国際協力は必要なのか？ 国際協力を必要とする諸問題にはどのようなものかを考えてみる。	シラバスの確認 私たちの生活と国際社会はどのような繋がりがあるか考えておく。	15
第２回	経済開発 日本が受けまた提供してきた支援には、大型のインフラ整備や産業の活発化に欠かせない施設の建設がある。それらの効果や問題点について議論する。	事前に配布する資料の講読。	60
第３回	社会開発 貧困対策、教育、健康維持のためのサービスといった直接的に人々が受益する支援について考察する。	事前に配布する資料の講読。	60
第４回	人間開発、人間の安全保障 1990 年代後半より日本の支援政策の主流となっている人間の安全保障という考え方について検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第５回	人道支援 災害や紛争の被害者への直接的支援である人道支援の理念や国際社会はどのように人道支援を行っているかを概観する。	事前に配布する資料の講読。	60
第６回	難民・強制移動と国際協力 国際的な難民保護体制がどのように生まれて進化していったのか、それでもなお保護体制から漏れる人々はどのように支援していけばよいのかを検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第７回	平和構築 東西冷戦の終結とともに国内紛争が頻発し、平和構築の重要性が増した。平和構築の変遷、目指していること、また他の支援との関連性について一考する。	事前に配布する資料の講読。	60
第８回	現在の国際協力の目標としての SDGs 国際協力を必要とする最近の問題や、2030 年までの国際社会の目標である SDGs がどのように生まれたのかを、ここまでの復習を織り交ぜながらレビューする。	事前に配布する資料の講読。	60
第９回	ODA、二国間支援 国際協力に掛かる費用は誰が提供し、また主に外交政策として行われる二国間支援について検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第１０回	多国間支援 国際連合や世界銀行といった多くの国々が出資して行われる多国間支援について検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第１１回	NGO や企業の役割 近年活発化している、NGO や企業といった国家を基盤としない機関の国際協力を検討する。	レポートに関する調査と執筆	60
第１２回	国際協力の現場 実際に行われていた紛争や自然災害の被害者対する支援や貧困軽減のためのプログラムなどを、現場で起こる問題を中心に考察する。 レポート提出『最も関心のある国際社会の問題と国際協力』	レポートに関する調査と執筆	60
第１３回	国際協力シミュレーション 紛争地での支援を想定し、役割を決めて支援策の立案、他の支援機関との交渉を行ってみる。	事前に配布する資料で、シミュレーション現場の状況を理解する。	60
第１４回	レビュークイズ 全体の復習 レポート発表	授業全体に関してノートなどを用いて復習。	60

〔授業の方法〕

対面を基本とするが、１回の授業の中で２回から３回のディスカッションの時間を設ける。また国際協力シミュレーションやレポートに関するプレゼンテーションを予定している。

〔成績評価の方法〕

総合評価
内訳: レビュークイズ 30%、毎回の講義に関する自身の意見や授業への貢献 30%、レポート 40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『国際協力ーその新しい潮流（第３版）』、下村恭民他編、有斐閣選書、2,200 円、ISBN: 978-4-641-28138-7
『新しい国際協力論（改訂版）』、山田満編、明石書店、2,600 円、ISBN: 978-4-750-34761-5
双方とも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際関係論特講Ｂ						
教員名	上原　史子						
科目№	125331160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義ではヨーロッパの現状を理解するために EC の誕生から現在までのヨーロッパ統合の歩みを概観するとともに、現在の EU が抱えている外交、経済社会問題、政治文化問題、Brexit 問題の行方等を広く学ぶことを目標とする。
その際、リージョナリズムの一例としてのヨーロッパ統合が直面している安全保障や地球環境といった諸問題、BREXIT 問題のその後、コロナ禍・戦禍のヨーロッパの現状と課題等、世界共通の課題についても受講生の皆さんと議論する予定。

〔到達目標〕

ヨーロッパ国際関係の仕組みと諸問題を理解し、その解決策を導き出せるようになることが目標です。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：コロナと戦争で変わる世界・ヨーロッパ	ヨーロッパの最新情勢について知っていることを話せるように整理しておく	30
第２回	なぜヨーロッパ統合がスタートしたのか？	ヨーロッパ統合の起源を調べてみる。	30
第３回	1950 年代から 60 年代のヨーロッパ統合	前回授業の復習	30
第４回	1970 年代から 90 年代のヨーロッパ統合・グループワーク	ヨーロッパ統合の歴史を調べてみる。	30
第５回	冷戦の終焉・ドイツ統一と東西ヨーロッパの統合	ベルリンの壁が崩壊したきっかけは何だったのか、確認しておく。(30 分)	30
第６回	21 世紀のヨーロッパ統合	EU について最新ニュースをフォローする。 グループディスカッションの準備	45
第７回	ヨーロッパの様々な共通政策	EU の共通政策にはどんなものがあるのか、調べてみる。	30
第８回	ヨーロッパ各国の EU 統合をめぐる問題	EU 加盟国すべてを列挙できるようにしておく。	30
第９回	ヨーロッパの環境政策	世界の環境政策の歴史をひも解いてみる。	30
第１０回	EU の気候変動・環境・エネルギー政策への取り組み	EU の気候変動問題への対応について調べてみる。	30
第１１回	フクシマ・ウクライナと欧州の原子力；グループワーク	日本の原子力エネルギーをめぐる議論について整理しておく。	30
第１２回	EU の加盟国増大の過程とさらなる拡大	クロアチアとトルコについて知っていることを整理しておく。	30
第１３回	コロナ禍・戦禍のヨーロッパ情勢	ヨーロッパの最新ニュースをチェックしておく。	30
第１４回	プーチン戦争後のヨーロッパ統合のゆくえ（ディスカッション）	ヨーロッパの最新情勢をニュース等でフォローアップし、ディスカッションの準備をする。	60

〔授業の方法〕

この授業は EU のニュースや映像も取り入れながら、講義のみならず、受講生とのディスカッションやプレゼンをしてもらう時間も設定する。したがって受講に際しては毎回の授業にアクティブに参加すべく、日々のヨーロッパ情勢・国際情勢をニュースや新聞・雑誌等でフォローしておくことが授業時間外の必須条件である。
また、With コロナ&戦争時代のヨーロッパ情勢は日々刻刻変化していることから、ヨーロッパにおける「ハプニング」に応じて講義の順序や内容を変更する可能性が高いことを承知しておいてほしい。

〔成績評価の方法〕

試験・課題提出：90%　授業への積極性：10%

〔成績評価の基準〕

授業理解度を中心に評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
ヨーロッパ国際関係に関連するあらゆる科目

〔テキスト〕
『国際関係学　第三版』滝田・大芝・都留編著、有信堂

〔参考書〕
『統合欧州の危うい「いま」』浜矩子著、詩想社新書　その他、授業時に紹介

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業前後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕
　この授業は EU のニュースや映像も取り入れながら、講義のみならず、受講生とのディスカッションやプレゼンをしてもらう時間も設定する。したがって受講に際しては毎回の授業にアクティブに参加すべく、日々のヨーロッパ情勢・国際情勢をニュースや新聞・雑誌等でフォローしておくことが授業時間外の必須条件である。
　また、With コロナ＆戦争時代のヨーロッパ情勢は日々刻刻変化していることから、ヨーロッパにおける「ハプニング」に応じて講義の順序や内容を変更する可能性が高いことを承知しておいてほしい。

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	平和学特講B						
教員名	上杉　勇司						
科目№	125331180	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

平和学のなかでも、特に紛争解決学や平和構築論と呼ばれる分野について概説する科目です。国際的な関心事となっている現代の紛争に焦点を当てて検討していきます。①「なぜ紛争は起こるのか」、②「どうしたら紛争は解決できるのか」、③「どのように争った人々は和解するのか」という３つの疑問に答えるために有益な理論的な枠組みを学びます。さらに、実際に現実の紛争を分析して紛争の要因を探ったり、第三者による仲裁努力の効用についても学ぶ機会をもつことにします。本科目の教員は、研究者や大学教員としての経験に加え、紛争分析・解決や平和構築の専門家としても「実務経験」が豊富です。授業では、教員が実際に現場で経験した体験談もあわせて紹介していきます。その実務経験を活かした実践的な学びの場を提供します。紛争後の選挙において国際監視員として活動した経験、仲裁者としてテロリストたちとの和平交渉に携わった経験、NGO を設立して紛争予防のプロジェクトを立ち上げた経験、ODA の評価者としてアフガニスタンや東ティモールにおける日本の取り組みを評価した経験なども共有していくつもりです。

〔到達目標〕

ー平和を回復するために、必要な紛争に関する基礎知識を得ることができます。
ー平和を構築していくうえで、必要不可欠な条件を学ぶことができます。
ー国際社会における様々な紛争を理解するうえで助けになる理論や分析枠組みを習得することができます。
ー①「なぜ紛争は起こるのか」、②「どうしたら紛争は解決できるのか」、③「どのように争った人々は和解するのか」の３つの疑問を探究する能力が身につきます。
ー楽しく平和について語り、違いを乗り越えて対話をする能力が養われます。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・教員の専門や経歴などを紹介します。 ・授業の全体像、進め方、予習・復習について説明します。 ・評価基準や受講生に求められる心得について説明します。 ・紛争解決学の概要を説明します。＜そもそも「紛争」って何なの？＞	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講 義内容を把握してください。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基 準等について確認してください。	30 30
第２回	チームビルディング ・受講生の間の境界を溶かします。 ・教員と受講生の間の壁を壊します。 ・学舎としての教室内の雰囲気づくりに励みます。 ・紛争解決学の概要を説明します。＜どうして紛争が起きてしまうの？＞	【予習】自分が、なぜ本科目を受講しようと思ったのか、動機を整理してください。 【復習】自分と他の受講生の動機を踏まえたうえで、本科目に寄せる期待を取りまとめてください。	30 30
第３回	紛争解決学の扉を開く ・受講生の受講動機を踏まえて、授業の改定案を検討します。 ・どうして紛争は終わらないの？ ・紛争分析の道具（ABC 三角形）を一つ学びます。 ・紛争って複雑でわかりにくいんだけど・・・ ・紛争を解決することなんでできるの？	【予習】教科書①の第１章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30
第４回	争いは暴力で解決できるのか ・「暴力」にも種類があるの？ ・間接的な暴力はどうして危険なの？ ・「異文化」に対する批判は暴力なの？ ・社会に必要な暴力なんてあるんですか？ ・国が機能しないとどうなっちゃうの？ ・国が「国民の望まない暴力」を使ったら？	【予習】教科書①の第２章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30
第５回	争いの正義とは何か ・紛争の当事者はなぜ正義を必要とするの？ ・正義は法律で定められているの？ ・なぜ宗教がかかわる紛争はこじれるの？ ・テロをなくすための暴力は許される？ ・「報復」は本当に有効なの？	【予習】教科書①の第３章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30
第６回	世界の平和はどうすれば守られるのか ・ルールを守らない国はどうなるの？ ・制裁でルール違反を止められるか？ ・国連は虐殺の被害者を救えないの？ ・どうやって強い国から自分の国を守るの？ ・同盟を強化すれば平和になるの？ ・強い２大グループの対立で平和が生まれる？ ・世界で「ひとり勝ち」すると何が起きる？	【予習】教科書①の第４章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30
第７回	どうすれば争いを止められるのか ・複雑で難しい争いはどう解決するの？ ・土地をめぐる争いの解決策は？ ・「仲裁者」ってどんなことするの？ ・争っている人たちの心をどう変えるの？ ・争った相手との関係を修復できるの？	【予習】教科書①の第５章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30
第８回	カンボジアー和解の旅の起点 南アフリカー和解を考える旅 ・和解の背景 ・和解の旅 ・旅を終えて見えてきた和解の景色	【予習】教科書②の第１章と第２章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30
第９回	インドネシアー民主化という名の和解 東ティモールー和解の二局面 ・和解の背景 ・和解の旅	【予習】教科書②の第３章と第５章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30

	・旅を終えて見えてきた和解の景色		
第１０回	アチェ独立紛争ー和解に優先する復興 ・和解の背景 ・和解の旅 ・旅を終えて見えてきた和解の景色	【予習】教科書②の第４章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30
第１１回	スリランカー多数派勝利後の和解 ・和解の背景 ・和解の旅 ・旅を終えて見えてきた和解の景色	【予習】教科書②の第６章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30
第１２回	ボスニア・ヘルツェゴビナー民族という火種は消せるのか キプロスー分断から和解は生まれるか ・和解の背景 ・和解の旅 ・旅を終えて見えてきた和解の景色	【予習】教科書②の第７章と第８章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30
第１３回	ミャンマーー軍事政権との和解 ・和解の背景 ・和解の旅 ・旅を終えて見えてきた和解の景色	【予習】教科書②の第９章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30
第１４回	総括＜和解とは＞ ・見聞録の要約 ・和解を阻む障壁 ・和解の処方箋 ・和解の旅の終わりに	【予習】教科書②の終章を読み、あらかじめ講義内容を把握してください。 【復習】講義の内容や授業での議論を振り返り、自分なりの教訓を一つに絞り込んでください。	30 30

〔授業の方法〕

毎週の授業では、受講生が予習を済ませていることを前提に講義を進めていきます。予習では教科書に沿った事前学習が求められます。授業中には、教科書の内容で不明な点を受講生からの質疑として受け付け、教員および他の受講生が応答する形式とします。また、授業中は予習を踏まえた議論をしていきます。授業中には、教員より質問を投げかけます。受講生は少人数のグループに分かれて教員からの質問を受けて議論を展開していきます。毎週の授業の後に復習を課しています。復習の意図は、受講生に授業を振り返ってもらい、各自にとって最も有益であっ

〔成績評価の方法〕

毎週の授業における貢献度　32%
毎週の授業後の復習として取り組む教訓（2 点 x14 回=28%）
宿題①（教科書①の書評 2000 字）20%
宿題②（教科書②の書評 2000 字）20%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特にありません。学ぶ意欲と強い好奇心と積極性のある誠実な学生であれば予備知識は問いません。

〔テキスト〕

上杉勇司『どうすれば争いを止められるのか：17 歳からの紛争解決学』（WAVE 出版、2023 年）1500 円＋税（978-4-86621-442-9）
上杉勇司『紛争地の歩き方』（ちくま新書、2023 年 4 月刊行予定）

〔参考書〕

購入の必要なし
上杉勇司・小林綾子・仲本千津『ワークショップで学ぶ紛争解決と平和構築』（明石書店、2010 年）
上杉勇司・長谷川晋『紛争解決学入門：理論と実践をつなぐ分析視角と思考法』（大学教育出版、2016 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

教員は早稲田大学国際教養学部の常勤職にあり、成蹊大学では非常勤講師です。したがいまして質問や相談は授業中に教室内で受け付けます。気軽に授業中に手をあげてください。

〔特記事項〕

・アクティブ・ラーニング（反転授業＝受講生が教科書の精読により知識習得の要素を授業前に済ませていることを前提に授業を実施します。授業中は事前に習得した知識確認や知識に基づいた議論に集中します。議論＝授業中は教員の講義を受けて受講生同士で議論することで対象についての理解を深めることを目的とします。)

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	グローバル・イシューズ						
教員名	木村　友彦						
科目№	125331190	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

現在の国際社会は、ヨーロッパに歴史的な起源を持つ「主権国家体制」として特徴づけられますが、平和、開発、人権・人道、環境問題をはじめとして一国単位ではなく国際社会で取り組むべき問題が山積しており、また国境を越える人々の移動や経済活動も日常的になっています。こうしたグローバル・イシューズに対応するために、国家は国際連合をはじめ国際機構を設立するようになり、設立された国際機構は加盟国だけでなく、ＮＧＯや企業などとも時に協力してその目的実現を目指すようになっています。この授業では、こうした国際機構の役割の検討を通して、グローバル・イシューズへの理解を深めていきたいと思います。

〔到達目標〕

グローバル・イシューズ並びに国際機構の役割に理解を深める。こうした学習を通して、DP1 や DP３，DP４に掲げられた到達目標を達成する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 国際機構の歴史①	シラバスを読む。	60
第２回	国際機構の歴史②	テキストの第１章を読む。	120
第３回	組織としての国際機構／国際公務員	テキストの第２、３章を読む。	120
第４回	国際機構の財政／意思決定	テキストの第４、５章を読む。	120
第５回	安全保障・軍縮	テキストの第６章を読む。	120
第６回	人権・人道	テキストの第７章を読む。	120
第７回	到達度確認テスト（中間）と復習	これまでの授業内容を見直し、テストに備える。	120
第８回	経済・貿易・通貨・開発／運輸・通信	テキストの第８、１１章を読む。	120
第９回	文化・知的協力	テキストの第９章を読む。	120
第１０回	環境	テキストの第１０章を読む。	120
第１１回	保健衛生	テキストの第１２章を読む。	120
第１２回	紛争解決	テキストの第１３章を読む。	120
第１３回	国際機構のパートナー／国際機構と日本	テキストの第１４章、終章を読む。	120
第１４回	確認度到達テスト（期末）と復習	これまでの授業内容を見直し、テストに備える。	120

〔授業の方法〕

基本的には下記のテキスト『入門　国際機構』に基づいた講義形式を予定していますが、上記の授業計画には変更も考えられます。授業ではウクライナ戦争といった時事問題にも触れたいと思います。授業では受講者にリアクションペーパーを提出して頂き、授業に反映させることも考えています。

〔成績評価の方法〕

平常点（30%）と２回の到達度確認テスト（70%）を基本にすることを考えています。また任意提出のレポート課題を出し、評価に加えることも考えています。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

横田洋三 (監修)『入門 国際機構』(法律文化社、 2016 年)

〔参考書〕

植木安弘『国際連合 ： その役割と機能』（日本評論社, 2018 年）
野林健, 納家政嗣編『聞き書　緒方貞子回顧録』（岩波書店, 2020 年）
筒井清輝『人権と国家: 理念の力と国際政治の現実』（岩波書店、2022 年）
（他の文献は授業内で挙げていきたいと思います。）
国連の活動に関しては、国際連合広報センター（https://www.unic.or.jp/）のホームページの活用を考えています。
国連をはじめとする国際機関、外務省、NGO などの活動に関心があり自ら情報を集めたい方は、

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学入門 I						
教員名	綾部　真雄						
科目№	125332100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

文化人類学とは、世界各地の人々の文化や思考様式に対する「共感力」と、地域的な事象や一見特殊に思える現象から出発してより普遍的な人類像を確立するための力、すなわち「遠心的想像力」を養うための学問である。我々はついつい、自文化にとっての「あたりまえ」が異文化にとっての「あたりまえ」とは異なるという単純な事実を忘れがちだが、その忘却は時に、異なる文化間、国家間に横たわる大きな確執や偏見を助長する。それを避けるためには、やはり「共感力」と「遠心的想像力」が必要である。

本講義では、こうした観点から出発し、世界各地のローカルな文化や歴史的事実を紹介しながら、それぞれのトピックの中に「人間」という存在をより包括的にとらえなおすための様々なヒントを見出そうとする。それはそのまま、長期のフィールドワークに基づいて執筆されたエスノグラフィ（民族誌）や文化人類学的知見の紹介であると同時に、初学者向けの文化人類学の概説ともなる。

ただし、文化人類学は「失われた文化／失われつつある文化」のノスタルジックな探求ではない。文化人類学は、常に人類の「今」を切り取るための視点をヴァージョンアップし続けて今に至る。

〔到達目標〕

・世界各地のローカルなものの見方への共感力を身につける
・自己の視点を相対化する力を身につける
・様々な民族誌的事例の学習を通じて、世界の人々の暮らしぶりや価値感の多様性を理解する
・リアクション・ペーパーの執筆とその講評を通じて、論理運用能力と分析力を身につける
・各種映像の視聴を通じて、知識とイメージを有機的にリンクさせる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	人類学という仕掛け（1）　モンシロチョウは赤いスイートピーの夢を見るか	講義資料の事前確認	30 分
第２回	人類学という仕掛け（2）　「初期設定（デフォルト）」の人類学	講義資料の事前確認	30 分
第３回	人類学という仕掛け（3）　映像視聴	リアクションペーパーの執筆	60 分
第４回	人類学の思想（１）　文化相対主義と普遍主義	講義資料の事前確認	30 分
第５回	人類学の思想（２）　生命との対話	講義資料の事前確認	30 分
第６回	人類学の思想（３）　方法としてのフィールドワーク	講義資料の事前確認	30 分
第７回	人の分類（１）　人種の虚実①	講義資料の事前確認	30 分
第８回	人の分類（２）　人種の虚実②	講義資料の事前確認	30 分
第９回	人の分類（３）　映像視聴	リアクションペーパーの執筆	60 分
第１０回	人の分類（４）　同時代のエスニシティ①	講義資料の事前確認	30 分
第１１回	人の分類（５）　同時代のエスニシティ②	講義資料の事前確認	30 分
第１２回	見えないものとの対話（１）　アイデンティティ再考①	講義資料の事前確認	３０分
第１３回	見えないものとの対話（２）　アイデンティティ再考②	講義資料の事前確認ならびにリアクションペーパーの執筆	60 分
第１４回	.総括：現代世界と向き合うための「技術」としての人類学	講義資料の事前確認	30 分

〔授業の方法〕

座学的な講義を中心とするが、合計で 3 回から 4 回程度のリアクションペーパーの執筆を課し、講義中にその講評を行うことで一定のフィードバックを行う。また、受講者の人数に応じてグループワークを一定程度取り入れることも考慮する。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）　30%
期末レポートの得点　70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

初学者向けの授業であるため、予備知識がある必要はない。ただし、参考書に掲載した文献のうちのいずれかに事前に目を通しておくことを推奨する。また、高度な英語は用いないが、一定程度の英語文献の講読力があることが望ましい。

〔テキスト〕

固定したテキストは用いず、講義中に適宜指示する。
（購入の必要なし）

〔参考書〕

・綾部恒雄・桑山敬己編　『よくわかる文化人類学』（第 2 版）ミネルヴァ書房、2010 年
　（※2023 年度中に第 3 版が出版される予定あり）
・桑山敬己・綾部真雄編　『詳論　文化人類学』ミネルヴァ書房、2018 年
・綾部真雄編著　『私と世界―６つのテーマと１２の視点―』メディア総合研究所、2011 年
・横山 智・湖中真哉・由井義通・綾部真雄・森本 泉・三尾裕子編『フィールドから地球を学ぶ－地理授業のための 60 のエピソード－』古今書院、2023 年
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学入門Ⅱ						
教員名	綾部　真雄						
科目№	125332110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

前期の「文化人類学入門Ⅰ」に続き、初学者向けに文化人類学の基本について多角的な解説を行う。「入門Ⅰ」が基本的な概念や考え方の確認を中心としていたのに対し、「入門Ⅱ」では中心的なトピックを 3 点設定し、より具体的な事例を通じた説明を心がける。なお、「入門Ⅰ」の受講を経ない「入門Ⅱ」からの受講も十分に可能である。

文化人類学とは、世界各地の人々の文化や思考様式に対する「共感力」と、地域的な事象や一見特殊に思える現象か　ら出発してより普遍的な人類像を確立するための力、すなわち「遠心的想像力」を養うための学問である。我々はついつい、自文化にとっての「あたりまえ」が異文化にとっての「あたりまえ」とは異なるという単純な事実を忘れがちだが、その忘却は時に、異なる文化間、国家間に横たわる大きな確執や偏見を助長する。それを避けるためには、やはり「共感力」と「遠心的想像力」が必要である。

本講義では、こうした観点から出発し、世界各地のローカルな文化や歴史的事実を紹介しながら、それぞれのトピックの中に「人間」という存在をより包括的にとらえなおすための様々なヒントを見出そうとする。それはそのまま、長期のフィールドワークに基づいて執筆されたエスノグラフィ（民族誌）や文化人類学的知見の紹介であると同時に、初学者向けの文化人類学の概説ともなる。

ただし、文化人類学は「失われた文化／失われつつある文化」のノスタルジックな探求ではない。文化人類学は、常に人類の「今」を切り取るための視点をヴァージョンアップし続けて今に至る。

〔到達目標〕

・世界各地のローカルなものの見方への共感力を身につける
・自己の視点を相対化する力を身につける
・様々な民族誌的事例の学習を通じて、世界の人々の暮らしぶりや価値感の多様性を理解する
・リアクション・ペーパーの執筆とその講評を通じて、論理運用能力と分析力を身につける
・各種映像の視聴を通じて、知識とイメージを有機的にリンクさせる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス　文化という豊かな無駄	講義資料の事前確認	30 分
第２回	人は交わす（１）　課題文読解およびリアクションペーパーの講評	講義資料の事前確認とリアクションペーパーの執筆	60 分
第３回	人は交わす（２）　交換と全体性の経済①	講義資料の事前確認	30 分
第４回	人は交わす（３）　交換と全体性の経済②	講義資料の事前確認	30 分
第５回	人は交わす（４）　贈与としての国際協力	講義資料の事前確認	60 分
第６回	人は分かつ（１）　課題文の読解およびリアクションペーパーの講評	講義資料の事前確認とリアクションペーパーの執筆	30 分
第７回	人は分かつ（２）　分類論メモランダム	講義資料の事前確認	30 分
第８回	人は分かつ（３）　ジョークとスティグマ	講義資料の事前確認	30 分
第９回	人は分かつ（４）　ケガレを読み解く①	講義資料の事前確認	60 分
第１０回	人は分かつ（５）　ケガレを読み解く②	講義資料の事前確認	30 分
第１１回	. 人は祀る（１）　課題文の読解およびリアクションペーパーの講評	講義資料の事前確認とリアクションペーパーの執筆	60 分
第１２回	人は祀る（２）　儀礼的生き物としての人間	講義資料の事前確認	３０分
第１３回	人は祀る（３）　儀礼における意味と規則	講義資料の事前確認	60 分
第１４回	人は祀る（４）　調和と紛争の二律背反　／　全体のまとめ	講義資料の事前確認	30 分

〔授業の方法〕

座学的な講義を中心とするが、合計で 3 回から 4 回程度のリアクションペーパーの執筆を課し、講義中にその講評を行うことで一定のフィードバックを行う。
また、受講者の人数に応じてグループワークを一定程度取り入れることも考慮する。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）　30%
期末レポートの得点　70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

初学者向けの授業であるため、予備知識がある必要はない。ただし、参考書に掲載した文献のうちのいずれかに事前に目を通しておくことを推奨する。また、高度な英語は用いないが、一定程度の英語文献の講読力があることが望ましい。

〔テキスト〕

固定したテキストは用いず、講義中に適宜指示する。
（購入の必要なし）

〔参考書〕

・綾部恒雄・桑山敬己編　『よくわかる文化人類学』（第 2 版）ミネルヴァ書房、2010 年
　（※2023 年度中に第 3 版が出版される予定あり）
・桑山敬己・綾部真雄編　『詳論　文化人類学』ミネルヴァ書房、2018 年
・綾部真雄編著　『私と世界―６つのテーマと１２の視点―』メディア総合研究所、2011 年
・横山 智・湖中真哉・由井義通・綾部真雄・森本 泉・三尾裕子編『フィールドから地球を学ぶ－地理授業のための 60 のエピソード－』古今書院、2023 年
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	民族文化論						
教員名	嶺崎　寛子						
科目№	125332120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

異文化を理解するための、文化人類学の入門講座です。文化人類学とは、フィールドワークという調査法を通じて、人間と文化を探求する学問です。文化人類学の視点から世界を見るとどう見えるか、この授業で体験してみてください。他者を知ることで自分を知り、異文化を知って自文化を問い直すことで、新たに見えてくるものがきっとあります。知らないうちに内面化している「アタリマエ」を問い直すための視座を培い、それを実際に使ってみましょう。授業では受講者数によりますが、可能ならばグループディスカッションを積極的に行います。文化人類学がどのように生まれ展開してきたかも、テーマに沿って学びます。五感をフル回転させて、学ぶ楽しさを味わってください。

〔到達目標〕

DP２（教養の修得）および DP４（表現力、発信力）を身につけるため以下の 4 点を到達目標とする。
・　文化人類学の学説史的な展開や、ものの見方について基礎的な知識を養う。
・　自分の価値観や「当たり前」を相対化できる視点を育む。
・　異文化に対する敬意と好奇心を持ち、自分化と異文化を知的に往還する態度を培う。
・　ほぼ毎回行うグループ・ディスカッションを通じてコミュニケーション力／対話力を養成する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文化人類学とは何か	予習：シラバスを読んで授業のテーマや目標を把握すること。 復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第２回	環境と人間	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第３回	ことばから考える・１	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第４回	ことばから考える・２	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第５回	異文化へのまなざし	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第６回	マイクロ・アグレッションと交差性	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第７回	世界の食文化	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第８回	家族・親族規模と家の間取りの関係	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第９回	世界各地の結婚と親族関係	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１０回	世界各地の葬送文化	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１１回	贈与が紡ぐつながり	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１２回	文化人類学と開発	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１３回	到達度確認テスト	復習：参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１４回	世界の民族衣装・民族舞踊 到達度確認テストの講評	復習：到達度確認テストの講評を確認し、誤答部分についてレジュメや資料を読み直して確認する。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式で進めます。毎回、即席で作ったグループ単位のグループ・ディスカッションがあります。積極的に他の受講生とコミュニケーションを取ってください。グループディスカッションについては、受講生の人数が非常に多い場合には、教育効果を鑑み、他の代替的方法を取ることがありえます。また、授業はいわばライブなので、受講生の要望や必要に応じて臨機応変に進めます。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（70%）および平常点（授業でのディスカッションおよび授業への参画度（15%）、コメントシート等の提出状況（15%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
到達目標に達しているかどうかを重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目は特になし。文化人類学系の関連科目を並行して取ることが望ましいです。
予備知識は要りませんが、提示された参考文献などを自発的に読む積極性を求めます。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

授業中に適宜紹介します。
石川栄吉・大林太良・佐々木高明他編、1994『文化人類学事典』弘文堂などの辞典類が大学図書館のどこにあるかは把握しておき、適宜参照してください。購入の必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	フィールドワーク論						
教員名	嶺崎　寛子						
科目№	125332130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

文化人類学の背骨にあたるのが、フィールドワークという調査方法です。文化人類学者とは、世界中どこであっても、定めた調査地に赴き、長期間そこに住み、自分の目で見、自分の耳で聞いて、動態的な文化を体感することを通じて研究する研究者のことです。感性を磨き、できるだけ良い目と耳を持ってフィールドに居着き、フィールドワークからできるだけ多くのことを感知し、それを第三者にわかるように言語化することが、その仕事です。その文化を内面化していない人の「異人の目」は、フィールドワークを豊かにします。
この授業では、教員がフィールドワークで得た知見を共有し、フィールドワークへの理解を深め、文化人類学の面白さと深さにより一層近づきます。フィールド調査を行う方法を具体的に教示し、各自で実際にフィールド調査を行い、調査にもとづいてレポートを提出していただきます。

〔到達目標〕

DP1-4（文化人類学の基本的な理念、概念、および方法論として重要なフィールドワークの手法を習得し、自ら課題発見をして異文化理解と異文化間コミュニケーションに応用することができる）を身につけるため、以下を到達目標とします。
・　文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めます。
・　実際にフィールドワークを行う際に必要となる技法を身につけます。
・　異文化理解に必要となる知見を深化し、グローバルな社会への柔軟な適応力を培います。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンスおよびレポートについての説明	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第２回	FW という方法論とその困難を考える	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第３回	フィールド選定の方法	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第４回	調査されるという迷惑	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第５回	調査・謝礼・インフォーマントとの距離感を考える	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第６回	オンライン FW をやってみよう	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 ＊フィールドを選定し、フィールド予定地調査票に記入し、提出する。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第７回	「FW は教えられない」？	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第８回	個別事例の検討１　日本での FW	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第９回	調査許可やビザの取得、フィールド必携の道具類	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１０回	フィールドとテーマ選定	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１１回	個別事例の検討２　グローバルな FW	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１２回	質的調査と量的調査	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１３回	参与観察とは何か	自分の FW に必要な事前準備を各自で行う。	60

第１４回	まとめ―文化人類学が照射するもの	到達度確認テストの講評を確認し、誤答部分につきレジュメや資料を読み直すこと。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60

〔授業の方法〕

授業は講義形式で行います。必要に応じて映像資料などの視聴覚教材を用います。
グループディスカッションも毎回ではありませんが、取り入れます。参加者同士で積極的にコミュニケーションを取ってください。
授業後にウェブを通じて授業コメントを提出してもらうことがあります。
冬休みを使って実際にフィールド調査を各自で行い、結果をレポートにして提出してもらいます。感染予防のため、基本的には各自でフィールドを設定して個々人で調査を行います。状況が許せば、全員参加で調査日程を組んで一日フィールドワークを行う可能性

〔成績評価の方法〕

授業参画 30%、レポート 70%。実際に自分で調査地を選定し、調査を行い、レポートにまとめるという作業が重要です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めた。
異文化理解に必要となる知見を深化させることができた。
グローバルな社会への柔軟な適応力を培った。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

前期開講の「民族文化論」を履修していることが望ましいです。必須ではありません。
学科の専門科目として様々な文化人類学関係の科目が開講されているので、あわせて受講すると理解が深まります。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

適宜授業内で示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
質問を歓迎します。質問や相談がある方は、授業内で開示するメールアドレスに適宜メールをください。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学特講 I						
教員名	岡本　圭史						
科目№	125332140	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

文化人類学の基本的な概念や古典的な理論、更には重要な論点、争点について解説する。文化進化論や構造機能主義、構造主義といった学説史上の重要な理論について述べると共に、その背景としての 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけての言語学、社会学等の近接分野の古典的理論についても解説する。その上で、科学と人類学、シャーマニズムとシンクレティズム、経験としての病いと感染症の関係等、現代社会を人類学の視点から考える際に重要な論点について述べる。

〔到達目標〕

本講義の到達目標は以下の通りである。(1)文化人類学の基本的な概念や理論について、その近隣分野の古典についての知識と共に理解を深める。(2)それを基に、より近年の人類学的主題群について自ら学習するための基礎知識を習得する。(3)自らの関心に応じて自学自習を進めていくための、基本的なアカデミック・スキルについて学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文化人類学とは何か：文化人類学という分野について、その調査方法や特徴について解説する。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第２回	文化進化論：19 世紀後半から 20 世紀初頭の文化進化論について解説し、文化人類学誕生の経緯を探る。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第３回	構造機能主義：有機体としての社会を維持する諸制度の機能に焦点化する機能主義的人類学について解説する。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第４回	象徴人類学と解釈人類学：儀礼の象徴分析やギアツの解釈人類学の事例を基に、文化の隠された意味を解読するアプローチについて検討する。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第５回	神話と構造主義：レヴィ＝ストロースの神話論について解説し、構造主義人類学の考え方を学ぶ。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第６回	構造主義言語学と無意識：構造主義人類学の源流としての構造主義言語学や、批判対象としての古典的精神分析理論について考える。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第７回	認知とコミュニケーション：人間の思考の文化的・生物学的側面の交点について、認識人類学やその関連領域の研究を基に検討する。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第８回	科学と人類学：自然理解を目指す文化的営為としての科学に対する人類学的研究について、その概要を解説する。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第９回	現象学的社会学と人類学：人類学に通底する現象学的社会学の考え方について学ぶ。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第１０回	シンクレティズムとシャーマニズム：日本とアフリカの事例を基に、宗教伝統が変容するダイナミズムについて学ぶ。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第１１回	病いの経験と感染症：主に医療人類学の観点から、経験としての病いと感染症の関係を考える。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第１２回	モダニティと宗教：ウェーバーの議論や近年の人類学的研究を基に、モダニティの源流と宗教の関係、更にはその行方を考える。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第１３回	宗教の系譜学：文化の一部としての宗教という視点を相対化し、系譜学的な観念から宗教概念の由来を検討する。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。
第１４回	フィールドと理論：フィールドワークに基づく人類学の理論構築の方法を考える。また、この回にレポートの講評をも行う。	講義のテーマや参考書等に基づく自習を３０分程度。	授業内容等に基づく復讐を１時間程度。

〔授業の方法〕

受講者の人数に応じて、講義形式と演習形式を組み合わせた形態を想定している。授業第 13 回目を期日に、授業の内容と関連した課題レポート提出を求めることを予定している。

〔成績評価の方法〕

平常点 40%
レポート 60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学特講Ⅱ						
教員名	佐本　英規						
科目№	125332150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、芸能や音楽を含む芸術に関する人類学的研究について学ぶ。世界各地の芸術・芸能・音楽についての近年の民族誌的モノグラフを取り上げ、芸術とアイデンティティ、モノ、身体、社会といった諸テーマについて考察し、議論する。

〔到達目標〕

芸術・芸能・音楽への人類学的アプローチを学ぶ。上記「テーマ・概要」の学習を通じて、人類学の考え方と方法を学ぶ。それによって、現代世界における人間や文化、社会のあり方と向き合ううえでの批判的的視点を身につけることを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを読み、授業のテーマと概要について理解する。	60
第２回	「芸術の人類学」のアウトライン（１）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第３回	「芸術の人類学」のアウトライン（２）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第４回	芸術・先住民・アイデンティティ（１）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第５回	芸術・先住民・アイデンティティ（２）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第６回	モノと芸術の人類学（１）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第７回	モノと芸術の人類学（２）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第８回	芸術と身体の人類学（１）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第９回	芸術と身体の人類学（２）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第１０回	芸術と「社会的なもの」の人類学（１）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第１１回	芸術と「社会的なもの」の人類学（２）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第１２回	芸術実践と人類学（１）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第１３回	芸術実践と人類学（２）	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60
第１４回	総括	前回講義資料を見直し、疑問点や興味のある点について資料にあたって調べ、考察を深める。	60

〔授業の方法〕

講義形式で授業をおこなう。毎回リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーの内容を踏まえ、コメントを求めたりディスカッションをおこなう場合がある。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー（50%）と期末レポート（50%）をもとに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	グローバル化の人類学						
教員名	関谷　雄一						
科目№	125332160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

今日のグローバル化した世界を背景に、人類学がどのような取り組みを展開しているのか、伝統的な議論の延長に見えてきている話題を取り上げながら一緒に考えていく。担当者の専門がアフリカ地域なので、アフリカ地域をフィールドにした話が中心になってくるが、できるだけグローバルな広がりを失わないように様々な角度から検討をしていく。

〔到達目標〕

アフリカを拠点あるいは通過点にした、グローバルな話題に対する人類学的研究の最先端を概括できるようになる。文化人類学の学びを通して、他者理解と自己の相対化ができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	予習：文化人類学の基礎がわかるテキストを読んでみる。 復習：ガイダンスの内容とテキストを比較してみる。	60
第２回	フィールドワークと民族誌	予習：文化人類学の方法論とはなにか、資料やインターネットで調べてみよう。 復習：参考資料を読んでみよう。	60
第３回	環境と生業	予習：アフリカの地形や環境を調べる 復習：それぞれの地域の生業をマッピングしてみる。	60
第４回	経済と社会	予習：経済とは何かについて調べる。 復習：市場とは何かについて考える。	60
第５回	都市と移民	予習：アフリカの都市を地図で調べる。 復習：アフリカの移民はどこに行くのかを調べる。	60
第６回	親族と結婚	予習：家族の家系図をつくろう。 復習：アフリカの家族を取り上げ、家系図を考えてみる。	60
第７回	法と政治	予習：法律とは何かを考えてみる。 復習：アフリカの政治と日本の政治の違いは何か考えてみる。	60
第８回	民族と国民	予習：日本の民族について考える。 復習：国民とは何かについて考える。	60
第９回	神話と宗教	予習：自分の信仰について考える。 復習：家族の宗教について調べる。	60
第１０回	歴史と同時代性	予習：歴史とは何か、考えてみる。 復習：同時代性について身近な例で考えを深める。	60
第１１回	呪術と科学	予習：呪術とは何かについて調べる。 復習：科学の相対化について考える。	60
第１２回	難民と日常性	予習：日本で暮らす難民について調べる。 復習：アフリカ難民について調べる。	60
第１３回	開発と支援	予習：開発とは何かについて考える。 復習：アフリカのグローバル化について考える。	60
第１４回	グローバル化の人類学	予習：グローバル化について調べる。 復習：人類学の課題とはないかについて考察する。	60

〔授業の方法〕

講義が中心となるが、積極的な授業への貢献（発言やコメント）を歓迎する。毎回リフレクションペーパー（グーグルフォームを使用する予定）を書いてもらいます。

〔成績評価の方法〕

授業リフレクション（35%）・期末レポート（65%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文化人類学の基礎をできれば勉強しておいてほしい。

〔テキスト〕

『アフリカで学ぶ文化人類学－民族誌がひらく世界』
松本尚之・佐川徹・石田慎一郎・大石高典・橋本栄莉　編
昭和堂（2019）
978-4-8122-1906-5　Amazon ￥　2,420
購入は必須ではありませんが、したほうが良いと思います。

〔参考書〕

適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問は、随時下記メールアドレスにて受け付ける予定。
sekiya@anthro.c.u-tokyo.ac.jp

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代人類学						
教員名	田本　はる菜						
科目№	125332170	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

文化人類学は、常識的なものの見方を疑う上で、すでに当たり前に見える「境界」がどのように成立したのか、いかに多様でありうるのか、そしてどのように揺らぎ続けているのかを探ってきました。それは、「人間」と、一見して人間ではない「モノ」との境界についても当てはまります。本授業では、モノやアート（技術、芸術）の人類学的研究を手がかりに、私たちにとって「当たり前」に見える境界の揺らぎや成立に注目します。すなわち、人が何かを作り、さらに作り出したモノと関わるなかで、どのように人と人ではないものの境界が定められ、本物と偽物の区別が揺らぎ、また集団と集団のあいだの関係が更新されうるのかを考えていきます。

〔到達目標〕

DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の修得)、DP3(課題の発見と解決)を達成するため に、以下を到達目標とする。
①モノや技術を通じた人間と社会のあり方の多様性や可変性について、民族誌的事例をもとに理解することができる。
②理解した内容を自身の知識や経験に引きつけて考察し、表現することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配布資料を読む。	60 分
第２回	環境と技術①：作ることと育つこと	授業内で理解が不十分だった点、疑問に感じた点について、レジュメや文献で確認する。	60 分
第３回	環境と技術②：スキルとテクノロジー	授業内で理解が不十分だった点、疑問に感じた点について、レジュメや文献で確認する。	60 分
第４回	環境と技術③：機械化の中のわざ	授業内で理解が不十分だった点、疑問に感じた点について、レジュメや文献で確認する。	60 分
第５回	小まとめとディスカッション	環境と技術①～③の内容と関連した具体的事例を身の回りから探し、他の人と共有できるようにアイデアをまとめておく。	60 分
第６回	モノと人間①：石を神にする技術	授業内で理解が不十分だった点、疑問に感じた点について、レジュメや文献で確認する。	60 分
第７回	モノと人間②：機械との共進化	授業内で理解が不十分だった点、疑問に感じた点について、レジュメや文献で確認する。	60 分
第８回	モノと人間③：人工物の政治	授業内で理解が不十分だった点、疑問に感じた点について、レジュメや文献で確認する。	60 分
第９回	小まとめとディスカッション	モノと人間①～③の内容と関連した具体的事例を身の回りから探し、他の人と共有できるようにアイデアをまとめておく。	60 分
第１０回	消費と価値①：芸術と文化の収集	授業内で理解が不十分だった点、疑問に感じた点について、レジュメや文献で確認する。	60 分
第１１回	ドキュメンタリー映画から考える「真正」と「非真正」	映像に関する小レポート作成	90 分
第１２回	消費と価値②：コピーと創造性	授業内で理解が不十分だった点、疑問に感じた点について、レジュメや文献で確認する。	60 分
第１３回	消費と価値③：文化財が生み出す関係	授業内で理解が不十分だった点、疑問に感じた点について、レジュメや文献で確認する。	60 分
第１４回	全体のまとめ	課題レポート作成	180 分

〔授業の方法〕

講義形式としますが、受講者の理解度や関心を把握するためリアクションペーパーの提出を求めるほか、授業内で講義内容に関するディスカッションの時間を設ける予定です（受講者数や進捗状況により決定）。

〔成績評価の方法〕

授業への参加(ディスカッション、リアクションペーパー)40%
最終課題レポート 60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
文化人類学の基本的な考え方を習得する。
自ら課題を発見し、探求する基礎力をつける。
自らの意見や考えを他者に適切に伝える力をつける。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

特定の教科書は使用しません。

〔参考書〕

『文化人類学の思考法』松村圭一郎・中川理・石井美保編　世界思想社　2019 年
『メイキング　人類学・考古学・芸術・建築』ティム・インゴルド　左右社　2017 年
『技術の倫理』鬼頭葉子　ナカニシヤ出版　2018 年
『文化の窮状　二十世紀の民族誌、文学、芸術』ジェイムズ・クリフォード　人文書院　2003 年
その他、授業内で適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	歴史学入門						
教員名	松浦　義弘						
科目№	125333000	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】歴史学とはどういう学問かを具体的な歴史叙述を通して考える。
【概要】歴史学とは何か、という問いに対する回答はこれまでもさまざまなかたちでなされてきた。この授業では、「歴史学とは何か」を抽象的に論じるのではなく、明治以後、とくに第二次世界大戦以後の日本における歴史叙述を具体的にたどりながら、歴史の意味について考えてゆくつもりである。

〔到達目標〕

ＤＰ1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の２点を目標とする。
①歴史学とはどういう学問であるのかを、その鍵概念を含めて理解する。
②日本の歴史学の歴史をより広い文脈のなかで理解することを通して歴史学という学問の意味を考える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	シラバスを読んでおく。	60
第２回	歴史学とは何か	前回の添付資料の復習	60
第３回	日本における近代歴史学の誕生	前回の添付資料の復習	60
第４回	マルクス主義の導入と日本資本主義論争	前回の添付資料の復習	60
第５回	戦後歴史学の誕生	前回の添付資料の復習	60
第６回	運動としての戦後歴史学	前回の添付資料の復習	60
第７回	中間的まとめ	前回の添付資料の復習	60
第８回	戦後歴史学の歴史叙述（1）：日本史	前回の添付資料の復習	60
第９回	戦後歴史学の歴史叙述（2）：東洋史	前回の添付資料の復習	60
第１０回	戦後歴史学の歴史叙述（3）：西洋史	前回の添付資料の復習	60
第１１回	戦後歴史学以後の歴史学	前回の添付資料の復習	60
第１２回	歴史学の意味とは何か	前回の添付資料の復習	60
第１３回	課題レポートの提出	これまでの添付資料の復習	120
第１４回	まとめ	これまでの添付資料の復習	60

〔授業の方法〕

授業は、基本的に講義形式でおこなうが、必要に応じて適宜質疑応答の時間を設ける。授業の進行状況などによって、授業内容を変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

授業への参加情況（30%）、課題レポート（70%）を中心に総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
E・H・カー『歴史とは何か』岩波新書
喜安朗ほか『立ちすくむ歴史』せりか書房
リン・ハント『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店
遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。なお、オンライン授業に関する情報は、コースパワーに掲載する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文化研究A						
教員名	増田　都希						
科目№	125333010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

17, 18 世紀フランスのマナー論の展開: civilité と politesse
本講義では、17、18 世紀フランスにおける二つのマナー"civilité"と"politesse"を取り上げ、フランス革命に至るフランスの政治・経済・文化的変容と「マナーの近代化」を多面的に捉えることを目的とします。
社会を律するためのルールは、為政者によって制定される「法律」、神の法である「宗教的戒律」、 各集団のメンバーの合意に基づいて決定される「マナー」の三つに大別されます。「マナー」は権威（国や教会）から押し付けられるのではなく、メンバー同士の約束事である点、違反者。17, 18 世紀フランスは、1789 年のフランス革命に結実する様々な変化の胎動の時代です。本講義では特に近代国家の建設、近代国家とジェンダー、都市化、世俗化、教育の機会の拡大に注目し、一方でこの中でマナーの果たした役割を、他方で社会の変化によってマナーが被った変化を
した。作品を読み解きながら、私たちの生活とも切っても切れないマナーについて考えていきましょう。

〔到達目標〕

1）「社会史」「文化史」の成立の背景を理解し、従来の歴史との違いを明確に説明できる。
2）18 世紀フランスにおけるマナーをめぐる議論の主要な論点を説明できる。
3）マナーブックを通じて見られる 17,18 世紀フランス（ヨーロッパ）の政治的、社会的特徴とその変化を理解し、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、評価、予習・復習の仕方などについて ・「マナー」とは何か	16～18 世紀ヨーロッパの政治・社会・文化について、概要を理解する。	30 分
第２回	17, 18c フランスの社会と国家	「宗教改革」「活版印刷術の発明」「主権国家の成立」「啓蒙思想」の概要について調べる。	60 分
第３回	17, 18 世紀フランスの行儀作法書：civitas から civilité へ	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60 分
第４回	テーブルマナーの近代史 ：クルタン「新フランスの上流人士に実践されている行儀作法」（1671）	西洋式テーブルマナーと日本のテーブルマナーの相違点について調べる。	60 分
第５回	マナーと教育 ：青本版「行儀作法」とラ・サール『キリスト教的行儀作法』（1703）	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60 分
第６回	近代的統治と振る舞いの文明化	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60 分
第７回	ここまでの小括 レポートの書き方	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60 分
第８回	自己愛とマナー ：モンクリフ『気に入られたい欲望とその必要性』（1738）	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60 分
第９回	マナーとジェンダー ：ランベール侯爵夫人『娘と息子への母からの教え』（1728）	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60 分
第１０回	マナーという諸刃の剣： モンテスキュー『法の精神（1748）	モンテスキューと彼の代表作『法の精神』について、概要の理解	60 分
第１１回	嘘の嫌いなアルセストは悪者か？： ルソーからの問い	ルソーと彼の代表作『学問芸術論』『不平等起源論』について、概要の理解	60 分
第１２回	中間レポートふりかえり	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60 分
第１３回	「マナーの歴史学」の歴史 マナーを歴史学的に問うとは？	「社会史」「文化史」について概要を調べる。	60 分
第１４回	到達度確認テスト	これまでの講義のレジュメを読み直し、試験に備える。	120 分

〔授業の方法〕

授業は講義を中心に進める。講義の最後に与えるテーマについて、リアクション・ペーパーを提出すること。
なお、各リアクション・ペーパー、期末試験の狙いは、下記「成績評価の基準」に挙げた目標と同じ。

〔成績評価の方法〕

平常点（出席、各テーマの最後に行うリアクション・ペーパー）３割、中間レポート３割、期末試験４割
で総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
以下の点に注目し、その達成度によって評価する。
1）「社会史」「文化史」の成立の背景を理解し、その一つである「マナーの歴史学」の特徴を説明できる。
2）18 世紀フランスにおけるマナーをめぐる議論の主要な論点について説明できる。
3）18 世紀におけるマナー論の大きな変化を、16〜18 世紀フランスの政治的、社会的変化との関係から、簡潔に説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

高校で学ぶ世界史程度のフランス史の知識を必要とします。

〔テキスト〕

特になし。プリントを配布します。

〔参考書〕

・ロジェ・シャルチエ「差異の創出と文化モデルの普及」in 『読書と読者』長谷川輝夫・宮下志朗訳、みすず書房、1994 年。
・ジャン・スタロバンスキー「civilisation という語」 in 『病のうちなる治療薬』法政大学出版、1993 年。
・ノルベルト・エリアス『文明化の過程』法政大学出版局､1977 年。
・植村邦彦『市民社会とは何かー基本概念の系譜』（平凡社新書）、2010 年。
・A, ド・クルタン著、増田都希訳『クルタンの礼儀作法書』作品社、2017 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文化研究Ｂ						
教員名	寺本　敬子						
科目№	125333020	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業は「グローバル・ヒストリーとしてのジャポニスム」をテーマとします。19 世紀後半のヨーロッパにおいて日本の文化や芸術が注目されることで誕生した「ジャポニスム Japonisme」という現象に焦点を当て、この時代に日本とヨーロッパやアメリカの諸国の間でいかなる交流が広がったのか、各国の政治・経済・文化・社会等、その背景を見ながら多角的に検討します。さらに「Japan Expo」等、21 世紀型の「文化」の伝播・交流のあり方と 19 世紀のそれとを比較することで、「文化」の越境の仕方を複眼的に捉える分析力を養うことを目標とします。

〔到達目標〕

本学の Diploma Policy に基づき、DP1（専門分野の知識・技能）の「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・ 文化を多角的に理解する」ことを実現するために、本授業のテーマに基づき下記の点を到達目標とします。
19 世紀後半のヨーロッパでは、開国した日本の情報や物品が、とりわけ万国博覧会への日本参加を通じて広く伝わり、政治・外交上のみならず文化的にも国際的に認知されるようになります。各国に広がった「ジャポニスム」および交流関係について多角的

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：ジャポニスムとは何か。	【予習】シラバスを読む。 【復習】 授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第２回	ジャポニスムの前史(1)日本の情報、18 世紀のシノワズリとジャポネズリ	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第３回	ジャポニスムの前史(2)万国博覧会：科学技術、消費社会、異文化の発見	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第４回	フランス(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第５回	フランス(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第６回	フランス(3)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第７回	イギリス(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第８回	イギリス(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第９回	アメリカ(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１０回	アメリカ(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１１回	ドイツ	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１２回	その他の諸国	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１３回	日本：ジャポニスムの里帰り	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１４回	ジャポニスムの現在	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60

〔授業の方法〕

基本的に講義方式で行い、パワーポイント等で図版・写真・映像資料を用います。課題のテキストは適宜、印刷あるいはポータル・Web Class 上で配布します。この授業では、(1)コメントシートと(2)期末レポートを課します。

〔成績評価の方法〕

成績評価は、(1)コメントシート（40%）と(2)期末レポート（60%）の合計による相対評価となります。
・(1)コメントシートでは、①授業内容の要旨（400 字程度）と②質問・コメントを求めます。提出されたコメントシートの内容は、授業への取り組みの度合いを判定する材料とします。また授業時に、コメントシートの内容について教員からフィードバックします。
・(2)期末レポートでは、 ①講義内容を正確に理解していること、 ②参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、 ③自己の見解を具体的・論理的に展

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
本授業では、以下の項目を重視して評価を行います。(1)講義内容を正確に理解していること、(2)参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、(3)自己の見解を具体的・論理的に展開していること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、高校で学んだ世界史の知識に加え、ヨーロッパ近代史の概説書を読んでおくことを推奨します。なお、毎回の授業の中で参考文献を紹介しますので、適宜参照し、授業内容の理解を深めるように心がけて下さい。本授業は、国際文化学科の「地域文化・歴史」および「国際関係研究」の領域、他学科における広い意味での歴史(社会史・文化史・政治史・経済史等)に関わる科目と関連します。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

参考文献は、毎回の授業のなかで紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化A						
教員名	竹内　敬子						
科目№	125333030	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

イギリスの歴史と文化を、いくつかのトピックを取り上げる形で学ぶ。
イギリスと日本の関係や、イギリスの現代と過去の関係にも留意しながら授業を進める。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。
1．イギリスの歴史と文化の基礎的知識を身につける。
2．過去を学ぶことで現代を相対化する力を身につける。
3．イギリスの文化・歴史を学ぶことで自国や自国史を相対化する力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに―ユニオンジャックと４つの国 イギリスは４つの国からなっています。昨年の「スコットランド独立」は、これが３つの国となる可能性をもつものでした。イギリスという国の複雑な成り立ちと４つの国の関係について学びます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第２回	イギリスの政治文化 イギリスは議会政治の母国とも言われます。イギリス議会制度の成り立ちを振り返りながら、今日のイギリスの政治についても学びます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第３回	イギリスの政治文化 イギリスは議会政治の母国とも言われます。イギリス議会制度の成り立ちを振り返りながら、今日のイギリスの政治についても学びます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第４回	イギリスの政治文化 イギリスは議会政治の母国とも言われます。イギリス議会制度の成り立ちを振り返りながら、今日のイギリスの政治についても学びます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第５回	日本とイギリス 第一次世界大戦の時、日本とイギリスは同盟国でした。が、第二次世界大戦では敵国でした。日本とイギリスの関係の歴史について学びます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第６回	日本とイギリス 第一次世界大戦の時、日本とイギリスは同盟国でした。が、第二次世界大戦では敵国でした。日本とイギリスの関係の歴史について学びます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第７回	王室の恋愛と結婚 逝去されたエリザベス女王とフィリップ殿下の長い結婚生活、ウィリアム王子とキャサリン妃のロイヤルウェディング、ヘンリー王子とメーガン妃のロイヤル・ウェディングと王室の公務からの引退と王室批判、は世界的な注目を集めました。が、過去を振り返るなら、王室における恋愛と結婚は「政治そのもの」とも言えます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第８回	王室の恋愛と結婚 逝去されたエリザベス女王とフィリップ殿下の長い結婚生活、ウィリアム王子とキャサリン妃のロイヤルウェディング、ヘンリー王子とメーガン妃のロイヤル・ウェディングと王室の公務からの引退と王室批判、は世界的な注目を集めました。が、過去を振り返るなら、王室における恋愛と結婚は「政治そのもの」とも言えます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第９回	イギリス人とスポーツ イギリスは多くの近代スポーツ発祥の地です。延期されて開催された東京オリンピック・パラリンピックは 2012 年のロンドンオリンピックの経験をかなり参考にして準備されました。それらを振り返りつつイギリス人とスポーツの関わりについて考えます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第１０回	イギリス人とスポーツ イギリスは多くの近代スポーツ発祥の地です。今年は東京で昨年から延期されたオリンピックが開催される予定です。ロンドンオリンピックの経験なども振り返りながら、イギリス人とスポーツの関わりについて考えます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第１１回	イギリス人とスポーツ イギリスは多くの近代スポーツ発祥の地です。延期されて開催された東京オリンピック・パラリンピックは 2012 年のロンドンオリンピックの経験をかなり参考にして準備されました。それらを振り返りつつイギリス人とスポーツの関わりについて考えます。	関連する文献や新聞記事を読む	60
第１２回	紅茶と帝国 イギリスと言えば「紅茶」を思い浮かべる人も少なくないでしょう。しかし、イギリスと「紅茶」の関わりは、長いイギリス	関連する文献や新聞記事を読む	60

	の歴史の中ではさほど長くありません。「紅茶」は「大英帝国」の形成とも深く関わっています		
第１３回	紅茶と帝国 イギリスと言えば「紅茶」を思い浮かべる人も少なくないでしょう。しかし、イギリスと「紅茶」の関わりは、長いイギリスの歴史の中ではさほど長くありません。「紅茶」は「大英帝国」の形成とも深く関わっています	関連する文献や新聞記事を読む	60
第１４回	まとめ	関連する文献や新聞記事を読む	60

〔授業の方法〕

講義形式で行う。
「イギリスのニュース」などの映像も適宜利用する。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（60%）およびレスポンスペーパーなどの課題（40%）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「ヨーロッパの歴史と文化Ｂ」「イギリス文化・文化史特講Ａ・Ｂ」。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

井野瀬久美編『イギリス文化史』（昭和堂）
君塚直隆『エリザベス女王　史上最長・最強のイギリス君主』（中公新書）
小関隆『イギリス 1960 年代　ビートルズからサッチャーへ』（中公新書）
近藤和彦『イギリス史十講』（岩波新書）
購入の必要はありませんが、図書館などで適宜参照すると授業の理解に役立ちます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けますが、その他、Course Power の「教員への質問」も利用してください。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化B						
教員名	野田　恵子						
科目№	125333040	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

「イギリス」という国の存在自体は、誰もが知っているであろうが、その具体的な像をつかんでいるものは少ないのではないだろうか。本講義では、イギリスの文化や歴史に関する基礎的な知識を学ぶことで、現代イギリス社会の具体的な像をつかんでもらうことを目指している。講義では、具体的なテーマごとにイギリス文化・社会の基本的な事項を概観し、イギリスの文化の特質とその背景にある歴史を見ていくことで、急激な変化のなかにある現代イギリス社会を理解する手掛かりをつかんでほしい。

〔到達目標〕

①イギリスの歴史と文化の基礎的知識を学ぶことで、現代社会の諸問題を多角的に見る視点を身につける。
②他文化を学ぶことで、自文化を相対化し、多文化理解のための基本的姿勢を身につける。
③イギリスの文化・歴史の知識を深め、受講者各自の関心領域へ応用する力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション－本講義の目的と進めかたについて	シラバスを読んでおく。	30
第２回	「イギリス人」とイギリス社会	前回の添付資料の復習	60
第３回	階級①―「階級社会」としてのイギリス	前回の添付資料の復習	60
第４回	階級②―ライフコースと階級の現在	前回の添付資料の復習	60
第５回	教育①-エリートと大衆の境界	前回の添付資料の復習	60
第６回	教育②-大衆化する社会と教育の現在	前回の添付資料の復習	60
第７回	余暇の変遷①―消費とレジャー社会の到来	前回の添付資料の復習	60
第８回	余暇の変遷②―近代スポーツの誕生	前回の添付資料の復習	60
第９回	女性とイギリス社会①―工業化と女性	前回の添付資料の復習	60
第１０回	女性とイギリス社会②―仕事と家庭の境界	前回の添付資料の復習	60
第１１回	家族と親密性―「近代家族」から「多様な家族」へ	前回の添付資料の復習	60
第１２回	マイノリティとイギリス社会①「寛容な社会」の誕生（「若者文化」・「性の解放」・「同性愛解放運動」	前回の添付資料の復習	60
第１３回	マイノリティとイギリス社会②移民と多民族共生への道	前回の添付資料の復習	60
第１４回	まとめ	これまでの講義を復習する。	60

〔授業の方法〕

▶ 配布するレジュメ（パワーポイント）を使っての講義形式で行う（オンデマンド配信）。
▶ 毎回、リスポンスペーパーで授業の理解度やテーマについての考察などを記入してもらう。
（講義内容は授業の進行度により変更することもある）

〔成績評価の方法〕

期末レポート（６0%）とリスポンス・ペーパー（４0%）で評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特に使用しない。毎回資料を配布する。

〔参考書〕
授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後にオンラインで受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化 C						
教員名	寺本　敬子						
科目№	125333050	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

この授業では、19 世紀にヨーロッパで誕生した「万国博覧会」の歴史に焦点を当て、近代におけるヨーロッパの歴史と文化の特質を政治、経済、文化、社会の側面から多角的に検討します。万博は、1851 年にイギリスの首都ロンドンで初めて開催されました。当初は、イギリス（ロンドン）とフランス（パリ）において交互に開催されましたが、特に 1870 年代から他のヨーロッパ諸国や北アメリカの都市に広がっていきます。こうした地域的な広がりに加え、万博の性格もまた時代とともに変化を遂げてきました。当初は、1851 年ロンドン万博の正式名称が「すべての国々の産業製品の大博覧会」であったように、最先端の技術および製品の展示が中心でしたが、次第に植民地の展示が拡大するなど、帝国主義的性格が強まり、国威発揚の場となっていく面があります。近年の万博は、自然や食など環境問題がテーマに挙げられるなど、人類の共通課題に向けた取り組みがなされ、継続的に開催されています。本授業は、19 世紀に開催された主要な万博を時系列に沿って検討し、近代におけるヨーロッパの社会と文化の特質および変容を明らかにすることを目指します。

〔到達目標〕

本学の Diploma Policy に基づき、主に DP1（専門分野の知識・技能）の「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・ 文化を多角的に理解する」ことを実現するために、本授業のテーマに基づき下記の点を到達目標とします。
(1)近代において万博が果たした役割を理解すること、 (2)万博というひとつの事象から、近代のヨーロッパの特質および変容を明らかにする多角的アプローチ（政治、経済、文化、社会など）を身につけること、以上の 2 点を主な目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：万国博覧会とは何か。	【予習】シラバスを読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第２回	1851 年ロンドン万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第３回	1855 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第４回	1862 年ロンドン万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第５回	1867 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第６回	1873 年ウィーン万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第７回	1876 年フィラデルフィア万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第８回	1878 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第９回	1889 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１０回	1893 年シカゴ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１１回	1897 年ブリュッセル万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１２回	1900 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１３回	1928 年国際博覧会条約の締結	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１４回	20 世紀以降の万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60

〔授業の方法〕

基本的に講義方式で行い、パワーポイント等で図版・写真・映像資料を用います。課題のテキストは適宜、印刷あるいはポータル・Web Class 上で配布します。この授業では、(1)コメントシートと(2)期末レポートを課します。

〔成績評価の方法〕

成績評価は、(1)コメントシート（40%）と(2)期末レポート（60%）の合計による相対評価となります。
・(1)コメントシートでは、①授業内容の要旨（400 字程度）と②質問・コメントを求めます。提出されたコメントシートの内容は、授業への取り組みの度合いを判定する材料とします。また授業時に、コメントシートの内容について教員からフィードバックします。

・(2)期末レポートでは、①講義内容を正確に理解していること、②参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、③自己の見解を具体的・論理的に展開して

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
本授業では、以下の項目を重視して評価を行います。 (1)講義内容を正確に理解していること、(2)参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、(3)自己の見解を具体的・論理的に展開していること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識として、高校で学んだ世界史の知識に加え、ヨーロッパ近代史の概説書を読んでおくことを推奨します。なお、毎回の授業の中で参考文献を紹介しますので、適宜参照し、授業内容の理解を深めるように心がけて下さい。本授業は、国際文化学科の「地域文化・歴史」および「国際関係研究」の領域、他学科における広い意味での歴史(社会史・文化史・政治史・経済史等)に関わる科目と関連します。具体的な関連科目としては、アメリカの歴史と文化、アジア・アフリカの歴史と文化、日本の歴史と文化などが挙げられます。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

参考文献は、毎回の授業のなかで紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化D						
教員名	松浦　義弘						
科目№	125333060	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】アンシャン=レジームとフランス革命
【概要】ヨーロッパの歴史、とくにフランスのアンシャン=レジーム（１６世紀～１７８９）とフランス革命の歴史を、大西洋世界の動きの一部として理解する。特に世論と政治など現代に繋がるような側面に重点を置いて講義したい。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の２点を目標とする。
①アンシャン=レジームとフランス革命についての知見を深める。
②より大きな歴史的文脈のなかでフランス革命を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	シラバスを読んでおく。	60
第２回	大西洋世界とフランス（1）	前回の添付資料の復習	60
第３回	大西洋世界とフランス（2）	前回の添付資料の復習	60
第４回	アンシャン・レジームの国家と社会（1）	前回の添付資料の復習	60
第５回	アンシャン・レジームの国家と社会（2）	前回の添付資料の復習	60
第６回	アンシャン・レジームの国家と社会（３）	前回の添付資料の復習	60
第７回	革命前夜の危機の諸様相	前回の添付資料の復習	60
第８回	1789 年の断絶	前回の添付資料の復習	60
第９回	立憲君主制から共和政へ	前回の添付資料の復習	60
第１０回	中間的まとめ	これまでの添付資料の復習	60
第１１回	フランス革命とユートピア	前回の添付資料の復習	60
第１２回	フランス革命と暴力	前回の添付資料の復習	60
第１３回	フランス革命の終結とその遺産	これまでの添付資料の復習	120
第１４回	課題レポートの提出	これまでの添付資料の復習	60

〔授業の方法〕

授業は、講義形式でおこなうが、必要に応じて適宜質疑応答の時間を設ける。授業の進行状況などによって、授業内容を大きく変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

授業への参加状況（３０%）、レポートないしは試験（70%））などを中心に総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
柴田三千雄『フランス革命』岩波現代文庫
山崎耕一『フランス革命』刀水書房、3000 円＋税
松浦義弘『フランス革命の社会史』山川出版社、729 円＋税
松浦義弘『ロベスピエール：世論を支配した革命家』山川出版社、800 円＋税
アントワーヌ・リルティ『セレブの誕生』名古屋大学出版会、5400 円＋税
これ以外の参考書については、授業開始後に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカの歴史と文化Ａ						
教員名	岡田　泰平						
科目№	125333070	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本授業では、アメリカ的なシステムが東・東南アジアにどのような影響力を及ぼしてきたのか、という観点から環太平洋史を学んでいきます。20 世紀が「アメリカの世紀」であったことを前提としつつ、それぞれの社会においてアメリカ的なものがどのような社会変容をもたらしたのかを考えていきます。端的に対象とするのは、日本とフィリピンを主としつつも、それに加え、韓国や中国・台湾も視野に入れます。その上で、この「アメリカの世紀」が終わった後に、21 世紀に東アジアに生きる上で何が望ましいのかを考えていきたいと思います。

〔到達目標〕

アメリカ国内というよりも、外から見たアメリカ、またはアメリカの対外関係から、アメリカ社会に対する理解を深めることが目的です。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：「アメリカの世紀」を読む	授業内で指示	60
第２回	アメリカのシステム１：資本主義	授業内で指示	60
第３回	アメリカのシステム２：自由と多文化主義	授業内で指示	60
第４回	アメリカのシステム３：軍事	授業内で指示	60
第５回	19 世紀中葉～後半のアメリカと東・東南アジア	授業内で指示	60
第６回	米西戦争とフィリピン領有	授業内で指示	60
第７回	日本とアメリカ：日露戦争と韓国併合	授業内で指示	60
第８回	1920 年代の消費主義：東アジアのモダン	授業内で指示	60
第９回	戦間期の日米関係と移民	授業内で指示	60
第１０回	アジア・太平洋戦争：日本にとっての対中国と対アメリカ	授業内で指示	60
第１１回	東アジアの様々な戦後	授業内で指示	60
第１２回	二つの戦争：朝鮮戦争とベトナム戦争	授業内で指示	60
第１３回	冷戦と同盟関係：その負の側面も含めて	授業内で指示	60
第１４回	21 世紀とアメリカ社会：モデルの喪失？	授業内で指示	60

〔授業の方法〕

基本的には講義の授業です。受講者の数にもよりますが、なるべくコメントペーパーなどにより、皆さんが意見も表明できるようにします。

〔成績評価の方法〕

期末試験によります。欠席による減点や不可は、大学の方針に合わせます。
平常点 50%
期末テスト 50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
東・東南アジア関連の科目、北米史、グローバル・サウスの歴史などを受講してきた、またはしていることが好ましい。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
初年次教育

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカの歴史と文化Ｂ						
教員名	細谷　典子						
科目№	125333080	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

アメリカ合衆国の１９世紀後半から２０世紀前半の歴史と文化を、アフリカ系アメリカ人の歴史に重点を置いて講義する。
その際、以下(1)～(3)をテーマとして設定する。
(1)　アメリカ合衆国の理念・信条と言われる「自由」と「平等」の実現に、合衆国がどのように取り組んできたのか。
(2)　アメリカ合衆国において人種、人種関係が歴史にどのような影響を与えてきたのか。
(3)　マイノリティの文化はアメリカの文化の多様性や豊かさにどのように貢献してきたのか。
これらのテーマに即して、南北戦争、奴隷解放を経て、アフリカ系アメリカ人が立場の改善や権利の獲得のために苦闘した歴史と、そのことが合衆国に与えた影響を考えていく。また、かれらの文化がアメリカの文化に与えた影響についても考察する。

〔到達目標〕

グローバル化する社会において他国の歴史や文化を学び、知識を身につけることは、重要であろう。本授業では、アメリカ合衆国の歴史や文化を知ることが第一の目的であるが、多文化・多民族・多人種社会であるアメリカの、他者に対する受容や排除、他者との対立のプロセスを学ぶことは、他者を理解し、社会の仕組みや動向を理解することにつながることから、そのような理解力を身につけることで、大学における学修の基盤となるアカデミックな能力やテクニックを養成する第一歩とすることを第二の目的として設定する。さらに、第三の目的として、その

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【予習】アメリカについて知っていること、知らないこと、関心があることを整理する。	６０
第２回	アメリカ合衆国の奴隷制をめぐる対立	【予習】アメリカ合衆国の奴隷制について、高校の世界史で学んだことを復習する。 【復習】１９世紀前半のアメリカ社会の政治的経済的対立点をまとめる。	６０
第３回	地下鉄道	【予習】前回の授業の内容から「奴隷」という立場を考える。 【復習】「地下鉄道」の仕組みを整理する。	６０
第４回	南北戦争	【予習】南北戦争について従来学んだことを復習する。 【復習】南北戦争において「奴隷制」が争点となるプロセスをまとめる。	６０
第５回	南北戦争と黒人 映画『グローリー』一部鑑賞	【復習】映画の内容から「奴隷」であった「黒人」の社会における立場、かれら自身の気持ちの変化等について考え、まとめる。	６０
第６回	再建の時代	【予習】第二次大戦終結直後の日本の状況について、調べる、あるいは身近に知っている人がいれば話を聞く。 【復習】南北戦争後の南部の状況と日本の第二次大戦後を比較し、アメリカの南部地域の状況に関する理解を深める。	６０
第７回	奴隷制に替わる新たなる差別制度の確立	【復習】南北戦争後、新たに確立された差別制度と奴隷制度を比較し、その違いを整理する。	６０
第８回	黒人運動の萌芽	【予習】差別を撤廃するための「運動」や「活動」の事例を、自らの経験(なければ調べて）からピックアップする。その参加者や目的、戦術についてまとめる。 【復習】予習においてまとめた「運動」や「活動」と、授業で扱った黒人運動を比較し、類似点、相違点を整理する。	６０
第９回	第一次世界大戦と南部から北部への黒人の「大移動」	【予習】高校の「世界史」で学んだ第一次世界大戦の内容を復習する。 【復習】大移動のアメリカ社会への影響を考察する。	６０
第１０回	ハーレム・ルネサンス	【復習】黒人文化の開花について時代背景も含めてまとめる。	６０
第１１回	大恐慌、ニュー・ディールと黒人	【予習】高校までに学んだニュー・ディール政策について、その目的や具体的な政策の内容を復習する。 【復習】大恐慌とニュー・ディールの黒人への影響について整理する。	６０
第１２回	第二次世界大戦	【予習】第二次世界大戦について高校までに学んできた内容を整理する。 【復習】アメリカ合衆国の人々にとって第二次世界大戦はどのような戦争だったのか考察する。	６０
第１３回	到達度確認テスト	【予習】授業内容を振り返り、学んできたいくつかの大きなテーマについて論じられるよう、テストに向けて準備をする。	120
第１４回	公民権運動への道：NAACP の法廷闘争の果たした役割 到達度確認テストへのコメント	【復習】授業において自身が建てた目標が達成できたか振り返る。	60

〔授業の方法〕

授業は講義中心となる。講義後に、ディスカッションを行う、あるいは感想(コメント）を書く等理解を深めるためのアクティブな作業を行う回を２～３回に１回の割合で設ける予定である。どのような形式になるかは、各回のテーマや内容によるので、その都度説明する。
積極的な質問やディスカッションへの参加は、授業への参加度という点から評価したい。

〔成績評価の方法〕

試験 50%、平常点５０％(感想提出 25%、ディスカッションへの積極的な参加及び質問等授業への貢献を含む授業への参加度２５%、)

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

授業内で指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本の歴史と文化A						
教員名	有富　純也						
科目№	125333090	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】前近代における仏教文化
【概要】一般的に、日本人で信仰を持つ人は少ないと言われています。にもかかわらず、我々は七五三で神社を詣で、チャペルで結婚式をあげ、仏式のお葬式を執り行います。それはなぜでしょうか。この講義では、仏教を歴史的に取り上げることで、日本人の「無宗教」について考えてみようと思います。

〔到達目標〕

DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。
・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・なぜ現代の日本人は、「無宗教」なのか、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】提示された参考文献をチェックする。	60
第２回	仏教伝来	【予習】インターネットなどで「蘇我氏と物部氏」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第３回	飛鳥寺の成立	【予習】インターネットなどで「飛鳥寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第４回	弥勒寺と百済大寺	【予習】インターネットなどで「百済大寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第５回	白鳳寺院の成立	【予習】インターネットなどで「白鳳寺院」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第６回	東大寺と国分寺	【予習】インターネットなどで「東大寺と国分寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第７回	授業内到達度確認レポート（中間）の提出とその解説	【予習】到達度確認レポートに備える。 【復習】到達度確認レポートを復習する。	60
第８回	空海と最澄	【予習】インターネットなどで「天台宗と真言宗」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第９回	末法思想と浄土思想	【予習】インターネットなどで「空也」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１０回	鎌倉新仏教と顕密体制論	【予習】インターネットなどで「鎌倉新仏教の開祖」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１１回	中世の禅宗と対外関係	【予習】インターネットなどで「五山」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１２回	戦国時代仏教論	【予習】インターネットなどで「蓮如」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１３回	キリスト教の伝来と江戸時代の宗教	【予習】インターネットなどで「ザビエル」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１４回	授業内到達度確認レポートの提出	【予習】到達度確認レポートに備える。 【復習】到達度確認レポートを復習する。	60

〔授業の方法〕

講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。

〔成績評価の方法〕

２回の到達度確認レポート（８０％）、数度出される課題レポート（２０％）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・なぜ現代の日本人は、「無宗教」なのか、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校で日本史を学んでおくと良いですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。ただし、中学時代の歴史を思い出しておいてください。

〔テキスト〕
プリントを配布する。

〔参考書〕
箕輪顕量『日本仏教史』春秋社、2015
その他、初回授業で提示します。
※購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本の歴史と文化B						
教員名	樋口　真魚						
科目№	125333100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

幕末から第二次世界大戦後に至る日本の歴史を、政治、外交、社会、思想、文化など、できるだけ幅広い領域に触れながら、大まかに概観することを目的とする。とくにこの授業では、政治体制の変化や対外戦争が人々の生活および文化を大きく変容させた点に注目する。一見すると複雑な近現代史を、より身近なものとして理解できるように努めたい。

〔到達目標〕

DP 1 （専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・日本近現代史に関する基礎的知識を習得する。
・過去に生きた人々の生活様式や思考方法を理解することで、現代という時代を相対化して捉えることができる。
・現代の日本が抱える諸問題について、歴史的背景を踏まえて考察することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスをよく読み、講義の概要を把握する。 【復習】授業時に紹介された文献などを確認し、授業の全体像を把握する。	60
第２回	幕末の動乱と明治維新	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第３回	自由民権運動と大日本帝国憲法	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第４回	近代的軍隊の創設	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第５回	日清戦争と「国民」の誕生	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第６回	明治期の社会と文化	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第７回	日露戦争・第一次世界大戦と大正デモクラシー	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第８回	満洲事変と軍部の台頭	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第９回	日中戦争と銃後社会	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１０回	総力戦と国民生活の変容	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１１回	大正・昭和期の社会と文化	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１２回	敗戦・占領・講和	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	60
第１４回	到達度確認テストの解説、総括と展望	【復習】これまでの授業内容を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

〔授業の方法〕

・講義形式の授業。
・初学者向けの内容とする予定である。
・CoursePower から小レポートを提出してもらうので、ノートパソコンを持参すること。一部の小レポートについては、授業の冒頭で概要を紹介する予定である。その際、当該レポートの作成者に発言を求めることもある。
・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載する。紙媒体で配布することはしない。
※CoursePower を使用するので、各自で操作方法を習得しておくこと。
（これを使いこなせていることを前提に授業を組み立てる予定で

〔成績評価の方法〕

小レポート 30%、到達度確認テスト 70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・日本近現代史に関する基礎的知識を習得したか。
・過去に生きた人々の生活様式や思考方法を理解することで、現代という時代を相対化して捉えることができたか。
・現代の日本が抱える諸問題について、歴史的背景を踏まえて考察することができたか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

とくになし。

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・太平洋の歴史と文化A						
教員名	樋口　真魚						
科目№	125333110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

近代国家への道を歩み始めた明治期の日本は日清戦争を経て、台湾を植民地とした。こうして「帝国」となった日本は続いて朝鮮を植民地化し、さらには南洋諸島や満洲を自らの勢力圏に入れ、第二次世界大戦期にはアジア・太平洋地域の大半を占領するに至った。この地域の歴史と文化については、日本の存在を抜きにして語ることはできないだろう。したがって、この授業では、おもに 19 世紀半ばから 20 世紀後半までの時期を対象として、日本がアジア・太平洋地域の国々とどのように関わってきたのかを検討する。そのうえで、これらの地域の人々が「日本」や「日本人」に対してどのような眼差しを向けていたのかについても併せて考察したい。

〔到達目標〕

DP 1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・アジア・太平洋の歴史と文化に関する基礎的知識を習得する。
・日本とアジア太平洋地域の関わりについて、同時代の世界史の動向を踏まえつつ説明することができる。
・異文化交流の課題を多角的な視点から考察することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスをよく読み、講義の概要を把握する。 【復習】関連する文献などを確認する。	60
第２回	近世日本とアジア・太平洋地域	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第３回	「西洋の衝撃」から明治維新へ	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第４回	日清韓関係の変容と日清・日露戦争	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第５回	韓国併合と日本の植民地政策	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第６回	辛亥革命と第一次世界大戦	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第７回	第一次世界大戦後のアジア・太平洋地域	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第８回	満洲事変と「満洲国」	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第９回	日中戦争からアジア・太平洋戦争へ	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１０回	「大東亜共栄圏」の幻影	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１１回	海を渡った日本人たち	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１２回	第二次世界大戦後のアジア・太平洋地域	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	120
第１４回	到達度確認テストの解説、総括と展望	【復習】これまでの授業内容を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

〔授業の方法〕

・講義形式の授業。
・初学者向けの内容とする予定である。
・CoursePower から小レポートを提出してもらうので、ノートパソコンを持参すること。一部の小レポートについては、授業の冒頭で概要を紹介する予定である。その際、当該レポートの作成者に発言を求めることもある。
・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載する。紙媒体で配布することはしない。
※CoursePower を使用するので、各自で操作方法を習得しておくこと。
（これを使いこなせていることを前提に授業を組み立てる予定で

〔成績評価の方法〕

小レポート 30%、到達度確認テスト 70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に注目して、その達成度により評価する。
・アジア・太平洋の歴史と文化に関する基礎的知識を習得したか。
・日本とアジア太平洋地域の関わりについて、同時代の世界史の動向を踏まえつつ説明することができたか。
・異文化交流の課題を多角的な視点から考察することができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

とくになし。

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・太平洋の歴史と文化Ｂ
教員名	有富　純也

科目№	125333120	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】中華世界における歴史と文化
【概要】前近代の中国を中心に、その周辺諸国にも目を配りながら、さまざまな歴史・文化事象について検討していきます。外交や仏教などについてが中心となりますが、アイドル文化についても触れたいと思います。

〔到達目標〕

DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。
・前近代の中国の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・東アジアのさまざまな文化の歴史を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】中国史における王朝の変遷を確認する。	60
第２回	中国の前近代史１－殷から周へ	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第３回	中国の前近代史２ー漢代と天命思想	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第４回	中国の前近代史３ー魏晋南北朝時代から隋唐へ	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第５回	中国の前近代史４－10 世紀の東アジア	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第６回	中国の前近代史５－明と倭寇	予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第７回	授業内到達度確認テスト（中間）とその解説	【予習】到達度確認テストに備える。 【復習】到達度確認テストを復習する。	60
第８回	K-POP と現代韓国社会／東アジアアイドル文化の行方	【予習】インターネットで韓国のアイドル文化などについて知っておく。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第９回	仏教の道１―インドから中国へ	【予習】高校世界史の教科書で仏教の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１０回	仏教の道２―トルファンとはどこか？	【予習】インターネットなどでシルクロードについて調べる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１１回	仏教の道３―三蔵法師の旅	【予習】インターネットなどで三蔵法師について調べる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１２回	大航海時代とアジア・太平洋	【予習】高校世界史の教科書で大航海時代の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１３回	中国の前近代史５－清朝とその文化	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習し、テストに備える。	60
第１４回	授業内到達度確認テスト（期末）	【予習】到達度確認テストに備える。 【復習】到達度確認テストを復習する。	60

〔授業の方法〕

講義形式です。皆さんの理解度によっては、授業内容を大幅に変更する可能性があります。また講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。

〔成績評価の方法〕

２回の到達度確認テスト（４０％×２）、しばしば出される課題レポート（２０％）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・前近代の中国の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・東アジアのさまざまな文化の歴史を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校で世界史を学んでおくと良いですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
堀敏一『中国通史』講談社学術文庫、2000
岸本美緒『中国の歴史』ちくま学芸文庫、2015
岡本隆司・箱田恵子編『ハンドブック近代中国外交史』ミネルヴァ書房、2019
氣賀澤保規『則天武后』講談社学術文庫、2016
金成＝『K－POP』岩波新書、2018
馬場紀寿『初期仏教』岩波新書、2018
石井公成『東アジア仏教史』岩波新書、2019
藤善眞澄『隋唐時代の仏教と社会』白帝社、2004
船山徹『仏典はどう漢訳されたのか』岩波書店、2013
※購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・アフリカの歴史と文化A						
教員名	佐々木　紳						
科目№	125333130	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】
中東前近代史概説
【概要】
この授業では、アジア・アフリカの歴史と文化、とくに中東地域（西アジア・北アフリカ）の歴史と文化について、およそ 18 世紀までの前近代史の概説をおこなう。前半は 15 世紀までの概説、後半は 16 世紀から 18 世紀までの概説である。必要に応じて、南アジア・中央アジア・東南アジア・東アジアなど、中東以外の地域の歴史と文化にもふれる。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を達成すべく、以下の到達目標を設ける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに前近代の中東地域の歴史と文化に関する基礎知識を身につける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに前近代の中東地域の歴史と文化に関する最新の研究動向にふれる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・授業期間前半の紹介と導入（授業期間全体のオリエンテーションも含みます。） ・「中東」とはなにか？／どこか？	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第２回	中東古代史としての古代オリエント史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第３回	古代末期の中東とイスラーム	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第４回	中東地域史のアフロ=ユーラシア的展開	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第５回	「中世」か、「中期」か	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第６回	世界システム論のなかの中東地域史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第７回	境域世界論のなかの中東地域史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第８回	授業期間前半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の前半を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	60
第９回	近世イスラーム帝国の競演（1）：ティムール朝とムガル帝国	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１０回	近世イスラーム帝国の競演（2）：オスマン帝国の興隆	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１１回	近世イスラーム帝国の競演（3）：オスマン帝国の近世	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１２回	近世イスラーム帝国の競演（4）：近世イスラーム帝国としてのサファヴィー朝	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１３回	近世から近代へ、そして現代へ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１４回	授業期間後半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の後半および全体を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	60

〔授業の方法〕

・講義形式で進める。
・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらう。
・授業期間の中盤と終盤に、それぞれ課題レポートを提出してもらう。

〔成績評価の方法〕

・授業への取り組み（40%）、課題レポート（60%）
・リアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。
・課題レポートは、3000 字程度のものを 2 回課す予定である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
到達目標の欄に掲げた項目が達成できたかどうかを成績評価の主たる基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

・関連科目：「アジア・アフリカの歴史と文化 B」では、この授業の後編にあたる中東近現代史を扱う。

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

・後藤明『イスラーム世界史』〈角川ソフィア文庫〉KADOKAWA、2017 年、ISBN 9784044002640
・佐藤次高『イスラーム世界の興隆』〈中公文庫〉中央公論新社、2008 年、ISBN 9784122050792
・永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』〈中公文庫〉中央公論新社、2008 年、ISBN 9784122050303
・大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年、ISBN 9784000802017

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・アフリカの歴史と文化B						
教員名	佐々木　紳						
科目№	125333140	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】
中東近現代史概説
【概要】
この授業では、アジア・アフリカの歴史と文化、とくに中東地域（西アジア・北アフリカ）の歴史と文化について、およそ 18 世紀末以降の近現代史の概説をおこなう。授業期間の前半は 18 世紀末から 20 世紀初頭までの概説、後半は 20 世紀から 21 世紀初頭までの概説をおこなう。必要に応じて、南アジア・中央アジア・東南アジア・東アジアなど、中東以外の地域の歴史と文化にもふれる。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を達成すべく、以下の到達目標を設ける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに近現代の中東地域の歴史と文化についての基礎知識を身につける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに近現代の中東地域の歴史と文化についての最新の研究動向にふれる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業期間前半の紹介と導入（授業期間全体のオリエンテーションもおこないます。）	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第２回	中東近現代史の始まり	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第３回	中東近代史のなかのオスマン帝国（1）：オスマン帝国の近代化	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第４回	中東近代史のなかのオスマン帝国（2）：オスマン帝国と近代世界	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第５回	中東近代史のなかのイラン（1）：グレート・ゲームと「メタ・マクロな国家」	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第６回	中東近代史のなかのイラン（2）：史料から見たガージャール朝	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第７回	中東近代史のなかのアラブ地域	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第８回	授業期間前半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の前半を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	60
第９回	中東現代史の形成と展開（1）：「セーヴル体制」の出現	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１０回	中東現代史の形成と展開（2）：自存自立型の国家と社会	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１１回	中東現代史の形成と展開（3）：委任統治型の国家と社会	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１２回	中東現代史から現在へ（1）：パレスチナ問題と中東戦争	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１３回	中東現代史から現在へ（2）：アルカーイダからイスラーム国へ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１４回	授業期間後半の総括と確認（授業期間全体の総括と確認もおこないます。）	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の後半および全体を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	120

〔授業の方法〕

・講義形式で進める。
・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらう。
・授業期間の中盤と終盤に、それぞれ課題レポートを提出してもらう。

〔成績評価の方法〕

・授業への取り組み（40%）、課題レポート（60%）
・リアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みを評価する材料とする。
・課題レポートは、3000 字程度のものを 2 回課す予定である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
到達目標の欄に掲げた項目が達成できたかどうかを成績評価の主たる基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

・関連科目：「アジア・アフリカの歴史と文化 A」では、この授業の前編にあたる中東前近代史を扱う。

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

・後藤明『イスラーム世界史』〈角川ソフィア文庫〉KADOKAWA、2017 年、ISBN 9784044002640
・ユージン・ローガン（白須英子訳）『アラブ 500 年史：オスマン帝国支配から「アラブ革命」まで』（上下巻）白水社、2013 年、ISBN 9784560083284
・新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001 年、ISBN 9784622033882
・吉村慎太郎『イラン現代史：従属と抵抗の 100 年』有志社、2011 年、ISBN 9784903426419
・酒井啓子『9・11 後の現

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

・ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古典文化研究Ｂ						
教員名	有富　純也						
科目№	125333160	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】前近代における神祇信仰
【概要】一般的に、日本人で信仰を持つ人は少ないと言われています。にもかかわらず、我々は七五三で神社を詣で、チャペルで結婚式をあげ、仏式のお葬式を執り行います。それはなぜでしょうか。この講義では、神祇信仰あるいは神道を歴史的に取り上げることで、日本人の「古典文化」について考えてみようと思います。

〔到達目標〕

DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。
・前近代の日本神道の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・日本人にとって「古典文化」とは何か、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス～古典文化とはなにか	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】提示された参考文献をチェックする。	60
第２回	日本神話の成立	【予習】インターネットなどで、日本の神さまを調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第３回	神祇信仰の成立と沖ノ島	【予習】インターネットなどで「沖ノ島」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第４回	伊勢神宮の成立	【予習】インターネットなどで「伊勢神宮」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第５回	大嘗祭とはなにか	【予習】インターネットなどで「大嘗祭」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第６回	律令国家と神社	【予習】インターネットなどで「律令国家」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第７回	授業内到達度確認テスト（中間）とその解説	【予習】到達度確認レポートに備える。 【復習】到達度確認レポートを復習する。	60
第８回	神仏習合と御霊信仰	【予習】インターネットなどで「神仏習合」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第９回	菅原道真の人生	【予習】インターネットなどで「菅原道真」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１０回	神国日本	【予習】インターネットなどで「神国思想」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１１回	一宮体制と二十二社体制	【予習】インターネットなどで「一宮」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１２回	伊勢神道と吉田神道	【予習】インターネットなどで「伊勢神道」「吉田神道」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１３回	豊臣秀吉の神格化	【予習】インターネットなどで「豊臣秀吉」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１４回	授業内到達度確認テスト（期末）とまとめ	【予習】到達度確認レポートに備える。 【復習】到達度確認レポートを復習する。	60

〔授業の方法〕

講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。

〔成績評価の方法〕

２回の到達度確認レポート（８０％）、数度出される課題レポート（２０％）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・なぜ現代の日本人は、「古典文化」とは何か、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校で日本史を学んでおくと良いですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。ただし、中学時代の歴史を思い出しておいてください。

〔テキスト〕
プリントを配布する。

〔参考書〕
岡田荘司ほか『日本神道史（改定増補版）』吉川弘文館、2021
その他、初回授業で提示します。
※購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究A						
教員名	加藤　裕人						
科目№	125333170	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、主に朝鮮半島の歴史を古代から近代まで通史的に扱う。
近年、世界規模の国際化が進むなかで日韓両国の交流は飛躍的に活発化した。すでに現代の社会では、さまざまな場面において韓国・朝鮮人との対話は不可避の問題であり、彼らと円滑な関係を築くためには韓国・朝鮮の歴史に対する理解が必須の要件である。そこで受講生には、本講義で朝鮮の歴史を通史的かつ体系的に学び、国際化著しい現代の社会で活躍していくための基礎的な知識を修得してもらいたい。

〔到達目標〕

韓国・朝鮮の歴史に対する基礎的な知識を修得する。
韓国・朝鮮の歴史に関する言説の正誤を弁別できる。
韓国・朝鮮人と日本人との歴史に対する意識や認識の差異について理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス、古朝鮮と高句麗・三韓	予習：シラバスを確認し、講義内容を把握しておく。 復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第2回	三国の鼎立	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第3回	統一新羅と渤海	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第4回	後三国の動乱と高麗王朝の成立	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第5回	高麗王朝の興隆	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第6回	武臣政権と事元期高麗	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第7回	到達度確認テスト、解説	予習：テストに備えてこれまでの学習内容を再度確認する。	60～120 分
第8回	朝鮮王朝の成立と国家体制	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第9回	朝鮮前～中期の政治動向と対外危機	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第10回	朝鮮後期の社会	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第11回	開港期の朝鮮	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第12回	日清・日露戦争から韓国併合へ	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第13回	武断政治と三・一運動	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第14回	文化政治と戦時動員体制	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分

〔授業の方法〕

授業は基本的に講義形式で進めていく。
授業では適宜配付物を使用する。
なお、上記の予習・復習時間はあくまでも目安となる。受講者は各々の理解度に応じて適宜取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

平常点 60%（到達度確認テスト 30%を含む）、学期末試験 40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
また、主に以下の３点を評価の基準とする。
①韓国・朝鮮の歴史に対する基礎的な知識を修得しているか。
②韓国・朝鮮の歴史に関する言説の正誤を弁別できるか。
③韓国・朝鮮人と日本人との歴史に対する意識や認識の差異について理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
『韓国朝鮮の歴史と文化　―古代から現代まで―』、須川英徳・三ツ井崇、放送大学教育振興会、3850 円、ISBN：978-4-595-32256-3。
ただし、やや高価なため、購入を推奨するが、必ずしも購入する必要はない。
その他、授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後、適宜教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究Ｂ						
教員名	水口　良樹						
科目№	125333180	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

ラテンアメリカは、その豊かで多様な自然と同様、文化的にも多様性を内包した地域だ。しかし、同時に征服期から植民地支配期を経て新自由主義の隆盛する現代に至るまでの負の遺産が、社会の分断と不平等を再生産し続けている地域でもある。ラテンアメリカは、その収奪と暴力の歴史の中で、自分たちの身は自分たちで守らなければならないということ、そして分断された社会の中で連帯していくことが力に対抗する術であることを学んできた。そんな今ある社会秩序、世界秩序に異議申し立てをし、自分たちが自分自身の生をいかに取り戻すことができるかという実践を繰り広げる民衆の行動が、国際社会に与えてきた影響は決して少なくない。この授業では、ラテンアメリカの歴史をまず前半に概観した上で、草の根の実践と声を具体的に見ていきながら人が生きる上での「尊厳」とはなにかを考えていく。また各回テーマとなるラテンアメリカの名曲も鑑賞していく。

〔到達目標〕

ラテンアメリカが抱える諸問題とそれに対する社会運動や民衆文化といった民衆の多様な実践について説明することができるようになる。また彼らが抱える問題について、より広い視野で他の問題と関連付けながら自分自身の考えを述べ、それをもとに議論することができるようになることを目指す。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンスとイントロダクション	小レポート作成・リアクションペーパー作成	90
第２回	先スペイン期の社会	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第３回	植民地支配の確立	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第４回	抵抗の手法	リアクションペーパー作成	60
第５回	独立と国民国家の模索	リアクションペーパー作成	60
第６回	米国覇権主義と革命	リアクションペーパー作成	60
第７回	社会暴力と移行期正義	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第８回	新自由主義の実験場	リアクションペーパー作成	60
第９回	社会運動と民主主義	リアクションペーパー作成	60
第１０回	マチスモとフェミニズム	リアクションペーパー作成	60
第１１回	文学と詩	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第１２回	音楽と社会(ペルーを事例に) Ⅰ	リアクションペーパー作成	60
第１３回	音楽と社会(ペルーを事例に) Ⅱ	リアクションペーパー作成・期末レポート作成準備	120
第１４回	異なる世界の見方(先住民の世界観)	リアクションペーパー作成・期末レポート作成準備	120

〔授業の方法〕

・授業は対面講義形式で行う。ただし状況に応じて遠隔授業を取り入れる場合がある。
・履修希望者は第１回授業に必ず参加すること（ガイダンスを含むため）。
・授業内で映画や音楽ビデオを視聴したり、文章を読んでくる必要がある回がある。
・授業ごとにリアクションペーパーを提出する必要がある。
・小レポートを３回提出する必要がある。
・期末試験にかわり期末レポートを提出する必要がある。

〔成績評価の方法〕

・授業ごとのリアクションペーパー　28%
・小レポート　36%
・期末レポート　36%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

(購入の必要なし)
清水透『ラテンアメリカ五〇〇年』岩波現代文庫
高橋均・網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』中公文庫
石橋純(編)『中南米の音楽』東京堂出版
そのほかの参考文献や資料は、授業内で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

メールアドレスは配付資料にて周知します。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究Ｃ						
教員名	崔　境眞						
科目№	125333190	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業ではチベットの宗教文化について考える。チベットの仏教宗派や思想などを概観し、関連する文化を紹介する。

〔到達目標〕

チベットの宗教・歴史・文化の特徴を理解することができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業紹介、「チベット」について	授業中にノートを取る。	90 分
第２回	チベットの宗教（１）	授業中にノートを取る。	90 分
第３回	チベットの宗教（２）	授業中にノートを取る。	90 分
第４回	チベットの宗教（３）	授業中にノートを取る。	90 分
第５回	チベットの宗教（４）	授業中にノートを取る。	90 分
第６回	ダライラマ（１）	授業中にノートを取る。	90 分
第７回	ダライラマ（２）	授業中にノートを取る。	90 分
第８回	東アジアのシャーマニズム	授業中にノートを取る。	90 分
第９回	チベットのパンテオン（１）	授業中にノートを取る。	90 分
第１０回	チベットのパンテオン（２）	授業中にノートを取る。	90 分
第１１回	チベット仏教美術（１）	授業中にノートを取る。	90 分
第１２回	チベット仏教美術（２）	授業中にノートを取る。	90 分
第１３回	日本のチベット学	授業中にノートを取る。	90 分
第１４回	ラムリム―悟りへの道しるべ	授業中にノートを取る。	90 分

〔授業の方法〕

主に講義を行うが、必要に応じて映像資料を視聴・解説する。期末に課題レポートがあるので毎回の授業のノートを整理しておく必要がある。課題レポートは記述内容の正確さ、および情報に対する理解や感想の独創性によって評価する。レポートの主題は初回の授業中に通知する。

〔成績評価の方法〕

授業中の態度、出席：５０％
期末レポート５０％

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
なし

〔テキスト〕
毎回の授業前に CoursePower において授業資料を公開する。

〔参考書〕
授業中に提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後にメールで受け付けます。メールアドレスは初回の授業中に伝えます。

〔特記事項〕
該当しない

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究D						
教員名	草野　佳矢子						
科目№	125333200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

1917 年革命以前のロシアの歴史を、特に国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題に焦点を当てて、講義する。適宜、関連映像の視聴も行う。

〔到達目標〕

帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて、西ヨーロッパとの比較も含めて説明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ロシア帝国成立前のロシア① ・キエフ・ルーシの成立と分解、モスクワの勃興と拡大。	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握しておく。 復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第２回	ロシア帝国成立前のロシア② ・モスクワ・ロシアの特徴、モスクワ・ロシアの政治文化の崩壊。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第３回	ピョートル 1 世の改革①：西欧化の開始、大北方戦争、統治理念の西欧化。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第４回	ピョートル 1 世の改革②：中央・地方の行政改革、社会の再編。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第５回	女帝たちの時代：エカチェリーナ 1 世～ピョートル 3 世。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第６回	エカチェリーナ 2 世の統治：啓蒙思想、プガチョフの乱、地方行政改革など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第７回	アレクサンドル 1 世とニコライ 1 世：アレクサンドル 1 世の初期の改革、デカブリストの乱とニコライの即位、法律と官僚制の整備など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第８回	アレクサンドル 2 世と大改革①：大改革の前提、農奴制廃止、ゼムストヴォ制度の導入など	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第９回	アレクサンドル 2 世と大改革②：都市自治制度の改革、地方官僚制、司法改革など	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１０回	革命運動と政治改革の試み：革命運動の展開、政府内の政治改革の試み。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１１回	アレクサンドル 3 世時代のロシア：専制体制の安定化、農民統治制度の改革、工業化とその影響など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１２回	ニコライ 2 世の治世　1894-1904 年：ゼムストヴォ・リベラル運動、労働運動、革命運動、地方統治問題など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１３回	第一次ロシア革命：「自由主義の春」、血の日曜日事件、立憲制への移行。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１４回	1906 年体制下のロシア：第一ドゥーマ、ストルイピン改革、2 月革命。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60

〔授業の方法〕

授業は配布プリントに沿って、講義を中心に進めます。
授業後、リアクションペーパー（今回の授業で学んだこと、印象に残ったことなど、250 字以上）をコースパワーにて提出してください。
上に示された予復習時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（3 題程度出題します。A４　1・5～2 枚程度、コースパワーに提出）　　70%
授業への取り組み（リアクション・ペーパーの提出・内容）30%
＊リアクションペーパーの提出が 10 回に満たない場合、成績評価の対象としません。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・近代ロシア史の流れ、ロシアの国家・社会の特徴、重要な事件の歴史的な意義などについて、授業内容を理解しているかに着目して評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校世界史程度の西洋史（ロシア史を含む）の知識があること。

〔テキスト〕

特定の教科書は用いません。

〔参考書〕

『ロシアを知る事典』、平凡社
世界歴史体系『ロシア史 1～3』、山川出版
世界各国史『ロシア史」山川出版社
藤本和貴夫他編著『ロシア近現代史』、ミネルヴァ書房
栗生沢猛夫『図説　ロシアの歴史』　河出書房新社
土肥恒之『図説　帝政ロシア』　河出書房新社
土肥恒之『ロシア・ロマノフ王朝の大地』講談社学術文庫
マルク・ラエフ（石井規衛訳）『ロシア史を読む』名古屋大学出版会
三浦清美『ロシアの思考回路』
その他に関しては、レジュメに記載します。
*参考書は購入の必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。または、コースパワーの質問機能を利用してください。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパ文化・文化史特講Ｂ						
教員名	野田　恵子						
科目№	125333220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、「同性愛」の歴史をたどることでイギリスにおけるセクシュアリティとジェンダーの歴史を見ていく。「同性愛」に対する社会の態度、その文化のセクシュアリティやジェンダーに関する認識のありようが端的に表れる。現在では「同性婚」が合法化されている国は少なくないが、イギリスでどのような歴史的経緯のもとに「同性婚」が認められるようになったのかを見ることで、日本での「同性愛」の社会的包摂のありようを考える手がかりにもしてほしい。

〔到達目標〕

①イギリスの「同性愛」やジェンダー・セクシュアリティに関する歴史と文化の基礎的知識を学ぶことで、現代社会の諸問題を
　多角的に見る視点を身につける。
②他文化を学ぶことで、自文化を相対化し、多文化理解のための基本的姿勢を身につける。
③イギリスの文化・歴史の知識を深め、受講者各自の関心領域へ応用する力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション－本講義の目的と進めかたについて	シラバスを読みテーマについて理解しておく。	30
第２回	キリスト教と「同性愛」－「ソドミー」という罪	前回の添付資料の復習	60
第３回	「ホモソーシャルな関係」と「同性愛」	前回の添付資料の復習	60
第４回	ヴィクトリア朝とセクシュアリティ①	前回の添付資料の復習	60
第５回	ヴィクトリア朝とセクシュアリティ②	前回の添付資料の復習	60
第６回	ヴィクトリア朝とセクシュアリティ③	前回の添付資料の復習	60
第７回	中間のまとめ	これまでのトピックの講義内容や文献などを読み、整理する。	60
第８回	性の医療化と「同性愛者」の誕生	前回の添付資料の復習	60
第９回	女性同性愛の歴史①－「ロマンティックな友情」	前回の添付資料の復習	60
第１０回	女性同性愛の歴史②－女性同性愛者の誕生	前回の添付資料の復習	60
第１１回	性科学と「同性愛解放運動」への道	前回の添付資料の復習	60
第１２回	「寛容な社会」と「同性愛」の脱犯罪化	前回の添付資料の復習	60
第１３回	「同性婚」の合法化と変容する「家族」	前回の添付資料の復習	60
第１４回	まとめ	これまでの講義を復習する。	60

〔授業の方法〕

▶　配布講義資料を使っての講義形式で行う（適宜、テーマに基づく映像資料も利用する）。
▶　毎回、リスポンスペーパーで授業の理解度やテーマについての考察などを記入してもらう。
　（講義内容は授業の進行度により変更することもある）

〔成績評価の方法〕

期末レポート（60%）とリスポンス・ペーパー（40%）で評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特に使用しない。

〔参考書〕
授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパ文化・文化史特講D						
教員名	天沼　春樹						
科目№	125333240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

ヨーロッパ諸国の文化事項、時代とそれぞれの国の特色、そしてまたヨーロッパ全体との関りを意識しながら紹介・考察・分析していく。その際、①文芸②美術③音楽④そのほか文化的事項から毎回トピックをとりあげ、紹介解説し、その文化現象の内容を知るとともに、それにひそむ特性ならびに国民性を読み解いていく。③さらには、それぞれの関連性として、その文化的影響についても考察していきたい。ヨーロッパの諸国は、それぞれ文化的にも政治的にも関りが強く、単独で語られるものではない。人の流れ、物のながれ、ひいては紛争・戦争などという様々な交流がある。そんな、ダイナミックな流れのなかで、個々の文化現象のもつ意味を考えたい。
ひいては、人間の活動の総体が「文化」であるわけで、ただ芸術の領域にとどまらず、宗教をはじめ、様々な「事件・事故」のななから、テーマをとりあげていくつもりである。2023 年度には、これまでとはちがった角度で考察したり、考える姿勢を提案していきた。

〔到達目標〕

ヨーロッパ諸国はそれぞれの国や地域で異なる特色がある。、その総体としてヨーロッパを眺める視野を養っうとともに、それぞれの国の文化にも着目していく、。たとえば、いわゆるフランス人、ドイツ人、イギリス人といった国民性はどのように現れるのか？　その国民性とは？　どのような要因で生まれるのか？問いかけはいやますばかりだろう。政治・経済からはじめて、個々の歴史上の出来事も、それらの国民性に由来するのか否か。たとえば、なぜ宗教改革はドイツで起こったのか？　マルチン・ルターのプロテスト精神は、ドイツ人の気質なのか？常

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ヨーロッパ諸国の文化概観。地図をながめながら、考える。	ヨーロッパといわれる地域にちらばる諸国を大国だけでなくすべて網羅してみよう。	60 分
第２回	ヨーロッパ人と海①地中海世界。他の大海とはちがった、穏やかで移動しやすい内海であった。	地中海。大西洋、または北海といった海洋とヨーロッパ諸国の文化のかかわりはどんなものか？	60 分
第３回	ヨーロッパ人と海②大西洋	大航海時代の意味するもの。ヨーロッパ人は、どこへむかったのか	60 分
第４回	戦争の文化史①	古代・中世のヨーロッパ大陸での戦争、あるいは紛争	60 分
第５回	戦争の文化史② 銃火をまじえるだけが戦争ではない!	古代・中世のヨーロッパ大陸での戦争と紛争の記録。民族と文化の対立。なぜ人は「異教徒を殺すのか？根本的疑問を゜もとう。	60 分
第６回	ヨーロッパ芸術史①	アルタミラ壁画は芸術か？　記録と記憶。そして、美の発見へ。	60 分
第７回	ヨーロッパ芸術史②	古典的文芸。神話から伝説、伝説から国民的物語へ。	60 分
第８回	ヨーロッパ芸術史　音楽	なぜドイツは音楽家を輩出したのか？いや、それは痛切で、それぞれの国に個性ある音楽家が存在しのか？	60 分
第９回	ヨーロッパ文学の誕生？演劇史の誕生。	シェ―クスピアが代表？　ほんとは知らないシェークスピア。芸術家に保護者・パトロンがひつようだった。	60 分
第１０回	ヨーロッパの思想・哲学	ソクラテス・プラトンからばめて、ヴィトゲンシュタインまで一気に語るけれど、哲学てなんだろう？	60 分
第１１回	ヨーロッパ人の発明ろ発見史案内。そのとき彼は「ユリイカ」と叫んだ!!	「天動説から地動説へ!万有引力」の発見からはじまる世界観の変化。宗教から科学へ。	60 分
第１２回	独裁者列伝。シーザーからはじまって、ヒトラー、ムッソリーニにいたる独裁者たち	現代にいたるまで、強権をふるう独裁者は存在するが、彼らが生まれるのはなぜなのか？	60 分
第１３回	現代のヨーロッパ諸国概観	ヨーロッパといっても、それらの国や国民にはそれぞれの文化的特色がある。	60 分
第１４回	ルートヴィッヒ・ヴィゲンシュタインはかく語りき。	「語りえぬものには沈黙せねばならない」けれども、たとえまちがっていようとも、自分で考えることはいいことだ。哲学とはなにか？	60 分

〔授業の方法〕

講義と資料配布による。ただし、解説・説明・蘊蓄だけではなく、語られた内容から諸君が何事か疑問や知識欲を喚起してくれるようにしたい。いわゆる「産婆術」的語りをしたい。知識とは、何事がを自分で考え始めるきっかけにすぎないのである。データバンクを作るのが仕事ではなく、「考える頭」(ふつうはそうなのだが、たいていは考えたと思い込んでいることのほうがおおいのだ。他人の説は他人の考えた結果にすぎないのだから、そこから自力でなにごとか考え出すことが大切なのではないか」と思っている。ドイツ語では、インテリのことを「考える

〔成績評価の方法〕

レポートによる。資料の引き写しではなく、自分自身の考察を重要視します。
①平常点(授業への参加状況や宿題の提出状況。
②レポート提出・内容評価
③自主的調査・研究姿勢。(質問や教師からの問いかけへリスポンス状況)

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

紀元前から現代にいたる歴史年表のようなものを参照できるようにしておいてほしい。時代の流れ、変化、変革期といったトピックに気が付くように「年表を読む」ことも勉強になります。

〔テキスト〕

テキストはとくにさだめない。毎回資料を配布する。

〔参考書〕

その都度、参考になるものがあれば、提示して推薦します。図書館をもっと活用してほしい。百科事典だって使い方で勉強になります。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。または、授業終了後に教室で受け付けます。またはポータルサイトから。質問ペーパーなども順次用意して渡しておくようにしましょう。先生へのオテガミですね。

〔特記事項〕

固定観念や「～といわれている」的な先入観をもたず、「なぜなんだろう」という素朴な発想で問いかけていく姿勢が大事。まあ、といちいち聞かなくても、自分で深堀りしていくことができる人たちなのですから。ただ、～といわれているという通念を鵜呑みにしないことです。だれひとりジュリアス・シーザーにあった人なんかいないのです。またアドルフ・ヒトラーの演説を日本人でドイツ語で聞いたひとだってもういないわけで、彼がどんなこといってドイツ人の心をとらえていったか実感しがたいです。ただし、あのような扇動化は、大なり小なりいるもの

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカ文化・文化史特講Ｂ						
教員名	細谷　典子						
科目№	125333260	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

2020 年、コロナ禍のアメリカ合衆国では、人種差別や経済格差が顕在化しました。COVID19 の感染率の高さ、警官によるアフリカ系アメリカ人への暴力と BLM（Black Lives Matter）運動の高まり、大統領選挙をめぐる一連の動きを見ると、公民権運動から 50 年を経た今も、人種主義が決して過去の問題ではないことを実感せざるをえません。さらにアジア系に対するヘイト等、特定の人種やエスニシティに対する攻撃や差別も記憶に新しいところです。
本授業では、上記のような現代アメリカの時事的な問題の背景を歴史的な観点から学ぶこと、そして、そこから社会を考察する視点を養成していくことをテーマとします。

〔到達目標〕

アメリカ合衆国は、建国時に「自由」と「平等」理念を掲げながら、奴隷制や人種差別、移民制限等が常に国家の問題として取り沙汰され、その矛盾の解消のために努力を続けてきました。現在も未だその途上にあると言ってよいと思います。
この授業を履修することで、まずは、アメリカ合衆国の歴史と、それを解決しようと歩んできた道のりを理解するに足る十分な知識を得ることを目標とします。その得た知識を、みなさんの経験や問題意識、他の授業で学んでいる知識とすり合わせることで、多文化社会構築のプロセスにあるアメリカ現代社会、ひい

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習のし方を説明する。 「多からなる一」の追求(序章)	【予習】 序章を熟読。	60
第２回	移民国家アメリカン条件と変容(1 章) ・「移民の国」の理念とナショナリズムを理解する。	【予習】 第１章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第３回	移民国家アメリカン条件と変容(1 章) ・ポスト公民権時代の「移民の国」と文化的多様性の世紀を把握する。	【予習】 第１章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第４回	アメリカにおける人種主義の変容(1)(2 章) ・アメリカの人種主義、奴隷制、人種隔離制度について理解する。	【予習】 第２章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第５回	アメリカ人における人種主義の変容(1)(2 章) ・公民権運動の歴史とその成果、波及効果を理解する。	【予習】 第２章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第６回	アメリカにおける人種主義の変容(2)(3 章) ・ポスト公民権期から現代に至る人種主義を理解する。	【予習】 第３章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第７回	「単一のアメリカ」への同化(4 章) ・「人種のるつぼ」等、同化論を理解する。	【予習】 第４章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第８回	文化多元主義とエスニシティ(5 章) ・文化多元主義を理解する。	【予習】 第５章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第９回	アメリカ型多文化主義の成立と展開(6 章) 多文化主義の始まりと運動の拡がりを理解する。	【予習】 第６章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第１０回	変容する多文化主義(7 章) ・多文化主義を統一と考えるのか、分裂と考えるのか、双方の主張を理解する。	【予習】 第７章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第１１回	映画『セリーナ』鑑賞	【予習】 ヒスパニック系の人々について調べる。	60
第１２回	これまでの授業の内容や映画の内容を踏まえ、多文化主義について、グループディスカッションをする。	【予多文化主義について議論するための準備。多文化主義の論点とその根拠を把握し、自分の意見をまとめる。 。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第１３回	教科書 8 章、多様性時代における「多からなる一」と 9 章、「多からなる一」の破綻と修復を概観し、講義内容をまとめる。	【予習】 第８章と 9 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第１４回	到達度確認テスト	【予習】 テストの準備	180

〔授業の方法〕

授業は講義を中心に進める。普段から教科書・ノート・プリントを使った復習に力を入れ、次回の授業にわからないところを持ち越さないようにすること。また、上で示された準備学習の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。
多文化主義については、それまで学んだ知識を踏まえて議論の時間をとる。議論への積極的な参加(発言)ができるよう十分に準備すること。
到達度確認テストは授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト(50%)、議論への参加度(20%)、講義中の発言や質問、授業への積極的な参加(10%)、講義内での提出物(クイズ、感想等)(20%)による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識は、アメリカ史の基礎知識。

〔テキスト〕

南川文里『アメリカ多文化社会論［新版］ 「多からなる一」の系譜と現在』(法律文化社 、 2022 年) ISBN, ISBN978-4-589-04206-４. 本体 2,900 円＋税.

〔参考書〕

必要に応じ授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業の前後に教室内で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本文化・文化史特講Ｂ						
教員名	長崎　健吾						
科目№	125333280	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

中世における家族、特に女性の地位の変遷について学ぶことを通じて、日本の伝統社会が形成される過程について基礎的な知識を身に着ける。
初回・第 2 回の講義では古代中世の家族史・ジェンダー史などについて、先行研究の主要な潮流を概観する。3 回目以降では中世の家族史・ジェンダー史に関係する具体的なトピックを取り上げていく。
個別の知識ではなく、過去に問いかけ、残された史料にもとづいて新たな歴史像の構築を目指す、歴史学的な営みの特質を学ぶことを重視する。講義のなかで使用する用語についてはその都度基本的な内容を確認し、日本史に関する詳しい知識が無い者もスムーズに受講できるよう配慮する。

〔到達目標〕

・中世における家族の特質と近世への移行の過程での転換について、女性の地位に留意して説明できるようになる。
・中世における女性と宗教・生業の関わりについて説明できるようになる。
・文献史料の解読にもとづく歴史学研究の方法について説明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 歴史学研究における家族史・女性史の位置、ジェンダー的な視点の重要性について解説する	歴史学における家族やジェンダーというテーマの重要性について各自で考えてくること。	60
第２回	研究史 日本の古代～近世を対象とする家族史・女性史の研究史を概観する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第３回	古代の家族と婚姻 古代における家族と婚姻の特色について主に戸籍を材料として解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第４回	古代の宗教とジェンダー 古代の仏教思想に見られる女性をめぐる教説について解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第５回	中世の家族と婚姻① 中世における家族と婚姻の特色について、公家の家を中心に解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第６回	中世の家族と婚姻② 中世における家族と婚姻の特色について、村落や武士の家を中心に解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第７回	後家 中世における後家について解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第８回	中世の宗教とジェンダー 中世の仏教思想にみられる女性をめぐる教説、尼寺などについて解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第９回	巫女 神に仕える女性である巫女の特質について解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第１０回	遊女 中世遊女集団の特質について解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第１１回	女性と生業 様々な生業と女性の関係について、特に村落と都市の差異に注目しながら解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第１２回	都市社会と女性 戦国期の都市社会における女性の地位について解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第１３回	近世への展望 近世的な家が成立するなかで家族と女性の地位の変化について解説する	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60
第１４回	まとめ 講義全体の総括と展望	内容を復習すること。講義内で関連する文献を紹介するので、各自の興味関心に従って取り組むこと。	60

〔授業の方法〕

スライドおよび配布資料をもとに、講義形式で実施する。

〔成績評価の方法〕

平常点　40%
筆記試験　60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
・『新書版 性差(ジェンダー)の日本史』、国立歴史民俗博物館監修、「性差の日本史」展示プロジェクト著、集英社インターナショナル、924 円、ISBN 978-4797680836
※購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア文化・文化史特講B						
教員名	木村　暁						
科目№	125333300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業は「中央ユーラシアにおけるイスラームと王権」というテーマのもと、歴史学の見地と方法に拠りながら当該テーマにかかる諸問題を講じる。

ソ連解体後に脚光を浴び、人々の地理認識のなかに徐々に明瞭な像を結びはじめた中央ユーラシアというメガ地域は、古来、諸民族が行き交い、諸文明が交錯する、すぐれて動態と変容に満ちた空間となってきた。そこに広がる草原とオアシスは、古くはおもにイラン系の遊牧民と定住民が割拠し活動する舞台であったが、やがてテュルク化（6 世紀～）とイスラーム化（8 世紀～）の長期持続的な波にさらされ、13 世紀にはモンゴル帝国、近代以降はロシア帝国と清帝国、さらにソ連と中華民国、中華人民共和国それぞれの政治支配下にその相当部分が組み込まれたことで、民族誌的にも政治的・宗教的にもきわめて複雑な組成を獲得するにいたった。そうしたなかで、ここに伝播し普及して以来、イスラームは基本的に同地域の支配的な宗教でありつづけている。

そこで、本講義ではイスラームに着目しつつ、時々の王権（政治権力）がそれとどのような関係をとりもってきたのかを歴史的諸事件・諸事象から跡づけるとともに、その関係性のありかたや規定要因を時間軸縦断的かつ地域横断的に比較検討する。このようにイスラーム王権論の切り口から歴史を眺望することで、いくつかの新知見を導きだし、中央ユーラシアの地域構造とその特質への理解を深めたい。同時に本講義は、政治権力と宗教の関係性という普遍的なテーマの考察を通して、歴史を見る眼のみならず、歴史の基層に立ちもどりながら現在を見る眼を研ぎ澄ますことも一つのねらいとしている。

〔到達目標〕

この授業は、以下の 3 点を到達目標とする。

❶中央ユーラシアという地域をよく知り、同地域にそなわる構造と特質について知見を深めること。

❷中央ユーラシア史上の具体的事例をもとに、政治権力と宗教がどのように相関しあい、そこにどのようなメカニズムや力学がはたらくのかを洞察する力を養うこと。

❸歴史と現在とのあいだの連続／変化／断絶の諸相、および、各時代における諸地域間の共通点と相違点を広く多角的に見渡せる力、いいかえれば、時間軸・空間軸上での比較と相対化の視座（すなわち通時的・共時的視座）を磨くこと。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション――中央ユーラシア、イスラーム、王権	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第２回	中央ユーラシアのテュルク化とイスラーム化	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第３回	サーマーン朝下における正統的スンナ派学の形成	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第４回	テュルク系諸王朝の支配とペルシア語文化圏の拡大	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第５回	モンゴル帝国とイスラーム	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第６回	ティムール朝の興亡――もうひとつのルネサンス	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第７回	中央アジア発祥のスーフィズムの諸潮流	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第８回	ウズベクとカザフの諸ハン国	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第９回	オスマン帝国とスンナ派イスラーム世界秩序	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第１０回	聖戦か従属か――露清帝国と中央アジア・ムスリム	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第１１回	ジャディード運動――ムスリム社会の自己変革	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第１２回	ブハラにおけるスンナ派・シーア派関係の変容	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第１３回	ソ連とイスラーム	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分
第１４回	中央ユーラシアにおけるイスラーム復興	参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。	60 分

〔授業の方法〕

この授業は講義形式でおこなう。毎回の授業終了後には、受講者の理解度や興味関心・問題意識のありようを確認する目的で、講義テーマにかかわる質問ないしコメントを各自が記入したリアクションペーパー（記名式）を提出してもらう。リアクションペーパーの提出のしかたについては初回授業時にアナウンスする。

学期途中と学期末に授業内容をふまえた課題レポートの提出（計 2 回）が求められる。課題レポートの具体的な要領については授業内でアナウンスする。レポートの作成に際して剽窃など不正行為をおこなった者は落第とする。

授業

〔成績評価の方法〕

平常点（30%）と課題レポート２本（30%＋40%）にもとづいて総合的に評価する。平常点については、毎回の授業への取り組み（リアクションペーパーの記述内容を含む）が評点の根拠となる。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

中央ユーラシアがどのような地勢的特徴をもつのか、また、イスラームという宗教がどのような特徴をもち、スンナ派とシーア派のあいだにどのような違いがあるのかについて、基本的な知識を有することが望ましい。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

以下に掲げる参考書①～⑧はかならずしも購入する必要はないが、そのいずれもが講義内容を理解し自主的に考究をおこなううえでそれなりに助けとなるはずである。どの文献にアクセスするかは、個々人の関心やそれぞれの置かれた環境・条件にもよるであろうから、これをとくに指定することはせずに各自の判断と選択に委ねるが、可能なかぎり多くを閲覧するよう努めてほしい。

①『中央ユーラシア史』、小松久男編、山川出版社、2000 年、税込 3,850 円、ISBN:4-634-41340-X、購入の必要なし

②『中央アジアのイスラー

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア文化・文化史特講D						
教員名	砂井　紫里						
科目№	125333320	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】アジアの社会と文化
【概要】本授業では、アジアのいくつかの地域を取り上げ、その生活文化を学びます。生活文化を通して、文化の多様性と共通性を理解し、文化接触の動態と多文化社会における共生のあり方を考えることを目指します。前半に食文化の見方、考え方を概説し、後半に各国・地域の事例から生活文化と歴史・社会のかかわりを考えます。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）及び DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、下記の点を到達目標とする。
1）アジアの生活文化について、個別の文化の脈絡と他者との歴史的交流を通した相互作用について、自分のことばで説明できる。
2）みずから設定したテーマについて、時間的及び空間的に幅広いデータを調査収集し、それらを分析しつ つ、的確な解釈を行うことができる。
3）調査・分析の結果をわかりやすく文章や図表にまとめ、他者に伝えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の紹介と導入	【予習】 シラバスを読む。高校の世界史や地理の教科書のなかで、アジアという地域がどのように描かれているか確認する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、自分の関心のある用語や出来事を調べてまとめる。	60
第２回	「アジア」とは	【予習】アジアに関するアンケートに回答し、自分なりにイメージを整理し、疑問点をまとめる。 【復習】参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第３回	人は本当に「裸」になれるか	【予習】事前に提示するキーワードについて、調べ、疑問点をまとめる。 【復習】参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第４回	熱い食べ物と冷たい食べ物	【予習】健康に良いとされる食べものや食べ方にはどのようなものがあるか調べ、疑問点をまとめる。 【復習】参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第５回	異なる「文化」が出会うとき	【予習】身近な食材や料理、装い物、遊びなどの中からひとつ取り上げ、そのルーツを調べ、疑問点をまとめる。 【復習】参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第６回	中間レポートとピア・エディティング	【予習】自分の関心のあるトピックについて中間レポートにまとめる。 【復習】ピア・エディティングでのコメントを参考に中間レポートをブラッシュアップする。	60
第７回	西アジアの生活文化 1: 「アラブ」	【予習】事前に提示するキーワードについて調べ、疑問点をまとめておく。 【復習】参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第８回	西アジアの生活文化 2: トルコ	【予習】事前に提示するキーワードについて調べ、疑問点をまとめておく。 【復習】参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第９回	東南アジアの生活文化 1: マレーシア・シンガポール	【予習】事前に提示するキーワードについて調べ、疑問点をまとめておく。 【復習】参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第１０回	東南アジアの生活文化 2: ラオス・タイ	【予習】事前に提示するキーワードについて調べ、疑問点をまとめておく。 【復習】参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第１１回	東アジアの生活文化 1: 中国	【予習】事前に提示するキーワードについて調べ、疑問点をまとめておく。 【復習】参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第１２回	東アジアの生活文化 2: 台湾	【予習】事前に提示するキーワードについて調べ、疑問点をまとめておく。 【復習】参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第１３回	期末レポートとピア・エディティング	【予習】自分の関心のあるトピックについて期末レポートにまとめる。 【復習】ピア・エディティングでのコメントを参考に期末レポートをブラッシュアップする。	60
第１４回	全体のふりかえりとまとめ	【予習】これまでの資料や自身で記入したミニッツペーパー等を読み返す。 【復習】ふりかえりシートに記入し、本科目で学んだことを整理して、自分なりの意義を考える。	60

〔授業の方法〕

・パワーポイント等を用いた講義形式で進める。
・資料配付、課題の提示・回収などは DBmanaba で行う。
・受講人数によっては少人数での意見交換を行う。
・受講者数など、状況に応じて授業計画の順序や内容などを一部変更する可能性がある。
・授業時間外に積極的に調べてみる、食べ歩くなど、自分の目・足・鼻・口など体験を通して学ぶことを推奨する。
・自らの疑問、「気づき」と想像力を大切にしてください。

〔成績評価の方法〕

・授業への取り組み(30%)、課題レポート(30%＋40%)。
・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みを評価する判断材料とする。
・課題レポートは、2000 字程度のものを 2 回課す予定である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

石毛直道監修『世界の食文化（全 20 巻＋別巻）』農山漁村文化協会、購入の必要なし
大林太良他編 1998『民族遊戯大事典』大修館書店 ISBN978-4469012606、購入の必要なし
イスラーム文化事典編集委員会編 2023『イスラーム文化事典』丸善出版, ISBN978-4621307663、購入の必要なし
西江雅之 2012『「食」の課外授業』平凡社 ISBN978-4256191996、購入の必要なし
野林厚志他編 2021『世界の食文化百科事典』丸善出版 ISBN978-4621305935、購入の必

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	世界の言語文化（トルコ語）						
教員名	松尾　有里子						
科目№	125334100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

この授業では、現在トルコ共和国で話されているトルコ語の基礎を学びます。
トルコ語はアラビア語、ペルシア語と並んでイスラーム世界を代表する言語です。三つの言語はイスラームに根ざした共通の宗教・文化的語彙を持つことで知られていますが、文字表記の点でトルコ語は他と大きく異なる特徴があります。それはコーランの言葉であるアラビア文字ではなく、ラテン文字で表記する点で、共和国の理念である世俗主義を反映しています。
また、トルコ語は日本語と語順がよく似ており、発音も比較的容易です。
英語のアルファベットにすでに馴染んだ日本人初学者にとり、親しみやすく、学びやすい言語といえます。授業では、テキストに基づきながら、簡単な日常会話ができる程度の知識を身につけるとともに、トルコの歴史や文化などもあわせて紹介していきます。

〔到達目標〕

・トルコを訪れた際に、簡単なトルコ語表現を通じ、コミュニケーションが取れるようになること
・トルコの歴史や文化を理解することで、現在の国際情勢などにも自分の意見が持てるようになること
・トルコ語学習を通じ、テュルク諸語（アゼルバイジャン語、カザフ語、ウィグル語等）の世界を知り、説明できるようになること

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	【オリエンテーション】 ・トルコ語の特徴 （文字と発音） ・トルコ共和国について	【予習】シラバスを読み、授業の内容を把握しておいて下さい。 【復習】文字と発音の復習。	60 分
第２回	・トルコ語の挨拶 ・アフメトはトルコ人です（A は B ですの表現） ・トルコの地理と気候	【予習】前回の授業の内容を簡単に振り返っておいて下さい。 【復習】A は B ですの表現の復習。	60 分
第３回	・人称代名詞の学習 ・私は～ですの言い方 ・トルコ料理の紹介	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】人称代名詞の復習。	60 分
第４回	・現在形「～している」の学習 ・水を１本欲しいのですの表現 ・現代トルコ事情	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】現在形の復習。	60 分
第５回	・私の名前は～ですの表現 ・トルコ語単語を覚えましょう （家族・職業・身体の単語）	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】私の名前は～ですの復習。	60 分
第６回	・未来形「～するつもりだ」の表現 ・位置を表す助詞 ・トルコの世界遺産（イスタンブル１）	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】未来形の基礎の復習。	60 分
第７回	・～ですよね？の表現 ・方向を表す助詞 ・トルコの世界遺産（イスタンブル２）	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】～ですよね？の表現の復習。	60 分
第８回	・これまで学んだ文法の復習 ・簡単な自己紹介 ・トルコの世界遺産（アナトリア編）	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】自己紹介の復習。	60 分
第９回	・過去形「～した」の学習 ・トルコへいつ来たのですか？の表現 ・トルコの民族と宗教	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】過去形の基本の復習。	60 分
第１０回	・過去の状態「～だった」の学習 ・私は学生でしたの表現 ・トルコ建国の父アタテュルクについて	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】過去の状態の表現の復習。	60 分
第１１回	・伝聞過去「～したそうだ」の学習 ・彼女は行かなかったそうですの表現 ・数字を覚えよう ・トルコ紙幣の紹介	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】数字を言えるようにしておく。	60 分
第１２回	・目的格の学習 ・私はこのカバンを買いましたの表現 ・基本動詞を覚えよう ・トルコ発テレビドラマの紹介	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】基本動詞の復習。	60 分
第１３回	・場所を表す指示詞（ここ、あちら） ・モスクはどこにありますか？の表現 ・日本トルコ合作映画の紹介	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】場所を表す表現の復習。	60 分
第１４回	・これまでの文法事項の整理 ・簡単な文章の読解	【予習】前回の授業の内容を確認してから参加して下さい。 【復習】これまでの小テストの復習。	60 分

〔授業の方法〕

テキストを中心に毎回レジュメを配布します。毎回前回の内容に関する簡単な復習確認テストを行います。

〔成績評価の方法〕

・平常点（授業参加、復習確認テストへの取り組み等）20%
・学期末試験 80%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特にありません。

〔テキスト〕

『ニューエクスプレスプラス トルコ語』、大川博 著、白水社、2,500 円、 ISBN 9784560087886
購入の必要なし。

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究Ａ						
教員名	中野　由美子						
科目№	125334120	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義の課題は、主にハリウッド映画を題材として、第二次世界大戦を経て超大国となったアメリカ合衆国の自画像の変遷を社会史・文化史的に検討することである。戦禍を免れたアメリカ合衆国は、絶対的な軍事力と経済力を誇る強国として、国際社会において圧倒的な存在感をもつ存在となった。その一方で、国内においては、人種・エスニシティにまつわる様々な矛盾や葛藤を抱え、それが次第にアメリカ社会全体を揺るがす問題として表出することになった。本講義では、このような国内外の状況の変化を踏まえ、アメリカ合衆国の自画像がどのように形成され、そして変容せざるを得なかったのかを、映画を題材として探求していく。なお、本講義では、上記のテーマに即して、適宜、史料分析のトレーニングも行う。

〔到達目標〕

DP1-1、DP2-1 を実現するため、以下の３点を到達目標とする。
① 20 世紀の合衆国に関する社会史・文化史の基礎知識を修得する。
② 人種・エスニシティという観点から、合衆国における娯楽産業の歴史の特質を説明できる。
③ 映像史料とそれに関連する二次史料を批判的に分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方などを確認する。	テキストの指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第２回	映像の可能性―社会史的考察 ・映像資料の活用方法について理解する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第３回	創られる先住民像（その１） ・20 世紀前半の西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第４回	創られる先住民像（その２） ・20 世紀半ばの西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第５回	創られる先住民像（その３） ・20 世紀後半の西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第６回	国境を超える西部劇 ・西部劇がヨーロッパ・日本においてどのように受け入れられたのかを検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第７回	小括　これまでの講義のポイントをまとめる。小テストを実施する。	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60
第８回	映画の中のアジア人像（その１） ・20 世紀前半のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第９回	映画の中のアジア人像（その２） ・20 世紀半ばのハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１０回	映画の中のアジア人像（その 3） ・20 世紀末のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１１回	映画の中のアジア人像　小括 ・映画を題材として、「人種」問題について探求する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１２回	到達度確認テスト	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60
第１３回	到達度確認テストの講評を行う。配布資料に基づき、論点を整理する。 リアクションペーパーを作成・提出する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１４回	全体のまとめ	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60

〔授業の方法〕

・講義形式で行う。レジュメや史料の配布の際にコースパワーを使用するので、毎回の講義前後には必ずコースパワーにアクセスをして確認をすること。（なお、コースパワーにアップロードすることができない史料等についてのみ、講義中に紙媒体で配布する。後日の再配布には応じられない場合が多いので注意すること。）
・ほぼ毎回、簡単な課題を出題するので、コースパワーを使って回答を提出すること。
・小テストと到達度確認テストは、コースパワーを使って回答を提出する形で実施する予定。小テストと到達度確認テスト実施時にはノート PC

〔成績評価の方法〕

授業中に出す課題（リアクションペーパー等のコースパワーで一定期間内に提出していただく課題も含む）＝平常点（55%程度）、小テスト（15%程度）、到達度確認テスト（30%程度）による総合評価。課題への積極的・独創的な貢献に対しては、１０%を上限として加点する場合がある。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点について、その到達度により評価する。
①合衆国における娯楽産業の歴史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
②世界史全体の流れのなかに、アメリカの映画産業を位置づけ、その特質を理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

高校卒業レベルの世界史の基礎知識は必要であるが、未履修者はテキスト・参考書を事前に熟読して基礎知識の習得に努めること。アメリカの歴史と文化 A・B の他、日本を含む世界各国・地域の歴史と現状に関する科目を幅広く受講することが望ましい。

〔テキスト〕

北野圭介『新版　ハリウッド 100 年史講義―夢の工場から夢の王国へ―』平凡社新書、2017 年。
※本講義では、主に後半（第 4 章以降）の指定部分を扱う。
※2017 年に出版された＜新版＞を使用する。購入する際、ISBN を必ず確認すること。
ISBN: 978-4582858495

〔参考書〕

阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための 62 章』明石書店、2016 年。
有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』有斐閣、2003 年。
Calloway, Colin G. First Peoples: A Documentary Survey of American Indian History, 4th ed.
New York: Bedford/St. Martins's: 2012.
※上記の参考書は、購入する必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究Ｂ						
教員名	川村　陶子						
科目№	125334130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

テーマ：「文化多様性からみる現代ドイツ」
この授業では、ひとつの国ないし社会を、文化多様性という見地から、多角的かつ歴史的にとらえ直すことを試みる。具体例として、ヨーロッパの中心国であり、西ドイツ時代以来「ひらかれた民主主義」の建設を目指してきたドイツ連邦共和国をとりあげる。メインとなる部分では、現代ドイツを構成するさまざまな「文化（多様性）の次元」を、時間的・空間的な広がりに留意しつつ読み解いていく。そうした作業をとおして、ドイツという〈くに〉の成り立ちやその魅力、抱える問題や困難、それらを克服する努力などを理解することを試みる。私たちの住む日本との比較も折々に織り込む予定である。
多様なものの共生は、今日の世界において摩擦や対立を生み出す契機となりうるが、同時に活力ある社会、新たな創造性の源ともなりうる。多様性のこうした二面性を理解しつつ、そのダイナミクスをより肯定的に生かすには、社会に多様性をもたらす文化のさまざまな次元を意識することが重要である。授業ではドイツやヨーロッパで行われている多様性マネジメントの試み（政策、活動等）にも注目し、文化多様性をよりよい社会づくりに生かすためのヒントを考えたい。
＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって修正・調整する可能性がある。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、以下のことを目標とする。
①現代ドイツが内包するさまざまな意味での「多様性」をひもとくことにより、ドイツを新たな目で理解すること。
②多様性のもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げること。
③日本を含むさまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養うこと。
④自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、受講者の人数や構成、現実の社会や研究の動きなどの要因をふまえて適宜修正する。） 《イントロダクション》 講師の問題関心と授業の概要について説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。テーマに関連した自分の関心や事前知識を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	《文化の多様性と現代の諸問題》 文化多様性とはどのようなことか、それが今日の世界におけるどのような事象と関連しているかについて、概略的に整理する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	《ドイツとは何か》 ドイツという国、社会がはらむ複雑さと、それを規定する多様性について理解を深める。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	《多様性からみるドイツ（１）地方とヨーロッパ①》 地理的な広がりと多彩な地方色について理解を深める。歴史的な経緯にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	《多様性からみるドイツ（２）地方とヨーロッパ②》 地理的な広がりと多彩な地方色について理解を深める。現代的な状況にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	《多様性からみるドイツ（３）冷戦と東西①》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。とくに、20世紀後半の冷戦と国家分断がもたらした影響に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	《多様性からみるドイツ（４）冷戦と東西②》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。今日における東西ドイツの違いや、それが政治や社会に及ぼす影響にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	《多様性からみるドイツ（５）世代と歴史・社会観①》 人びとを分ける世代について理解を深める。近現代史の流れの中で、世代を形成する要因となった出来事にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	《多様性からみるドイツ（６）世代と歴史・社会観②》 人びとを分ける世代について理解を深める。現代史の諸問題に関する公的認識の形成に、世代が及ぼした役割についても考察する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	《多様性からみるドイツ（７）人の移動と受け入れ・統合①》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。ドイツをめぐる人の移動の歴史的な流れに、とりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	《多様性からみるドイツ（８）人の移動と受け入れ・統合②》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに 20世紀後半における外国人労働者の受け入れや統合に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	《多様性からみるドイツ（９）人の移動と受け入れ・統合③》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに 21世紀における移民・難民の受け入れや統合に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１３回	《多様性からみるドイツ（１０）ジェンダーとセクシュアリティ》 ジェンダーや家族に関する考え方、性的指向や性的自認の多様性の扱いについて理解を深める。歴史的な経緯と現代における展開の双方に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60

第１４回	《多様性がもたらす課題と可能性》 今日、多様性がもたらす諸問題と、それが生み出す革新や創造を再確認するとともに、文化多様性を肯定的に生かすためのドイツの取り組みとその課題を総括的に議論する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕

講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。（履修者の人数等によっては、より参加型の性格が強い授業とする可能性もある。）
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用する予定）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連して行った自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説を行う。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義を行う。授業内容に関連する映画を紹介し、小課題の形で鑑賞、批評を行

〔成績評価の方法〕

平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）80%、期末レポート 20%をめやすに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その到達度により評価する。
①現代ドイツが内包するさまざまな「多様性」を理解する。
②多様性のもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げる。
③日本を含むさまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養う。
④自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

履修者は、ドイツやヨーロッパ、世界の情勢について文献やネット等で自主的な情報収集を行うことが望ましい。
世界史、とくに近現代史に関する基礎知識があると授業の理解に役立つ。高校での選択の有無にかかわらず自主的な学習を推奨する。
ドイツの歴史や文化に関する事前の知識は必須ではないが、関連授業の履修や自主的な学習は授業の内容理解に役立つ。
ドイツ語に関する知識は必要ないが、あれば授業の内容理解に役立つ。
関連科目：国際文化論、ヨーロッパの歴史と文化、ヨーロッパ文化・文化史特講、その他近現代史およびドイツ

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

田野大輔・柳原伸洋編著『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書房、2016 年。
浜本隆志・高橋憲編著『現代ドイツを知るための 67 章【第 3 版】』明石書店、2020 年。
森井裕一編著『ドイツの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年。
『ドイツの実情』2018 年（ドイツ外務省制作の e ブック、インターネットから無料ダウンロード可能）。
ほか、開講時および授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究C						
教員名	樋口　真魚						
科目№	125334140	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、幕末から第二次世界大戦後までの日本外交史を、国際秩序への対応という観点から再検討する。その際、国際法への外交的対応に注目したい。近代日本は国際社会のルールとしての国際法をいかに理解してきたか。あるルールが自国にとって不利（あるいは有利）であると考えたとき、どのように対応してきたか。こうした問いを念頭に置きながら、近代日本と国際社会の関わり方について考察する。

〔到達目標〕

DP 1 （専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・日本外交史に関する基礎的知識を習得する。
・日本と国際社会の関わりについて、歴史的観点から説明することができる。
・日本近代史を、グローバルな視点から把握することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスをよく読み、講義の概要を把握する。 【復習】授業時に紹介された文献などを確認し、授業の全体像を把握する。	60
第２回	幕府外交と万国公法	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第３回	西欧国家体系への参入	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第４回	「文明国」を目指して	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第５回	国際連盟の誕生	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第６回	ワシントン体制	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第７回	不戦条約	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第８回	満洲事変の衝撃	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第９回	国際連盟脱退後の「連盟外交」	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１０回	日中戦争と新秩序の模索	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１１回	アジア太平洋戦争と大東亜国際法	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１２回	戦後日本と国際連合	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	60
第１４回	到達度確認テストの解説、総括と展望	【復習】これまでの授業内容を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

〔授業の方法〕

・講義形式の授業。
・やや専門的な内容を扱う予定である。
・CoursePower から小レポートを提出してもらうので、ノートパソコンを持参すること。一部の小レポートについては、授業の冒頭で概要を紹介する予定である。
・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載する。紙媒体で配布することはしない。
※CoursePower を使用するので、各自で操作方法を習得しておくこと。
（これを使いこなせていることを前提に授業を組み立てる予定である）

〔成績評価の方法〕

小レポート 30%、到達度確認テスト 70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・日本外交史に関する基礎的知識を習得できたか。
・日本と国際社会の関わりについて、歴史的観点から説明することができたか。
・日本近代史を、グローバルな視点から把握することができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「アジア・太平洋の歴史と文化 A」を履修していることが望ましい。

〔テキスト〕

なし。

〔参考書〕

樋口真魚『国際連盟と日本外交』東京大学出版会、2021 年、5200 円、ISBN978-4-13-026353-5
※購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究D						
教員名	鈴木　重周						
科目№	125334150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

テーマ：ヨーロッパ文化と「ユダヤ人」
　この授業は、ヨーロッパ社会におけるマイノリティ（社会的少数者）としての「ユダヤ人」に着目し、かれらがどのような存在であったのかを、フランスを中心としたヨーロッパの芸術作品（文学、絵画、戯曲等）を通して考えることを目的とします。
ヨーロッパ文化と「ユダヤ人」について考えることは、歴史上常に周縁に追いやられてきた存在をめぐる差別の構造に気づくことでもあります。また、「ユダヤ人」が芸術作品の担い手となった時にどのような軋轢が起こったのかを学ぶことで、現代の日本に生きる私たちにとってもさまざまなマイノリティをめぐる問題が無関係ではないことを知ることができます。
この授業で学ぶことが受講者自身の真摯な問題意識とつながることを期待しています。なお、受講者の関心やアクチュアリティに応じて授業内容を修正することがあります。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を目標とします。
・ヨーロッパの「ユダヤ人」をめぐる歴史に関する基本的知識を身に付ける。
・文化表象におけるマイノリティをめぐる差別の構造を理解する。
・授業内容を自身の問題意識に引きつけコメントすることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【テーマ】「ユダヤ人」とは誰のことか 【内容】授業の内容や方法についてのガイダンス。ヨーロッパ・ユダヤ史の概説	シラバスをしっかり読む。「ユダヤ人」について考えてみる。 授業ノートを準備しておく。	30 分
第２回	【テーマ】描かれる「ユダヤ人」1 【内容】文学テクストにおいて「ユダヤ人」はどのように描かれるのか。 【扱う作品】W・シェイクスピア『ヴェニスの商人』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第３回	【テーマ】描かれる「ユダヤ人」2 【内容】文学テクストにおいて「ユダヤ人」はどのように描かれるのか。 【扱う作品】W・シェイクスピア『ヴェニスの商人』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第４回	【テーマ】「美しきユダヤ女」 【内容】キリスト教徒男性の欲望としての「美しきユダヤ女」について考える。 【扱う作品】W・スコット『アイヴァンホー』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第５回	【テーマ】スペインの「マラーノ」 【内容】1492 年という年に着目し、スペインの異端審問がヨーロッパ文化に与えた影響について考える。 【扱う作品】D・ベラスケス『侍女たち』、F・ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』、J・アタリ『1492 年』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第６回	【テーマ】「サロメ」という少女 1 【内容】ヨーロッパ文化において繰り返し表象される「ユダヤの王女サロメ」について考える。 【扱う作品】G・フローベール「エロディアート」、G・モロー『出現』、J-K・ユイスマンス『さかしま』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第７回	テーマ】「サロメ」という少女 2 【内容】ヨーロッパ文化において繰り返し表象される「ユダヤの王女サロメ」について考える。 【扱う作品】O・ワイルド『サロメ』、O・ビアズリー「お前に口づけしたよ、ヨカナーン」ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第８回	【テーマ】具現化する「美しきユダヤ女」 【内容】ユダヤ系フランス人女優サラ・ベルナールに着目し、その戦略と、職業としての女優について考える。 【扱う作品】A・ミュシャ『ジスモンダ』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第９回	【テーマ】ベル・エポックの影としてのドレフュス事件 1 【内容】フランスの反ユダヤ主義がなぜ、どのように爆発したのか考える。 【扱う作品】E・ドリュモン『ユダヤのフランス』、H・メイエル「裏切り者」、L・ドーデ「懲罰」ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１０回	【テーマ】ベル・エポックの影としてのドレフュス事件 2 【内容】フランスの反ユダヤ主義がなぜ、どのように爆発したのか考える。 【扱う作品】E・ゾラ「私は告発する」、カランダッシュ「家族の晩餐」ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１１回	【テーマ】ドレフュス事件をいかに描くか 【内容】あるユダヤ系フランス人作家がドレフュス事件期に書いたフィクションを通して、史実をフィクションに描くことについて考える。 【扱う作品】M・シュウォブ『少年十字軍』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１２回	【テーマ】「ハーフのユダヤ女」1 【内容】ドレフュス逮捕の年にユダヤ人を父として生まれ、戦争の時代を生き抜いたユダヤ系女性芸術家クロード・カーアンを通して「ユダヤ」とセクシュアリティについて考える。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分

	【扱う作品】C・カーアン「セルフ・ポートレート」ほか。		
第１３回	【テーマ】「ハーフのユダヤ女」2 【内容】ドレフュス逮捕の年にユダヤ人を父として生まれ、戦争の時代を生き抜いたユダヤ系女性芸術家クロード・カーアンを通して「ユダヤ」とセクシュアリティについて考える。 【扱う作品】C・カーアン「セルフ・ポートレート」ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１４回	到達度確認テスト（論述式）	これまでに作成した授業ノートを整理し到達度確認テストに備える。	60 分

〔授業の方法〕

基本的にはスライドを用いた講義ですが、できるかぎり受講者の皆さんとの対話形式で授業を進める予定です。毎回の授業ごとにテーマを設定しレスポンスペーパー（400 字程度）を LMS（Course Power 使用予定）から提出してもらいます。必ず自筆ノートをとるようにしてください。到達度確認テストでは自筆ノートの持ち込みを可とする予定です。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加姿勢、授業後に提出するレスポンスペーパー）65%、到達度確認テスト 35%を目安として総合的に評価します。理由のない欠席や遅刻、授業に関係のない行為および居眠り等は減点の対象となります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

講師の研究領域であるフランスを主とした近現代ヨーロッパが話題の中心となりますが、フランス語や文学史・美術史等の知識の有無は問いません。ただし、講義内容に興味を持って授業に主体的に取り組んで下さい。高校の標準的教科書レベルの世界史知識は授業の前提となっている場合がありますので、欠けている部分は自身で補うようにしてください。

〔テキスト〕

特にありません。スライド資料を配付します。

〔参考書〕

市川裕『ユダヤ教の歴史』（山川出版社、2009）
ペンブックス編集部『ユダヤとは何か。』（CCC メディアハウス、2012）
國府寺司『ユダヤ人と近代美術』（光文社新書、2016 年）
市川裕『ユダヤ人とユダヤ教』（岩波新書、2019 年）
以上の文献は購入の必要はありませんが、授業理解に役立ちますので書店や図書館で手に取ってみてください。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	世界美術史 A						
教員名	人見　伸子						
科目№	125334160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

古今東西の美術作品には、特定のモティーフが繰り返し描かれてきた。それは自然現象や天体、動植物、私たちの身の回りにある品々など多岐にわたり、年月を経て特別の意味をもつようになったものもある。この授業では特に人気があったモティーフを選び、時代や地域によって異なる意味や象徴性について、具体的な作品例をあげながら検証していく。普段の生活の中に、新たな気づきを見出すことを期待する。

〔到達目標〕

古今東西を問わず、各々のモティーフが表現された作品の具体例をを確認し、その多様性の一端に触れるとともに、象徴的な意味を考えてみよう。美術のみならず、文学や音楽など他のジャンルにも、考察が深まることが望ましい。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の概要 / 太陽と月のモティーフ ・授業計画について概要を説明する ・太陽や月が描かれた作品を取り上げ、その象徴性を考察する。	シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。	60 分
第２回	雨・雪のモティーフ ・雨や雪を描いた作品について、西洋と東洋のおける表現の違いを中心に考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第３回	塔などの人工的な建造物 ・風景画に時折見られる塔など人工的な建造物を描いた絵画について、西洋と日本の差異に注目しながら検証する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第４回	動物（1）ライオン（獅子） ・古来、百獣の王であるライオン（獅子）は繰り返し美術作品のモティーフとなったが、その象徴的な意味を確認する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第５回	動物（2）一角獣（ユニコーン） ・空想上の動物ながら、多くの作品例がある一角獣のモティーフについて考察する	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第６回	動物（3）ウサギ ・洋の東西を問わず、文学や美術作品に数多く登場するウサギのモティーフについて理解を深める。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第７回	昆虫 ・蝶やトンボなどの昆虫は、その姿やはかない命故に多くの作品で扱われてきた。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第８回	植物（1）アイリス / カキツバタ ・西洋ではアイリス、日本ではカキツバタで代表されるアヤメ科の花について、その作品を検証する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第９回	植物（2）ヒマワリ ・静物画ばかりでなく、神話画や肖像画にも描かれたヒマワリの象徴的な意味を考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１０回	果物（ブドウなど） ・豊穣な秋の実りやワインと結びつくブドウのモティーフについて検証する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１１回	楽器と音楽 ・美しい音楽を奏でる楽器をモティーフにした作品を取り上げる。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１２回	ダンスと身体表現 ・人間のさまざまな身体表現、なかでも音楽と結びついたダンスに注目する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１３回	パンデミックのテーマ ・古くから繰り返し人々に襲いかかったパンデミックのテーマを検証する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１４回	眠りと夢のモティーフ ・古今東西を問わず、人間の深層心理の発露ともなる夢、そして眠りのモティーフを取り上げる。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分

〔授業の方法〕

Course Power を利用して毎回の授業のレジュメを配信し、講義形式で授業を進める。授業終了後には内容に関するアンケートに回答してもらう。学期末には課題レポートの提出が必要である。

〔成績評価の方法〕

アンケートを基にした平常点（30%）、および課題レポート（70%）から、総合的に判断して評価する。単位認定には、3 分の 2 以上の出席と期末の課題レポートの提出が必須条件である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
全般的な世界史の知識が必要だが、必須ではない。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

宮下規久朗著　『モチーフで読む西洋美術史』1&2　ちくま文庫　2013&15 年
高階秀爾監修　増補新装　『カラー版：西洋美術史』　美術出版社　2002 年初版
ジェイムズ・ホール　『西洋美術解読辞典』　河出書房新社　1988 年初版
その他、テーマ毎に授業で随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了時に教室で受け付ける。
Course Power Q&A を利用することも可能である。

〔特記事項〕

特になし。

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	世界美術史 B						
教員名	神田　惟						
科目№	125334170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

「世界美術史 B」は、イスラーム美術史の通史の講義です。本科目では、7 世紀から現代に至るまでの、イスラーム文化が深く根付いた地域（主に中東）の美術史を学びます。主に中東地域について詳しく検討しますが、時代によっては、イベリア半島・北アフリカや、中央アジア、インド（南アジア）の美術についても扱います。

〔到達目標〕

この授業の第一の目標は、ムスリムのために／ムスリムによって生み出された工芸品・写本絵画・建築の地域的・史的展開についての知識を時系列順に習得し、同時代の世界全体の歴史と関連付けて考察することで、各時代・地域の文化について具体的な作品例を挙げながら説明できるようになることです。
第二の目標は、イスラーム文化の多様性についての理解を深め、グローバル化の時代を生き抜くために必要な想像力・創造力を身につけることです。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：「イスラーム」とは何か、「イスラーム美術」とは何か	シラバスの概要を確認する。教科書 pp. 130-131（「イスラーム教の誕生」）を熟読した上で、「イスラーム」について自身が知っていることを授業時間内に短時間で記述できるよう準備しておく。	60
第２回	ビザンツ・ササン文化の遺産と美術（622-c. 950 年）	第 1 回授業時の配布物および教科書 pp. 131-133（「イスラーム世界の成立」「イスラーム帝国の形成」）を熟読し、講義内容の前提となる歴史的背景についての知識を身につける。	60
第３回	カリフ国鼎立・イラン系王朝成立期の美術（c. 750-c. 1150 年）	教科書 pp. 134-135, 196（「イスラーム帝国の政治的分裂」「トルコのイスラーム化［イラン系のサーマーン朝台頭まで］」）を熟読し，講義内容の前提となる歴史的背景についての知識を身につける。とくに，p. 134 と p. 196 掲載の地図をよく見ておく。	60
第４回	トルコ系王朝の西進・インド進出と美術（c. 950 年-c. 1250 年）	教科書 pp. 135-137, 142-143, 196-197（「東方イスラーム世界［ルーム・セルジューク朝台頭まで］」，「イスラーム勢力の進出とインド」，「トルコのイスラーム化［カラハン朝以降］」）を熟読し，講義内容の前提となる歴史的背景についての知識を身につける。とくに，p. 136 と p. 196 掲載の地図をよく見ておく。	60
第５回	モンゴル系王朝の西進と美術（c. 1250 年-c. 1350 年）	教科書 pp. 137-138, 206-207（「東方イスラーム世界［モンゴルの中央アジア，イラン進出以降］」「モンゴル帝国の形成」）を熟読し，講義内容の前提となる歴史的背景についての知識を身につける。とくに，p. 139 と p. 207 掲載の地図をよく見ておく。	60
第６回	トルコ＝モンゴル系王朝の西進と美術（1350 年-1500 年）	教科書 pp. 218, 241-242（「モンゴルとユーラシア世界の交流［トルコ＝モンゴル系集団のイスラーム化］」，「ティムール朝の興亡」）を熟読し，講義内容の前提となる歴史的背景についての知識を身につける。とくに，p. 225 掲載の地図をよく見ておく。	60
第７回	十字軍・国土回復運動時代の地中海世界の美術（1150 年-1500 年）	教科書 pp. 138-140（「バグダードからカイロへ」、「西方イスラーム世界の変容」）を熟読し，講義内容の前提となる歴史的背景についての知識を身につける。とくに，p. 138 と p. 139 掲載の地図をよく見ておく。	60
第８回	大航海時代（1500 年-1800 年）①：オスマン朝中期地中海世界の美術	教科書 pp. 242-244（「オスマン帝国の成立と発展」）を熟読し、講義内容の前提となる歴史的背景についての知識を身につける。とくに，p. 243 掲載の地図をよく見ておく。	60
第９回	大航海時代（1500 年-1800 年）②：サファヴィー朝イランとその周辺の美術	教科書 pp. 245-246（「サファヴィー朝の興隆」）を熟読し、講義内容の前提となる歴史的背景についての知識を身につける。とくに，p. 243 掲載の地図をよく見ておく。	60
第１０回	大航海時代（1500 年-1800 年）③：ムガル朝期インドの美術	第 5 回および第 6 回授業の配布物を見直すと同時に、教科書 pp. 246-248（「ムガル帝国の成立」「ムガル帝国の衰退と地方勢力の台頭」）を熟読し，講義内容の前提となる歴史的背景についての知識を身につける。とくに，p. 246 掲載の地図をよく見ておく。	60
第１１回	近代化・西洋化の波とイスラーム美術の終焉？（1800 年-現代）	教科書 pp. 364-370（「オスマン帝国の動揺」、「アラブの民族的な覚醒」、「オスマン帝国の改革運動」、「タンジマートから憲法発布へ」，「イラン・アフガニスタンの動向」）を熟読し，講義内容の前提となる歴史的背景についての知識を身につける。とくに，p. 364 掲載の地図をよく見ておく。	60
第１２回	第 2 回～第 11 回までのイスラーム美術史通史総復習	これまでの授業のレジュメをよく見直しておく。	60
第１３回	日本とイスラーム美術の関わり	日本国内で見ることのできるイスラーム美術コレクションについてネットで検索し、実際に足を運ぶ計画を立てます。	60
第１４回	中近東文化センター附属博物館見学ツアー（仮）	これまでの授業のレジュメをよく見直しておく。	90

〔授業の方法〕

この授業は、講義形式で行います。まず、イスラームの教義と各宗派の違いについて概観したのち、この教えがムスリムのために／ムスリムによって 7 世紀以降主に西アジア（中東）を中心とする地域で生み出された工芸品・写本絵画・建築にどのような特色をもたらしたのかについて多角的に検討します（第 1 回）。続いて、それらの工芸品・写本絵画・建築が、どのような文化的・宗教的・政治的背景のもと生み出されたのか、タテ（地域性）とヨコ（時代性）の繋がりに重点を置きながら、時系列順に分析します（第 2 回～第 11 回）。この際、時代

〔成績評価の方法〕

・平常点および期末レポートによって総合的に評価する。
・平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）：65%
毎回の講義を聞いた上で回答する小テストの正答率、及び、記入するコメントペーパーの質と量によって評価する（第 1 回～第 13 回）。
・期末レポート：35%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

高校で世界史を選択していない方、中東諸言語（アラビア語、ペルシャ語、トルコ語など）の知識がない方でも理解できるような授業作りを心がけますが、対象とする地域が広域に渡りますので、日頃からよく地図を眺めておくようにしてください。もちろん、高校で世界史を既に学習済みだけれども、イスラーム史を学び直したい、という方のニーズにも応えたいと思います。
また、イスラーム美術史のより深い理解には、高校世界史程度のイスラーム史＋α の知識が必要不可欠です。このため、予習として教科書の指定ページを事前に熟読し、時代背景に

〔テキスト〕

『詳説世界史研究』 、木村靖二・岸本美緒・小松久男編、山川出版社、2017 年
※購入の必要なし

〔参考書〕

『イスラーム美術 （岩波　世界の美術）』 、ジョナサン・ブルーム&シーラ・ブレア著・桝屋友子訳、岩波書店、2001 年
『日亜対訳 クルアーン―［付］訳解と正統十読誦注解』、中田考監修，中田香織・下村佳州紀訳 、作品社、2014 年
『すぐわかるイスラームの美術ー建築・写本芸術・工芸』、桝屋友子、 東京美術、2009 年
※購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代社会入門						
教員名	内藤　準						
科目№	125411100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

この講義では現代社会のさまざまなトピックを学びます。わたしたちの生きる現代社会は、どのような社会であり、どのような社会問題が生じているのでしょうか。ある社会問題について、どのような立場の違いがあり、いかなる解決策が考えられるのでしょうか。また、社会はどのように変化するのでしょうか。
この授業ではこうした問いに対して、とくに人びとの「自由」や「アイデンティティ」、社会の「秩序」や「社会規範」、そして「社会の変化」という観点から取り組んでいきます。各回のテーマについて学びながら、みなさんの研究と暮らしに役立つ「社会と人についての見方」を身につけていきましょう。

〔到達目標〕

DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下の到達目標を設定します。
①現代社会のさまざまな現象について、その成り立ちや問題点を理解できるようになる。(DP1、DP3)
②さまざまな資料やデータや文献の見方を学び、自ら調べて確かめる姿勢を身につける。(DP1、DP3)
③現代社会の諸問題について分析するための、基礎的な概念や基本的な理論枠組みを理解し、身につける。(DP1、DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション （以下の各回のテーマは一例です。その時々の社会情勢や授業の進捗に応じて入れ替わる可能性があります。）	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第２回	現代社会の分析の基礎１ ～社会的行為と社会規範	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第３回	現代社会の分析の基礎２ ～相互行為と社会的協力，コンフリクト	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第４回	現代社会の分析の基礎３ ～社会秩序と社会構造、社会変動	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第５回	現代社会の分析の基礎４ ～さまざまな差別のメカニズム	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第６回	障害者差別と自立生活，ノーマライゼーション	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第７回	性の多様化とジェンダー	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第８回	貧困の連鎖と社会的排除	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第９回	近代家族と家族の多様化	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１０回	仕事と家庭，ワークライフバランス	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１１回	少子高齢化と社会福祉	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１２回	監視社会における自律性，リスク社会と個人化	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１３回	公共性，ボランティア，町内会	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１４回	授業のまとめ 到達度確認テスト	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60

〔授業の方法〕

基本的に講義形式（オンライン）でおこないます。
毎回の最後に、リアクションペーパー（ forms によるコメント）を集めます。
リアクションペーパーの提出をもって出席とします。
講義では学術的な概念を用いるので、適宜簡単な小テストなどをおこなう可能性があります。
進捗と復習の必要に応じて、中間テストなどをおこなう可能性があります。
授業の進捗度やその都度の重要トピックに応じて、各回の内容は変更されることがあります。
小テストや中間テスト等の範囲は授業で扱った内容全般です。

〔成績評価の方法〕

平常点，小テストや課題、学期末テスト（または到達度確認テスト）から総合的に評価します。
基本的には学期末テスト（または到達度確認テスト）を重視します。テストの出題範囲は授業で扱った内容全般です。
学期末テストは対面で行う予定とします。
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況） 10%，小テストや課題 30%，学期末テスト（または到達度確認テスト） 60%
進捗状況によって，課題や小テストがおこなわれなかった場合や，おこなわれても回数が少なかった場合には，その分の配点を平常点や学期末テ

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識はとくに必要ありませんが、社会階層論、労働社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学などについて，また，社会学的な相互行為論（ゴッフマン，ガーフィンケル，シュッツなどの理論）について学んでいると、より理解が深まります。

〔テキスト〕

授業時に資料を配付し、テキストとして使用するほか、適宜授業内で指示します。

〔参考書〕

筒井淳也ほか『社会学入門』有斐閣．（購入の必要なし）
小林盾ほか『社会学入門』朝倉書店．（購入の必要なし）
本田由紀編『現代社会論』有斐閣．（購入の必要なし）
江原由美子『増補　女性解放という思想』筑摩書房．（購入の必要なし）
E．ゴッフマン『行為と演技』誠信書房．（購入の必要なし）
E．ゴッフマン『スティグマの社会学』せりか書房．（購入の必要なし）
前田泰樹・水川喜文編『エスノメソドロジー』新曜社．（購入の必要なし）
など、授業内で随時指定します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業後の forms で受け付けます。
授業終了後に教室でも受け付けます。
その他の連絡手段はポータルサイト等で周知します。

〔特記事項〕

・初年次教育

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会学入門						
教員名	澁谷　智子						
科目№	125411150	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

社会学は、異なる人々が共存していくあり方に目を向け、時代による変化の中で、人々の関係性や規範や制度がどう作用しあっているのか、そこから生み出される社会現象の構造などを読み解いていく学問である。この授業では、そうした社会学の基本となる考え方を勉強する。

〔到達目標〕

ＤＰ１「専門分野の知識・技能の修得」、ＤＰ２「教養の修得」、ＤＰ３「課題の発見と解決に向けた力の修得」を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
①社会学という学問分野において、これまでどのような議論がなされてきたのかを学び、その基礎的な知識を習得する。
②その作業を通して、社会の構造を読み解く視点と思考を身に付け、今後の勉強に役立てられるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配布資料を読み、理解する。	60
第２回	公共空間と親密空間	授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。	60
第３回	自殺論	配布資料を読み、理解する。	60
第４回	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。	60
第５回	相互行為	配布資料を読み、理解する。	60
第６回	規律と訓練	授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。	60
第７回	専門職の管理・献身と自己決定	配布資料を読み、理解する。	60
第８回	組織と人間――マクドナルド化する社会	配布資料を読み、理解する。	60
第９回	国家とグローバリゼーション	授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。	60
第１０回	家族とライフコース	配布資料を読み、理解する。	60
第１１回	ジェンダー	配布資料を読み、理解する。	60
第１２回	格差と階層、文化と再生産	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第１３回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	到達度確認テストの解説、歴史と記憶	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

〔授業の方法〕

毎回プリントを配布し、必要に応じて、映像やインターネット等を使いながら、講義を行う。授業の中で、課題を行うこともある。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（50%）と平常点（授業中の課題など）（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「現代社会入門」がある。

〔テキスト〕
必要に応じて資料を配布する。

〔参考書〕
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2019，『社会学（新版）』有斐閣．（3500 円＋税、ISBN978-4-641-05389-2） 購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
初年次教育

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	コミュニケーション論入門						
教員名	見城　武秀						
科目№	125411200	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

『ドラえもん』に出てくる「ほんやくコンニャク」が欲しいと思ったことはないでしょうか？食べればどんな言葉をしゃべる人とでもコミュニケーションできる「ほんやくコンニャク」は、夢のような道具です。しかも、人工知能や機械翻訳についての研究が急速に進んでいる今、そう遠くない将来実現しそうな道具、部分的にはすでに実現している道具であるようにも思えます。
ところが驚くべきことに、現在のコミュニケーション論に大きな影響をおよぼしている「構造主義」という考え方は、「ほんやくコンニャク」という道具が原理上存在し得ないということを示しました。一体構造主義は、どのような仕方で「ほんやくコンニャクが存在し得ないこと」を示したのでしょう。そもそも構造主義とは、どのような物の見方なのでしょう。また、現在進みつつある機械翻訳研究は無駄な試みなのでしょうか。これらの問いに答えながら、一体コミュニケーションとは何か、多角的に考察していきます。

〔到達目標〕

DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP2-1（人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまた がる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる）を達成するため、次の３点を到達目標とします。
（１）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解すること。
（２）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解すること。
（３）構造主義的翻訳観と現在の機械翻訳技術の根底にある翻訳観を比較することで、コミュニケーションとは何かという問いに対する自

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。課題文献を読む。	60
第２回	＜モノ語り＞と現代のコミュニケーション	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第３回	“やさしさ”と現代のコミュニケーション	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第４回	“やさしさ”という呪縛	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第５回	大衆社会としての現代とコミュニケーションー現代人の「不安」	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第６回	言葉の「意味」とは何かー言葉と文化の「構造」性	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第７回	構造主義の源流ーソシュールの言語学	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第８回	言語の差異性／恣意性／体系性―構造主義の基礎概念	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第９回	言語は「現実」や「思考」とどのように関係するか	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１０回	「ほんやくコンニャク」があれば本当に「異文化理解」ができるのか？	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１１回	コミュニケーションにとって言語とは何か	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１２回	構造主義以後のコミュニケーション論がかかえる問題	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１３回	機械は言語を「理解」できるのか？	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１４回	まとめ	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60

〔授業の方法〕

配布資料に基づく講義形式。毎回、授業内容に関連する課題を出します。

〔成績評価の方法〕

毎回の提出課題に基づく平常点 100%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。
（1）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解しているか。
（2）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解しているか。
（3）講義内容を踏まえ、コミュニケーションとは何かという問いに対する自分なりの考えを深めることができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

多数。授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア論入門						
教員名	西　兼志						
科目№	125411250	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、メディアを、「人間」と「社会＝世界」を結びつける「技術＝モノ」と定義することで、いまや私たちの環境となっているメディアを広い視点から理解できるようにしていきます。メディアの展開――書物、写真、映画、テレビ、ソーシャル・メディアなど――を辿りながら、現代社会におけるメディアの成り立ちについて考えていきたいと思います。

〔到達目標〕

DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定してます：現代社会の諸問題やメディアに関する学修を通じて、基礎的な知識と研究手法を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション：人間・社会・技術	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第2回	メディア、情報、記号（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第3回	メディア、情報、記号（2）：メディアと情報社会	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第4回	メディア、情報、記号（3）：メディアと記号	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第5回	メディアとしての文字	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第6回	メディアとしての印刷術	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第7回	メディアとしての写真	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第8回	メディアとしての映画（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第9回	メディアとしての映画（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第10回	メディアとしてのテレビ（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第11回	メディアとしてのテレビ（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第12回	メディアと監視社会（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第13回	メディアと監視社会（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第14回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分

〔授業の方法〕

この授業は、オンラインで実施します。
講義形式で進めていきます。
提出されたリアクション・ペーパーは、毎回できるかぎり取りあげ、講義に組み込んでいきます。
また、CoursePower にアップロードした資料のアクセスは出席にあたっては必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕

授業への参加（≠出席）＝50%、リアクション・ペーパーの内容（≠投稿）＝50%
（なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処する。）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・授業で取り上げた各メディアの特質を理解できているか。
・授業で参照したメディア論の古典的なテクストをきちんと理解できているか。
・各自にとって身近なメディア現象を、メディア論の観点から位置づけられているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に、ありません。

〔テキスト〕

CoursePower に随時アップロードします。
単位取得にあたっては、次のことが必須です：
アップロードした資料のアクセス（未アクセスの場合、出席にカウントしません）
資料は、プリントアウトしたうえ、書き込みなどができるよう手許に用意しておくこと

〔参考書〕

西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.
『アイドル/メディア論講義』東京大学出版会、2017.
その他、授業中に随時、指示します。
CoursePower にアップロードした資料のアクセスは出席にあたって必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会学史						
教員名	金　善美						
科目№	125411500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

社会学の歴史的な歩みをたどりながら、社会学という学問の基礎的な概念と理論について学ぶ授業です。毎回、代表的な社会学者（学説）を取り上げ、その理論・思想を生み出した時代的背景や主な業績の内容、他の学問分野との関連などを解説していきます。
社会学が扱う領域は幅広く、また、抽象的な考え方や馴染みの薄い用語が出てくることもあるため、難しいと感じる人もいるかもしれません。授業ではそれらをなるべく分かりやすくかつ具体的に解説することで、それぞれの受講者が「好きな社会学者」「今後のレポートや卒論に活用したい概念・理論」に出会うきっかけを提供したいと思います。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）・DP2（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①社会学の主要な概念と理論を修得する。
②さまざまな学説を社会学全体の流れの中で位置づけ、その特徴と意義を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する	シラバスを読み、講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	近代の成立と社会学の誕生	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第３回	ウェーバーの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第４回	デュルケムの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第５回	ジンメルの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第６回	実証主義の社会学：シカゴとコロンビア	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第７回	パーソンズの社会学と現象学的社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第８回	意味学派の社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第９回	ルーマンの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１０回	ハーバーマスの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１１回	ブルデューの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１２回	コミュニティとネットワークの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１３回	フーコーとギデンズの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１４回	全体のとりまとめ ・これまで学んだ社会学の歴史を振り返りながら、社会と社会学の関係を考察する	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60

〔授業の方法〕

講義形式。授業内容への理解度を確認するために、コメントペーパーの提出を求めます。学期末試験あり。

〔成績評価の方法〕

平常点（質問や発言など授業への参加状況）30%＋学期末試験 70%で評価します。学期末試験は、資料持ち込み禁止の論述式試験です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・社会学の大まかな歴史について、基礎的な知識を修得しているか
・特定の理論・概念を社会学史全体の流れの中で位置づけ、その特徴や意義を理解しているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現代社会学科の 1 年生必修科目（現代社会入門・社会学入門・コミュニケーション論入門など）や 2 年生演習科目の内容を身につけておくと、授業内容を理解しやすいと思います。

〔テキスト〕

『ブリッジブック社会学（第 2 版)』、玉野和志編、信山社、2400 円＋税、ISBN-10: 4797223529（購入の必要なし）

〔参考書〕

『社会学の歴史Ⅰ』奥村隆著、有斐閣、1900 円＋税、ISBN-10: 4641220395
『クロニクル社会学』那須壽著、有斐閣、2100 円＋税、ISBN-10: 4641120412
『社会学用語図鑑』田中正人・香月孝史、1800 円＋税、ISBN-10: 4833423111
『よくわかる社会学史』早川洋行編著、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN:9784623059904
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア史入門						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125411650	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、さまざまなメディアの歴史を一つひとつ丹念に読み解きながら、メディアそのものの独自性に固執することなく、むしろそのメディアを取り囲んでいる社会的な文脈にこそ目を向け、日本社会の歴史的な動向を把握していくことにしたい。さまざまなメディアがどのような社会のなかでどのように創出されてきたのか。また、メディアはどのような社会的現象を創出してきたのか。このような問いに取り組んでいく。そして、歴史資料を読み解くなかで、メディアが、階級、ジェンダーなどの社会的カテゴリーを創出するプロセスを把握する。また、同時に、そのような社会的カテゴリーの生成とともに新たなメディアが生み出されるプロセスをとらえる。このような作業を繰り返すことによって、メディアは決して社会と切り離された存在ではないことを確認し、メディアというフィルターを通して社会そのものを読み解いていきたい。

〔到達目標〕

ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、ＤＰ２（教養の修得）、ＤＰ３（課題の発見と解決）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
社会の「常識」や、社会現象やメディアの定型的な語りから脱し、さまざまな視点から社会現象やメディアを捉えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	少年少女雑誌と「少年」「少女」はどのように生まれてどのように変遷したのか	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第２回	子どものメディアから「少年」のメディアへ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第３回	子どものメディアから「少年」のメディアへ（２） 「少年」のメディアから「少年」「少女」のメディアへ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第４回	「少年」のメディアから「少年」「少女」のメディアへ（１） 大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第５回	大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第６回	大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（３） 新体詩の名手と口語詩の名手（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第７回	新体詩の名手と口語詩の名手（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第８回	新体詩の名手と口語詩の名手（３） 少女雑誌のアイドルと少年雑誌のアイドルの不在（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第９回	少女雑誌のアイドルと少年雑誌のアイドルの不在（２） あこがれの才色兼備のお嬢さま（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１０回	あこがれの才色兼備のお嬢さま（２） 完全無欠の英雄（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１１回	完全無欠の英雄（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１２回	完全無欠の英雄（３） 都市新中間層の「少年」「少女」からあらゆる階層の「少年」「少女」へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１３回	都市新中間層の「少年」「少女」からあらゆる階層の「少年」「少女」へ（１） 「少年」「少女」から少国民へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１４回	「少年」「少女」から少国民へ（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90

〔授業の方法〕

この授業はオンラインで実施します。

〔成績評価の方法〕

授業内レポート・授業内ミニレポート・コメントシートなど提出物（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

とくになし。

〔テキスト〕

今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019 年。

〔参考書〕

とくに指定しない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	家族社会学						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125431100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本講義のテーマは、家族をめぐる過去・現在・未来における諸問題を理解することにある。
ごく自然な存在として理解されている、両親と子どもを中心とした家族は、戦後の日本社会において確立した制度であり、決して自明なものでも古来からの伝統でもない。本講義では、私たちが自然に感じる「家族」がいかにして形作られ、自然化していったかを産業化の過程を踏まえて議論し、またその家族が現在どのような危機を迎えているかを議論する。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、家族社会学における「家族」のとらえ方やその社会的機能について理解できるようになるとともに、現在の家族を取り巻く諸問題を把握し、その実践的な対応策を構想することができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	【家族とは何か 1〜2】 イントロダクション：なぜ家族を考えるのか？	【復習】講義で指定した課題の実施（家族へのヒヤリング）	90
第２回	ファミリー・アイデンティティと家族類型：家族を主観的に捉える	【予習】自身と家族の家族観を把握する 【復習】講義での知見を踏まえ、家族と家族イメージについて議論する	90
第３回	【近代家族の成立 3〜5】 近代家族の成立 1：ロマンティックラブという考え方	【予習】参考文献 2 第 1 章前半を読む 【復習】参考文献 2 第 1 章前半を再読する	90
第４回	近代家族の成立 2：主婦の登場と性別役割分業の明確化、母性神話の構築	【予習】参考文献 2 第 1 章後半を読む 【復習】参考文献 2 第 1 章後半を再読する	90
第５回	近代家族の成立 3：産業革命と産業構造の変化	【予習】参考文献 3 第 1 部を読む 【復習】参考文献 3 第 1 部を再読する	90
第６回	【日本における戦後家族モデルの形成と解体 6〜8】 戦後家族モデルの形成：「家」制度の近代における読み替えと男性稼ぎ手ー主婦モデルの形成	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第７回	戦後家族モデルの揺らぎ：安定成長期における家族	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第８回	戦後家族モデルの解体：経済不況期における家族の機能不全	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第９回	【現代の家族をめぐる諸問題 9〜14】 配偶者選択と未婚化	【予習】『厚生労働白書』を読む 【復習】資料を再読する	90
第１０回	家族形成の国際比較、家族形成の諸問題	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１１回	妊娠、出産、子育ての現在	【予習】『少子化社会対策白書』を読む 【復習】資料を再読する	90
第１２回	家族の暗部	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１３回	グローバル化と家族	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１４回	家族の可能性、講義のまとめ	【復習】すべての配布資料を再読する	120

〔授業の方法〕

講義形式で行う。家族は私たちにとってもっとも身近な領域であり、相対化が難しい領域でもある。そこで、画像資料や映像資料などももちいて講義する。また、一部の課題では自身の家族や身近な人への聞き取りも行う。

〔成績評価の方法〕

小レポート（50%）とテークホーム試験（50%）によって行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「ライフコース論」（2 年次以降に履修可能）を履修するとより理解が深まる。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介する。
1. 岩間暁子・大和礼子・田間泰子『問いからはじめる家族社会学−多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣、2015 年。
2. 千田有紀『日本型近代家族−どこから来て、どこへ行くのか』勁草書房、2011 年。
3. 上野千鶴子『家父長制と資本制』岩波現代文庫、2009 年（旧版 1990 年）。
4. 野沢雍彦『データで読む平成期の家族問題−四半世紀で昭和とどう変わったか』朝日新聞出版、2014 年。
5. 筒井淳也『仕事と家族― 日本はなぜ働きづらく

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

ＩＣＴ活用

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	都市社会学						
教員名	金　善美						
科目№	125431150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

学生のみなさんの中には、大学進学をきっかけに新しい街で暮らすようになった方や、大学生になって改めてあちこちの街を歩き回るようになった方も多いのではないでしょうか。この授業では、私たちのこうした日常生活の舞台としての都市を対象に、都市社会学の基本的な概念や理論、その背景にある考え方について学びます。また、都市における近年の社会現象・問題を積極的にとりあげながら、その背景や展開、課題を検討することで、現代都市への理解を深めていきます。

〔到達目標〕

DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の２点を到達目標とします。
①都市社会学の基礎知識を修得する。
②受講者自身にとって興味深い都市現象・問題について、授業で学んだ内容と結びつけてその背景と展開を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する ・都市社会学が何を扱う学問なのかを概観する	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	都市とは何か？ ・都市の定義と類型、農村との違い、歴史、都市化のプロセスなどを学ぶ	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第３回	都市論の系譜（１）都市化の問題と「シカゴ学派」のまなざし ・都市社会学の始まりであるシカゴ学派の問題意識と調査方法などを学ぶ	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第４回	都市論の系譜（２）都市に生きる人々のつながりをめぐる議論 ・アーバニズムとコミュニティ、パーソナル・ネットワークなど、都市に生きる人々のつながりに関する諸理論を学び、その変容を理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第５回	都市論の系譜（３）情報化・脱工業化とグローバル・シティの出現 ・情報化・脱工業化がもたらす都市の構造再編を把握する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第６回	日本都市の形成（１） ・東京大都市圏の空間・社会構造の形成やその変容を把握する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第７回	日本都市の形成（２） ・都市化の理論的プロセスを、日本都市の事例から理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第８回	都市をフィールドワークする：担当教員のフィールドワーク経験から ・都市フィールドワークの実例を学ぶ	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第９回	インナーエリアの危機と再生：生まれ変わる東京の下町 ・インナーエリア衰退の背景を理解し、ジェントリフィケーションを含む近年の変化について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１０回	郊外のゆくえ：少子高齢化社会における「郊外」問題 ・郊外住宅地の現状と近年の課題について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１１回	グローバル化する都市の地域社会：東京のエスニック・コミュニティ ・外国人集住地域の形成を新大久保・高田馬場の実例から把握し、都市の多様性について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１２回	都市下層の世界 ・都市下層の社会的世界を理解する ・山谷と釜ヶ崎などの事例から、現代日本における社会的排除と格差について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１３回	都市の文化とまちづくり：アートを用いた地域活性化の試み ・創造都市や都市再生、地域活性化の考え方を学び、その意味や課題を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１４回	まちの開発と保存：京都市の景観政策と町屋保存 ・歴史的景観の保存・保全をめぐる諸議論と実践を把握し、都市計画・都市開発の原理を理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

パワーポイントを用いた講義形式です。課題レポートは、各自がフィールドワークを行いながら取り組むという内容のものです。単に授業で紹介した知識を覚えるだけでなく、それを自分なりに消化・応用した上で現代日本社会で起きている都市現象・都市問題をある程度、説明したり分析したりできるかどうかを評価します。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況やコメントペーパー）30%、２回の課題レポート 70%で評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・都市社会学の基礎的な概念と理論を理解できているか。
・現代都市の社会現象・問題の背景を理解し、的確な情報を収集した上で自分なりの言葉で論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『都市社会学・入門』、松本康編、有斐閣、2014 年、2000 円＋税、ISBN-10: 4641220158
『よくわかる都市社会学』、中筋直哉・五十嵐泰正編、ミネルヴァ書房、2013 年、2800 円＋税、ISBN-10: 4623065057
いずれも購入の必要なし。なお、各回の参考書については授業内で適宜紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会心理学						
教員名	小林　盾						
科目№	125431200	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

なぜ多くの人は恋愛や結婚をするのでしょうか．なぜ人は美しさに投資するのでしょうか．人びとはどのように幸せをみつけるのでしょうか．この授業では，そうした人びとの心理が，どのようなメカニズムをもつのかを考えます．そのために，恋愛と結婚，美容，幸せ，食事，子どもの貧困など，さまざまな身近なトピックをとりあげ分析します．グループでフィールドワークやインタビューを行い，グループプレゼンテーションが中心となって進みます．

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため，次の 3 点を到達目標とします．
(1) 社会心理にかんする重要な考え方を身につけ，メカニズムを説明できる．
(2) フィールドワークやインタビューを通して，本格的な研究メソッドを使いこなすことができる．
(3) 人びとの喜びや希望，ときには不安や痛みに寄りそうことで，だれにもやさしく温かい，本当の意味で豊かな社会を構想できる．

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	担当教員が初回授業時に説明します	60
第２回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第３回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第４回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第５回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第６回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第７回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第８回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第９回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１０回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１１回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１２回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１３回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１４回	授業のまとめ	担当教員が初回授業時に説明します	60

〔授業の方法〕

講義．ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション，フィールドワークも行われます

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況，宿題の提出状況，ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション）50%，成果物（宿題レポート，到達度確認テストなど）50%による総合評価

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
社会学的思考力を身につけているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし

〔テキスト〕

初回授業時に説明します

〔参考書〕

『変貌する恋愛と結婚』，小林盾他編，新曜社（購入の必要なし）
『美容資本』，小林盾，勁草書房（購入の必要なし）
『嗜好品の社会学』，小林盾編，東京大学出版会（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	歴史と社会						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125431250	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本講義の目的は、誰もが経験しているジェンダー、家族、教育を切り口にして、それらを取り巻く社会全体の歴史をとらえなおすことである。わたしたちは、ジェンダー、家族、教育にかんして、固定的なイメージを抱きやすい。たとえば、「男は仕事、女は家事・育児・介護をするべきである」、「教育はもっぱら学校で行われるべきである」、「家族はお互いに愛情を持って接するべきである」、「子どもはかわいがるべきである」などというイメージを持ちやすい。このようなイメージは、わたしたちにとっては、もはや「常識」となっているきらいもある。しかしながら、このようなイメージのほとんどは近代以降に生まれたものである。つまり、「常識」でも、「当たり前のこと」でもないのである。

本講義では、ジェンダー、家族、教育の歴史を学びながら、これらのステレオタイプ化されたイメージを疑っていくことにしたい。そして、わたしたちの「常識」を疑っていくことにしたい。その上で、ジェンダー、家族、教育とは何か、という問いに、取り組んでいくことにしたい。

〔到達目標〕

ＤＰ１（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
社会を歴史的な視点からとらえられるようになる。
ジェンダー、家族、教育という身近なものの歴史を社会全体の歴史と関連させて考えることができるようになる。
社会に関する固定的なイメージにとらわれず、より広い視点からそれらを把握できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「ジェンダー」の視点から歴史を見るとはどのようなことか	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第２回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（１） ――「主婦」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（２） ――「主婦」の誕生（２）、日本の「主婦」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第４回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（３） ――日本の「主婦」の誕生（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（４） ――日本の「主婦」の誕生（３）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（４） ――日本の「主婦」の誕生（３） 家族の歴史（１） ――「近代家族」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	家族の歴史（２） ――「近代家族」の誕生（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第８回	家族の歴史（３） ――「近代家族」の誕生（３）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	家族の歴史（４） ――「近代家族」の誕生（４）、日本の「近代家族」の誕生 「子ども」の歴史（１） ――「子ども」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	「子ども」の歴史（２） ――「子ども」の誕生（２）、「母性愛」の誕生	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	「子ども」の歴史（３） ――「子ども」の誕生（３）、現代日本社会の「子ども」をめぐる問題	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１２回	「子ども」の歴史（４） ――「子ども」の誕生（４）、現代日本社会の「子ども」をめぐる問題 日本社会と子どもの教育の歴史（１） ――江戸後期の社会と子どもの教育（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１３回	日本社会と子どもの教育の歴史（２） ――江戸後期の社会と子どもの教育（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１４回	日本社会と子どもの教育の歴史（３） ――江戸後期の社会と子どもの教育（３） 日本社会と子どもの教育の歴史（４）――明治以降の社会と子どもの教育	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90

〔授業の方法〕

講義形式。

〔成績評価の方法〕

授業内レポート・授業内ミニレポート（80%）、平常点（20%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

とくになし。

〔テキスト〕

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ジェンダーの社会学						
教員名	坪田　美貴						
科目№	125431300	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この講義では「ジェンダー」という視点で、テーマ別に社会の諸現象を読みといて直していきます。
私たちは無意識のうちにジェンダーの視点で社会を理解しています。それだけでなくジェンダーは私たちのアイデンティティに深く根付いています。
そのため、目の前で起きている現象を「当たり前」だと感じ、「当たり前でない」可能性について考えにくくなっています。
そこでこの講義では、「ジェンダー」をキーワードとして社会や世界を見直すことで、「当たり前」で「普通」の事柄に対して、これまでとはどのように違う理解をできるのか、社会を見直す糸口として考えていきたいと思います。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、ジェンダーをキーワードに、社会の現象を説明できるようになる。
自分や身の回りの人の生き方や社会について、ジェンダーを切り口に理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション： フェミニズムからジェンダーへ	【復習】配布プリントを読み直す	60
第２回	ジェンダーと近代家族の成立	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第３回	戦後の社会制度と家族	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第４回	教育とジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 指定の材料を集める 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第５回	言語・映像・ジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 課題に取り組む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第６回	男らしさ・男の生きづらさのジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 課題に取り組む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第７回	身体とジェンダー・アイデンティティの多様性	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第８回	LGBTQ+の権利と価値観	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第９回	法とジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 課題に取り組む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１０回	戦争・軍隊とジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 課題に取り組む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１１回	セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１２回	性と生殖	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１３回	開発とジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１４回	国際移動	【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60

〔授業の方法〕

この授業はオンラインで実施します。
授業形式は、講義およびグループディスカッション。
オンデマンドでの受講であっても、ディスカッションなどの課題を行うことが求められます。
予習として、参考文献や参考資料に必ず目を通すこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）50%、学期末レポート 50%。
学期末レポートは、内容だけでなく、レポートとしての形式を整えていることが必須である。形式については授業内で提示する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に必要なし。毎回プリントを配布する。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013。
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後およびポータルサイトにて受付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	労働社会学						
教員名	森山　智彦						
科目№	125431350	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、労働社会学の入門的講義を行います。
今日の日本社会では、仕事をして報酬を得ることが、生きる糧を得るための主な手段となっています。その中心は、企業や役所で雇われて働く雇用労働です。
そこでこの授業では、日本的な働き方の仕組みの特徴と利点、問題点を理解することを目的とします。理解にあたっては、家族や福祉などの他の諸制度と関連づけながら、海外との比較や歴史的視点も交えて解説します。
また、キャリア形成、ワークライフバランスなど大学生にとって関心の高いトピックに加えて、外国人労働者との共生、AI 等による雇用危機の可能性、フリーランスなどの雇用されない働き方といった最新の動向も扱う予定です。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標を設定します。
(1)働き方に関する様々なトピックや問題について、背後にある社会構造を理解し、自分なりの考えを整理できるようにします。(DP1、DP2、DP3)
(2)働き方の仕組みや問題点について、労働者個人だけでなく企業や社会制度といった多角的な視点から考察することで、社会科学的にバランスの取れた視点を身につけます。(DP1、DP2、DP3)
(3)さまざまな資料やデータ、文献の

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ＝＝＝＝＝＝＝＝ 授業全体の内容や進め方を説明し、参考資料などを紹介します。 （授業内容は、そのときどきの労働をめぐる社会的論点や授業の進捗によって変わることがあります。）	【復習】ワークシート作成。	60
第２回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　１ ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方は他の国から見ると非常にユニークなものです。その根本的な特徴と仕組み（日本的雇用システム）について、海外との比較を交えて学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第３回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　２ ＝＝＝＝＝＝＝＝ 前回に続き、日本的雇用システムの特徴に焦点を当て、日本の企業がどのようにして、正社員の仕事経験がない若者を、目標に貢献できる人材に育てているかを説明します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第４回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　３ ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の昨今の変化（多様化）について解説します。また、日本的な働き方と人生設計との関係を理解するため、日本的雇用システムと福祉制度の関連を学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第５回	キャリア形成１：新卒一括採用の是非を考える ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の下でどのようにキャリアが形成されるかを学びます。まずはその入り口である新卒一括採用制度の導入の経緯と長所・短所を解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第６回	キャリア形成２：どのように仕事を覚えていくのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的雇用システム下のキャリア形成について、職場等で教育訓練がどのように行われ、職業経験のない若者が仕事に必要な能力をどのように身につけていくかを学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第７回	長時間労働は誰の責任か ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の中で、大きな問題となっているのが長労働時間です。その発生原因について、雇用システム、企業、個人など多角的な視点から迫ります。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第８回	非正規雇用の問題は解消すべきなのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 格差問題の大きな要因としてしばしば採り上げられる非正規雇用の問題について、歴史的な流れや背景、問題点を検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第９回	昇進と職務のジェンダー格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 働き方のジェンダー格差について、賃金や昇進、職務に焦点を当てて解説します。また、昨今の政策的対応について、賛成と反対の両方の立場から考察することで、解消策を検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１０回	ワークライフバランス実現のために ＝＝＝＝＝＝＝＝ ワークライフバランス（WLB）の考え方は一般的に広まっていますが、その実現には様々なハードルがあります。この回ではWLB を規定する社会的な背景、制度、職場の問題を解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１１回	男性の育児・介護休暇 ＝＝＝＝＝＝＝＝ WLB の議論は、子育て中心の議論から介護問題にまで拡大し、男性の育休取得の議論も盛んに行われています。このような昨今の展開と残る問題点について学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60

第１２回	外国人との共生を考える ＝＝＝＝＝＝＝＝ グローバル化や人口減少により、日本でも海外からの労働者の受け入れが徐々に進んできました。外国出身の労働者と日本人が共存して働く中でどのような問題が生じているのかを学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１３回	技術革新は仕事を奪うのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ AI などの自動化技術やロボットの発達により、仕事が奪われるかもしれないという議論が盛んに行われています。こうした技術の発達によって、日本的な働き方にどのような変化が生じ得るかを検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１４回	雇用されない働き方は自由な働き方なのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 自営という働き方は以前からありましたが、昨今では情報技術の発達やシェアリングエコノミーの拡大等により、一部のフリーランスが増加しています。このような雇用されない働き方の利点と課題を学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60

〔授業の方法〕

本講義は、主に資料（パワーポイント）によって進めながら、Forms 等を活用したフィードバックを適宜導入します。資料は CoursePower からダウンロードすることができます。なお、授業の進捗度によって、内容を変更することがあります。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業時の課題（Q&A など）やワークシートの提出：８０％）、期末レポート（２０％）
（ただしオンライン授業の場合は平常点 100%とする）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は特に必要ありませんが、社会階層論、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前または並行して学ぶと、より理解が深まります。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学：変貌する働き方』有斐閣ブックス.
上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房.
小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充『産業・労働社会学：「働くこと」を社会学する』有斐閣アルマ.
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問は授業終了後に教室で受け付ける他、メールでも受けつけます（アドレスは配布資料のタイトルスライドに掲載予定）。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アイデンティティの社会学						
教員名	横山　麻衣						
科目№	125431400	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

個人モデルで捉えられることが多い性暴力やその被害者支援について、社会関係モデル導入の必要性について解説する。
社会学のみならず学際的な研究などを読み解きながら、ジェンダーや性暴力についての偏見や思い込みを批判的に考察する。

〔到達目標〕

理論・実証研究、各種量的・質的データを理解し、ジェンダーセンシティブな社会学的想像力を養う。
自らの関心に基づいて問いを立て、根拠を示しながら、他者に伝わる論理的な文章を書くスキルを身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	GII、GGI	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第２回	「性犯罪」と「性暴力」	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第３回	性教育の国際比較	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第４回	性暴力研究	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第５回	性暴力がその被害者に与える影響	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第６回	性暴力被害後のソーシャルサポート	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第７回	性別規範、強かん神話	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第８回	社会関係とアイデンティティ	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第９回	親密な関係における暴力	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第１０回	被害者支援研究	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第１１回	被害者支援研究	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第１２回	新しい社会問題と非営利組織	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第１３回	被害者支援とその職務	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90
第１４回	性暴力理解と社会関係モデル	講義内容に基づいた、レポートの執筆	90

〔授業の方法〕

講義形式で進める。
受講者は毎講義後、講義内容に基づき、文献調査を行い、レポート作成・提出を行う。それゆえ、講義に出席するのみならず、講義内容に関連したテーマについて、授業時間外にレポート作成を行う必要がある。
評価の視点は、講義内容を理解していること、主張が根拠に基づいていること、評価者のみならず他の受講者にも理解可能な論理的な文章であること等に基づく。

〔成績評価の方法〕

平常点：100%（授業への参加状況、および、毎講義後のレポート提出状況とそのクオリティ）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
ジェンダーについての基礎知識があることが望ましい。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	コミュニティの社会学						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125431450	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、社会学の視点からコミュニティについて議論する。
コミュニティは社会学のなかでももっとも古い概念であると同時に、現代社会の政治、経済、社会、文化のあらゆる側面において重視されている概念でもある。この講義では、コミュニティという概念の展開について議論するとともに、その概念がなぜこれほどまでに多様に、かつ、ときに無思慮にもちいられてきたかを議論する。また、近年注目されている社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の議論を整理し、流動する社会におけるネットワークとコミュニティの関係について整理する。その上で、現代のコミュニティが直面する問題について、身近な具体的例を取り上げて論じる。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、社会学におけるコミュニティという考え方の意義とその難しさについて理解できるとともに、現代社会においてコミュニティが、そしてそのコミュニティに生きる人々が直面する問題について理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：なぜ今、コミュニティを議論するのか	【復習】配布資料を読み直す	90
第２回	コミュニティ概念１：コミュニティは伝統か	【予習】自分が「コミュニティ」だと思うもののリストを作成する 【復習】配布資料を読み直す	90
第３回	コミュニティ概念２：都市化と人のつながり	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第４回	Social Netowrk1：弱い紐帯の強さ	【予習】配布資料を読む、ネットワーク課題に回答する 【復習】配布資料を読み直す	90
第５回	Social Netowrk2：ネットワーク分析の現在	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第６回	Social Netowrk3：ネットワークとその問題性	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第７回	社会関係資本１：概念と展開	【予習】参考資料４の一部を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第８回	社会関係資本２：なぜ効力を持つのか	【予習】社会関係資本をどうすれば測定できるか考える 【復習】配布資料を読み直す	90
第９回	日本の地域コミュニティ	【予習】自分自身が居住する地域の地域団体（町内会、自治会）を把握する 【復習】配布資料を読み直す	90
第１０回	商店街の衰退と新しいコミュニティ	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１１回	コミュニティ行政、監視社会	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１２回	コミュニティをつくる／を活用する	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１３回	IT、アイデンティティとコミュニティ	【予習】配布資料２を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１４回	コミュニティとコミュニケーション、講義のまとめ	【予習】配布資料を読む 【復習】すべての配布資料を読み直す	120

〔授業の方法〕

講義形式で行う。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（90%）、平常点（クラスアンケート、10%）によって行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「都市社会学」、「ボランティア・NPO の社会学」、「コミュニティ演習」などが関連科目として想定される。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介し、配布する。

1. 船津衛・浅川達人『現代コミュニティとは何か―「現代コミュニティの社会学」入門』、恒星社厚生閣、2014 年。
2. デランティ『コミュニティ―グローバル化と社会理論の変容』、NTT 出版、2006 年。
3. 野沢慎司『リーディングス　ネットワーク論―家族・コミュニティ・社会関係資本』、勁草書房、2006 年。
4. パットナム『孤独なボーリング―米国コミュニティの崩壊と再生』、柏書房、2006 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

ＩＣＴ活用

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	生活文化史						
教員名	鈴木　禎宏						
科目№	125431500	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

「比較文化論」という視点を紹介し、この視点から近現代の日本の文化・生活のあり方を考える。序盤では主に時間をめぐる問題、中盤では数と食をめぐる問題、終盤では空間をめぐる問題を扱う。現在では当たり前になっている「生活」の成り立ちを見直す。

〔到達目標〕

人文・社会科学を中心に基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができるようになることを目的とする。具体的には、私たちが当たり前に受け止めているライフスタイルや日常の文化が、どのような歴史的な経緯を経て作られてきたかを理解する。自文化と異文化、およびそれらの担い手を相対的に眺められるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	シラバスの説明。暦と暦法①ヨーロッパ諸語の数字・月・曜日の表現。	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第２回	暦と暦法② 太陽暦・太陰暦・太陰太陽暦	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第３回	暦と暦法③ 太陰太陽暦	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第４回	暦と暦法④ 明治 5 年の太陽暦と定時法の導入について	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第５回	時代区分と歴史記述・歴史観	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第６回	数字の話①　単位の話など	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第７回	数字の話②　陰陽・五行説、十干十二支など	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第８回	食の思想と文化①　食の文化の考え方	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第９回	食の思想と文化②　食のタブーについて	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第１０回	食の思想と文化③　世界の食の多様性について	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第１１回	空間①　上と下、右と左など	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第１２回	空間②　「世界」観	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第１３回	空間③　他界・異界、「向こう側」など	授業内容の復習。 次回プリントの予習。	60
第１４回	授業のまとめ　歌枕と季語	授業内容の復習。 全体の復習。	60

〔授業の方法〕

講義形式。
毎回短いコメントを書いてもらい、理解の程度を確認する。

〔成績評価の方法〕

毎回のコメント（45%）、課題レポート 55%を基本とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本史と世界史の基本的な知識があることが望ましい。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

特になし。　（参考文献については授業内でその都度示す）
レポートの書式については次の文献などを参照のこと（購入の必要なし）：
・小笠原喜康『新判　大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009 年。
・佐藤望〔編著〕、湯川武、横山千晶、近藤明彦『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会、2018 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	教育社会学						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125431550	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、教育社会学の「ジェンダーと教育」について学んでいく。現代社会における学校教育という営みについて考えるとき、それを取り巻く社会構造を無視することはできない。現代社会においてはジェンダー、社会階層による社会的格差が存在する。そして、そのような社会的格差はなくならないどころか、ますます拡大しているといわれている。社会的格差と学校教育はどのように関連しているのだろうか。本講義では社会問題と教育問題の関連を解き明かしていく。そして現代社会における「教育」という営みについてもう一度考え直していく。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
ジェンダー、社会階層が学校教育を通して再生産されるプロセスをとらえられるようになる。
学校教育をとおして社会の構造について考えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	「ジェンダーと教育」とは何か（1） ――フェミニズムと「ジェンダー」	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第2回	「ジェンダーと教育」とは何か（1） ――「ジェンダーと教育」の変遷	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第3回	「教育社会学」とは何か（1） ――機能主義理論、タルコット・パーソンズの理論	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第4回	「教育社会学」とは何か（2） ――葛藤理論①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第5回	「教育社会学」とは何か（3） ――葛藤理論②、ランドル・コリンズの理論、ピエール・ブルデューの理論	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第6回	「教育社会学」とは何か（4） ――葛藤理論③、ピエール・ブルデューの理論②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第7回	「教育社会学」とは何か（5） ――葛藤理論④、ピエール・ブルデューの理論③	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第8回	「教育社会学」とは何か（6） ――日本社会はメリトクラシー社会なのか①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第9回	「教育社会学」とは何か（7） ――日本社会はメリトクラシー社会なのか②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第10回	進学・労働とジェンダー（1） ――最新のデータにおける進学・労働の男女差、進学の男女差①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第11回	進学・労働とジェンダー（2） ――進学の男女差②、専攻分野の男女差①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第12回	進学・労働とジェンダー（3） ――進学の男女差③、専攻分野の男女差②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第13回	進学・労働とジェンダー（4） ――進学の男女差④、労働市場の男女差	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第14回	かくれたカリキュラム	【予習】参考文献の指定部分を読む。これまでの学修内容を確認する。	90

〔授業の方法〕

講義形式。

〔成績評価の方法〕

授業内レポート・授業内ミニレポート・コメントシートなど提出物（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくに指定しない。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化社会学						
教員名	金　善美						
科目№	125431600	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

初学者の１～２年生の目線に合わせて、社会学の視点から「文化」について学んでいく授業です。まずは、社会学的な問いの対象としての「文化」概念を検討し、20 世紀以降の大衆文化の誕生を概観します。その上で、資本主義や消費社会、国民国家、グローバリゼーション、ジェンダー、観光など多様な視点に着目しながら、文化と社会の関係性や文化形成の原理を考えていきます。授業では写真や映像、新聞・雑誌の記事などの資料も積極的に活用し、理論の学習と並行して毎回の授業内容に関わる具体的事例を取り上げます。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①社会学の研究対象としての文化の概念を理解し、主な理論を説明できる。
②自分が興味を持つ文化現象を発見し、その形成と変容を授業で学んだ諸理論および様々な社会変動との関連の中で論じることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	文化とは何か（１） ・「文化」概念の成立と変容を把握し、文化社会学が扱う領域を概観する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第３回	文化とは何か（２） ・20 世紀初頭の大都市における大衆文化の開花を把握する ・シカゴ学派の都市社会学やカルチュラルスタディーズによる文化のとらえ方を理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第４回	資本としての文化（１） ・文化産業論や文化資本論、知識産業論、クリエイティブ産業論などの考え方を把握し、資本主義経済と文化の関係を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第５回	資本としての文化（２） ・東京ディズニーランドや創造都市などの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解をかめる	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第６回	差異としての文化（１） ・消費社会論や記号論、カルチュラルスタディーズなどの考え方を把握し、消費社会と文化の関係を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第７回	差異としての文化（２） ・ファッション雑誌やアニメキャラクターなどの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解を深める	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第８回	映画から読み解く文化社会学 ・映画作品をピックアップし、そこから見えてくる文化社会学のキーワードについて考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第９回	越境する文化（１） ・文化帝国主義とオリエンタリズム、文化のグローバル化などをめぐる議論を把握する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１０回	越境する文化（２） ・ディズニーのアニメーション、K-POP などの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解を深める	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１１回	ジェンダーの文化政治（１） ・アイデンティティとフェミニズム、ジェンダーという視点から現代社会と文化の関係を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１２回	ジェンダーの文化政治（２） ・ファッションの流行やコスプレなどの事例を検討しながら、現代日本社会で描かれる女性／男性のイメージ・役割について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１３回	現代文化としての観光・地域社会 ・現代の消費文化としての観光を、J.Urry「観光のまなざし」や S. Zukin「Authenticity」などの議論から考察する ・事例として昭和ノスタルジー・下町ブームを検討する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１４回	ネットワーキングする文化 ・ネット社会の到来による文化の変容を、市民運動や新しいプラットフォーム・メディアの登場、フェイクニュースなどの事例を挙げながら考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

パワーポイントを用いた講義形式です。毎回、受講者の授業内容への理解度を確認するために、コメントペーパーの提出を求めます。課題レポートが 2 回あります。単に授業で紹介した知識を覚えるのではなく、①それを自分なりの言葉で説明できるかどうか②文化にまつわる社会現象・問題の事例について授業で学んだ知識を応用して自分なりに分析・考察できるかどうか、を評価します。

〔成績評価の方法〕

平常点（質問や発言など授業への参加状況）30%、課題レポート２回（70%）で成績評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・文化に関する社会学の主な概念・理論を修得しているか
・特定の文化現象を社会変動の中で位置づけ、その背景や特質を説明できるか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『現代文化論――新しい人文知とは何か』、吉見俊哉、有斐閣、2000 円＋税、ISBN-10: 464122076X（購入の必要なし）
なお、各回の授業内容と関連する参考文献については、授業内で適宜紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会階層論						
教員名	森山　智彦						
科目№	125432100	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

この授業では、社会の格差・不平等問題を捉える社会階層論の授業を行います。授業内容は、現代社会においてどのような不平等があるのか（現状の理解）と、なぜそのような不平等が生じているのか（メカニズムの理解）に大きく分かれます。具体的なテーマとして、経済格差や貧困、階層再生産、教育、労働市場、ジェンダー、家族、意識に関する不平等を扱います。また、他国の格差・不平等の状況との比較を行うことで、日本の不平等問題の特徴を学びます。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標を設定します。
(1)格差・不平等問題に関する様々なトピックについて、背後にある社会構造を理解し、自分なりの考えを整理できるようにします。(DP1、DP２、DP3)
(2)格差・不平等問題の構造や問題点を多角的な視点から考察することで、社会の中の自身の立ち位置を認識すると同時に、自分の知らない他者の視点を身につけます。(DP1、DP3)
(3)さまざまな資料やデータ、文献の見方を学び

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	なぜ社会階層論を学ぶのか ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 授業全体の内容や進め方を説明します。また、どのような不平等が問題視されているのか、なぜそれが問題なのかについて、概要を説明します。	【復習】ワークシート作成。	60
第２回	不平等問題の現状把握１：経済的格差（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 所得格差の把握の仕方を学び、過去から現代までの推移を見ます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第３回	不平等問題の現状把握１：経済的格差（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 所得格差の拡大、固定化の背後にある社会的な構造の変化について解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第４回	不平等問題の現状把握２：なぜ貧困は生きづらさにつながるのか（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本社会の貧困問題の現状と歴史的な経緯を把握します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第５回	不平等問題の現状把握２：なぜ貧困は生きづらさにつながるのか（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ なぜ経済的な貧しさが生きづらさに結びつくのかを解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第６回	不平等問題の現状把握３：階層の再生産（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 親子間の社会階層の再生産を理解する上で重要な概念や指標について学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第７回	不平等問題の現状把握３：階層の再生産（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 階層再生産の時系列的な展開とその背景にある社会構造について解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第８回	不平等が生じるメカニズム１：社会階層と教育（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 出身階層と本人の階層を媒介する教育、学歴の機能や教育と仕事の関係を解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第９回	不平等が生じるメカニズム１：社会階層と教育（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 教育機会の不平等を是正するための政策（学費の無償化）の有効性について検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１０回	不平等が生じるメカニズム２：労働市場における格差（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 初職が出世や転職といった職業キャリアに及ぼす影響について、日本の雇用制度の視点から解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１１回	不平等が生じるメカニズム２：労働市場における格差（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 正規雇用と非正規雇用の間には様々な面で格差が存在します。そのような不平等がなぜ生じているのか、真に問題視すべき格差とは何かを解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１２回	不平等が生じるメカニズム３：雇用・労働における男女間格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 昔に比べれば性別による不平等は緩和しましたが、それでも根深く残っています。この回では、雇用・労働面の男女間格差の原因を解説し、解決のための施策等を紹介します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１３回	不平等が生じるメカニズム４：社会階層と家族形成 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ グローバル化などによる社会構造の変化は、結婚など家族形成にも影響を及ぼしています。そのメカニズムを解説し、真に課題視すべき問題について議論します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60

第１４回	不平等が生じるメカニズム５：社会階層と意識 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 社会階層は意識構造にも影響を及ぼし、人々は意識を通して不平等に対する実感を持ちます。社会階層に関連が深い意識として、階層帰属意識や希望格差に注目します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60

〔授業の方法〕

本講義は、主に資料（パワーポイント）によって進めながら、Forms 等を活用したフィードバックを適宜導入します。資料は CoursePower からダウンロードすることができます。なお、授業の進捗度によって、内容を変更することがあります。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業時の課題（Q&A など）やワークシートの提出：８０%）、期末レポート（２０%）
（ただしオンライン授業の場合は平常点 100%とする）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する. /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の２点に着目し、その達成度により評価します。
①社会階層論に関連する概念や不平等が生じるメカニズムを理解している。
②不平等を解決するために個人や社会が何をすべきかについて、自分の言葉で考えることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は特に必要ありませんが、労働社会学、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前に学んでいるとより理解が深まります。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

原純輔・盛山和夫（1999）『社会階層ー豊かさの中の不平等』東京大学出版会，3080 円（購入の必要なし）
竹ノ下弘久（2013）『仕事と不平等の社会学』弘文堂，1540 円（購入の必要なし）
盛山和夫ほか編（2011）『日本の社会階層とそのメカニズムー不平等を問い直す』白桃書房，3080 円（購入の必要なし）
平沢和司（2014）『格差の社会学入門ー学歴と階層から考える』北海道大学出版会，2750 円（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問は授業終了後に教室で受け付ける他、メールでも受けつけます（アドレスは配布資料のタイトルスライドに掲載予定）。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ライフコースの社会学						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125432150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

10 歳のときから多くの人が働き始める社会で生きることと、22 歳で働き始める社会で生きることは、同じ働くということでもまったく異なる経験となるだろう。そして、働き始めるという一見普遍的な事柄は、社会の変化によってそのタイミングも、個人にとっての意味も、具体的な内容も常に変化するものであった。本講義で扱うライフコース・アプローチは、人間の一生を普遍的な過程としてとらえるのではなく、社会的・歴史的コンテクスト（文脈）によって構築されたものとみなす点から出発する。そして、人々の人生がその年齢や時代、世代によって影響を受け、変化してゆく過程を理解する、学際的な手法となっている。このライフコースという考え方の意義や、実践方法について 1 学期間を通して議論する。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、ライフコースという視点の意味と限界を理解し、現代社会における個人の経験を年齢、歴史、世代という 3 つの観点からとらえるための基礎的な知識や概念を学び、活用することができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：変動する社会における個人の経験	【復習】家族の経験を聞き取る	90
第２回	ライフサイクルとは何か：発達心理学・役割理論の発展と限界	【予習】自分のこれまでの人生を段階として振り返る 【復習】配布資料を再読する	90
第３回	【ライフコース研究の概念と方法 3～9】 社会的地位と社会的役割、役割移行	【予習】参考文献を読む 【復習】自分の社会的地位、社会的役割を確認し、その将来を予想する	60
第４回	時間の導入：変化と持続をとらえる	【予習】参考文献を読む 【復習】自分のライフイベントカレンダーを作成する	60
第５回	年齢・時代・コーホート：APC 効果	【予習】参考文献を読む 【復習】家族の経験を APC 空間に図示する	60
第６回	家族時間、タイミング、コンボイ	【予習】参考文献を読む 【復習】自分の家族の家族時間を整理し、自分のコンボイを概念図として描く	90
第７回	『大恐慌の子どもたち』	【予習】参考文献を読む 【復習】自分のコンボイを概念図として描く	60
第８回	ライフコースを観察する：質的、量的な観察	【予習】21 世紀出生児縦断調査のサイトを調べる 【復習】21 世紀出生児縦断調査の報告書を読む	60
第９回	【現代社会とライフコース 9～14】 経済状況とライフコース：平成不況と就職活動の変遷	【予習】就職活動について両親に聞き取りをする 【復習】現在の就職活動の実態を調べる	90
第１０回	音楽とライフコース：文化とライフコースを考える	【予習】自分自身の音楽体験を言語化する 【復習】配布資料を再読する	90
第１１回	性的ライフスタイルとライフコース	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１２回	悲劇とライフコース：震災とライフコース	【予習】阪神大震災について調べる 【復習】鑑賞した映像資料の感想をまとめる	90
第１３回	格差とライフコース：格差の戦後史	【予習】祖父母世代、親世代、自分自身の進学と就職を聞き取る 【復習】配布資料を再読する	90
第１４回	未来像とライフコース：想像力と時代の拘束性	【予習】2030 年の将来像を考える 【復習】配布資料を再読する	60

〔授業の方法〕

講義形式で行う。また、講義では映画の鑑賞を行うなど映像資料も用いる。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（90%）と平常点（10%）によって行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「家族社会学」と深い関係をもつため、あわせて履修することでより理解が深まる。

〔テキスト〕

とくに指定しない。

〔参考書〕

講義時に適宜紹介する。主とするものは以下である。
・嶋崎尚子 2008 『ライフコースの社会学（早稲田社会学ブックレット−社会学のポテンシャル)』 学文社.
また、重要文献としては以下があげられる（絶版が多い）。
・エルダー 1997 『新版・大恐慌の子どもたち−社会変動と人間発達』明石書店.
・ハレーブン 2001 『家族時間と産業時間 新装版』早稲田大学出版部.
・プラース 1985 『日本人の生き方−現代における成熟のドラマ』岩波書店.
・エルダー・ジール 2003 『ライフコース研究

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

ＩＣＴ活用

科目名	ボランティア・ＮＰＯの社会学						
教員名	姫野　宏輔						
科目№	125432200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

「働き方の選択肢を増やすということは、自由な生き方が出来るってことなんだと俺は思う」（福田秀『スタンド UP スタート』集英社.）
皆さんは成蹊大学を卒業した後にどのような働き方をしたいと思っているでしょうか。多くの人は就職活動を経て企業や官公庁に雇われて働くビジネスパーソンになることを志向していると思いますが、ポスト産業化社会においては、誰かに雇われて賃金をもらうことだけが働き方ではありません。お金よりも社会問題の解決に貢献する生き方がしたいと考えている人も少なくないでしょう。そうした生き方に興味がある人に是非身に着けてほしい知識が、ボランティアや NPO といった、いわゆる「サードセクター」と呼ばれる存在についての知識です。
本科目は、ボランティアや NPO などについての基本的な知識を身に着け、それらの存在が、現代社会の抱える様々な社会問題の解決にどのように貢献できるのか、学生の皆さん一人ひとりの身近な例に引きつけて考えてもらうことを目的にしています。
授業前半部はサードセクターについての座学、後半部はそれらの存在が福祉社会学的な視点から見てとても有用であることの説明を経て、最終的に受講生の皆さんには「自分の関心のある社会問題に取り組むサードセクター」
を独自に構想してもらい、レポートとして提出してもらう予定です。

〔到達目標〕

DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
（1）NPO や社会的企業などのサードセクターが興隆してきた背景について、基本的な知識を身に着けて理解することができる。
（2）現代の様々な社会問題の中から、自分が特に関心を持つ問題を選び、その解決に取り組むサードセクターのあり方を自分なりに構想することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション――働き方の選択肢	授業中の配布資料を読み返し理解を深める。	30
第２回	理論編（１）――産業化社会の歴史	授業中の配布資料を読み返し、産業社会における働き方について理解を深める。	60
第３回	理論編（２）――企業と企業の社会的責任（CSR）	授業中の配布資料を読み返し、現代においては私企業も社会的責任を免れないことについて理解を深める。	60
第４回	理論編（３）――「非営利」とは何か／NPO・ボランティア	授業中の配布資料を読み返し、「非営利」の概念について理解を深める。	60
第５回	理論編（４）――社会的企業	授業中の配布資料を読み返し、社会的企業をめぐる現状について理解を深める。	60
第６回	理論編（５）――ボランティア	授業中の配布資料を読み返し、ボランティアの思想的な背景について理解を深める。	60
第７回	到達度の確認	第 2 回～第 5 回の授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。	60
第８回	実践編（１）――NPO の歴史	授業中の配布資料を読み返し、NPO の歴史について理解を深める。	60
第９回	実践編（２）――NPO をめぐる法と制度	授業中の配布資料を読み返し、世界と日本の NPO をめぐる法制度について理解を深める。	60
第１０回	実践編（３）――NPO と寄付・税制	授業中の配布資料を読み返し、NPO の資金調達について理解を深める。	60
第１１回	実践編（４）――NPO と行政・企業との協働	授業中の配布資料を読み返し、NPO と社会のパートナーシップについて理解を深める。	60
第１２回	実践編（５）――NPO の組織マネジメント	授業中の配布資料を読み返し、定款などの NPO 組織に必要な事項について理解を深める。	60
第１３回	サードセクターの可能性と危険性――福祉社会学の観点から	授業中の配布資料を読み返し、サードセクターの可能性と危険性について理解を深める。	60
第１４回	授業の総括 ・授業の内容にもとづいて課題レポートを作成する。	これまでの授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

本授業は講義形式で実施します。ガイダンスを除く講義回では毎回の授業終了時に、CoursePower からその授業に関するコメントを提出してもらいます。授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業時に課されるコメント提出を平常点として 50%、最終回の第 14 回での課題レポートの評価の合計を課題得点 50%の配分で、総合的に評価する。これらの課題はすべて CoursePower から提出する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
現代の様々な社会問題の中から、自分が特に関心を持つ問題を選び、その解決に取り組むサードセクターのあり方を自分なりに具体的に構想し、それを言語化できているかによって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

『はじめての NPO 論』澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子、2017、有斐閣ストゥディア（ISBN-10：4641150419）　※購入の必要なし

〔参考書〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

この授業は対面授業で実施しますので、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	スポーツ社会学						
教員名	稲葉　佳奈子						
科目№	125432250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本講義は、スポーツという社会的・文化的現象を通して、現代社会について考察することを目的とする。スポーツは、その場・その時かぎりの実践にとどまらず、社会の要請に応じてさまざまな意味や価値が付与された「社会」そのものとしての側面をもつ。そうした視点から、スポーツが抱える文化的・社会的意義や課題についての知識を身につけるとともに、現代社会におけるスポーツの位置づけについて理解を深めていく。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。
①スポーツ社会学の基礎的な知識や考え方を理解することができる。
②スポーツの意味や課題を社会学的な視点から考察することができる。
③スポーツを通して現代社会の特質や課題を説明することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスの内容を把握する。	60
第２回	スポーツの成立・発展からみた近代	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第３回	オリンピックの社会的意味	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第４回	日本社会と東京オリンピック	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第５回	グローバリゼーションとスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第６回	メディアとスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第７回	社会運動とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第８回	「男らしさ」とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第９回	「女性活躍」とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１０回	LGBTQ+とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１１回	社会・「性」・スポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１２回	これからの社会とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１３回	到達度確認テスト	前回までの学修内容を整理・確認する。	60
第１４回	まとめ	前回確認された自己の到達状況をもとに、全体的な学修内容を復習する。	60

〔授業の方法〕

○ 資料（パワーポイント、ビデオ教材、配布資料など）を用いて、講義形式で授業を進める。
○ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
○ 各回の内容に即した小テストを授業内でおこなう。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業時の課題への取り組み）40%および到達度確認テスト 60%をもとに、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
○授業時の課題に積極的に取り組んでいるか。
○到達度確認テストにおいて以下の 3 点が表現できているか。
１．スポーツにかかわる諸現象について社会学的な視点から理解・考察することができる。
２．スポーツが内包する現代的な課題を理解することができる。
３．スポーツに反映された現代社

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。
必要に応じて CoursePower を通じて資料を配付する。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	科学技術の社会学						
教員名	定松　淳						
科目№	125432300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

現代社会は高度な産業社会であり、科学・技術によって支えられています。同時に科学・技術が社会問題を引き起こすこともありますが、その解決においても科学・技術を抜きに語ることはできません。一方、科学・技術も社会からの支援なしには成り立たない営みです。つまり科学・技術と社会のかかわりは、社会の側にとっても、科学・技術にとっても重要な意味をもっています。このような問題領域は社会学的な対象として扱うことが可能であり、社会学を含む学際領域として科学技術社会論（STS: Science and Technology Studies）が発展してきました。本講義ではその内容を概観して、その基本問題を捉えることを目的とします。

〔到達目標〕

科学・技術の不確定性について理解し、科学・技術が関わる社会問題において、その不確定性をめぐってどのような認識の違いが生じているかを指摘することができる。【ＤＰ1-3】

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／ 科学の制度化と体制化	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第２回	パラダイム論と STS の登場	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第３回	科学知識の社会学	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第４回	『ラボラトリー・ライフ』	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第５回	チェルノブイリ原発事故フォールアウト	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第６回	コンセンサス会議	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第７回	第 1 回レポート作成	前半 6 回の授業内容をよく検討する。（予習）	60 分
第８回	サイエンスウォーズ	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第９回	「科学論の第三の波」論	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１０回	ブルデューによるラトゥール批判	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１１回	ポストトゥルースと STS	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１２回	科学的助言とコロナ禍	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１３回	科学技術・イノベーション政策	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１４回	第 2 回レポート作成	後半 6 回の授業内容をよく検討する。（予習）	60 分

〔授業の方法〕

各回の講義時間は 80 分程度にとどめ、最後に 20 分程度時間を取ってレスポンスカードを提出してもらいます。

〔成績評価の方法〕

平常点（各回のレスポンスカードの提出）60%
レポート（2 回提出）40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

『よくわかる現代科学技術史・STS』 、塚原東吾ほか編、ミネルヴァ書房、3,300 円、ISN978-4-623-09215-4（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	グローバリゼーションの社会学						
教員名	渡部　厚志						
科目№	125432350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

グローバリゼーションという言葉から、皆さんは何を想像するでしょうか。昨今の戦争やコロナウイルス感染症の広がりのような大事件を思い浮かべる人も多いでしょう。一方で、毎日の食や文化の消費、ご家族の仕事などに関して国外の人や組織とのつながりを感じる場面が多いことを実感している人もいるかもしれません。人、モノ、金、情報の国境を超えて移動し、世界中の人や組織が競争したり助け合ったりすることが当たり前になった世界に私たちは暮らしています。私たちの毎日の暮らしは、何カ国もの国、何千人もの人たちの仕事に支えられています。また、私たちがあたりまえにしていることが、離れた場所で働いたり学んだりする人に影響することもあるかもしれません。
では、グローバリゼーションはいつから始まったのでしょうか。グローバリゼーションの時代とは、それまでの時代と何が違うのでしょうか。グローバリゼーションは、人を幸せにしているのでしょうか、それとも不幸にしているのでしょうか。グローバリゼーションという言葉が現れてもう何十年も経ちましたが、こんな基本的な問いについてさえ、決まった答えはありません。そのうえ、グローバリゼーションは現在進行中で、重要なプレーヤーや大事な出来事が、毎日のように入れ替わっていきます。グローバリゼーションに関する、今の時点での「正しい見方」を身につけても、５年後には古い知識になっているかもしれません。
そこで、この講義では身近な食や仕事から離れたところで起きる災害、環境破壊などまでを観察し、グローバルな人、モノ、情報、お金などのつながり方という大きなシステムの変化の中で位置づけて検討し、考えたことを他の人と交流することで知識を更新していく経験を積むことに力を入れたいと思います。

〔到達目標〕

３つのポイントに重点を置き、グローバリゼーションが進行する現代社会について、基本的な論点と、具体的なトピックを考える力を伸ばすことをめざします。
1）グローバリゼーションが毎日の暮らしに現れる場面（日本、アジア、東欧などのケース）に触れ、離れた場所で起きているできごとと私たちの暮らし、過去に起きたできごとと今の社会とのつながりを見つける発想を身につける。
2）グローバリゼーションが世界や各国の社会と経済、地域や私たちの暮らしにもたらす影響を考えながら、社会全体の変化を追うマクロの視点と、ひとりひとりの

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション グローバリゼーションは「正解」がない、日々変わっていく問題です。このような問題をどのように考えたらいいのか？14 回の講義を通じて鍵となるメッセージを提示します。 14 回の講義予定、レポート課題、評価方法の概要を紹介します。	予習として、学生自身の生活と「離れた場所や人」との接点を探し、3 項目をノートに書き出しておくこと。	60
第２回	変わる世界と私たちの暮らし：①「食べること」のグローバリゼーション 健康的だとされ外国でも人気のある「日本食」も、それ以外に私たちが食べているものも、食料供給システムのグローバリゼーションにより実現したものです。しかし、「フードシステム」が世界中に広がったために、外国の農地収奪、水産資源の乱獲や水の大量利用、農家の経営難、食品加工工場で働く労働者の環境など、さまざまな問題が生まれています。食と農の安全と安心を取り戻そうとする動きは、食と農、消費者と生産者の「関係を結び直す」ことでもあります。	予習として、過去１週間に食べた食事のメニューから一品を選び、「原料がどこで作られたか」「どこで加工されたか」「いつから、日本の家庭で食べられるようになったか」を調べる。（講義中のグループディスカッションで使用します。以下同じ）。	60
第３回	変わる世界と私たちの暮らし：②「働くこと」のグローバリゼーション 世界中で２億人を超える人が生まれた国とは違う国で暮らしています。移民や移動労働者は、現代の社会経済に欠かせない存在です。なかには、国民の 10 人に 1 人が外国にいるという国もあります。多くの人が、生まれ育った土地とは異なる土地で、親世代とは異なる職業を得るようになったのは、いつごろからでしょうか。また、どのような背景があるのでしょうか。移民や移動労働者は、受入国（地域）でただ「労働力を提供する」だけの人ではありません。それぞれがこれま	予習として、学生自身や友人、家族の「仕事」が、他の国や地域とどのように関係するのか、その関係は過去 20 年でどのように変わったのかを考察し、800 字程度にまとめておくこと。	60
第４回	変わる世界と私たちの暮らし：③「将来」のグローバリゼーション 前回（第３回）は、生まれ育った土地と違うところで仕事を求めて移動する人々や、地域や国の外からやってくる人々を受け入れる社会に注目しました。今回（第４回）は、多くの人が生まれ育った土地を離れて働く社会に目を向けます。 国の社会と経済がグローバル市場との繋がりを深めながら成長する過程で、地域社会では、若い世代が親世代とは異なる場所で異なる仕事をして暮らす準備をするように育てられる場合があります。20 世紀半ばの日本や、20 世紀後半から現在まで	予習として、学生自身や家族に関して、①親世代の仕事との違い、②仕事に必要な知識や技術を身につける方法の違いを調べ、800 字程度にまとめておくこと。	60
第５回	ポスト産業化時代の都市における「二極化」 第２回から４回までに見てきたような食、仕事、学びや若者の将来計画に生じる変化の背景には、世界レベルで起きている経済や社会の変動、とくに生産活動のグローバリゼーションと、それに伴う都市の再編があります。 金融、製造、情報通信が国境を超えてつながった結果、一部の大都市とそれ以外の都市や地方との間に、これまでとは異なる役割の分担が起きています。生産活動のシフトと地域の役割分担の変化に対応して、国の経済成長に国家・政府・都市が担う役割も変わります。このことが、都市	予習として、東京における「仕事（職業）」「居住」「交通」または「消費生活」の４つのトピックのうち一つについて、1960 年代と 2000 年以降の違いを調べ、800 字以内でまとめること。	60
第６回	グローバル都市以外の地域で経験されるグローバル化 グローバリゼーションに反対するような主張が広く展開され、時には社会を分断するような運動につながることがあります。また、このような運動は、しばしば都市部のエリートと郊外・	予習として、世界のいずれかの国における都市と農村の「違い」、その「違い」が誰の暮らしにどのように影響を及ぼすかを調べ、800 字以内でまとめること。	60

	周辺地域の中間層（または貧困層）との対立という形で描かれます。 前回（第５回）に説明したような都市の再編と都市部における二極化は、都市以外の地域との関係にも大きく作用し、例えば郊外や農村地域の仕事、収入、消費生活などにも影響します。このため、都市とそれ以外の地域の「違い」を強調するこ		
第７回	グローバリゼーション以前のグローバリゼーション グローバリゼーションという言葉で 20 世紀後半の新自由主義以降の出来事を指す人もいますが、19 世紀のヨーロッパの近代化と貿易拡大や 15 世紀から 18 世紀のアジア・アメリカへの進出、あるいはそれ以前に遡って考えるべきだと主張する人もいます。実際、西洋が世界進出する以前から世界の各地にはモノ、人、情報の活発な交流がありました。では、西洋の海外進出と近代化は何を変えたのでしょうか。経済や社会のルールと速度に注目して考えます。	予習課題はなし。 代わりに、①最終課題のテーマ、②現時点でそのテーマについて調べようと考えている事柄、をあわせて 500 字以内でまとめ、提出すること。 なお、最終課題のテーマは『「食」「仕事」「学習」「安全」「地域社会」「環境破壊」のうち一つを選び、①自分の暮らしとの関連、②グローバリゼーションにより特に影響を受ける人、③影響を和らげるために求められる行動』を考察し、2,000 字以内でまとめること』とする。	60
第８回	安全、安心、リスク 私たちの食生活、仕事、地域社会、国の経済などが、新型コロナウイルスパンデミックやインフレ、自然災害など様々なリスクに直面しています。多くのリスク要因は、社会のうちの特定の人々に、とくに深刻な影響を及ぼします。 第８回では、これまでに検討してきたグローバリゼーションの様々な要素が、私たちを取り巻く様々なリスクとどのように関係しているのか、なぜ、特定の人がリスクに対して脆弱な立場に陥るのかを検討します。グローバリゼーションは、経済、社会や環境のリスクに大きな影響を与えています。リス	予習として、気になる「リスク」を一つ取り上げ、そのリスクが現実になったときに誰が被害をうけるのか、どんな方法で対処できるのかを考察し、800 字程度でまとめておくこと。	60
第９回	消費社会と新しいグローバル・リスク①　気候変動と私たち 地球温暖化を含む「気候変動」は 20 世紀の後半より知られていましたが、2015 年以来、この問題が国際交渉、経済や社会の発展の最重要テーマに浮上してきました。気候変動は、グローバルな経済や社会の活動、すなわち私たちの日常生活や企業や政府の活動が人類の生存基盤を脅かすほどの影響力を持ってしまったことの現れです。また、世界中ほとんどすべての国や多くの企業、市民社会が協力するきっかけになっているという点でも、他の環境問題とは一線を画すものです。 気候変	予習として、「(a) 食生活」「(b)集中豪雨や熱波など異常気象への備え」「(c)電気やガスの利用」のいずれかについて、受講者の家族には 30 年前と今の間にどんな違いがあるかを調べ、地球温暖化との関連を考察し、800 字程度の解説文にまとめること。	60
第１０回	消費社会とグローバル・リスク②　プラスチックと私たち 消費社会と深く関連する２つ目のリスクとして、プラスチックごみの問題を取り扱います。過去 10 年ほどの間に、プラスチックごみが海や河川に流出していることが広く知られるようになってきました。プラスチックは、食品、薬品、衣料、その他の日用品の製造にも流通にも欠かせないものとなっています。しかし、分解されずに長い期間土壌や水の中に残ること、動物や人体の中に入り込み健康被害を生み出すことなどから、近い将来、私たちの食生活、健康、生態系などに甚大な被害をもたら	予習として、プラスチックを素材、加工手段、包装などに用いている製品やサービスを一つ取り上げ、①いつごろから必要になったのか、②代替するとしたらどのような手段があるか、を調べ、800 字程度の解説文にまとめること。	60
第１１回	デジタル・グローバリゼーション 1990 年代以降、急速に発展したデジタル技術は、私たちの日常生活を便利にしただけではなく、社会や経済のあり方そのものを大きく変えています。例えば、国境を超える人と人との情報のやり取りは時間差なく行われるようになり、世界中の人々が協力して仕事をすることが容易になりました。お金やものを、お店で売り買いするのではなくアプリを介して他の人とやり取りするようなこともできるようになりました。一方で、過去数十年間に渡って地域や国の経済を支えていた仕事が失われるような経済構造と雇用の	予習として、私たちが日常的に使っているデジタル技術（スマートフォン、パソコン、ソーシャルメディア、オンライン学習等）のどれかを取り上げ、それらの技術による良い影響と悪い影響や、どのような人がそうした影響を受けるのかを考察し、800 字程度にまとめること。	60
第１２回	持続可能な地域をめざして① 気候変動、生物多様性、化学物質やプラスチックなどによる汚染、パンデミックや食料価格の高騰など、様々なリスクが社会や市民の生存を脅かしつつある中で、持続できる経済や社会に転換しようという取り組みが、各国の政府、自治体、企業や市民団体などに広がっています。 しかし、経済や社会を大きく転換させようという取り組みは、短期的には今まで行っていた仕事を諦めたり、今まで住んでいた地域を離れたりせざるを得なくなる人が発生するような大きな被害を特定の人に及ぼす可能性もあります。 この回	予習として、学生が育った地域または今住んでいる地域で作られている地域総合計画等の計画を読み、私たちがどんな方法で参加できるのか調べ、800 字程度にまとめること。	60
第１３回	持続可能な地域をめざして② 地域の経済や社会を取り巻く環境が変わっていく中で、これまでと同じ方法を維持するだけでは、地域の豊かさを維持していくことが困難になるケースがあります。この授業では、人口が減りつつある中山間地域の住民が、地域の暮らしを豊かなものにする様々な活動に取り組んでいる地域を紹介し、地域の多様な住民、近隣地域の人や行政との関わりがもたらす新たな可能性を、受講者といっしょに考えて見ます。	予習として、学生が今住んでいる地域に暮らす、異なる職業や年齢層の人々（３種類程度）を想定し、それぞれの人が求める地域の安全や豊かさに違いがあるかを検討し、800 字程度にまとめること。	60
第１４回	まとめ：グローバリゼーションと社会と私たち これまでの 13 回の講義で、グローバリゼーションが日本や他の国の地域社会やそこで営まれる毎日の暮らしに様々な影響を与えながら展開していることを見てきました。 最終回では、受講者の皆さんがこれまで学び考えてきたことを共有するために、最終課題について報告していただき、互いにコメントする形を取ります。 最後に、これまで考察してきたポイントを振り返り、最初に提示した２つのメッセージを考え直します。	最終課題を提出すること。	120

〔授業の方法〕

毎回の授業は、講義とグループワークを組み合わせた形式で行います。
講義部分では、各回の基本的な概念や事例を紹介します。
グループワークでは、受講者を３名から５名のグループに分け、１）予習課題に基づく受講者間の知識共有、２）講義で紹介した概念に当てはまるような事例・事実の探索、の２つの作業に取り組んでいただきます。
＊このため、できれば、インターネット接続可能な PC またはタブレットを持って参加していただきたいと思います。
グローバリゼーションに関する主要な論点を、身近な生活の場面や、馴染みのある

〔成績評価の方法〕

授業への参加にもとづき評価します。
・第 2 回から第 13 回の授業前に提出する予習課題（40%）
・第 14 回授業前に提出する最終課題（20%）
・授業中の発言と質問、及びグループディスカッションへの貢献（40%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

とくにありませんが、国内外のニュースに広く関心を持っておくと、授業の内容を理解する上でも、授業中に行う議論に貢献する上でも役に立ちます。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

以下、すべて購入する必要はありません。
・サスキア・サッセン「グローバル・シティ」ちくま学芸文庫
・ウルリッヒ・ベック「世界リスク社会論　テロ、戦争、自然破壊」ちくま学芸文庫
・斎藤幸平「人新世の資本論」集英社新書

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。
また、授業中にメールアドレスをお知らせします。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会福祉概論						
教員名	澁谷　智子						
科目№	125432400	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

流動化が進む今日の社会の中で、私たちが、働いてお金を稼ぎ、心身の健康を保ち、子どもを育てていこうとする時、「健康で安心し、満足できる生活状態」を意味する「well-being」から学ぶことは多い。この授業では、社会福祉の基本的視点と体系、具体的な制度を学ぶことを通して、生活の質を良くする仕組みについて考える。

〔到達目標〕

DP1「専門分野の知識・技能」、ＤＰ２「教養の修得」を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
①日本の社会福祉の考え方と特徴、現在の問題を理解する。
②福祉サービスの特徴と種類を知り、自分が利用する時にはどうするかを思い描けるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	日本の社会保障制度の特徴と変遷	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60
第２回	社会保障の役割と機能	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60
第３回	現代の貧困	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第４回	社会福祉の法律	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60
第５回	少子高齢化時代とライフコース	これまでの授業内容を受け、自分自身に引きつけながら、意見をまとめる。	60
第６回	家族・ジェンダーと社会福祉	授業の内容に即して、自分の意見をまとめる。	60
第７回	社会保険とは何か	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60
第８回	公的年金制度・医療保険制度	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60
第９回	雇用保険制度など、社会福祉の体系	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60
第１０回	ソーシャルワーク、高齢者福祉①	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第１１回	高齢者福祉②	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第１２回	障害者福祉	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第１３回	子ども家庭福祉	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120

〔授業の方法〕

毎回プリントを配布し、必要に応じてインターネットや映像等を使いながら、講義を行う。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（50%）と、授業中の課題（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「社会福祉事業史」「地域福祉論」「高齢者福祉論」がある。

〔テキスト〕

授業で配布するプリント
厚生労働省,『令和 2 年版　厚生労働白書』(インターネットで閲覧可能).

〔参考書〕

山縣文治・岡田忠克編，2016，『よくわかる社会福祉　第 11 版』ミネルヴァ書房.
最低賃金を引き上げる会，2009，『最低賃金で 1 か月暮らしてみました。』亜紀書房.
湯浅誠，2008，『反貧困―すべり台社会からの脱出』岩波新書.
神原文子，2010，『子づれシングル-ひとり親家族の自立と社会的支援-』 明石書店. など
購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会福祉事業史						
教員名	澁谷　智子						
科目№	125432450	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

今の“福祉”につながる制度は、どのような時代状況の中で生まれ、どう変化してきたのか。また、国や社会によって“福祉”をめぐる考え方や制度にどのような特徴があるのか。この授業では、主に近代以降の欧米と日本の社会福祉の歴史を学び、異なる時代や社会の福祉のあり方との比較を通して、現在の日本の福祉制度の位置付けを知る。

〔到達目標〕

DP１「専門分野の知識・技能」の修得を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
①社会福祉の分野において、基本的な概念や主要な政策とされてきたものを知り、重要な法律や団体、人物等の名とその関係性を理解する。
②時代の流れがどう政策に反映されてきたのかを知り、動いていく時代の中で、福祉はどのように変化していけばいいのか、自分なりの意見を持てるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イギリスの産業革命と工場法、新救貧法	配布資料を読み、理解する。	60
第２回	イギリスの民間社会福祉――貧困調査、慈善組織協会（COS）、セツルメント運動	授業の内容に即して、考えたことを書く。	60
第３回	アメリカの社会福祉とソーシャルワーク	配布資料を読み、理解する。	60
第４回	社会保険の誕生――ドイツとイギリス	授業に関連する映像を見て、考えたことを書く。	60
第５回	戦争と人的資本の健康管理――ベヴァリッジ報告と戦後イギリス福祉国家の形成	配布資料を読み、理解する。	60
第６回	北欧の社会福祉とノーマライゼーションの理念	授業の内容に即して、考えたことを書く。	60
第７回	明治の産業発展と救貧制度、慈善救済事業	配布資料を読み、理解する。	60
第８回	恐慌と社会事業の成立――方面委員制度、セツルメント運動、救護法制定、児童・母子保護	授業の内容に即して、考えたことを書く。	60
第９回	戦争と戦後の国民生活――厚生省の創設、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法の制定	配布資料を読み、理解する。	60
第１０回	高度経済成長と福祉六法体制――精神薄弱者福祉法、老人福祉法、母子福祉法の制定	授業の内容に即して、考えたことを書く。	60
第１１回	70 年代の福祉国家の危機と再編――イギリス等の福祉政策の転換、日本型福祉社会構想、日本の社会福祉計画	配布資料を読み、理解する。	60
第１２回	高齢社会と介護保険制度の創設、東アジアの社会福祉	授業の内容に即して、考えたことを書く。	60
第１３回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	到達度確認テストの解説、質疑応答	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

〔授業の方法〕

毎回プリントを配布し、必要に応じて映像やインターネット等を使いながら、講義を行う。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（50%）と平常点（授業中の課題など）（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「社会福祉概論」「地域福祉論」「高齢者福祉論」がある。

〔テキスト〕
授業で配布するプリント

〔参考書〕
清水教惠・朴光駿編著，2011，『よくわかる社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房.
金子光一，2017（初版 2005），『社会福祉のあゆみ』有斐閣アルマ.
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	環境社会学						
教員名	定松　淳						
科目№	125432500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

環境問題は自然科学的に把握し、対処されるだけではなく、社会的な過程を伴っています。環境問題をどのように認識するか、環境問題への対応がどのように選択されるかは優れて社会学的な分析対象です。本講義では、とりわけ日本で独自に発展してきた環境社会学の基本的な概念や考え方、事例について概観します。学期の前半では水俣病を中心とする日本の公害問題の歴史をたどりながら、後半では原発問題、所沢ダイオキシン問題、自然保護問題といった事例を取り上げながら、具体的に学んでいきます。

〔到達目標〕

自分が関心のある環境問題について、環境社会学の基礎概念（受益圏受苦圏・社会的ジレンマ論・被害構造論・生活環境主義・社会的リンク論など）を用いて分析が行えるようになる。【DP1-3】

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／ 水俣病の発生	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第２回	水俣病の科学論争	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第３回	公害の社会問題化	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第４回	公害訴訟と裁判外闘争	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第５回	公害へのバックラッシュ	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第６回	未認定患者問題	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第７回	第１回レポート作成	前半 6 回の授業内容をよく検討しておく。（予習）	60 分
第８回	原発建設反対運動	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第９回	佐藤福島県知事の抵抗	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１０回	福井県のエネルギー政策	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１１回	所沢ダイオキシン問題①	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１２回	所沢ダイオキシン問題②	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１３回	白神山地保護問題	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１４回	第２回レポート作成	後半 6 回の授業内容をよく検討しておく。（予習）	60 分

〔授業の方法〕

各回の講義時間は 80 分程度にとどめ、最後に 20 分程度時間を取ってレスポンスカードを提出してもらいます。

〔成績評価の方法〕

平常点（各回のレスポンスカードの提出）60%
レポート（2 回提出）40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

『よくわかる環境社会学（第２版）』、鳥越皓之ほか編、ミネルヴァ書房、3080 円、ISBN978-4623079346
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会調査入門						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125433100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

社会調査の意義と諸類型，調査のプロセス，社会調査の諸課題に関する基本的事項を学ぶ.

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能），DP2（教養の修得），DP3（課題の発見と解決），を実現するために，社会調査の意義と諸類型について，基礎的知識と理論的枠組みを身につけることを目標とします.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：社会調査とは何か	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第２回	社会調査の歴史	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第３回	社会調査の目的と種類	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第４回	公的統計：国勢調査、官庁統計	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第５回	学術調査、世論調査	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第６回	市場調査、デジタルデータによる社会分析	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第７回	量的調査と質的調査	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第８回	量的調査による研究～SSM 調査、JGSS 調査	【予習】教科書 166~167 ページ、184~185 ページを読む 【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第９回	質的調査による研究～インタビュー、参与観察	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１０回	社会調査のプロセス①：問いを立て、調査を企画する	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１１回	社会調査のプロセス②：データを集め分析する	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１２回	社会調査の困難	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１３回	調査倫理	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１４回	まとめ、期末課題	【復習】これまでの資料を読み直す	60

〔授業の方法〕

講義、および、グループワークによる演習を行う。

〔成績評価の方法〕

平常点（グループ課題）40%、期末課題 60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム A)。課程登録者以外でも履修できる。

〔テキスト〕

金井雅之・小林盾・渡邉大輔編『社会調査の応用』弘文堂，ISBN: 978-4335551512

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

プロジェクト型授業、アクティブ・ラーニング、ＩＣＴ活用

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会調査の方法						
教員名	小林　盾						
科目№	125433150	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

社会調査によって資料やデータを収集し，分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学ぶ.

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能），DP3（課題の発見と解決）を実現するため，次の 2 点を到達目標とします.
(1) 社会調査によって資料やデータを収集できる.
(2) それらを分析しうる形にまで整理できる.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：社会調査の方法とは何か	（復習）配布資料を再読する	60
第２回	調査目的と調査方法	（復習）配布資料を再読する	60
第３回	調査方法の決め方	（復習）配布資料を再読する	60
第４回	調査企画と設計	（復習）配布資料を再読する	60
第５回	仮説構成	（復習）配布資料を再読する	60
第６回	対象者の選定の諸方法	（復習）配布資料を再読する	60
第７回	サンプリング法１　全数調査と標本調査	（復習）配布資料を再読する	60
第８回	サンプリング法２　無作為抽出、標本数と誤差	（復習）配布資料を再読する	60
第９回	質問文・調査票の作り方	（復習）配布資料を再読する	60
第１０回	調査の実施方法１　調査票の配布・回収法	（復習）配布資料を再読する	60
第１１回	調査の実施方法２　インタビューの仕方	（復習）配布資料を再読する	60
第１２回	調査データの整理 1　エディティング、コーディング、データクリーニング	（復習）配布資料を再読する	60
第１３回	調査データの整理 2　フィールドノート作成、コードブック作成	（復習）配布資料を再読する	60
第１４回	まとめ	（復習）配布資料を再読する	60

〔授業の方法〕

講義．ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション，フィールドワークも行われます

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況，宿題の提出状況，ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション）50%，成果物（宿題レポート，到達度確認テストなど）50%による総合評価

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
社会調査的思考力を身につけているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム B）．課程登録者以外でも履修できます

〔テキスト〕
『社会調査の応用』，金井雅之・小林盾・渡邉大輔編，弘文堂，ISBN978-4335551512

〔参考書〕
とくになし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	質的調査入門（資料分析）
教員名	坪田　美貴

科目№	125433250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

会話分析、ドキュメント分析、内容分析などを中心に、質的調査のデータ収集方法と分析方法について学ぶ。また、実際にそれぞれの方法を用いて行われた調査を事例として参照し、それぞれの方法がどのような目的に適し、どのようなことを解明してきたのかを考察する。その後、質的調査の進め方について具体的に学ぶ。

〔到達目標〕

DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、質的調査の技法と分析方法を習得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	質的調査とは何か：目的とデータ収集方法の種類	【復習】配布プリントを再読する	60
第２回	フィールドワーク１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	フィールドワーク２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、フィールドワークを行ったミニレポートを書く	120
第４回	会話分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	会話分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	ライフヒストリー分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	ライフヒストリー分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、会話分析かライフヒストリー分析を用いたミニレポートを書く	120
第８回	ドキュメント分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	ドキュメント分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	内容分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	内容分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、内容分析を使ったミニレポートを書く	120
第１２回	質的調査の企画・設計とデータ収集	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直し、質的調査の企画・設計を行う	120
第１３回	質的調査の公表・倫理	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す	90
第１４回	質的調査の動向と今後の展開	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す	60

〔授業の方法〕

講義および演習形式。

〔成績評価の方法〕

提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム F)。課程登録者以外でも履修できます。

〔テキスト〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	質的調査法（インタビュー）						
教員名	金　善美						
科目№	125433350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

インタビューと参与観察を中心とする質的調査について、豊富な事例に触れながら学んでいく授業です。毎回、先人たちによる優れた質的調査の実例をとりあげ、そこで使われた手法の特徴や意義、具体的な調査のプロセスなどを解説していきます。また、参考になる例だけでなく、よくない調査設計や対象に関する薄っぺらい記述の例にも触れながら、質的調査を行う際の注意点についても学びます。卒論などで質的調査する予定の方、自分で調査する予定はとくにないけど質的研究の文献を読んでみたい方、社会調査士過程を履修中の方、どなたでも歓迎します。さまざまな質的調査を通じて描かれる、あなたの知らない世界に触れる半年間にしてみませんか？

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するために、次の 3 点を到達目標とします。
①質的調査の各手法に関する基礎的知識を修得する。
②質的調査を用いた代表的な調査研究について知り、その内容と意義を説明できる。
③授業で学んだ知識と手法を応用し、自分が関心を持つ研究対象に関する調査計画を立てられる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法、授業時間外の実習内容などについて説明する	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	社会調査と質的調査 ・社会調査の意味、質的調査と量的調査の違いについて解説する ・質的調査の特徴と種類、意義、調査倫理などを学ぶ	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第３回	インタビュー（１）インタビュー法の種類，プロセス，実習時の注意点，記録の作成方法	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第４回	インタビュー（２）インタビューにおける相互作用やラポールをめぐる議論，インタビューの社会的意味	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第５回	ライフストーリー（１）ライフストーリー法の意味や実施のプロセス，実習時の注意点，意義	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第６回	ライフストーリー（２）ライフストーリー法における語りの解釈や分析	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第７回	参与観察（１）参与観察法の意味や具体的プロセス，調査対象者との関係性づくり，実習時の注意点	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第８回	参与観察（２）現場の探し方や現場での過ごし方，参与観察法の意義，フィールドノートの取り方	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第９回	参与観察（３）「調査する私」をめぐる諸問題	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１０回	質的データの分析と論文の執筆（１）データの整理と「分厚い記述」の意味	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１１回	質的データの分析と論文の執筆（２）分析の仕方と論文の書き方	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１２回	質的データの分析と論文の執筆（３）研究実例	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１３回	受講者による発表（１）	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１４回	受講者による発表（２）	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60

〔授業の方法〕

毎回授業の前半では講義、後半ではグループでのディスカッションを行います。事前に文献資料（質的調査の実例）を配布し、読んでくることを求める回があります。質的調査に関する知識を身につけ、その上で文献に出てくる質的調査の内容を多角的に考察したり自分なりの調査計画を立てたりすることができるかどうかを評価します。

〔成績評価の方法〕

授業中の発言や質問、グループディスカッションへの参加状況（40%）、第 13 回～14 回の発表（60%）で評価します。発表は、①受講生自らによる簡単な質的調査の実施とその成果の報告②質的調査の文献の整理と自分なりの考察、のうち好きな方を自由に選択していただきます。また、受講者の人数次第で個人／グループ発表になる可能性があります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・質的調査の各手法に関する基礎的な知識を修得しているか
・研究実例に用いられた調査方法を把握し、その特徴と意義について説明できるか
・調査のテーマや対象の特徴を考慮し、適切な調査計画を立てることができるか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

社会調査士課程の資格対応科目（F）に該当する科目です。また、資格取得を目指さない人も自由に受講できます。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』岸政彦・石岡丈昇・丸山里美、有斐閣、1900 円＋税、 ISBN-10: 4641150370
『インタビューの社会学――ライフストーリーの聞き方』、桜井厚、せりか書房、2800 円＋税、ISBN-10: 4796702377
『質的データ分析法』、佐藤郁哉、新曜社、2100 円＋税、ISBN-10: 4788510952
いずれも購入の必要なし。その他の参考書については、授業内で随時紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア調査						
教員名	石堂　彰彦						
科目№	125433400	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

現在、メディア上で発信される情報の多くがデジタル化され、インターネット経由での利用が可能となっている。利用できるのは Web サイトや SNS 上の書き込みだけでなく、新聞記事の本文、雑誌記事の見出し、さらには過去の映像作品なども含まれる。こうした膨大な情報を、適切な視点にもとづいて選択・収集・分析することで、新たな知見を得ることができる。そのため、多様な視点からメディアを分析した研究が日々生み出されている。
そこで本講義では、新聞・雑誌・テレビ・ネットといったメディアの内容を分析し、その背後にある“意味”を発見することを目的として、関連する研究事例を参照するとともに、実際のデータを用いた分析方法を検討する。また、調査をおこなうさいに必要となるデータの収集方法や、データの分析に用いるツールの使用方法も解説する。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の２点を到達目標とする。
①各メディアの特徴や資料特性、データの収集方法、分析方法を説明できる。
②問題意識に対応したメディアを適切に選択し、簡単な調査計画を立てることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の概要、進め方などについて説明する。	シラバスを読み、授業の概要を把握する。	30
第２回	メディア関連の既存調査 ・既存の調査・研究を知ることが調査の第一歩。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第３回	新聞の特性と調査事例 ・新聞の特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第４回	新聞（記事・社説）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第５回	新聞（投書）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第６回	雑誌の特性と調査事例 ・雑誌の特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第７回	雑誌の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第８回	テレビの特性と調査事例 ・テレビの特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第９回	テレビの調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１０回	ネットの特性と調査事例 ・ネットの特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１１回	ネット（Twitter）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１２回	ネット（クチコミ系サイト）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１３回	複数メディアの調査方法 ・複数のメディアを組み合わせた調査について、具体的な目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１４回	まとめ ・授業の総括とレポートの説明	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90

〔授業の方法〕

１．配付資料をもとに講義形式で進行する。
２．授業で取り上げるメディアの分析方法には、手作業や Excel を用いる方法、KH Coder というテキスト分析用のフリーソフトを用いる方法がある。これらの分析方法を、調査対象の性質に応じて適宜使い分け、実践的な分析方法を検討する。
３．授業の予習・復習用に、授業で使用するデータファイル等を受講生に配付し、受講生各自が必要に応じて分析の練習・確認をできるようにする。
４．調査・分析方法の説明には、Windows PC を用いる。これは、上記 KH Co

〔成績評価の方法〕

期末レポート 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）50%により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①各メディアの特徴や資料特性、データの収集方法、分析方法を理解しているか。
②問題意識に対応したメディアを適切に選択し、簡単な調査計画を立てることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

・予備知識は不要だが、「授業の方法」に記したとおり PC を用いた分析方法も説明するため、PC 操作が苦手という人も、この授業を通して PC を用いた分析の有用性・必要性を学ぶ心づもりで受講してほしい。
・関連科目は、メディアや社会調査に関する科目全般。

〔テキスト〕

特になし。講義レジュメを毎回配付する。

〔参考書〕

初回授業時に提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

・授業終了後に教室で受け付ける。
・メールや CoursePower でも随時受け付ける。メールアドレスは初回授業時に提示する。
・なお、リアルタイムで匿名の質問が可能なツールを用いて、授業中も質問できるようにする。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	情報社会論						
教員名	西　兼志						
科目№	125434100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

現代社会は情報社会だと言われるようになって久しいですが、この講義では、毎回のテーマに沿った 4、5のキーワード（「脱工業社会」「知識社会」「情報産業」「記号資本主義」「認知資本主義」「物語消費」「データベース消費」「ディズニー化」「感情労働」「アテンション・エコノミー」「監視社会」「フィルター・バブル」など）を取り上げることで、現代の情報社会を理解できるようになることを目指します。

〔到達目標〕

DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：現代のメディアのあ り方について学修する ことを通じて、個人と社会をつなぐ関係の理解や情報化社会への対応力を解明するメディア研究の手法を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第2回	情報社会論の起源	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第3回	情報社会論の文脈	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第4回	消費社会をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第5回	消費社会論の展開	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第6回	＜キャラ＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第7回	リアル化するメディア環境をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第8回	労働をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第9回	アテンションをめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第10回	動物化をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第11回	＜顔＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第12回	ビッグデータをめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第13回	監視をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第14回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式で進めていきます。
講義資料のアクセスは出席にあたっては必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕

平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの適切度＝50%）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・取り上げたキーワードを理解できているか。
・その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に、ありません。

〔テキスト〕

ポータルサイトを通じて随時、配布します。
また、単位取得にあたっては、次のことが必須となります：
講義資料のアクセスは（未アクセスの場合、出席にカウントしません）
配布された資料はプリントアウトした上で、参照できるようにしておくこと

〔参考書〕

授業中に随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア文化論
教員名	宮入　恭平

科目№	125434150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

この授業では、メディア文化のなかでも音楽に焦点を当てながら、ポピュラー音楽が日本および海外の社会、経済、政治や文化とどのようにかかわっているのかについて理解を深めます。また、COVID-19 の影響についても考察します。

〔到達目標〕

・メディアがポピュラー音楽に与えてきた影響を理解すること。
・海外との比較から日本のポピュラー音楽文化を理解すること。
・ポピュラー音楽と社会、経済、政治や文化との関連を理解すること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「イントロダクション」 この講義のテーマ、目的、概要などを確認する。併せて、シラバスにもとづく具体的な講義内容を説明する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第２回	「ライブカルチャーの全体像」 ライブカルチャーの全体像を理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第３回	「メディア」 メディアをとおして、ライブ概念を理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第４回	「産業」 文化産業がつくるポピュラー音楽について理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第５回	「法律」 ポピュラー音楽と法律の関係について理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第６回	「政治」 ポピュラー音楽に含まれる政治性について理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第７回	「社会」 社会におけるポピュラー音楽との接しかたについて理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第８回	「アイデンティティ」 アイデンティティとしてのポピュラー音楽について理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第９回	「教育」 教育に取り込まれたポピュラー音楽について理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第１０回	「アニソン」 クールジャパンにおけるポピュラー音楽の立ち位置について理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第１１回	「ツーリズム」 ポピュラー音楽と観光の関係について理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第１２回	「ストリート」 オルタナティブなポピュラー音楽シーンについて理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第１３回	「レジャー」 レジャーとしてのポピュラー音楽について理解する。	教科書を読んでおくこと。	60 分
第１４回	まとめ 授業の到達目標の達成度を確認する。	教科書、講義資料、ノートを確認すること。	60 分

〔授業の方法〕

映像と音声を用いながら、教科書と講義資料に沿って授業を進めます。授業内のリアクションペーパー（5 回程度）と学期末のレポートから評価します。授業への出席が前提になります。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパー（50%）
学期末レポート（50%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

『ライブカルチャーの教科書』、宮入恭平、青弓社、2,100 円（+税）、978-4-7872-7422-9

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ネットワーク社会論						
教員名	新井田　統						
科目№	125434200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

インターネットとコンピュータの普及は、コミュニケーションや情報行動から時間と距離の壁を取り払い、人々の生活に大きな変化を生みました。現在もインターネットを活用したイノベーションが次々と生み出され、人だけではなく、センサー、ロボット、AI などともつながり合う巨大な仕組みが作り出されようとしています。本講義では、こうした情報通信ネットワークが張り巡らされた環境の中で生きる人々のありようをそのつながりから分析し、人の集団である社会の特徴を分析する考え方について学びます。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①ネットワーク社会を分析する手法と意義について、イノベーションの観点から説明できるようになる。
②ネットワーク社会の動向と仕組みを歴史を通じて学び、その概略を説明できるようになる。
③ネットワーク社会を分析するための手法について、その概略を説明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：ネットワーク社会論とイノベーション	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第２回	ネットワーク社会の歴史 1（インターネット以前）	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第３回	ネットワーク社会の歴史 2（インターネット以後）	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第４回	通信ネットワークの仕組み	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第５回	社会ネットワークの分析手法（定量的手法）	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第６回	社会ネットワークの分析手法（定性的手法）	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第７回	授業内レポート①	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第８回	オンラインコミュニケーション	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第９回	オンラインコミュニティ	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１０回	情報の繋がりと情報の価値	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１１回	ソーシャルグラフ	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１２回	ソーシャルネットワークサービス	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１３回	授業内レポート②	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１４回	ネットワーク社会のこれから	【復習】資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

〔授業の方法〕

配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、レポート等：50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に随時指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
特になし。

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア産業論						
教員名	糸永　正行						
科目№	125434250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

マスメディアとデジタルメディアとが混淆する過程にあるものとしてのメディア産業のあり方を論じます。音楽、新聞、ラジオ、テレビ、出版、映画、アニメ、ゲーム、ネット、広告のそれぞれの領域から、メディア産業の成り立ちとその動向を捉えるとともに、その意義、問題点、将来展望などについて考えます。また、記者や新聞社管理職、ネットメディア編集委員としての実務経験に基づき、メディア産業の実状について論じます。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①メディア産業の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。
②メディア産業をめぐるさまざまな論点について、その概略を説明し、自分なりの考えを表明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容や進め方、予習・復習、評価などの方法について説明する。	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第２回	音楽産業の成り立ち ・デジタル化に適応している音楽産業のビジネスモデルについて学修し、メディア産業が直面しているデジタルシフトの基本を把握できるようにする。	【予習】自分の音楽との接触体験を振り返る（初めて購入した曲は？どのように聴いているか？音楽を聴くのに、いくらまでならお金を支払うか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第３回	新聞産業の成り立ち ・新聞産業の歴史と変化、社会的役割、デジタル化への対応について学修し、同産業の課題を把握できるようにする。	【予習】新聞（全国紙、地方紙、経済紙、専門紙、業界紙、スポーツ紙、政党紙を問わない）を 1 紙以上読む。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第４回	ラジオ産業の成り立ち ・最初の放送メディアのラジオ産業について、発明から放送ビジネスの成立と新聞やテレビとの関係について学修し、メディア多様性を把握できるようにする。	【予習】自分のラジオとの接触体験を振り返る（ラジオを所有しているか？いつ・どこで・どんな番組を聴いているか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第５回	テレビ産業の成り立ち ・映像のメディアとして誕生したテレビ産業の歴史を通じて人々に与えた影響を学修し、大量消費社会との関わりを把握できるようにする。	【予習】自分のテレビとの接触体験を振り返る（自分専用のテレビを持っているか？いつ・どこで・誰と・どんな番組をみているか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第６回	出版産業の成り立ち ・雑誌を中心に流通の側面から出版業界のビジネスモデルについて学修し、デジタル化への対応など同業界の変化について把握できるようにする	【予習】自分の雑誌との接触体験を振り返る（雑誌の購入頻度は？なぜ、その雑誌を購入したのか？どんな雑誌を購入しているのか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第７回	映画産業の成り立ち ・最も古い映像メディアで劇場型メディアの映画業界の歴史を学修し、テレビやネット動画とのメディア間競争や共存について把握できるようにする。	【予習】自分の映画との接触体験を振り返る（初めて自らの意思でみた映画は？、映画をみる頻度は？誰と映画をみるか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第８回	アニメ産業の成り立ち ・米国で始まったアニメ産業を日本がどう受け入れ、産業化したかの歴史を学修し、1970 年代後半に登場した現在のビジネスモデルを把握できるようにする。〞	【予習】自分のアニメとの接触体験を振り返る（初めてみたアニメは？アニメをみる頻度は？最も印象に残ったアニメなど）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第９回	ゲーム産業の成り立ち ・ベンチャー企業から始まったゲーム産業が合併や買収（M&A）を通じて巨大化した経緯を学修し、メディアと資本主義の関係について把握できるようにする。	【予習】自分のゲームとの接触体験を振り返る。（初めて遊んだゲームは？ゲームを楽しむ頻度は？いつ・どこで・何を使ってゲームをするか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１０回	ネットメディア産業の成り立ち ・インターネットの本格的な普及が始まった 1995 年からネット産業誕生の経緯を学修し、ネット産業のビジネスモデルを把握できるようにする。	【予習】自分のネットメディアとの接触体験を振り返る（最初に利用したネットメディアは？アクセス頻度は？利用している端末は？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１１回	ネットメディア産業の発展と現代社会 ・誕生から 30 年を待たずして世界を動かす巨大産業となったネット産業の現状を学修し、現代社会におけるネット産業の影響役割を把握できるようにする。	【予習】ネットメディアが社会に及ぼした影響を具体的な事例から考える。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１２回	広告産業の成り立ち ・広告産業の歴史を振り返り、新聞、ラジオ、テレビ、ネットなどメディア変遷への対応を学修し、広告と社会の関わりを把握できるようにする。	【予習】自分の広告との接触体験を考える（最近、印象に残った広告は何か？どんなメディアで広告をみるか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１３回	メディアミックス ・メディアの枠を超えたメディアミックスの現状を学修し、メディア産業界の全体像を把握できるようにする。	【予習】メディアミックスの事例を調べる。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１４回	メディア産業の課題と未来 ・授業の全体を振り返り、メディア産業の課題を学修し、その問題解決と未来像を考察できるようにする。	【予習】これまでの授業での発見や疑問を書き出す。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

〔授業の方法〕

この授業は、オンライン（オンデマンド型）で実施します。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔成績評価の方法〕

平常点（小テストやメールでのリアクションペーパー提出の状況など）:50%、レポート等:50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①個々のメディア産業の成り立ちと歴史的な背景を明確に説明できる。
②メディア産業の課題を理解し、わかりやすく説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

授業中に随時指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

電子メールにて随時受け付けます。メールアドレスは講義時にお知らせします。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア制度史						
教員名	塩谷　昌之						
科目№	125434300	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この科目では、近現代の日本におけるメディアの歴史について、制度に注目しながら学んでいく。
現代において当たり前に存在しているさまざまなメディアは、それらが誕生して普及しはじめた当初には新しいものであった。新しいものが社会に受け入れられていくなかで、人々の間には驚きや困惑、そしてコンフリクトが引き起こされていく。そこでは文化が作り出されることもあれば、規制が生み出されることもあった。このような歴史的な展開について、制度のあり方を追跡することによって学修していく。メディアの初期の姿を描き出すために、主として近代の出来事を中心に取り上げるが、現代との結びつきもある程度補足する。

〔到達目標〕

DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、以下のような到達目標を設定する。
・近代日本のメディアとその制度の歴史的展開を深く理解し、メディアを読み解くためのリテラシーを身に付ける。
・現代日本のメディアの背景を多角的に捉え、自らの興味関心に基づいて、主体的に学修を継続できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第２回	メディアと制度の捉え方	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第３回	大衆の誕生	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第４回	流通・交通が生み出した文化	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第５回	出版物をめぐる制度①	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第６回	出版物をめぐる制度②	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第７回	活動写真・映画をめぐる制度①	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第８回	活動写真・映画をめぐる制度②	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第９回	蓄音機・電話・ラジオをめぐる制度	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１０回	検閲のもつ拘束性	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１１回	戦争とメディア	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１２回	計算機の登場	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１３回	受け手のもつ創造性	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１４回	講義のまとめとレポートの作法	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120

〔授業の方法〕

配布した資料および、スライドを用いて講義を行う。補足的に CoursePower を利用する。

〔成績評価の方法〕

授業への意欲　50%
授業後に回収するコメントシートをもって評価する。
期末レポート　50%
レポートの評価基準については授業内で提示する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
履修に際して、条件は設定しない。

〔テキスト〕
テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。

〔参考書〕
テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	マス・コミュニケーション論						
教員名	本橋　春紀						
科目№	125434350	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

マス・コミュニケーションとは、マス（大衆）を対象に多様な情報や内容を届けるコミュニケーションのあり方です。テレビや新聞をはじめとするマス・メディアは、その送り手であり媒介者でもあります。マス・メディアは、報道を通じて民主主義的な政治過程に関与し、さまざまな作品によって全国的流行を生み、広告を通じて大量生産・大量消費の経済構造を維持するなど、大きな役割を果たしてきました。民間放送にかかわっている実務経験を生かして、21 世紀のデジタル・メディア社会においてマス・メディアはどうあるべきなのか、その現状と将来を考えます。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
・マス・コミュニケーションの実態と構造を学び、現代社会において果たしている機能について説明できるようになる。
・マス・コミュニケーションを批判的に読み解くことで、メディアを通じたコミュニケーション全般についての思考を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	マス・コミュニケーションとは何か ～群衆、公衆、市民、大衆、マス	媒体としての新聞やテレビの自分とのかかわり、新聞やテレビが提供するコンテンツとの間接的なかかわりなどについて、振り返っておく。	60 分
第２回	マス・メディアの現在 ～新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、ネット	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第３回	マス・メディアの歴史 ～その誕生から 20 世紀末まで	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第４回	マス・コミュニケーション研究の流れ ～複製環境、強力効果研究、二段階の流れ論	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第５回	マス・メディアの影響力とは ～ネット時代の情報空間の中で	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第６回	マス・メディアと表現の自由１ ～人々の自由とマス・メディアの自由	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第７回	マス・メディアと表現の自由２ ～名誉毀損の法理などを例に	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第８回	メディア・イベントとは ～オリンピックなどを例に	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第９回	デジタル・メディア社会 ～デジタル化がもたらしたもの	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	90 分
第１０回	マス・メディアとジャーナリズム ～権力監視の必要性	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１１回	放送というマス・メディア ～電波と放送法	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１２回	情報空間における公共放送の役割とは ～受信料制度は必要か	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１３回	マス・コミュニケーションと倫理 ～信頼性を支える規範と仕組み	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１４回	全体の振り返り	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	90 分

〔授業の方法〕

配付資料にもとづく講義形式で進めます。必要に応じて視聴覚素材を使います。授業の進行に即して小アンケート等を行ったり、特定テーマについてコメントを求めたりします。なお、学生の理解を促進するため、マス・コミュニケーションにかかわる時々のトピックスを取り上げて、授業計画を組み替えることがあります。

〔成績評価の方法〕

平常点（コメントシート、小テスト等、40%）、期末試験もしくはレポート（60%）を基本として総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。マス・メディアと自分の日常的なかかわりについて意識しておいてください。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

『マスメディアとは何か』、稲増一憲、中公新書、880 円（税別）、ISBN978-4-12-102706-1（購入の必要なし）
『２１世紀メディア論　（改訂版）』水越伸、放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-14027-3（購入の必要なし）
『マス・コミュニケーションの世界』、仲川秀樹、ミネルヴァ書房、2500 円（税別）、ISBN978-4-623-08541-5（購入の必要なし）
『入門 メディア・コミュニケーション』、山越修三編著、慶應義塾大学出版会、2500 円（税別）、ISBN978-

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア・リテラシー論						
教員名	見城　武秀						
科目№	125434400	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

皆さんは「メディア・リテラシー」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？「メディアと主体的・批判的につき合う能力」といった説明がされることの多いこの言葉ですが、実はメディアという存在をどのように捉えるかによって、そこから導かれるメディア・リテラシー観も大きく違ってきます。
この授業ではまず、メディア・リテラシーを理解するための前提となる基礎概念（＝メディアの文法性、／メディアの文脈依存性／メディアに対する批判性）について、映像を中心とした実際のメディア作品を題材として解説します。次に、メディアの役割を「現実の反映」と見る立場から導かれる「反映主義的メディア・リテラシー観」と、メディアの役割を「現実の構成」と見る立場から導かれる「構成主義的メディア・リテラシー観」とを対比させることで、両者にとって「メディア批判」がもつ意味がまったく異なることを明らかにします。このような作業を通じて最終的にメディア・リテラシーについて論ずる上での「落とし穴」の存在に気づいてもらうことが、この講義の目的です。

〔到達目標〕

DP１-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。）、DP2-1（人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる）を達成するため、次の２点を到達目標とします。
（１）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解すること。
（２）（１）の理解に基づき、現実におこなわれている「

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第２回	メディア・リテラシーとは何か	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第３回	メディアの文法性−登場人物の「心の声」はどう表現される？	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第４回	メディアの文脈依存性−なぜ変身アイテムはくり返し壊れるのか？	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第５回	２つのメディア像―「反映」するメディアと「構成」するメディア（１）	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第６回	２つのメディア像―「反映」するメディアと「構成」するメディア（２）	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第７回	メディアに対する批判性とは何か（１）―ナマ信仰／リアル信仰の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第８回	メディアに対する批判性とは何か（２）―反映主義的メディア批判と構成主義的メディア批判	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第９回	ドキュメンタリーは嘘をつく	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１０回	メッセージを意味づけるフレームの多層性	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１１回	なぜ「やらせ」は繰り返されるのか？―「事実主義」および「中立・公正・客観主義」の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１２回	フェイクニュースとファクトチェックをめぐる議論の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１３回	1964 年東京／2012 ロンドン／2016 リオ・デジャネイロ―３つのオリンピックにおける映像メディアの役割を比較することで見えてくること	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１４回	まとめ	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60

〔授業の方法〕

講義形式。毎回、授業内容に関連する課題を出します。

〔成績評価の方法〕

毎回の提出課題に基づく平常点 100%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。
（1）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解しているか。
（2）反映主義的メディア観に基づくメディア批判と構成主義的メディア観に基づくメディア批判が混在していることから生ずるメディア・リテラシー論の落とし穴を理解できたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目として、メディア・リテラシー演習Ａ、メディア・リテラシー演習Ｂ。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ジャーナリズム論						
教員名	石堂　彰彦						
科目№	125434450	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

今日、世界の多くの国や地域において、人びとは分断と対立、格差、憎悪、そして権力の専横にさらされている。それは日本も例外ではない。このような状況において、人びとに事実を伝えるジャーナリズムの重要性は日ごとに増大している。しかしジャーナリズムは同時に、さまざまな批判にもさらされている。ジャーナリズムはその役割を十全に果たしているといえるのか。本講義では、現代社会においてジャーナリズムが直面する問題と、ジャーナリズムが果たしてきた役割について、実際の報道事例を参照しつつ検討していく。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
①ジャーナリズムに求められる役割と、それが重要とされる理由や背景を説明できる。
②ジャーナリズムが直面する問題と、それが問題とされる理由や背景を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の全体像や進め方などについて説明する。ジャーナリズムにかんするアンケートも実施する予定。	【予習】シラバスを読み、授業の概要を把握する。	30
第２回	ジャーナリズムの歴史と役割 ・ジャーナリズムはなぜ必要とされるのか、その歴史を振り返りつつ考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第３回	ニュースとは何か ・ジャーナリズムが報じる「ニュース」について、その実態と問題点を考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第４回	ネット時代のニュース環境 ・スマートフォンの普及によって劇的に変化しつつあるニュース接触環境について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第５回	新聞ジャーナリズムの基本 ・新聞ジャーナリズムのビジネスモデルと現状について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第６回	新聞ジャーナリズムの実際 ・新聞ジャーナリズムの存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第７回	テレビジャーナリズムの基本 ・テレビジャーナリズムのビジネスモデルと現状について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第８回	テレビジャーナリズムの実際 ・テレビジャーナリズムの存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第９回	ジャーナリズムと情報公開 ・ジャーナリズムにおける公文書などの「情報」の重要性について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１０回	雑誌ジャーナリズムの基本と実際 ・雑誌ジャーナリズムの現状と存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１１回	オルタナティブ・ジャーナリズムの基本と実際 ・既存ジャーナリズムとは異なるオルタナティブ・ジャーナリズムの現状と存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	90
第１２回	ジャーナリズム・リテラシー ・ここまでの議論を整理しつつ、われわれはジャーナリズムとどのように付き合っていけばよいのかを考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１３回	到達度確認テスト ・授業の到達目標に達しているかどうかを確認する。	【予習】授業全体を振り返り、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	テストの講評とまとめ	【復習】到達度確認テストを振り返り、自らの到達度を確認する。	60

〔授業の方法〕

・配付資料を中心に講義形式で進行する。毎回実施するコメント（リアクションペーパー）によって、受講生の理解を確認しつつ進める。ただし、情勢の変化や授業の進捗状況等に応じて内容を変更することがある。
・到達度確認テストでは、授業の到達目標に達しているかどうかを確認する。
・コメントは、授業内容にかんする質問や意見、感想等を記述する。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）50%により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①ジャーナリズムに求められる役割と、それが重要とされる理由や背景を、具体的な事例に即してわかりやすく説明できるか。
②ジャーナリズムが直面する問題と、それが問題とされる理由や背景を、具体的な事例に即してわかりやすく説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・予備知識は不要だが、日頃接するニュースについて、その背景や意味を考えるようにすることで、ジャーナリズムの役割や問題をより身近なこととして理解できるようになるだろう。
・関連科目は、メディアやジャーナリズムに関する科目全般。

〔テキスト〕

特になし。講義レジュメを毎回配付する。

〔参考書〕

原寿雄『ジャーナリズムの可能性』岩波新書（新赤版 1170）、2009 年、ISBN 9784004311706（購入の必要なし）
その他の参考書は初回授業時に提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

・授業終了後に教室で受け付ける。
・メールや CoursePower でも随時受け付ける。メールアドレスは初回授業時に提示する。
・なお、リアルタイムで匿名の質問が可能なツールを用いて、授業中も質問できるようにする。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	出版メディア論						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125435100	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本講義の目的は、日本の出版の歴史をたどりながら、本、雑誌などという文字にかんするメディアが作り出してきたものについて考察することである。それは、たんに一つの本・雑誌が生み出され、忘れられていったことを追うのではない。それだけでなく、一つの本・雑誌が生み出された社会のありようを明らかにし、また、一つの本・雑誌が作り出した社会のありようを明らかにすることでもある。ひいては、人が文字にかんする文化、文字が紡ぎだす世界をどのようにとらえてきたかを明らかにすることでもあるのである。本講義では、一つひとつの本・雑誌の誕生と忘却とともに、それらをめぐる社会のありようを考察し、そのような問いに取り組んでいくことにしたい。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
出版の歴史を把握するとともに、出版が社会のなかで果たしてきた役割について把握することができる。
文字にかんする文化、文字が作り出す世界について考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	出版文化をどのようにとらえたらよいのか	【復習】配布プリントと参考文献を読む	90
第２回	総合雑誌（１） ――学歴貴族と教養主義（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第３回	総合雑誌（２） ――学歴貴族と教養主義（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第４回	総合雑誌（３） ――学歴貴族と教養主義（３） 婦人雑誌（１） ――「主婦」と新しい家族（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第５回	婦人雑誌（２） ――「主婦」と新しい家族（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第６回	婦人雑誌（３） ――「主婦」と新しい家族（３）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第７回	婦人雑誌（４） ――「主婦」と新しい家族（４） 大衆雑誌（１） ――反教養主義（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第８回	大衆雑誌（２） ――反教養主義（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第９回	大衆雑誌（３） ――反教養主義（３） 「少年文学」叢書と愛子叢書（１） ――近代の子ども（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１０回	「少年文学」叢書と愛子叢書（２） ――近代の子ども（２） 少年少女雑誌（１） ――都市新中間層の子どものジェンダー（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１１回	少年少女雑誌（２） ――都市新中間層の子どものジェンダー（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１２回	少年少女雑誌（３） ――都市新中間層の子どものジェンダー（３）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１３回	『赤い鳥』『少年戦旗』（１） ――童心主義的児童文学とプロレタリア児童文学（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１４回	『赤い鳥』『少年戦旗』（１） ――童心主義的児童文学とプロレタリア児童文学（１） 戦後の少年少女雑誌 ――戦後の異性愛文化と雑誌 ――少年少女雑誌	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90

〔授業の方法〕

講義形式。

〔成績評価の方法〕

授業内レポート・授業内ミニレポート（80%）、平常点（20%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

とくになし。

〔テキスト〕

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕

今田絵里香『新装版「少女」の社会史』勁草書房、2022 年。
今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	映像メディア論						
教員名	西　兼志						
科目№	125435150	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

メディアは、映し出されたり語られたりする対象（オリジナル）を複製（コピー）します。このオリジナルとコピーの関係は、これまで「アウラの喪失」「疑似イベント」「シミュラークル」「不気味なもの」などといったかたちで論じられてきました。この講義では、この関係を類似性（「○○っぽさ」）という観点から捉え直すことで、メディア（論）の展開を再考してみたいと考えています。

〔到達目標〕

DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：類似性という観点から、メディア（論）の展開について学修することを通じて、各自が、身近なメディアを捉え返せるようになることを目指します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第２回	メディア論の観点から（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第３回	メディア論の観点から（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第４回	メディア論の観点から（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第５回	認知の観点から（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第６回	認知の観点から（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第７回	消費社会論の観点から（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第８回	消費社会論の観点から（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第９回	精神分析の観点から（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１０回	精神分析の観点から（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１１回	文化産業論の観点から（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１２回	文化産業論の観点から（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１３回	文化産業論の観点から（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

〔授業の方法〕

講義形式で進めていきます。
また、単位取得にあたっては、講義資料のアクセスが必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、内容・順番は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕

平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの内容＝50%）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・メディア（論）の展開を理解できているか。
・その上で、各自の身の回りのメディア現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕

ポータルサイトを通じて随時、配布します。
単位取得にあたっては、次のことが必須です：
講義資料のアクセス（未アクセスの場合、出席にカウントしません）
配布された資料をプリントアウトした上、手許で参照できるようにしておくこと

〔参考書〕

授業中に随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	広告論						
教員名	片山　淳						
科目№	125435200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

広告は、時代や人間のさまざまな側面を反映する、社会に浸透したコミュニケーション形態のひとつです。人間の心理や世の中の普遍的な面を描き出す一方で、技術の進化や産業の変化にも敏感に反応する、いわば「社会の鏡」です。特に現代の広告は、デジタルやグローバルといった観点を抜きに語ることはできません。この授業では、講師の広告会社での実務経験を活かしつつ、広告コミュニケーションという事象を読み解きます。広告研究における考察と実際の事例を参照しつつ、学術と実践の両者を視野に理解を深めていきます。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野の知識・技能）2-1（広い視野での思考・判断）を実現するため、次の 3 点を到達目標とします。
①広告活動全般における用語や概念を正しく理解できる。
②広告施策における背景や構造を多面的に読み解くことができる。
③現代社会学の一環として、他分野にも通じる普遍的な視座を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション ・講義全般の内容とスケジュールを概観します。 ・「広告」を学ぶ意味と目的について考えます。 ・進め方やルール、評価ポイントについて説明します。	【予習】 シラバスを読み、講義のテーマと内容について考えておく。	60 分
第２回	広告の歴史 ・広告の発祥から現在までを概観しつつ学修します。 ・経緯に沿って、事例を参照しながら考察します。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第３回	広告の定義 ・広告の定義とその背景にあるさまざまな視座について、事例を参照しながら学修します。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第４回	広告ができるまで―「中の人」の視点で ・企画から制作、実施までの基本過程を学修します。 ・内容に応じた事例を参照して考察をおこないます。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第５回	広告におけるコピーの仕事 ・コピーにおける「表現」と「機能」を学修します。 ・代表的なコピーの事例を参照して考察します。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第６回	広告が語る「物語」および「パロディ」への考察 ・広告コミュニケーションにおける「物語」の役割と機能を、事例を参照して考察します。 ・同様に「パロディ広告」についても分析します。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第７回	広告のなかのグローバリズム ・企業やブランドによる世界を対象とした広告コミュニケーションについて、事例を参照しつつ考察します。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第８回	「広告賞」というメッセージ ・海外の広告賞事例を中心に、その役割を考察します。 ・視点の違いや、その示唆する内容を考察します	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第９回	広告と公共 ・「公共広告」の目的や影響について学修します。 ・事例を参照して、その効果や意義を考察します。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第１０回	広告と地域の活性化 ・広告コミュニケーションと地域の活性化について、事例を中心に考察します。 ・ゲストスピーカーの登壇を予定しています（調整中）	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第１１回	広告におけるソーシャルメディア ・ソーシャルメディアの登場と変遷を学修します。 ・事例を参照して、その背景を考察します。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第１２回	広告におけるデジタル技術の影響 ・広告施策に与えた影響と変化について学修します。 ・事例を参照して、その仕組みについて考察します。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第１３回	「企画書」をめぐって ・実践の起点となる「企画書」について学修します。 ・講義中に企画書を書いてもらい、レポートとします。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分
第１４回	「広告論」総括 ・これまでの授業のテーマを統合的に振り返ります。 ・期末レポートからの知見をとりあげて共有します。	【復習】 講義中のメモや資料を参照して、キーワードや理論、概念への理解を通じて小レポートに回答する。	60 分

〔授業の方法〕

・各回のテーマに沿って、講義形式ですすめます。随時、映像等の資料を使用します。
・講義毎に小レポート（リアクションペーパー）の課題を提示します。評価のポイントは「自分自身の考えだけでなく、その理由（なぜそう考える／感じるのか）が述べられているか」ということです。

〔成績評価の方法〕

・単位の取得には、全 14 回中 11 回の出席を求めます（感染症等の公的な状況は別途考慮します）。
・平常点（出席および講義中の発言等）40%、リアクションペーパー45%、期末レポート 15%を大まかな基準として総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠し、主に下記の点を考慮して評価をおこないます。
・広告という事象についての基本的な知識や論理が理解できているか。
・講義をふまえて、発言やレポートのなかで自身の疑問や意見を提示できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特にありませんが、生活の中で自分が接している広告やメディアを通じてのメッセージを、日々「観察」しておくことを期待します。

〔テキスト〕

特にありません。

〔参考書〕

特になし。授業中、適時指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

・質問は、基本的に授業終了後に教室で受け付けます。
・講義の間の質問やコメント等には、ポータルあるいは CoursePower でも適時対応します。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	デジタル・メディア論						
教員名	高橋　裕行						
科目№	125435250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

デジタルメディアのあり方を、「未来の暮らしを想像する」という観点から学びます。
これからのメディアは、AI やロボティクス、バイオテクノロジーなどの先端技術を抜きには語ることはできません。しかし、単に技術的な知識を得るだけでは、それらが世の中にどんなインパクトを及ぼすかを予測することは難しいでしょう。かつてパーソナルコンピュータの構想を描いたアラン・ケイは「未来を予測する最善の方法は、それを発明することだ」と述べました。技術に対して受動的に流されるのではなく、積極的にそれらを使いこなし、次の時代を自ら切り開くことが必要です。そのための手掛かりをこの授業では提供したいと思います。

〔到達目標〕

DP1【専門分野の知識・技能】
デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる理論について、その概略を説明できるようになる。
DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)
デジタルメディアを、現在の技術動向、社会動向と結びつけ理解し、「未来の暮らし」を活き活きと想像できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第２回	未来の「家族」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第３回	未来の「働き方」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第４回	未来の「ものづくり」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第５回	未来の「食」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第６回	未来の「買い物、お店」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第７回	未来の「教育」①	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第８回	未来の「教育」②	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第９回	未来の「モビリティと都市」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１０回	VR、AR、メタバースは世界をどう帰るか	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１１回	AI は世界をどう変えるか	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１２回	ワークショップ「2040 年の革命家」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１３回	レポート講評	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１４回	まとめ	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60

〔授業の方法〕

配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、レポート等：50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	情報デザイン論						
教員名	高橋　裕行						
科目№	125435300	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

「自分の好きなものがわからない」「企画ってどうやるの？」「情報が多すぎる」
そんな風に思っているひとのための講座です。
情報が人間の尺度を超えて膨大に増え続けている現在、必要なときに必要な情報を手に入れ、編集し、
そこから新たなアイデアを生み出し、
オリジナルな価値をもったものとして発信する「情報デザイン」が強く求められています。
この授業では、情報デザインの諸手法（収集/編集/発信）を紹介します。
演習やグループワークを通じて、就職後にも役に経つ実践的なスキルが身につくようにします。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、
1. 情報デザインの概略を理解する。
2. 情報の収集（インプット）、編集（プロセス）、発信（アウトプット）に関わる諸手法の基本概念と特徴を理解する。
3. 上記の諸手法を実践するための知識とスキルを身につける。

なお、授業は以下の「21 世紀スキル」の 10 のスキルの習得を念頭において構成されている。
1. 創造性、イノベーション
2. 批判的思考、意思決定、問題解決
3. 学び方の学習、メタ認知
4. コミュニケーション
5. コ

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	インプット手法 1（情報の収集） 課題：「吉祥寺の隠れた魅力」（グループワーク） 手法：文献調査、フィールドワーク、インタビュー	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第２回	インプット手法 2（情報の収集） 課題：「吉祥寺の隠れた魅力」（グループワーク） 手法：文献調査、フィールドワーク、インタビュー	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第３回	プロセス手法 1（情報の整理と発想） 課題：「ピーチ君を有名にする方法」など（グループワーク） 手法：ブレインストーミング、KJ 法、収束技法	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第４回	プロセス手法 2（情報の整理と発想） 課題：「豊かな休日の過ごし方」（グループワーク） 手法：CPS ライティング、パターン・ランゲージ	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第５回	アウトプット手法 1（情報の表現） 課題：「世界でたった一つの私のお店」（個人） 手法：偏愛マップ	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第６回	アウトプット手法 2（情報の表現） 課題：「世界でたった一つの私のお店」（個人） 手法：偏愛マップ	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第７回	ゲストトーク 先輩のお話：サイバーエージェント酒井様（予定）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第８回	ワークショップデザイン 1（概論：ワークショップとはなにか）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第９回	ワークショップデザイン 2（問いのデザイン）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１０回	ワークショップデザイン 3（遊びのデザイン）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１１回	ワークショップデザイン 4（問いと遊びの接合）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１２回	ワークショップデザイン 5（設計）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１３回	ワークショップデザイン 6（実施） 課題：「ワークショップをつくろう」（グループワーク）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１４回	ワークショップデザイン 7（実施） 課題：「ワークショップをつくろう」（グループワーク）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分

〔授業の方法〕

・スライドを使った講義と、学生によるプレゼンテーションを交互に行います。
・グループワークを行います。
・授業資料は、成蹊ポータル等で配布します。

〔成績評価の方法〕

・リアクションシートへの記入 50%、課題発表 50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室もしくはメールで受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディアの理論						
教員名	西　兼志						
科目№	125435350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

あらゆるものが産業化されていく現代社会において、文化もその例外ではありません。この授業では、文化産業をめぐる重要な文献を取り上げ、その展開を辿ることで、現代社会を理解するにあたって不可欠な考え方を身につけることを目指します。

〔到達目標〕

DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：現代のメディアのあ り方について学修する ことを通じて、個人と社会をつなぐ関係の理解や情報化社会への対応力を解明するメディア研究の手法を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第２回	文化産業とメディア（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第３回	文化産業とメディア（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第４回	文化産業論の源流（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第５回	文化産業論の源流（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第６回	文化産業と群集（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第７回	文化産業と群集（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第８回	文化産業と精神分析（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第９回	文化産業と精神分析（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１０回	文化産業と公衆（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１１回	文化産業と公衆（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１２回	文化産業と感染（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１３回	文化産業と感染（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

〔授業の方法〕

講義形式で進めていきます。
また、単位取得にあたっては、講義資料のアクセスが必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕

平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの適切度＝50%）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・文化産業（論）の展開を理解できているか。
・その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕

ポータルサイトを通じて随時、配布します。
単位取得にあたっては、次のことが必須です：
講義資料のアクセス（未アクセスの場合、出席にカウントしません）
配布された資料をプリントアウトした上、手許で参照できるようにしておくこと

〔参考書〕

授業中に随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	サブカルチャー論						
教員名	飯塚　邦彦						
科目№	125435400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、「おたく文化」（アニメ、マンガ、ゲームに代表する文化）を題材に、70 年代後半以降の日本のサブカルチャーが、どのように成長・変化したかをみていく。
「おたく文化」は、現在では日本を代表する文化の一つであり、文化輸出の面でも重要視されている「メインストリームカルチャー」である。しかし 70 年代半ばの成立期には、限られた若者だけが楽しむ「サブカルチャー」であった。また 80 年代末から 90 年代半ば、バブル文化が急成長した時期には、激しいバッシングの対象になった。
かつてはサブカルチャーであったおたく文化は、なぜ、どのような経緯でメインストリームカルチャーになっていったのか。本講義ではこの経緯をみていき、変化の背後にあった経済、社会、文化の変化を考えていく。また理論的枠組みから、この変化を分析していく。そして最終的に、この変化がわたしたちの現在の生活や行動に、どのように影響するのかを考えていく。

〔到達目標〕

DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の２点を到達目標とする。
①文化の歴史的流れをつかみ、それを理解するための主な理論を説明できるようになる。
②文化の歴史的流れと政治・経済の関わりを知り、そこから現在の文化・社会のあり方を考えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクションと定義 ・本講義の目的 ・成績評価について ・言葉の定義と文化を研究する理論枠組みを紹介	「サブカルチャー」とはなにかを調べておく 現在の「サブカルチャー」には何があるかを調べておく	60
第２回	前提としての全共闘運動（1965～73） ・文化運動としての全共闘運動 ・マンガ、音楽、映画、演劇などが若者文化として成長 ・ミニコミ、自主製作（音楽、映画）の流行	（全体の予習）Teams に提示する動画を見て、分かったことや疑問点をメモしておく。その上で授業に臨む（以下同様）。 （全体の復習）理解できた点、質問したい点をまとめ、リアクションフォームに記入する。質問もフォームに記入する（以下同様）。 （この回の予習）「全共闘運動」について調べる。「左翼」「新左翼」との違いを調べておく。	60
第３回	おたく文化前史、3 つの動き（1959～74） ・マンガを創作する動き ・SF ブーム ・少女マンガの新しい流れ	（予習）ビデオに示された少女マンガを、図書館などで借りて読んでみる。可能なら「宇宙戦艦ヤマト」(1977 年劇場版)「スター・ウォーズ（EP4)」を配信などで見てみる。	60
第４回	コミックマーケットの成立と成長（1975） ・コミックマーケット発足に至る流れ ・コミックマーケットが果たした意義	（予習）「マンガ同人誌　通販」で検索し、マンガ同人誌を買えるサイト、業者がどれぐらいあるか確認する。また、吉祥寺、自宅の近所に、マンガ同人誌を買える場所がいくつあるか調べてみる。	60
第５回	「機動戦士ガンダム」の衝撃（1977～81） ・若者向けのアニメが増加し、アニメブームが起こる ・「アニメージュ」などのアニメ雑誌が急増、「アニメ市場」が成長する	（予習）可能なら配信などで「機動戦士ガンダム」第１話を見てみる。	60
第６回	アニメブームの拡大と「おたく」という言葉の誕生（1981～85） ・書籍、音楽、模型など関連産業が急速に市場化 ・コミックマーケットでアニメの二次創作と美少女もの急成長 ・『漫画ブリッコ』誌上で中森明夫が「おたく」という言葉を示す	（予習）可能なら配信などで「超時空要塞マクロス」第１話を見てみる。	60
第７回	アニメブームの終焉と「キャプテン翼」ブーム（1985～89） ・同人誌では「キャプテン翼」ブームが起き、同人誌関連産業が爆発的に成長 ・次第に「おたく」という言葉がネガティブな意味で広まっていく	（予習）「キャプテン翼」を調べ、この作品が世界においてどのように受け取られているかを調べる。	60
第８回	バブル文化とオタクバッシング（1989～95） ・バブル文化がメインストリームカルチャーとなる ・東京・埼玉連続幼女誘拐殺人事件により、激しいオタクバッシングが起こる	（予習）「バブル文化」がどのようなものであったか、書籍などで調べる。またそれが現在の文化にどのように継承されているか、考えてみる。	60
第９回	カッコ付きの「サブカル」の成立（1991～2006） ・バブル文化期までの若者向け「サブカルチャー」の動き ・バブル文化に対抗・抵抗し、自分たちこそが優れているという「サブカル」の動きが起こる	（予習）バブル期の「バンドブーム」「イカ天」について調べてみる。現在でも活動しているバンドの曲や、親世代が聴いていた曲を聴いてみる。	60
第１０回	「エヴァ」放送開始とネット文化の萌芽（1995～2000） ・「新世紀エヴァンゲリオン」の放送が始まり、社会現象になる ・Windows95 が発売され、パソコンが急速に広まる。98 年頃からインターネットも広まる。	（予習）可能なら配信などで、テレビ版「エヴァンゲリオン」を何話か見てみる。	60
第１１回	ネットの成長と「公式」化されるおたく文化（2001～2010） ・「2 ちゃんねる」が急成長、「匿名性を背景としたコミュニティ」ができる ・「ニコニコ動画」がユーザー製作のコンテンツの発表の場となる ・おたく文化は海外で認知され、ファンが増加。日本政府もおたく文化を輸出文化と考えるようになる	（予習）VOCALOID の曲で、好きな曲はないか探してみる。	60

第１２回	スマホ時代のおたく文化（2010～現在） ・スマホの急速な普及により、テレビは地位を低下させる。YouTube、SNS、配信がメディアの主役へ。 ・スマホの普及により、おたく文化のグローバル化は加速する	（予習）現在自分が使っている SNS を確認し、どのように使っているかを考える。また購読している YouTube チャンネルがいくつあるか、どのようなチャンネルを購読しているかを書き出してみる。	60
第１３回	まとめ 1 「おたく文化」に対する見方の変化 ・おたく文化の見方が変わる背景となった変化は何か ・「サブカル」との激しい争いはどのような結末を迎えたのか	（予習）海外において、日本のアニメ、マンガ、ゲームはどのように受け入れられているかを調べる。またおたく文化系のイベントがどれぐらいあるかを調べる。	60
第１４回	まとめ 2 文化理論からみたおたく文化と、おたく文化のこれから ・カルチュラル・スタディーズ、ファンカルチャー論、メディア論、政治学などから考える	（予習）これまでの授業・動画でわかったことをまとめ、「おたく文化はなぜ変化してきたのか」「その変化はわたしたちの生活とどう関係するか」についての考えをまとめておく。	60

〔授業の方法〕

講義形式で行なう。あらかじめ授業に関する動画（30 分程度）を用意しておくので、それを見て、分かったこと、疑問点をまとめた上で、授業に臨む。授業の終わりには質問に答える時間を設ける。授業中 Teams で自由にチャットできるようにしておくので、授業を聴きながらネット上で話し合ってもよい。毎回リアクションフォームを書いてもらうが、そこに疑問や質問を書いてもよい（Teams や次回の講義最初で回答する）。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況、毎回のリアクションフォームの提出状況など）　30%
期末レポート　70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

文化社会学

〔テキスト〕

特になし　購入の必要なし

〔参考書〕

『おたくの起源』、吉本たいまつ、NTT 出版、978-4757142091　絶版のため、無理に購入する必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業の最後、授業終了後に教室で受け付ける。フォーム、Teams でも受け付ける。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング（反転授業）

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディアとアート						
教員名	小川　希						
科目№	125435450	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

現代アートとはいったい何か？　そこで用いられるメディアに着目することで、現代アートがこれまで投げかけてきた様々な問いについて学ぶ。

〔到達目標〕

現代アートで展開される表現を、メディアごとに分類・分析することで、それぞれの表現を理解するための基本的な知識や態度を獲得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 教員紹介及び本講義の説明 現代美術についてイメージする	特になし	0
第２回	コンセプチュアルアートとは? 現代アートを学ぶ基本姿勢 前編	前回の講義の復習	60
第３回	コンセプチュアルアートとは? 現代アートを学ぶ基本姿勢 後編	前回の講義の復習	60
第４回	現代アートにおける絵画表現とは? 絵画というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第５回	現代アートにおける絵画表現とは? 絵画というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第６回	現代アートにおける彫刻表現とは? 彫刻というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第７回	現代アートにおける彫刻表現とは? 彫刻というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第８回	現代アートにおける映像表現とは? 映像というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第９回	現代アートにおける映像表現とは? 映像というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第１０回	現代アートにおけるパフォーマンス表現とは? 身体というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第１１回	現代アートにおけるパフォーマンス表現とは? 身体というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第１２回	ゲストアーティストによる講義 現在進行形で活動する作家の話を聞く	前回の講義の復習	60
第１３回	現代アートにおけるソーシャリー・エンゲージド・アートとは? 社会関与というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第１４回	現代アートにおけるソーシャリー・エンゲージド・アートとは? 社会関与というメディア 後編	前回の講義の復習	60

〔授業の方法〕

スライドを用いての講義形式の授業

〔成績評価の方法〕

授業の参加態度：60%
授業への感想及びコメント：40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
特になし

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代社会研究Ｂ						
教員名	澤井　勇海						
科目№	125437150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】19 世紀日本・東アジアの政治と対外関係
本講義では、19 世紀、とりわけ 1860 年代から 70 年代までを中心とする日本・東アジアの政治と対外関係について、基礎的な知識を確認する一方で、日本や海外の学界の動向、また教員自身の研究を紹介することで、歴史理解の多面的と面白さを伝えることを目的とする。とりわけ、西洋国際秩序の学習・適応の成否を軸とするのではなく、当時の政治アクターの知的枠組や政治的文脈、国際秩序・国際法理解、その他の条件を検討することで、日本・東アジアが経験した変容を丁寧に再構築する。

〔到達目標〕

以下の到達目標を達成することで、DP2【教養の修得】や DP4【表現力、発信力】、DP5【多様な人々との協働】を実現する。
①近現代日本の政治・外交に関する知識を修得し、現代社会がよって立つ背景を理解する。
②リアクションコメントの提出などを通じて、自身の考えを的確に表現し発信する力をつける。
③歴史の多面性を理解することで、グローバル化する社会において多様な人々と協働を行うための知的基盤を獲得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション　本講義の概要や到達目標、参考文献、成績評価方法などを説明する。併せて、本講義における視点や問題意識、全体像を簡単に提示する。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第２回	近世・近代移行期の東アジア国際秩序 近世・近代移行期の東アジア国際秩序については、従来、「華夷秩序」から「西洋国際秩序」への単線的な移行が措定されがちであった。しかし、現在の研究水準では、「華夷秩序」が様々に相対化されると同時に、「西洋国際秩序」への変容にもメスが入れられている。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第３回	黒船来航と海防掛　鎖国の終結について、黒船の軍事的圧力に屈して開国が為されたと理解されがちである。しかし、近年ではむしろ幕府側が主体的役割を果たしていたとの指摘や、阿部正弘のリーダーシップ、海防掛の果たした役割など、多面的に理解されている。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第４回	幕府外国方の成立 安政条約の前後に成立した外国方は、その直後に安政の大獄によって中心人物が処分される中で、困難な船出を迎えた。水野忠徳らを中心に、横浜開港など幕府対外関係の実務を担ったが、老中層が消極的な中で果たした役割には限界があった。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第５回	久世・安藤政権と「交際」 桜田門外の変後に政権を担った安藤信正は、朝廷に十年以内の攘夷を約束する一方で、米国駐日公使ハリスとの関係を梃子に、両都両港開市開港延期問題を解決した。しかし、人的な「交際」を通じて対外関係の整理を狙う安藤の試みには、自ずと限界があった。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第６回	一橋慶喜と幕末の対外関係 文久の改革の後、対外関係は幕府・朝廷間の綱引きに左右されることになる。流動する政治状況の中で、一橋慶喜は両者の間を調整しつつ、自身の政治基盤を築いていった。対外関係それ自体は手段化・融通無碍化される中で、最終的には条約勅許へと至った。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第７回	維新政府の「交際」 外国との「交際」を全面に押し出した維新政府の当初の対外関係を担ったのは、伊達宗城・東久世通禧であった。従来顧みられてこなかった彼らの対外関係の内容・態様は、万国公法に関する自然法的理解と、流動化する政治的文脈の上において紐解くことができる。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第８回	副島の「交際」と岩倉使節団 副島は人的な「交際」を手段として自覚して利用し、対露関係や清国皇帝への謁見などにおいて成果を得た。しかし、それは地理的距離の離れた岩倉使節団との連絡や、組織的なアプローチとは相性が悪く、結果として明治六年の政変の伏線の一つを構成することとなった。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第９回	「文明標準」の成立 東アジアの国際法理解についてはその学習・適応が主に語られがちだが、西洋国際法が普遍的な国際法となるにあたり、むしろ明治日本は積極的に参与した事実は軽視されてはならない。万国公法会議における日本外交官の参加や働きかけなどから、その過程を描写する。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第１０回	総理衙門と「交渉」 日本との比較のため、同時代の清国の対外関係の特徴を概観する。総理衙門は対外政策形成過程の集権的に指揮し、各国と「交渉」することを試みたが、中央・地方の地理的距離の問題や地方大官の位置付けの問題などから、その企図は修正を余儀なくされた。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60

第１１回	曽国藩・李鴻章の「交渉」　1860 年代後半以降、総理衙門は地方大官を対外政策形成過程に巻き込むよう試み、その過程で曽国藩・李鴻章が浮上した。とりわけ天津教案の後、李鴻章は北洋大臣として実質的に北京と各国公使との間の「交渉」を、絶妙な距離感の中で果たすようになっていった。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第１２回	朝鮮の「交隣」 日本の「交際」とも、清国の「交渉」とも異なる、同時期の朝鮮では「交隣」の語が対外関係を指すものとして用いられた。「交隣」の具体的な内容・態様について、朝鮮の清国・日本との歴史的な関係性を踏まえつつ、再検討する。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第１３回	到達度確認テスト　講義時間内において、これまでの学修内容の理解度を確認するためのテストを実施する。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60
第１４回	到達度確認テストの解説・講義のまとめ　テストのフィードバックを行った上で、1860 年代-70 年代の日本および東アジアの対外関係を総括し、後の時代への展望を示す。	【予習】これまでのスライドや講義ノートを見直し、自身の問題関心を整理する。 【復習】スライドや講義ノートを復習し、知識を定着させ、講義への疑問点を明確化する。	60

〔授業の方法〕

スライドを用いて講義形式で行う。スライドは毎回の講義終了後に CoursePower 上にアップロードするので、必要であれば各自ダウンロードし、復習などに用いること。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト 80%、リアクションコメント 20%（各回のリアクションコメントを 20 点分に換算する）
到達度確認テストは記述式・持ち込み不可・80 点満点。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.　①日本近現代史に関する基礎的な知識を身につける。
②　①を基盤としつつ、現在の日本や海外の日本史研究の動向を掴み、歴史理解の多面性や複雑性を最大限理解する。
③　①②を基盤に、現代の日本社会や国際社会への洞察を深める。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

高校日本史・世界史レベルの予備知識があることが望ましいが、講義中でも高校レベルの知識を適宜確認しながら進行する予定である。
本講義と共通する時代・地域を通史的に概観する「近現代日本史 A」「近現代日本史 B」「戦後の日本と世界」や、その他歴史学・政治学関連の諸科目を履修することも、本講義をより深く理解する上で有用である。

〔テキスト〕

とくになし

〔参考書〕

講義の中で必要に応じて紹介する（購入の必要なし）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

毎週水曜日にオフィスアワーを設定する（時間・場所等は第 1 回の講義で周知する）。講義への質問やその他の相談・雑談など、どのような用件でも歓迎するので、気軽に足を運んでほしい。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	トピック・セミナーB						
教員名	禹　丞美						
科目№	125511250	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では韓国文学を中心に映画やドラマなどを扱います。日本で翻訳された韓国文学を一緒に読みつつ、「ソウル」「IMF」「フェミニズム」などいくつかのキーワードを中心に韓国社会の変遷について説明します。社会で取りこぼされてしまった貧困層、外国人、女性などの「社会的弱者」を文学がどのように描いてきたかを確認し、現代における様々な問題についても考えます。各キーワードに関連する未邦訳の作品も紹介する予定です。

〔到達目標〕

韓国文学と関連する韓国映画を通じて韓国社会への理解を深めることができる。また、様々な社会背景を知り、自分なりの解釈を試みることで考察を広げることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第２回	朝鮮戦争	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第３回	分断	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第４回	ソウル１	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第５回	ソウル２	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第６回	民主化	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第７回	IMF	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第８回	多文化社会	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第９回	家族	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第１０回	フェミニズム１	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第１１回	フェミニズム２	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第１２回	食べること	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第１３回	科学と文明	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第１４回	まとめ	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60

〔授業の方法〕

授業はパワーポイントを利用した講義形式で行います。理解を深めるために教員が資料を用意し、提示します。
受講生は、毎回講義内容に関するリアクションペーパーを提出してください。

〔成績評価の方法〕

毎授業のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）により総合評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
ガイダンスでプリントを配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
リアクションペーパーで提出してもらう。授業終了後に教室でも受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ラテン語						
教員名	井上　秀太郎						
科目№	125512100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

ラテン語はキリスト教やローマ法と共にヨーロッパ文明の基底をなすものである。ラテン語に関する知識があるか否かは、ヨーロッパの文化・芸術を理解するうえで今でも重要な要素となっており、その点にこそラテン語を学ぶ意義があると言える。この授業では初級文法を半年かけて学び、辞書を使って独力で簡単なラテン語文を読むことが出来るようになることを目指す。

〔到達目標〕

DP2【教養の修得】を実現するため、次の 3 点を到達目標とする
（1）　ラテン語の基礎的な文法事項を理解する
（2）　単語の基本的な活用を独力で行うことが出来る
（3）　単語帳・辞書を使って簡単なラテン語文を読むことが出来る

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文字と発音（母音の長短・アクセントの位置）	【予習】教科書の序章を熟読 【復習】教科書序章の単語を声に出して音読	90 分
第２回	動詞の活用（第 1～4 活用）	【予習】教科書第 1・2 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第３回	名詞と形容詞（第 1・2 変化の名詞と形容詞）	【予習】教科書第 3 課を熟読 【復習】名詞・形容詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第４回	動詞（未完了過去と未来）	【予習】教科書第 4・5 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第５回	前置詞と名詞（前置詞の格支配と名詞の第 3 変化）	【予習】教科書第 6・7 課を熟読 【復習】名詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第６回	動詞（完了形）	【予習】教科書第 8 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を音読	90 分
第７回	形容詞と名詞（第 3 変化形容詞と奪格の用法）	【予習】教科書第 9・10 課を熟読 【復習】形容詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第８回	不定詞（対格＋不定詞の構文）	【予習】教科書第 11 課を熟読 【復習】例文を繰り返し音読	90 分
第９回	比較の表現（形容詞の比較級と最上級）	【予習】教科書第 12 課を熟読 【復習】比較級・最上級の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１０回	代名詞（指示代名詞と関係代名詞）	【予習】教科書第 13 課を熟読 【復習】関係代名詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１１回	受け身の表現と特殊な動詞（受動態の現在形と能動形欠如動詞）	【予習】教科書第 14・15 課を熟読 【復習】受動態および能動形欠如動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１２回	受け身の表現と分詞の用法（受動態の完了形、現在分詞と絶対的奪格）	【予習】教科書第 16・17 課を熟読 【復習】現在分詞の活用表と絶対的奪格の例文を繰り返し音読	90 分
第１３回	接続法（接続法の活用と用法、動形容詞）	【予習】教科書第 18 課を熟読 【復習】接続法の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１４回	接続法の用法（間接話法、間接疑問文、条件文）	【予習】教科書第 19・20 課を熟読 【復習】接続法の例文を繰り返し音読	90 分

〔授業の方法〕

授業は講義形式で文法事項および例文の解説を中心に進めていく。折に触れて練習問題も解説を交えつつ取り組んでいく。

〔成績評価の方法〕

授業への取り組み（予習や授業中の質疑応答）（50%）、授業内で実施するテスト（50%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する
（1）　ラテン語の基礎的な文法事項を理解する
（2）　単語の基本的な活用を独力で行うことが出来る
（3）　単語帳・辞書を使って簡単なラテン語文を読むことが出来る

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に無し

〔テキスト〕
岩崎務（著)『ニューエクスプレス　ラテン語（CD 付)』白水社　2011 年　ISBN 978-4-560-08580-6

〔参考書〕
特に無し

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
メールアドレスは授業時に伝達する。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古典ギリシア語						
教員名	水元　彬人						
科目№	125512150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、古典ギリシア語の文字、発音、初級文法を扱う。本講義で扱う初級文法は主に、名詞の格変化、時制などによる動詞変化である。名詞や形容詞が文中での働きに応じてどのような形になるのか、そして動詞が時制、法、相、人称や数によってどのように変化するのかを、具体的に理解し覚えていってもらいたい。予備知識は特に必要としない。

古典ギリシア語を学ぶことの目的や意義はもちろん人それぞれだろうが、西洋文化と関わりがある人全てにとってこの言語は学んでおきたいものかもしれない。たとえば、古典ギリシア語で書かれた作品は様々な分野において重要な位置づけにあるため、それらの作品の原文を読めるようになりたいと思う人や、読めると便利かもしれないと考える人たちにとって、広く本講義は役立つだろう。古典ギリシア語で書かれた作品として、たとえば文学に興味がある人はギリシア悲劇や喜劇（またはそれらの中に色々な形で現れるギリシア神話）を思い浮かべるかもしれない。また、哲学に興味がある人はプラトンの対話篇やアリストテレスの著作を思い浮かべるかもしれないし、歴史に興味がある人はヘロドトスやトゥキュディデスによる歴史書、弁論作家による法廷弁論などを思い浮かべるかもしれない。これらの作品は、ジャンルは多岐にわたるものの、いずれも原文で読むためには古典ギリシア語の初級文法を最低限理解していなくてはならない。

また、言語全般に興味を持っている人にとっても、古典ギリシア語の学習は大いに役立つだろう。様々な言語の文字や発音、文法に興味があるという人や、現代ギリシア語をより深く理解したいという人、文法や語を通じて西洋文化の源に触れたいという人にとって、本講義で扱う各事項は具体例として参考になるはずである。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）を実現するため、
①古典ギリシア語の文字や発音を身につける
②古典ギリシア語の格変化や動詞の変化に慣れる
③古典ギリシア語の学習を通じて、西洋文化についての理解を深める

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・ガイダンス（授業の内容や進め方、予習復習の仕方について） ・ギリシア語文字、発音、アクセントについて学ぶ	予習：教科書 I-II 章 復習：教科書 I-II 章	90 分
第２回	・ギリシア語文字、発音、アクセントの再確認	予習：教科書 I-II 章 復習：教科書 I-II 章	90 分
第３回	・動詞の現在直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 III 章 復習：教科書 III 章	90 分
第４回	・第一変化名詞の変化を学ぶ（1） ・第一変化名詞の変化を学ぶ（2）	予習：教科書 IV-V 章 復習：教科書 IV-V 章	90 分
第５回	・小テスト（一回目） ・動詞の未来直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 VI 章 復習：教科書 VI 章	90 分
第６回	・第一変化の名詞を学ぶ（3） ・第一変化の男性名詞を学ぶ	予習：教科書 VII-VIII 章 復習：教科書 VII-VIII 章	90 分
第７回	・動詞の未完了過去直説法能動相を学ぶ ・第二変化名詞の変化を学ぶ	予習：教科書 IX-X 章 復習：教科書 IX-X 章	90 分
第８回	・第一第二変化の形容詞を学ぶ	予習：教科書 XI 章 復習：教科書 XI 章	90 分
第９回	・小テスト（二回目） ・前置詞を学ぶ	予習：教科書 XII 章 復習：教科書 XII 章	90 分
第１０回	・動詞のアオリスト直説法能動相を学ぶ ・動詞の現在完了、過去完了直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 XIII-XIV 章 復習：教科書 XIII-XIV 章	90 分
第１１回	・指示代名詞、強意代名詞を学ぶ ・直説法能動相本時称、副時称の人称語尾を学ぶ	予習：教科書 XV-XVII 章 復習：教科書 XV-XVII 章	90 分
第１２回	・μι 動詞の直説法現在を学ぶ ・疑問代名詞、不定代名詞を学ぶ	予習：教科書 XVIII-XIX 章 復習：教科書 XVIII-XIX 章	90 分
第１３回	・小テスト（三回目） ・動詞の直説法中動相・受動相を学ぶ	予習：教科書 XX 章・XXV 章 復習：教科書 XX 章・XXV 章	90 分
第１４回	・接続法・希求法について学ぶ ・授業のまとめ	予習：教科書 XXXIV・XLIII 章 復習：教科書 XXXIV・XLIII 章	90 分

〔授業の方法〕

授業では、まずは講師が前の週のコメントシートの内容に触れ、全体で共有すべき感想や疑問は講師の回答も含めて共有する。その後、参加者はその日扱われる文法事項について講義を聞き、さらに練習問題（演習）を通じてその事項に慣れ、最後にコメントシートに感想や疑問を記入し提出する。取り扱われる文法事項の順番は基本的にはテキストに沿う。古典語は難しそうだと感じている人もついていけるよう、英文法等がこまめに比較対象に出されつつ、講義や練習問題の解説は進む。
自分の理解や暗記がうまく進んでいるかを参加者が把握できるよう

〔成績評価の方法〕

平常点（授業・演習への参加状況：60%、授業内小テスト 3 回分：40%）による総合評価。
学期末試験は実施しない。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①古典ギリシア語の文字の読み書きができる。
②各文法事項を理解する。
③各語形変化を習得する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本語と英語/特になし/ラテン語, 西洋史, 欧米各国文学

〔テキスト〕

田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 新装版』（岩波 2012 年）

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問は基本的には授業終了後に教室で受け付けるが、コメントシートで質問することもでき、Course Power に掲載するメールアドレスに質問を送ってもよい。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	展示から探る歴史・文化（東南アジアの歴史と文化）						
教員名	牧野　元紀						
科目№	125512200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】知れば知るほどに面白くなる東洋学ワールド。その一大拠点である東洋文庫の本の森を探索しよう！
【概要】日本が世界に誇るアジア研究の殿堂、東洋文庫。毎回の授業は所属研究員によるユニークな研究、貴重な図書資料の活用と保存、研究活動における最新の取り組み、ミュージアムの展示による一般への普及・学習支援等を中心に詳しく論じる講義と現場での見学会から構成される。

〔到達目標〕

DP2【教養の修得】（広い視野での思考・判断）および DP3【課題の発見と解決】（情報の調査収集＋分析・解釈＋論理的思考）を実現するため、下記の点を到達目標とする。
・日本を代表するアジア研究の拠点である東洋文庫の活動を総合的に理解する。
・履修者各自が大学における今後の自発的学修、研究において東洋文庫を積極的に利活用できるようにする。
・多様性に富むアジアの社会を理解すべく歴史資料からアプローチすることを体得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「東洋とは？東洋文庫とは？」 【講師】牧野元紀（研究員） 【内容】東洋文庫は日本国内では最大最古、世界でも 5 指に数えらえる東洋学の研究図書館である。創立以来の歩みと今日の主な活動を紹介する。	【予習】東洋文庫のホームページ（http://www.toyo-bunko.or.jp/）に各自でアクセスし、概要を把握しておく。	60
第２回	「研究図書館における研究活動と研究データベース」 【講師】相原佳之（研究員） 【内容】東洋学の研究図書館である東洋文庫の研究活動と、データベースについて概説する。研究活動を継承し発展させていく上での現状と課題、研究成果の公開媒体としてのデータベースの構築理念と将来展望などについて紹介する。	【予習】東洋文庫の研究活動の全体像およびデータベースを理解するため、東洋文庫のリサーチページ（http://www.toyo-bunko.or.jp/research/）、東洋文庫リポジトリ ERNEST（https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/）、Toyo Bunko Media Repository（https://app.toyobunko-lab.jp/）を確認しておく。	60
第３回	「東洋文庫における東洋学研究の動向―文理融合型アジア資料学」 【講師】徐小潔（研究員） 【内容】電子端末でも資料や本が読める時代にあって、東洋文庫は「モノ」としての書物に研究価値を見出している。自然科学の先端技術を駆使した新しい歴史研究の手法を紹介し、書物に記された文字情報からは見えてこない「本」の秘密に迫る。	【予習】東洋文庫のオンライン・ジャーナル『Modern Asian Studies Review／新たなアジア研究に向けて』Vol.8（http://www.toyo-bunko.or.jp/research/MASR.html）に掲載している関係論文、および東洋文庫リポジトリ（https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/）掲載の徐小潔「『永楽大典』紙質の初歩的分析－非破壊調査の試み」（『東洋文庫書報』第 53 号、2022 年 3 月）を確認しておく。	60
第４回	「東洋文庫の研究成果の英文による発信」 【講師】片倉鎮郎（研究員） 【内容】東洋文庫は研究活動の成果を学術論文や学術書の出版（紙・電子）という形で広く一般に公開しているが、その記述言語は日本語にかぎらない。外国語による出版、特に英文の学術雑誌や単行書の刊行は、東洋文庫の、あるいは日本の東洋学・アジア研究の成果を広く国際的に共有するための手段として重視されている。講義では、これらの英文媒体について紹介するとともに、英語で書くことの意義と難しさを考える。	【予習】東洋文庫リポジトリ ERNEST（https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/）で公開されている英文媒体のラインナップを確認したうえで、そこから受講者各自の関心に応じて論文等を少なくとも 1 点ダウンロードし、読んでみる。	60
第５回	「歴史から見る感染症―東洋文庫の医学史資料を中心に―」 【講師】多々良圭介（奨励研究員） 【内容】世界中で猛威を振るう COVID-19 により、近年感染症への関心が高まっている。 東洋文庫では、感染症の流行を長期的・歴史的に分析するための一環として、自館が所蔵する約 6000 冊の医学史資料の整理と活用を進めている。本講義ではその活動の一例として、所蔵資料から見た中国史における感染症の流行とその対応を紹介する。	【予習】以下の書籍・論文に目を通しておくこと。 ・飯島渉『感染症の中国史 公衆衛生と東アジア（中公新書）』（中央公論新社、2009 年） ・上田信『人口の中国史 先史時代から 19 世紀まで（岩波新書）』（岩波書店、2020 年） ・菊池秀明『越境の中国史 南からみた衝突と融合の 300 年（講談社選書メチエ）』（講談社、2022 年） ・TATARA Keisuke, “Introducing the Fujii Collection in Toyo Bunko: Medical Books from the	60
第６回	ミュージアム自由見学 【講師】岡崎礼奈（研究員・学芸員） 【内容】ミュージアム自由見学日に充当、各自で 10 月～12 月中の都合の良い日時で訪問する。 ミュージアムを見学し、展示の内容、資料の見せ方など全般に対する所感をレポートにまとめて提出すること。教室での通常授業は行いません。	【予習】事前にミュージアムのホームページを見て、展覧会の概要など基本情報を調べておくのが望ましい。	60
第７回	「東洋文庫の蔵書と資料の収集」 【講師】清水信子（研究員） 【内容】東洋文庫の蔵書の概要と資料の収集と公開について概説する。東洋文庫は東洋学の専門図書館として様々な言語、形態の資料を所蔵しており、中でも本講義では、東洋文庫の設立者・岩崎久彌が蒐集した岩崎文庫の和漢（和書、漢籍）の古典籍を中心に紹介する。また資料収集方法の現状と公開にあたってのデータベースの作成や閲覧サービスについても紹介する。	【予習】東洋文庫の全体像を理解するため、東洋文庫のリサーチページ（http://www.toyo-bunko.or.jp/research/）、ライブラリページ（http://www.toyo-bunko.or.jp/library3/）、「蔵書・資料検索」（http://124.33.215.236/db_select.html）、またその中から「Ⅲ. 全頁画像」の「東アジア」の画像について一覧しておく。	60
第８回	「アジア学専門図書館における資料の分類と目録構築」 【講師】篠﨑陽子（研究員）・原山隆広（研究員） 【内容】日本語・中国語・欧米語を初め、多様なアジア諸語資料を所蔵するアジア学の専門図書館として、その蔵書資料をどのように分類して、目録を構築してきたかを概観する。更に他の事例（成蹊大学図書館など）と比較しながら、これからの図書館にとって、利用者本位の使いやすい蔵書検索（OPAC）とは	【予習】東洋文庫・成蹊大学図書館・国立情報学研究所学術情報ナビゲータ（CiNii）を初めとした各種目録データベースにおいて文献検索を行って、その長所・短所について考えてみましょう。	60

	どのようなものか？を考察する。		
第９回	「図書館資料の保存―方法と実践―」 【講師】水口友紀（研究員） 【内容】貴重な資料群を、今の研究に生かしつつ、将来に伝え遺していくための、資料保存の理念や活動の実際を、東洋文庫の取組みを事例に考える。保存修復作業の実技映像を教材として使用する。	【予習】東洋文庫リポジトリ ERNEST（https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/）にて、『東洋文庫書報』掲載の下記の論考を探し、東洋文庫における保存修復作業の内容と方法を把握しておくこと。 第 48 号 田村彩子「一枚もの資料の保存処置事例」、第 49 号 水口友紀・西薗一男「東洋文庫における保存修復作業の紹介～製本室での作業の記憶を交えて～」、第 52 号 田村彩子「デジタル化に伴う保存処置事例」	60
第１０回	「特別講演　口頭伝承と文字史料」 【講師】弘末雅士（研究員） 【内容】口頭伝承が内包する歴史的真実と、それが文字史料に記されるコンテクストを検討する。アジアの海域世界では、男が足を踏み入れると生きて帰れない「女人が島」や外来者を襲って喰う「人喰い族」が、しばしば話題となった。そうした話が流布した背景とその語り手と書き手の関係について考察する。	【予習】弘末雅士『海の東南アジア史―港市・女性・外来者』（ちくま新書 2022 年）第一章を読んでおくこと。	60
第１１回	博物館のなかの東洋文庫ミュージアム 【講師】篠木由喜（研究員・学芸員） 【内容】博物館の歴史を概観し、その中での東洋文庫ミュージアムの位置づけをみていく。	【予習】博物館概論の関連書籍に目を通しておくこと。	60
第１２回	展示における図書資料、歴史資料の活用－東洋文庫の展覧会を例に 【講師】岡崎礼奈（研究員・学芸員） 【内容】東洋文庫ミュージアムで開催中の展覧会を一例に、歴史・文化をテーマとした図書資料中心の展示をいかに一般に向けて魅力的なものにするのか、その工夫について考える。	【予習】展示を見学した際に何が印象的だったか（展示資料、解説、展示手法など）を整理しておくこと。また、東洋文庫ミュージアムのホームページで過去の展覧会についても内容を確認しておくのが望ましい。	60
第１３回	「博物館で遊ぶ、学ぶ―博物館における教育普及・学習支援」 【講師】篠木由喜（研究員・学芸員） 【内容】博物館で行われる多様な教育普及・学習支援活動の目的・到達地点を確認し、東洋文庫ミュージアムで有効な学習支援活動について考える。	【予習】博物館の様々な学習支援の取り組みついて、ホームページ等で調べておく。	60
第１４回	総合講評 【講師】牧野元紀（研究員）	【予習】、これまでの学修内容を確認する。	120

〔授業の方法〕

講義形式。毎回異なる専門をもつ東洋文庫所属の研究員が担当する。東洋文庫の見学等も含む。授業の関連資料は CoursePower にアップロードするので適宜ダウンロードすること。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況、リアクションペーパーの回答内容）60%、試験（あるいはレポートの提出）40%の総合で成績評価をつける。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

関連のプリントを CoursePower 経由で配布する。

〔参考書〕

・斯波義信監修・牧野元紀編『時空をこえる本の旅 50 選』（東洋文庫、2010 年）
・東洋文庫編『記録された記憶―東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』（山川出版社、2015 年）
・東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫　東洋学の史料と研究』（勉誠出版、2015 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業開始前と授業終了後に受け付けるほか、CoursePower あるいはメールで受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化政策学						
教員名	槇原　彩						
科目№	125541100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本科目では「文化政策の入門」をテーマに、海外の文化政策を視野に入れつつ、日本国内の文化政策の歴史を概観します。そして、世界各国の文化政策を比較することにより、それぞれの国の歴史や社会、文化と密接に関与し、それを反映しながら発展する文化政策の動的な性質に着目します。 また、授業では文化政策の対象とその意義を理解するとともに、日本の文化政策の歴史を主体別に分けつつ考察します。 各国がどのような理念のもと文化政策を行い、どのような施策・事業を実施しているのか、その政策目的や手段の違い、あるいは共通点を比較検討することにより、文化政策の多様なあり方についての理解も深めます。

〔到達目標〕

日本の文化政策のみならず、海外の文化政策を知り、相対的、客観的な視点から、文化政策を考察できるようになるために、以下の視座を獲得することを目指します。
①日本の文化政策の歴史と主体別の特徴を理解し、自分自身もその主体であることを自覚する。
②各国の文化政策の目的やその変遷、具体的な政策手段の特徴が分かる。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP2 および DP3 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、本授業で扱う「文化政策」の概念等について説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	諸外国の文化政策（１） 【内容】 フランスの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、フランスの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	諸外国の文化政策（２） 【内容】 イギリスの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、イギリスの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	諸外国の文化政策（３） 【内容】 ドイツの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、ドイツの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	諸外国の文化政策（４） 【内容】 アメリカの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、アメリカの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	諸外国の文化政策（５） 【内容】 韓国の文化政策	【予習】教科書や資料を読み、韓国の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	諸外国の文化政策（６） 【内容】 課題発表：世界各国の文化政策	【事前準備】講義でとりあげた国以外の、諸外国の文化政策について自身で調べ、発表資料を準備しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第８回	諸外国の文化政策（７） 【内容】 課題発表：世界各国の文化政策	【事前準備】講義でとりあげた国以外の、諸外国の文化政策について自身で調べ、発表資料を準備しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第９回	諸外国の文化政策（８） 【内容】 課題発表：世界各国の文化政策	【事前準備】講義でとりあげた国以外の、諸外国の文化政策について自身で調べ、発表資料を準備しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第１０回	日本の文化政策（１） 【内容】 国家による関与の時代	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	日本の文化政策（２） 【内容】 地方自治体が独自性をめざした時代①	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１２回	日本の文化政策（３） 【内容】 地方自治体が独自性をめざした時代②	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１３回	日本の文化政策（４） 【内容】 NPO の可能性が模索された時代	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60

第１４回	これからの文化政策 【内容】 理想の文化政策について考える	【予習】全授業を振り返り、疑問点を整理しておく。 【復習】本授業を通して学んだ諸外国、そして日本の文化政策の全体像を復習しつつ、自身がその主体であることを自覚する。	60

〔授業の方法〕

トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。また、課題発表を通して調査研究や比較研究の実践を経験し、課題レポートの執筆によって、知識の定着を図る。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や宿題レポートの提出状況）：50%
個人の発表・パフォーマンス：20%
課題レポート：30%
※レポートの執筆にあたっては、文学部履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照のこと。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①日本の文化政策の歴史と主体別の特徴を理解し、説明できるか。
②各国の文化政策の目的やその変遷、具体的な政策手段の特徴を理解し、説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『アーツ・マネジメント概論』、小林真理・片山泰輔 監修・編、水曜社、本体 3,000 円＋税、9784880652191
※購入の必要なし
※その他、授業内で使用する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アート・アドミニストレーション						
教員名	槇原　彩						
科目№	125541110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本科目では、日本におけるアート・アドミニストレーション（以下、アートマネジメント）の歴史や、その諸領域、存在意義、適用範囲について概説します。また、芸術文化組織を取り巻く環境とその組織特性に着目し、行政や企業、実演団体、中間支援組織などの実例を紹介しながら、日本のアートマネジメントの現状と課題について考察を深め、アートマネジメントの基礎的知識を学びます。

〔到達目標〕

アートマネジメントの基礎知識を身につけ、以下の視座を獲得することを目指します。
①芸術文化にかかわる組織とそれらを取り巻くさまざまな関係性や制度を理解できる。
②その運営に必要となる基礎知識を得る。
③自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化する。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP3、および DP5 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方について説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	アートマネジメントとは（１） 【内容】 アートマネジメントとは何か。日本でアートマネジメントが成立した歴史的背景を概観する。	【予習】アートマネジメントとは何か、自分なりにイメージしてみる。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	アートマネジメントとは（２） 【内容】 アートマネジメントの対象領域について概観する。	【予習】身の回りの「アートマネジメント」を探してみる。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	アートにかかわる多様な組織と制度（１） 【内容】 非営利組織：行政や文化財団のアートマネジメントについて学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	アートにかかわる多様な組織と制度（２） 【内容】 非営利組織：アート NPO のアートマネジメントについて学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	アートにかかわる多様な組織と制度（３） 【内容】 非営利組織：文化施設のアートマネジメントについて学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	アートにかかわる多様な組織と制度（４） 【内容】 非営利組織：中間支援組織、助成団体のアートマネジメントについて学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第８回	アートにかかわる多様な組織と制度（５） 【内容】 営利組織：企業のアートマネジメント、特にメセナや CSR 活動について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	アートマネジメントの現在（１） 【内容】 アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	アートマネジメントの現在（２） 【内容】 芸術文化事業における評価の現状や課題について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。 プレゼンテーションの準備をする。	60
第１１回	プレゼンテーション（１） 【内容】 芸術文化に関連する組織や制度について調査し、プレゼンテーションで自身（またはグループ）の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１２回	プレゼンテーション（２） 【内容】 芸術文化に関連する組織や制度について調査し、プレゼンテーションで自身（またはグループ）の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１３回	プレゼンテーション（３） 【内容】 芸術文化に関連する組織や制度について調査し、プレゼンテーションで自身（またはグループ）の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１４回	プレゼンテーション（４） 【内容】 芸術文化に関連する組織や制度について調査し、プレゼンテーションで自身（またはグループ）の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120

〔授業の方法〕

授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。
また、グループワークを通して、調査研究の実践を経験し、プレゼンテーションのノウハウを獲得、知識の定着を図る。
最終的に期末レポートを執筆し、自身の考察を論理的に整理する。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や宿題レポートの提出状況）：40%
個人の発表・パフォーマンス：10%
プレゼンテーション：20%
期末レポート：30%
※レポートの執筆にあたっては、文学部履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照のこと。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①芸術文化にかかわる組織とそれらを取り巻くさまざまな関係性や制度を理解できているか。
②その運営に必要となる基礎知識を得ているか。
③自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

身の回りの芸術文化を取り巻く組織や制度などに目を向け、アートマネジメントの実例を探してみる。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『アーツ・マネジメント概論』、小林真理・片山泰輔 監修・編、水曜社、本体 3,000 円＋税、9784880652191
※購入の必要なし
※その他、授業内で使用する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地方自治体の文化行政						
教員名	槇原　彩						
科目№	125541120	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本科目では、地方自治体の文化行政をテーマに、日本において各地方自治体がどのような文化行政をおこなっているのかを歴史的に振り返り、その基礎的知識や理解を深めます。また、各地方自治体の芸術文化振興条例や計画、それに基づく取り組みなどを概観し、なぜ芸術文化を振興するのか、「公」と芸術文化の関係性を紐解きます。

〔到達目標〕

地方自治体の文化行政が対象とする領域を理解し、芸術文化活動と地方自治体の関係性について考察を深め、以下の視座を獲得することを目指します。
①行政による取り組みを知る。
②文化行政の内容を理解する。
③行政と市民、そして芸術文化のより良い関係性の構築について考察する。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP2、DP3 および DP5 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、「地方自治体文化行政」の概要等を説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	地方自治体の基礎 【内容】 行政とは、地方自治とは	【予習】地方自治体の文化行政について考える。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	地方自治体の文化行政（１） 【内容】 国による文化政策との関係	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	地方自治体の文化行政（２） 【内容】 社会教育と芸術文化、教育委員会と首長部局	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	地方自治体の文化行政（３） 【内容】 地方の時代・文化の時代、行政の文化化	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	地方自治体の文化行政（４） 【内容】 社会の基盤としての文化	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	地方自治体文化行政の現在（１） 【内容】 文化施設（博物館、美術館、劇場等）、指定管理者制度	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第８回	地方自治体文化行政の現在（２） 【内容】 文化振興財団や特定非営利活動法人	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	地方自治体文化行政の現在（３） 【内容】 芸術祭やアートプロジェクト	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	地方自治体文化行政の現在（４） 【内容】 条例と計画	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。 プレゼンテーションの準備をする。	60
第１１回	プレゼンテーション（１） 【内容】 地方自治体の芸術文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションで自身（またはグループ）の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１２回	プレゼンテーション（２） 【内容】 地方自治体の芸術文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションで自身（またはグループ）の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１３回	プレゼンテーション（３） 【内容】 地方自治体の芸術文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションで自身（またはグループ）の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１４回	プレゼンテーション（４） 【内容】 地方自治体の芸術文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションで自身（またはグループ）の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120

〔授業の方法〕

授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。
また、グループワークを通して、調査研究の実践を経験し、プレゼンテーションのノウハウを獲得、知識の定着を図る。
最終的に期末レポートを執筆し、自身の考察を論理的に整理する。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や宿題レポートの提出状況）：40%
個人の発表・パフォーマンス：10%
プレゼンテーション：20%
期末レポート：30%
※レポートの執筆にあたっては、文学部履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照のこと。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①行政による取り組みを理解できているか。
②文化行政の内容を理解できているか。
③行政と市民、そして芸術文化のより良い関係性の構築について考察し、自らの考えを言語化できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

生まれた地域や、育った地域などの自治体について改めて振り返ってみる。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化政策と法						
教員名	小林　真理						
科目№	125541130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

近年（2017 年、2018 年)、文化政策に関する重要な法律に関して改正が立て続けに行われた。文化芸術基本法、そして文化財保護法の一部改正は、文化そのものの振興、指定文化財の保存だけでなく、福祉や教育、観光、外交といった幅広い分野との連携が期待されている。この改正は、これまでの法律とどのような点が異なり、どのような点が変わらず維持されていることなのか。文化に関わる個別法は、戦後文化財保護法を筆頭として、それぞれの領域の課題を解決するために制定され、改正されてきた。文化政策は、国および地域（あるいは人類）の文化を振興（そのために保護）することを通じて国民を豊かにすることを目的とするものであり、文化の創造・振興（普及）・保護を対象とする政策領域である。これらを実現していくために、様々な関連の法律が存在している。法律は、単なる規範ではなく、よりよい文化社会の実現に資するものでなくてはならない。法律を十分に使いこなしていく、あるいは、実態とかけ離れていることがあれば改正をしていく必要もある。先にあげた今回の法律改正を契機に、改めて文化政策に関連する法律が、これまでどのような意味を持ち（どのような問題を孕み)、これからどのような方向性が目指されていくのかということを体系的に明らかにするのが本講義の目的である。

〔到達目標〕

公共政策における文化政策がどのような法律や、そこに含まれる原則や価値によって動いているのかを理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	本講義の受け方と知っておかなければならない基本的な知識（法律の構造と、法律の読み方)、憲法と国際条約の枠組みを知る。	法律に使われる用語等について、基本的な知識を復習する。	120
第２回	文化政策の基礎となる法 1−（1）文化芸術基本法（1）	文化芸術基本法が制定される経緯について、学び復習する。	60
第３回	文化政策の基礎となる法 1−（2）文化芸術基本法（2）	文化芸術基本法の内容について、理解を深める。	60
第４回	文化政策の基礎となる法 2−（1）著作権法（1）	著作権法の法律の全体像を理解する。	60
第５回	文化政策の基礎となる法 2−（2）著作権法（2）	著作権法の現代的課題について理解する。	60
第６回	文化政策の基礎となる法 3−（1）文化財保護法（1）	文化財保護法が制定される経緯について理解した上で、法の全体像を理解する。	60
第７回	文化政策の基礎となる法 3−（2）文化財保護法（2）	文化財保護法の展開について、現代的課題を理解する。	60
第８回	文化政策の場・組織を支える法 1 文化政策における法人論	文化政策を担う法人がどのおような法律によって規定されるかを理解する。	60
第９回	文化政策の場・組織を支える法 2 公立文化施設に関する法ーPFI、指定管理者制度、コンセッション等	公立文化施設に関する法についての多様な法律を理解する。	60
第１０回	文化政策の場・組織を支える法 3 社会教育関連法ー公民館、図書館に関する法律	公民館、図書館に関する法律について理解をする。	60
第１１回	文化政策の場・組織を支える法 4 博物館に関する法律	博物館法、その他関連法について理解する。	60
第１２回	文化政策の場・組織を支える法 5 興行場法、劇場法	舞台芸術関係を扱う施設に関する法律を理解する。	60
第１３回	社会の多様性と向き合うための法 1 障害者文化芸術活動推進法、日本語教育推進法	障害者文化芸術活動推進法・日本語教育推進法成立の経緯と運用について理解する。	60
第１４回	社会の多様性と向き合うための法 2 アイヌ施策推進法	アイヌ施策推進法が制定される経緯と運用について理解する。	60

〔授業の方法〕

講義形式で、理解度を測るためのコメントシートの提出、小テストや小レポートを課します。なお、法律の条文を参照することが必要になるので、それらを参照するための準備は必要になります。インターネットにアクセスできる状態か、あるいは事前に次回扱う法律名を伝えますので法律の条文が参照できるように準備をしてほしいと思います。なお、授業の進捗によっては、扱う法律が前後する場合があります。

〔成績評価の方法〕

コメントシート等、平常での課題の提出状況 50%。最終的な試験を 50%で評価をします。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

一般教養として、法学の授業を受けたことがあることが望ましい。

〔テキスト〕

小林真理、小島立他『法から学ぶ文化政策』（有斐閣）
定価 2,640 円（本体 2,400 円）
ISBN 978-4-641-12630-5

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	舞踊論						
教員名	中島　那奈子						
科目№	125541140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 集中（夏期）

〔テーマ・概要〕

この授業では，様々なダンスを学びながら、ダンスとは何かを考えるのが主題です。テーマに沿って，欧米と日本，アジアにおける現代の舞踊ジャンルである，バレエ，タンツテアターからコンテンポラリーダンス，日本舞踊，舞踏を取り上げます。また，舞台芸術の分野において近年ドラマトゥルクという役割が取り入れられつつありますが，ダンスとは何かを分野やテーマに沿って考えながら，教員の実務経験を活かした，ダンスドラマトゥルクの具体的な仕事も紹介していきます。

〔到達目標〕

沢山のダンス作品やダンスの映像をみて，新しい知識を得ながら，地域や社会でおきていることと，ダンスを重ねて考えます。ダンスとは何かを考えることによって，自分と社会や環境との関わりや，他者への理解に繋げていくことを目指します。欧米と日本，アジアのダンス的なものを概観しつつ，それを理論的に分析し議論する過程で，ダンスにおいてドラマトゥルクが果たす役割への理解を深めます。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション　授業の進め方について	（予習）シラバスを読みあらかじめ講義内容を把握する。(復習）授業の全体像や進め方、評価基準について確認する。	60
第２回	バレエについて	（予・復習）バレエ史概要について『バレエとダンスの歴史−欧米劇場舞踊史』の該当箇所を熟読する。	60
第３回	ドイツのタンツテアターについて	（予・復習）ドイツの舞踊史について『バレエとダンスの歴史−欧米劇場舞踊史』の該当箇所を熟読する。	60
第４回	日本の芸能、舞踊について	（予・復習）日本の舞台芸術史について配布資料『民俗と芸術のあいだ』『日本の舞踊』を熟読しておく	60
第５回	（暗黒）舞踏について	（予・復習）『大野一雄ー稽古の言葉』を熟読すること。	60
第６回	コンテンポラリーダンスについて	（予・復習）コンテンポラリーダンスについて『バレエとダンスの歴史−欧米劇場舞踊史』の該当箇所を熟読しておくこと。	60
第７回	アジアの芸能における舞踊について	（予・復習）アジアの芸能について調べておくこと。	60
第８回	ポストモダンダンスを中心にパフォーマンス・アートとダンスとの接点を探る	（予・復習）1960 年代のポストモダンダンスについて『バレエとダンスの歴史−欧米劇場舞踊史』の該当箇所を熟読すること。	60
第９回	ダンス作品の上映	（予・復習）これまでの授業内容の復習	60
第１０回	ダンスのドラマトゥルギー　ダンス創作での実践と理論の関係について	（予・復習）論考『ダンス・ドラマトゥルク』を熟読すること。	60
第１１回	ダンスドラマトゥルクの仕事　ダンスドラマトゥルクの仕事を取り上げ検証する	（予・復習）『ドラマトゥルク　舞台芸術を進化／深化させる者』の序章を熟読すること。	60
第１２回	社会とダンス　地域のコミュニティや障がい者、病人、ジェンダー、セクシュアリティとの関連でダンスを作ることについて	（予・復習）『生きるための試行 エイブル・アートの実験』を熟読すること。	60
第１３回	＜老い＞とダンス　ダンサーの老いとは何か　大野一雄やイヴォンヌ・レイナーについて	（予習）配布資料を熟読すること。(復習）授業内容について振り返り、課題レポートに備える。	60
第１４回	授業のまとめ	（予・復習）授業内容について振り返り課題レポートへの自分の考えをまとめる。	120

〔授業の方法〕

ディスカッションを加えた講義を中心に、授業でのコメントシート提出、課題レポートを実施します。前半は様々な分野でのダンスを概観し，歴史的な参照例を学び，後半はトピックごとに講義を進めていきます。ダンス作品についてより多くの事例を映像を用いて学んでいきます。作品が面白い面白くないと感じるだけでなく，教室での議論を経てさらなる理解に至るため，ダンスの様々な分析方法や理論を紹介していきます。ゲスト講師を招く回も予定しています。

〔成績評価の方法〕

平常授業での議論への参加度・貢献度（30%）と、提出するコメントシート（30%），課題レポート（40%）で、成績評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕

『バレエとダンスの歴史−欧米劇場舞踊史』、鈴木晶編、平凡社、2012
ISBN:4582125239　価格:￥6,980
『日本の舞踊』、渡辺保、岩波書店、1991　ISBN:4004301750　価格:￥864
「ダンス・ドラマトゥルク――ニューヨーク・ダウンタウンダンスの現場から」
『シアターアーツ』中島那奈子、AICT（国際演劇評論家協会）日本センター32(秋)2007 年
『ドラマトゥルク　舞台芸術を進化／深化させる者』平田栄一朗、三元社、2010
『大野一雄ー稽古の言

〔参考書〕

『ハンブルク演劇論』、G.E.レッシング、南大路振一訳、鳥影社、2003 年
『ピナ・バウシュ　タンツテアターとともに』、ライムント・ホーゲ、五十嵐蕗子訳、三元社、1999
ISBN:488303271X　価格:￥4,447
『老いと踊り』、中島那奈子、外山紀久子編、勁草書房、2019　価格:￥5184
老いと踊りウェブサイト（agingbodyindance.tumblr.com）ほか。
購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。また随時、電子メールで受け付けます。ポータルサイトで教員のメールアドレスを周知します。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	上演芸術論						
教員名	李　知映						
科目№	125541160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本科目では、「日本演劇」をテーマに、授業では明治維新以降から現代に至る日本の舞台芸術作品を講義と映像を通して概観します。多様な日本の演劇作品を参照しながら、現代の舞台芸術について理解を深めます。

〔到達目標〕

DP2 及び DP 6 を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
①現代の日本演劇の多様な形式を研究することで舞台芸術についての理解を深める。
②多様な舞台芸術作品の事例を分析、研究し、作品が作られた時代背景、社会状況などについての理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション ・授業の全体像、進め方、学習・復習の仕方等を説明する。 ・舞台芸術の魅力とは？	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	30
第２回	開国、明治時代：「西洋演劇」の輸入	【予習】文化芸術に係る法律について調べる 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	新劇の誕生	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	宝塚	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	1960 年代　寺山修司	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	1960 年代　暗黒舞踏	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。 1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。	120
第７回	小テスト① 現代演劇と伝統芸能	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第８回	1970 年代　高度経済成長：つかブームほか	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	1980 年代　バルブ経済の時代：野田秀樹の登場	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	1990 年代　バブル崩壊：静かな演劇？	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	2000 年代　ロスト・ジェネレーション世代の演劇	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１２回	2010 年代　１０（テン）世代の演劇	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１３回	上演芸術の未来 ＊コロナ関係も交わりながら	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。 7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。	120
第１４回	小テスト② まとめ及びフィードバック	【予習】7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】授業全体の内容を振り返る。	90

〔授業の方法〕

授業は講義式を中心に進めるが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。また、2 回の小テストと 1 回の課題の実施を通じて、知識の定着を図る。
＊外部からの実演家を招聘することも検討している。
＊対面授業を予定しているが、コロナの状況によっては大学の方針に従ってオンライン（ZOOM）授業を行う。

〔成績評価の方法〕

成績は平常点によるもの。具体的には小テスト（2 回：30%）や課題（20%）、授業への参加度・積極性等（50%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①現代の日本演劇の多様な形式を研究することで舞台芸術についての理解しているか。
②多様な舞台芸術作品の事例を分析、研究し、作品が作られた時代背景、社会状況などについての理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にないが、上演芸術に興味を持っていること。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

必要に応じて授業中に紹介する。さらに、授業のなかで関連資料を配る乃至コースパーワに上げておく。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	写真論						
教員名	日高　優						
科目№	125541190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

写真はいま、スマートフォンやインスタグラムなどの普及によって、私たちにとってますますアクセスが容易となり、身近な存在になっています。そして、芸術文化の実践という観点からも、その存在は多様化しつつ重要性を増していると言えます。しかし、そんな写真という映像について、深く考察する機会は限られているのではないでしょうか。写真は、人類史上初めて出現した、カメラという機械による知覚像です。本授業では、写真を学ぶ上での基礎的事項をおさえたうえで、写真の本質について考察する写真論を展開します。特に、写真論において重要な以下の 4 つの論点について、毎回紹介する具体的な写真作品のありようと照らし合わせながら、考察を進めていきます。
・論点 1 カメラの知覚と人間の知覚
・論点 2 光
・論点 3 身体
・論点 4 リアリティ
・論点 5 記憶

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）を実現するため、基礎的事項をおさえたうえで写真という映像の本質、写真論の重要な論点について学び、写真の存在意義について考察することにより、芸術文化の実践として、具体的な写真映像を分析しながらその価値を発見できる力を身につけることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション１ ・授業内容、進め方等を説明する。 ・写真論とは何か、写真論の意義について説明する。	復習：レジュメをもとに、写真論とは何を問題にしているのか、その問題系についての理解を深めてください。	60
第２回	イントロダクション２ ・写真術誕生の歴史的背景について説明する。 ・写真術誕生の意義について説明、考察する。	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ写真術誕生の歴史的意義、人類史的意義について理解を深めてください。	90
第３回	写真論の論点１――カメラの知覚と身体の知覚(1) ・カメラという機械の知覚の特質について説明し、具体的な写真（『光画』や新興写真等の作例）を通してその特質を考察する。	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだカメラという機械の知覚の特質について理解を深めてください。	90
第４回	写真論の論点１――カメラの知覚と身体の知覚(2) ・カメラという機械の知覚と人間の身体の知覚の差異を説明する。 ・異質な二つの知覚の協働として、写真の原理を説明し、具体的な写真（木村伊兵衛、土門拳等）を通してその問題を考察する。 第１回課題	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ二つの知覚の差異について理解を深めてください。	90
第５回	写真論の論点 2――光(1) ・写真原理の原点にある光の問題について、初期写真家たちの問いかけを紹介・説明し、考察する。	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ写真原理、その原点としての光の問題、初期写真家たちの問いかけについて理解を深めてください。	60
第６回	写真論の論点 2――光(2) ・写真原理の原点にある光の問題について、現代の写真家たちの問いかけを紹介・説明し、考察する。 第２回課題	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ光の問題、現代写真家たちの問いかけについて、理解を深めてください。	180
第７回	・第１回～第６回までの内容を総合して、振り返りのまとめの講義をおこなう。 第１回達成度確認テスト提出	到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認してください。提出後、復習してください。	180
第８回	写真論の論点 3――身体(1) ・第１回達成度確認テスト（前回授業提出）のポイント解説をおこなう。 ・身体知覚の拡張という観点から、スナップショットについて考察する。	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだスナップショットについて、理解を深めてください。	90
第９回	写真論の論点 3――身体(2) ・身体知覚の拡張という観点から、アレ・ブレ・ボケ写真について考察する。 第３回課題	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだアレ・ブレ・ボケ写真について、理解を深めてください。	60
第１０回	写真論の論点 4――リアリティ(1) ・写真と絵画の比較の観点から、リアリティについて考察する。	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ写真と絵画のリアリティの問題について、理解を深めてください。	90
第１１回	写真論の論点 4――リアリティ(2) ・写真と絵画の相互作用という観点から、パイパーリアリズムについて考察する。 第４回課題	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをともに、今回学んだハイパーリアリズムについて、理解を深めてください。	60
第１２回	写真論の論点 5――記憶(1) ・映像の拡がりと深さの観点から、写真と記憶の問題を考察する。	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをともに、今回学んだ映像の拡がりと深さとしての記憶の問題について、理解を深めてください。	90
第１３回	写真論の論点 5――記憶(2) ・写真の時間性の観点から、写真と記憶の問題を考察する。 第５回課題	予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ写真の時間性の観点と記憶の問題について、理解を深めてください。	90

第１４回	・授業全体の内容を総合して、まとめの講義をおこなう。 第２回達成度確認テスト提出とポイント解説	到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認してください。提出後、授業全体を振り返ってください。	180

〔授業の方法〕

講義を中心に、授業内に出す課題、達成度確認テストを実施します。講義には、配布資料を用います。

〔成績評価の方法〕

授業中に出す課題（7 点×5 回）
・内容は、授業内容で説明した原理やキーワードなどを説明する問題を解くこと、授業内容に関する考察を書くことなどです。
・コースパワーで一定期間内に提出。
第１回達成度確認テスト 25 点
・テストの内容は、主に、写真を分析しながら概念やキーワードを説明する問題です。
・コースパワーで一定期間内に提出。
第２回達成度確認テスト 40 点
・テストの内容は、授業で確認した論点から、写真を分析・考察する問題です（事前説明あり）。
・コースパワーで一定期間内に提出。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。写真論の重要な論点を理解し、具体的な写真を分析するにあたって、的確に写真論の論点を展開して考察できるかに着目し、その達成度により評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

資料を配布します。

〔参考書〕

日高優『現代アメリカ写真を読む　デモクラシーの眺望』、青弓社、2009 年（購入の必要なし）。
日高優（監修）『映像と文化　知覚の問いに向かって』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局 藝術学舎、2016 年（購入の必要なし）。
その他、授業時に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教育概論						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

外国語としてニホンゴを教えるって？
日本語教育と国語教育のどこが違うの？英語がペラペラでないと日本語教師になれないの？私はシャイなので日本語教師には向いていないのでは？こんな疑問を抱いている人は少なくないでしょう。
まず、日本語教育では、日本語を母語としない学習者に、新しい言語としてゼロから日本語を教えます。既に日本語を話す母語話者に日本語を教えるのが国語教育とは、目的も手法も違います。日本語教師も国語教師も、異なる高度の知識と技能が要求される別々の専門家なのです。
日本語教育では、日本語だけを使って日本語を教える「直接法」が主流なので、外国語技能はあればプラスになりますが必須ではありません。プロの日本語教師にも普段は内気で無口な人はいます。しかし一旦教室に入ると、明るく学習者を牽引する躍動的な教師に変身します。日本語教師になるための訓練を通じて自分の性格を変えることは可能です。
日本語教師の役割は、日本語を通じて人と人を繋ぎ、異文化と異文化を結び、学習者の人生を豊かにすることです。本授業では、ふんだんなグループ活動を通じて、「外国語としてニホンゴを教えるって？」について学びます。

〔到達目標〕

DP4-1（自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ味わい深く発信できる豊かな表現力を身に付けている。）DP5-1（多様な人々と協働して課題解決に取り組んだ経験を通じて、多様な価値観を受容し、協調性やコミュニケーション力を身に付け、チームの中で自分の役割を的確に果たすことができる。）
上記目標を達成するために、受講生はまず次のミニアクションプランを実行したください。
（1）人前で話す時は、全員の顔を見て全員に届く声で話すモードに切り替える。
（2）いつコメントを求められても何らかの反応ができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	アイスブレーキング 自己紹介、他己紹介	（予習）Course Power の該当月日のフォルダ内の指示に従って反転学習（授業前自習）を行なっておくこと。自習を行わないと、グループ活動に参加できません。	60
第２回	グループ活動「日本語教育の現場はどんなところ？」 翌週の発表の準備を行う。完成しなかった部分については、適宜分担して持ち帰る。	自分に分担された作業を行う。	60
第３回	発表、ピア評価、講師講評・評価	（予習）Course Power の該当月日のフォルダ内の指示に従って反転学習（授業前自習）を行なっておくこと。自習を行わないと、グループ活動に参加できません。	60
第４回	グループ活動「日本語教育の学習者はどんな人たち？」 翌週の発表の準備を行う。完成しなかった部分については、適宜分担して持ち帰る。	自分に分担された作業を行う。	60
第５回	発表、ピア評価、講師講評・評価	（予習）Course Power の該当月日のフォルダ内の指示に従って反転学習（授業前自習）を行なっておくこと。自習を行わないと、グループ活動に参加できません。	60
第６回	グループ活動「日本語教師になるには？」 翌週の発表の準備を行う。完成しなかった部分については、適宜分担して持ち帰る。	自分に分担された作業を行う。	60
第７回	発表、ピア評価、講師講評・評価	（予習）Course Power の該当月日のフォルダ内の指示に従って反転学習（授業前自習）を行なっておくこと。自習を行わないと、グループ活動に参加できません。	60
第８回	グループ活動「日本語教育と国語教育の違い」 翌週の発表の準備を行う。完成しなかった部分については、適宜分担して持ち帰る。	自分に分担された作業を行う。	60
第９回	発表、ピア評価、講師講評・評価	（予習）Course Power の該当月日のフォルダ内の指示に従って反転学習（授業前自習）を行なっておくこと。自習を行わないと、グループ活動に参加できません。	60
第１０回	グループ活動「日本語教育能力検定試験」	（予習）Course Power の該当月日のフォルダ内の指示に従って反転学習（授業前自習）を行なっておくこと。自習を行わないと、グループ活動に参加できません。	60
第１１回	グループ活動「日本語教育能力検定試験」	（予習）Course Power の該当月日のフォルダ内の指示に従って反転学習（授業前自習）を行なっておくこと。自習を行わないと、グループ活動に参加できません。	60
第１２回	グループ活動「日本語教育ですぐ使える英語表現」	（予習）Course Power の該当月日のフォルダ内の指示に従って反転学習（授業前自習）を行なっておくこと。自習を行わないと、グループ活動に参加できません。	60
第１３回	グループ活動「日本語教育ですぐ使える英語表現」	Course Power の該当月日のフォルダ内の指示に従って復習を行う。	60
第１４回	まとめ	Course Power の該当月日のフォルダ内の指示に従って復習を行う。	60

〔授業の方法〕

グループワークを中心とした参加型の授業です。受講者が主体的に学び、講師はその手助けをします。

〔成績評価の方法〕

グループによる発表（40%）、ピア評価（20%）、４つの小テスト（40）にもとづいて評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

Course Power で周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教育方法論						
教員名	小田切　由香子						
科目№	125551120	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、日本語教育の指導現場で必ず使うことになるロールプレイについて学びます。ロールプレイを学ぶと同時に、会話データの作り方、分析方法も学びます。ロールプレイ教材作成に関わる作業はペアまたはグループで行います。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野の知識・技能)、DP4-1（表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働、コミュニケーション＋協調性＋チームワーク)
上記を目的として、以下のことができるようになります。
1. 日本語教材（ロールプレイ教材）を作って実施することができる
2. 音声データを作って分析することができる
3. 教案を読んで理解することができる。
4. 日本語教育関連の用語を使えるようになる
5. 自分のアイデアを発信することができる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	クラスについて、icebreaking(クラスの人を知るための活動)	icebreaking について調べる	60 分
第２回	日本語参照枠について、ロールプレイについて（悪いロールプレイを体験して、ロールカードの書き方について考える)	日本語参照枠とロールプレイについて調べる	60 分
第３回	ロールプレイ教材に含まれる練習などを体験する（モデル会話、練習問題)	ロールプレイ教材について調べる（モデル会話、練習問題など)	60 分
第４回	ロールプレイ教材作成１ 自分の会話を録音して文字化する	文字化について調べる	60 分
第５回	ロールプレイ教材作成２ 会話分析スクリプトの書き方を学び、会話データを修正する	会話分析スクリプトについて調べる	60 分
第６回	ロールプレイ教材作成３ 言語機能について学び、会話データを分析する	言語機能について調べる	60 分
第７回	ロールプレイ教材作成４ ロールカードを作って、友達にやってもらう	ロールカードについて調べる、試しに作ってみる	60 分
第８回	ロールプレイ教材作成５ 教材作成シートを使って教材を作成する	教材作成シートの半分を完成させる	60 分
第９回	ロールプレイ教材作成６ 教材作成シートを使って教材を作成する	教材作成シートの残りを完成させる	60 分
第１０回	ロールプレイ教材作成７ 教材作成シートを使って教材を作成する	教材作成シートを使って、ロールプレイ教材を完成させる	60 分
第１１回	ロールプレイの模擬授業を教案を見ながら体験	ロールプレイの動画などを見て、どのようにロールプレイが実践されているか知る。教案について調べる	60 分
第１２回	ロールプレイの教案作成シートを使って自分のロールプレイの教案を書く	ロールプレイの教案を完成させる	60 分
第１３回	大きなグループに分かれて自分のロールプレイをやってみる（教案に沿って）	自分のロールプレイを実施する練習をする	60 分
第１４回	ARCS モデルで自分の教材をふりかえる。	ARCS モデルについて調べる	60 分

〔授業の方法〕

テストはありません。授業の形式はペアかグループ活動が中心です。評価は毎回ほぼ何かを提出することになるので、それにどのぐらい丁寧に取り組むかが主なポイントとなります。もちろん、教材に使う会話に深刻な間違い（外国人学習者が覚えて使うと恥ずかしいことになるようなもの。敬語の間違い、語彙の誤用など）があった場合は大きな減点となります。

〔成績評価の方法〕

毎回の提出物(80%)，宿題(10%),平常点（授業への参加状況や宿題の提出，協調的態度など）10%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

日本語教育についてどのようなものか最低限の情報を持っていること
例　国語教育と日本語教育の違い

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

参加型授業、授業内課題型（授業の中で課題をしながら学ぶ）授業、ロールプレイ、日本語教育教案、日本語参照枠、Can-do リスト、

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教育事情						
教員名	小田切　由香子						
科目№	125551140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

日本語教育が面白いことを知る授業です。日本語学校では毎日数コマ日本語を教えます。毎日同じ教え方を続けていると学生は飽きてついてこなくなります。学生が楽しく授業ができる工夫をすることは教員の重要な仕事です。最近は、ゲーム性を授業に取り入れることを多くの教員が実践しています。この授業でもゲームに注目して、講師と学生で授業を楽しくする方法を考えます。
＊この授業は履修人数により予定を変更することがあります。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野の知識・技能)、DP4-1（表現力・発信力)、DP5（多様な人々との協働　コミュニケーション＋協調性＋チームワーク）
上記を目標として、以下のことができるようになります。
1.グループワークで沈黙を作らず、積極的に意見が交換できる。
2.「ゲーム+教育」についての知識を得ることができる。
3. 日本語教育の現場で必要な用語や知識が身に付く
4. 自分が履修している授業を客観的に分析することができる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	このクラスについて icebreaking	icebreaking について調べる	60 分
第２回	国語教育のゲームと日本語教育のゲームについて考える	国語教育のゲームと日本語教育のゲームについて調べる	60 分
第３回	日本語教育でよく使うゲームや活動 1	日本語教育のゲームや活動について調べる	60 分
第４回	日本語教育でよく使うゲームや活動 2	日本語教育のゲームや活動について調べる	60 分
第５回	英語教育と日本語教育 英語教育でよく使うゲームや活動 1	英語教育について調べる	60 分
第６回	国語教育における漢字学習と日本語教育における漢字学習について 外国人にとって漢字とは？ 漢字の指導法	国語教育の漢字指導と日本語教育お漢字指導について調べる	60 分
第７回	漢字ゲーム体験	漢字ゲームについて調べる	60 分
第８回	課題１　漢字が嫌いな外国人のためにゲームを作る グループ分け、発表準備	課題準備	60 分
第９回	課題１　準備	課題準備	60 分
第１０回	課題１発表 1-5 グループ	発表準備	60 分
第１１回	課題１発表　6-10 グループ	発表準備	60 分
第１２回	話させるゲームを体験する	何語でもいいので「話させるゲーム・活動」を調べる	60 分
第１３回	課題２話させるゲームを作る	課題作成準備	60 分
第１４回	課題２のまとめ	ゲームを教室で実施する方法いついて調べる	60 分

〔授業の方法〕

参加型授業です。毎回ペアまたはグループで作業します。テストはありません。
課題ではゲームを作ります。国語教育と日本語教育の違いを十分に理解し課題に取り組んでいるかが評価の対象となります。

〔成績評価の方法〕

宿題 40%,課題 40%,平常点（活動に丁寧に取り組んでいるか、積極的に参加しているか,授業中にスマホで SNS などしている場合は評価を大きく下げます）20%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

必要に応じて直接お伝えします

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

ゲーミフィケーション、ゲーム、授業を楽しくする方法、エデュテインメント、漢字学習、国語教育と日本語教育

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	言語学講義（言語と社会）						
教員名	八木橋　宏勇						
科目№	125551150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義で主として扱う「認知言語学」(cognitive linguistics)「社会言語学」(sociolinguistics)「語用論」(pragmatics) は、言語に関わる諸問題を認知や社会との関係で追求する言語学の分野である。音声学・音韻論・統語論・意味論など、言語の諸側面を個別に切り出し、長らく分業制を敷いて行われてきた言語学において、認知言語学・社会言語学・語用論は比較的新しい研究の枠組みであり、扱う事象は統合的かつ広範にわたる。 これらは、言語を閉じた記号体系とは考えないことから、「開放系言語学」ということができる。

授業では、「ことばと社会」の関係性に関する理解をディスカッション（ないしはそれに類する）形式で深化させていく。この授業を通して、開放系言語学の基本概念をしっかりと身につけ、身の回りにある様々な言語現象を分析的に捉える視点を涵養してもらいたい。

なお、授業の進捗・履修者の理解や関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野の知識・技能)、DP1-2（教養の修得)、DP-3（課題の発見と解決)、DP1-4（表現力、発信力)、DP1-6（自発性、積極性）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。

① 開放系言語学の主要なトピックを学び、身の回りの言語現象を学問的に捉えられるようにする。
② 言語の社会性を理解し、語学を教える教員として必要な「言語現象を分析的に見る眼」を養成する。
③ 授業内のディスカッションを通して、相互に具体例を見つけ出し、分析し合い、的確に表現する経験を蓄積させることで、絶

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容・進め方・予復習の仕方等を説明する。 ・「言語学の歴史と対照研究の動向」を把握する。	【予習】「はじめに」を熟読。	90
第２回	形式と意味 ・カテゴリー化と言語の関係を理解する。	【予習】第 1 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第３回	言語と文化の相同性 ・言語と文化の関係を理解する。	【予習】第 2 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第４回	言語とコンテクスト ・コンテクストの機能を理解する。	【予習】第 3 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第５回	言語と身体性 ・身体性と言語の関係を理解する。	【予習】第 4 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第６回	言語とアフォーダンス ・言語に見られるアフォーダンスの諸相を理解する。	【予習】第 5 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第７回	ナラティブ考 ・コミュニケーション行為としての語りを理解する。	【予習】第 6 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第８回	助言のディスコース ・談話の目的とパターンの関係を理解する。	【予習】第 7 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第９回	サイバースペースコミュニケーション ・SNS を介したコミュニケーションについて理解を深める。	【予習】第 8 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１０回	スモールトーク ・スモールトークと言語の交感的機能について理解を深める。	【予習】第 9 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１１回	ポライトネス ・face という概念を知り、positive / negative face の観点から分析できる言語現象について理解を深める。	【予習】第 3、11 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１２回	スポーツ・コメンタリー ・言語相対論の概略を把握し、言語現象を対照的に捉える手法を理解する。	【予習】第 11 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１３回	教室のディスコース ・談話の目的とパターンの関係について理解を深める。	【予習】第 12 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、バイリンガル教育の成否のポイントについてまとめる。	90
第１４回	ふりかえり－開放系言語学の今と、日本語教育の明日－ ・開放系言語学の全体像を再度確認し、その論点を日本語教育に活かす工夫を学修する。	【予習】「はじめに」を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語教育に活かすポイントをまとめておく。	90

〔授業の方法〕

・主に講義形式で行われるが、毎回ディスカッション（グループワーク）や質疑応答を行う双方向のやり取りも実施する。したがって、予復習に加え、積極的な参加が求められる。
・各回のテーマや基本概念の知識・分析方法に関する理解を深めるため、予復習については、授業内で詳細に指示する。
・平常点として成績に組み込まれるレポートに関しては、認知言語学・社会言語学・語用論の主要なトピックと日本語教育の接点に関する理解を測るテーマにする予定である。
・授業の進捗・履修者の理解や関心に応じて、内容を一部変更する場合がある

〔成績評価の方法〕

・学期末試験は実施しない。
・平常点（授業・ディスカッションへの参加状況等 50%、宿題レポート等の提出 50%）による総合評価を基本としつつ、講義中の発言や質問など授業への積極的な貢献をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
① 認知言語学・社会言語学・語用論の主要なトピックおよび基本概念を正しく理解し、身の回りの言語現象を分析的に捉えられているか。
② 言語と社会の関係性を客観的に分析し、論理的に説明できるか。
③ ディスカッションに積極的に参加するとと

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は特に求めないが、学問を敬う心と、ことばに対する知的好奇心を持って取り組むことが重要である。

〔テキスト〕

『開放系言語学への招待―文化・認知・コミュニケーション―』、唐須教光編、慶應義塾大学出版会、2,640 円、ISBN：978-4-7664-1549-0

〔参考書〕

『実例で学ぶ英語学入門』、多々良直弘・松井真人・八木橋宏勇、朝倉書店、2,900 円（ISBN：978-4254510720）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

・アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語の学習と習得						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

日本語の教室、日本語学習者、日本語教師、外国語を学ぶ人全般によく起きる問題をグループで解決します。問題解決を通して第二言語習得に関する知識を学びます。

〔到達目標〕

この授業で獲得できるのは：
1. 現場でよく起きる問題に関する知識を得ることができる
2. 学習や第二言語習得に関する知識を得ることができる
3. グループで問題に取り組むため、仲間とのコミュニケーション技術が身に付く
4. 自分がこれまでに得た経験や知識を日本語教育に活かす技術が身に付く
5. 現場の問題を解決するための協働作業の方略が身に付く

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	クラスについて	次の授業のためにプロフィールの絵を描く	60 分
第２回	アイスブレーキング	第二言語学習について調べる	60 分
第３回	問題解決に取り組む事例 1 -1 （自分の考え）	自分の力で考える。そのために、調べる。 宿題：レポート	60 分
第４回	問題解決に取り組む 1-2 （自分の考えを理論と関連させる）	事例 1 に関連する理論を読む。 宿題：レポート	60 分
第５回	問題解決に取り組む 1-3 理論をさらに自分のものにするための活動をする	宿題：レポート（漢字ゲームを考える）	60 分
第６回	問題解決に取り組む事例 2-1	自分の力で考える。そのために、調べる。 宿題：レポート	60 分
第７回	問題解決に取り組む 2-2	事例 2 に関連する理論を読む。 宿題：レポート	60 分
第８回	問題解決に取り組む 2-3 理論をさらに自分のものにするための活動をする	宿題：自己制御学習を実践している漫画、映画、アイドルなどを探してレポートに書く。	60 分
第９回	問題解決に取り組む事例 3-1	自分の力で考える。そのために、調べる。 宿題：レポート	60 分
第１０回	問題解決に取り組む 3-2	事例 3 に関連する理論を読む。 宿題：レポート	60 分
第１１回	問題解決に取り組む 3-3 理論をさらに自分のものにするための活動をする	レポートを書く	60 分
第１２回	題解決に取り組む事例 4-1	自分の力で考える。そのために、調べる。 宿題：レポート	60 分
第１３回	題解決に取り組む事例 4-2	事例 3 に関連する理論を読む。 宿題：レポート	60 分
第１４回	題解決に取り組む事例 4-3	レポートを書く	60 分

〔授業の方法〕

グループワークで行います。グループで問題を解決し、その結果を発表します。
必要に応じて宿題を出します。
毎回レポートがあります。
問題解決をグループメンバーと協力して積極的に取り組む姿勢からも評価します。

〔成績評価の方法〕

問題解決への取り組みと結果発表（全 9 回）　50%
レポート 40%
平常点（授業への参加状況や宿題などの提出状況）　10%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	言語の構造						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551170	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この科目では、科学的な理論にもとづいたヒトの「コトバ」の仕組みについて学べます。理論の名前は「生成文法」と言って、大学院生や学者が研究に用いるために難解だと思われがちですが、この科目では「難解を簡単に」をモットーに、徹底的にわかりやすく教えます。

生成文法では、「コトバ」はヒトが進化の過程で獲得した「心的器官」だと考えます。この「心的器官」は、いくつかのモジュール（組み立てユニット）からできています。

・「音声学」（調音音声学）：以下の３分野が脳内にあるアプリなら、「音声学」では言語音を作るハードにあたる器官と運動について学びます。
・「音韻論」モジュールは、２人のヒトの２つの心的器官が通信し合う時のインターフェースです。
・「形態論」モジュールは、話し手として語を組み立て聞き手として語を分解するユニットです。
・「統語論」モジュールは、話し手として文を組み立て聞き手として分解するユニットです。

第１週目「ガイダンス」と第１４週目「まとめ」の間の１２週間に、「音声学」、「音韻論」、「形態論」、「統語論」の４分野について、それぞれ３週間をかけて学びます。

〔到達目標〕

DP1-1 【専門分野の知識・技能の修得】（各学科、各専攻の）専門分野に関する知識・技能を修得している。
具体的には・・・
1. 日本語教育を含む語学教育で求められる発音の知識・スキル、文や語を解析する知識・スキルを習得できる。
DP2 【教養の修得】（広い視野での思考・判断）
人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる。
具体的には・・・
2. 本科目で学んだことを自分が外国語を学習する時や他人に言語を

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・ガイダンス。翌週の準備は、この日から始まるため、必ず出席すること。	・授業参加前にガイダンスのハンドアウトを読んでおくこと。 ・「音声学１」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第２回	「音声学１」IPA（国際音声記号）の紹介。子音その（１）	・「音声学１」の復習。 ・「音声学２」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第３回	「音韻論２」子音その（２）	・「音声学１」「音声学２」の復習。 ・「音声学３」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第４回	「音声学３」母音。【小テスト】	・「音声学３」と小テスト内容の復習。 ・「音韻論１」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第５回	「音韻論１」音素、異音、相補分布。	・「音韻論１」の復習。 ・「音韻論２」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第６回	「音韻論２」	・「音韻論１」「音韻論２」の復習。 ・「音韻論３」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第７回	「音韻論３」【小テスト】	・「音韻論３」と小テストの内容の復習。 ・「形態論１」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第８回	「形態論１」接辞、形態素。	・「形態論１」の復習。 ・「形態論２」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第９回	「形態論２」樹木図。	・「形態論１」「形態論２」の復習。 ・「形態素３」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第１０回	「形態論３」樹木図。【小テスト】	・「統語論３」と小テストの内容の復習。 ・「統語論１」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第１１回	「統語論１」語、句、節、文。樹木図。	・「統語論１」の復習。 ・「統語論２」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第１２回	「統語論２」樹木図。	・「統語論１」「統語論２」の復習。 ・「統語論３」のプリントをよく読み、分からない部分はインターネットで調べて質問を用意する。	60
第１３回	「統語論３」樹木図。【小テスト】	・「統語論３」と小テストの内容の復習。	60
第１４回	まとめ	復習	30

〔授業の方法〕

講義の他、グループで問題を解く活動を行います。各授業のプリントは、一週間前までに配布するので、必ず自習をしてわからない事項は予めネットで調べてから授業に臨んでください。自宅は勉強を行う場所、教室は理解の確認、質問、知識の応用を行う場所とします。学習の流れは次の通りです。
授業１：準備学習（予習）→授業→準備学習（復習）
授業２：準備学習（予習）→授業→準備学習（復習）
授業３：準備学習（予習）→授業→小テスト→準備学習（復習）

〔成績評価の方法〕

この科目は、知識ゼロで授業に参加し主に授業中に知識を得る形式の科目ではありません。各授業の内容について事前に学習しておくことを前提とします。
平常点（４０％）：授業への積極的な参加としてインストラクターとのインタラクションと学生同士のインタラクションを評価の対象とします。
小テスト（６０％）：授業３の終わりに教室内で CoursePower のテストとして実施するので各自 PC を持参してください。高得点を取るためには、「授業１」「授業２」の復習及び「授業３」の予習が必須です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ A letter grade in the course is compliant with Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特にありません。

〔テキスト〕

教室と Web 上で教材を配布します。Web からダウンロードした教材は、各自でプリントして授業に持参してください（大型ディスプレイのタブレット、PC 可。携帯不可）

〔参考書〕

特にありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	対照言語学（日英共時的分析）						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551180	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

今や世界中の非英語圏の人々にとって、英語は外国語というよりは母語の次の第二の使用言語なのですが、日本人の英語力はそこまで追いついていません。実際、社会人になる前に英語を何とかしなくてはと考えている大学生は少なくありません。英語は、それほど難しい言語なのでしょうか。面白いことに、アメリカの国務省の外国語研修所は、世界の言語を難易度が低めから高めの順に４グループに分けているのですが、日本語は“Super-hard languages”の第４グループに位置付けています。日本語と英語は、それほどかけ離れているのでしょうか。
２言語間の類似点・相違点のほとんどは目には見えません。理論という虫眼鏡を通じて初めて見えるようになります。本授業では、言語科学の手法を用いて、様々な切り口から日本語と英語を比較します。その中で、日本語と英語の見かけ上の相違点が、実はヒトの言語の普遍性の中のバリエーションであることを学びます。

〔到達目標〕

DP1-3 言語学の基礎的な概念及び理論を修得し、言語学の方法論を用いて英語や比較としての他言語の仕組みを分析し理解することができる。
DP2-2 日本語及び日本文学に関し、学科教育の基盤をなす諸学問分野の視点を組み合わせ、必要に応じさらに幅広い分野の知見を加えて、学際的かつ総合的に理解する力を備えている。
上記目標を達成するため、難解な言語理論は必要最小限に留めてやさしく解説し、受講生の関心が日英比較・対象の本質に向けられるように配慮する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	アイスブレーキング（英語の難しいところ）、授業の説明	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第２回	歴史的考察（英語と比較言語学、印欧語族の発見、グリムの法則）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第３回	歴史的考察（日本語の諸起源説）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第４回	音声学的考察（国際音声記号）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第５回	音声学的考察（日英の子音音素と母音音素）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第６回	音韻論的考察（モーラと音節、日英の音節構造、音韻規則）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第７回	音韻論的考察（英語の異音、米語とイギリス英語）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第８回	音韻論的考察（日本語の異音、日本語のピッチアクセント、連濁、「ん」の発音）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第９回	形態論（語の構造）的考察（英語における派生と屈折、英語の語の樹形図）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第１０回	形態論（語の構造）的考察（日本語における派生と屈折、日本語の語の樹形図）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第１１回	統語論（文の構造）的考察（英語文の樹形図）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第１２回	統語論（文の構造）的考察（日本語文の樹形図）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第１３回	語句論（慣用句、イディオム）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60
第１４回	まとめ（英語の難しいところ）	Course Power の該当授業日のフォルダ内で講師が指示する予習・復習を行ってください。	60

〔授業の方法〕

原則として講義形式で行うが、グループ活動もふんだんに行う。

〔成績評価の方法〕

宿題（40%）、小テストｘ４（40%）、平常点（20%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブラーニング

23/2/21 11 時 33 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教授法						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

日本語教授法の知識を得ることを目的としています。同時に日本語教員の役割を理解することも期待されます。
実際に日本語教員が関わるショートビジットの留学生への対応などを課題として、
より実践的に日本語教育能力県的試験に出題される知識を学ぶように活動が組み立ててあります。
また、知識を得ると同時に日本語教員に重要なコミュニケーション力を身につけられるように参加型の授業にしています。

〔到達目標〕

PD1-1(専門分野の知識・技能)、PD4-1（表現力・発信力)、PD5-1（多用な人々との協働　ミュニケーション＋協調性＋チームワーク）を実現するために、以下の項目を到達目標とする
1.　教授法に関する重要な用語を理解し覚えている。
2.　教授法について自分の意見が言える。
3.　グループ活動で他人にまかせず、自分から積極的に動くことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス、アイスブレーキング 日本語教員の役割 1	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第２回	日本語教員の役割 2 課題１　ショートビジット留学生のために日本滞在予定を作る	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第３回	【課題１】発表　ピア評価（学生同士で評価） 直接法と媒介語を使った教授法について話し合う。	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	120 分
第４回	直接法と間接法の長所・短所について発表する。 未習言語の文字を学んで、ひらがなを覚える学習者の立場を体験する。	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第５回	未習言語の文字の小テスト。学習感、学習ストラテジーについて話し合う。外国人の発音について話し合う。【課題２】	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第６回	【課題２】発表。講評、解説。 【宿題】動詞の活用について調べる　　国語、日本語教育における動詞の分類と教授法について調べる	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第７回	日本語教育における動詞の分類とテ形の作り方について調べる。【課題３】【宿題】動詞のテ形の作り方（グループ分けも含む）の模擬授業の教案を作る	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第８回	【課題３】発表。講評、解説。	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第９回	教授法 1 １　アプローチとメソッド ２　文法訳読法　他	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１０回	教授法 2 オーディオ・リンガル・メソッド　他	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１１回	教授法 3 オーディオ・リンガル・メソッドの練習を体験する	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１２回	教授法 4 コミュニケーションにつながる教授法で使われる活動	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１３回	教授法 5 タスク中心の教授法	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１４回	これまでの教授法のまとめと 教授法について感想を交換する 小テスト	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分

〔授業の方法〕

グループワークが中心の参加型授業です。意見を交換たり、課題に取り組むことで日本語教員に必要なコミュニケーション力と協働技術を学びます。
教授法は日本語教員の資格試験である日本語教育能力検定試験にも出題される項目なので、言葉の説明だけでなく実際に体験しながら理解した上で覚るようにします。
課題が多いのは、グループ活動をしながら知識を得ることを目的としているためです。
日本語教員は、産業としての日本語教育の中でも最も重要な商品です。学習者以上に、何があっても時間通りにクラスに現れることが要求され

〔成績評価の方法〕

平常点（20%）（授業活動への参加度や態度、質問の有無など)、宿題・クイズ（40%)、課題・グループ活動（40%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
特に以下の点に注目して評価します。
1. クラスでの課題が円滑にいくように宿題や予習をしているか。
2. ペアまたはグループ活動で沈黙せず、積極的かつ的確に自分の意見を伝えているか。
3. 教授法の特徴や関連重要用語を理解し覚えているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特にありません。

〔テキスト〕

特にありません。毎回資料を配布します。

〔参考書〕

必要に応じてお知らせします。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。Course Power で周知します。

〔特記事項〕

アクティブラーニング